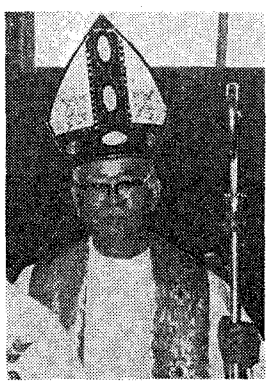
カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

福音宣教の出発の年

「年頭の願い」の中で 信徒の使命と任務について語る



福岡教区長　平田三郎司教

毎年、平田司教は教区民に「年頭の願い」の形式で、新しい一年への期待を公表しています。ところで、一九八七年度の願いは――「旅する教会は、その性質上宣教者である」との第二バチカン公会議の宣言を私たち教会はどのように受けとめているか――を中心課題に指摘し、教区の信者（司祭・修道者・信徒）の宣教意識と実践の活性化を訴えています。

まず宣教不振の原因の一つに、聖職者まかせの宣教姿勢が考えられないか、の反省がみられます。パウロ六世は、〝福音宣教〟（富沢司教訳76頁）の中で「だれが宣教の使命をもっているのでしょうか。」との問いにたいして、第二バチカン公会議の言葉を引用し、「教会は全世界に行って、すべての被造物に福音をのべる義務を神から負わされている」（信徒の自由に関する宣言13）。「全教会は派遣されたものであり、福音宣布は神の民の根本的な任務である。」（教会の宣教活動に関する教令35）、と教えています。

「神の子は自分の霊を与えることによって諸国民のうちから呼び集めた自分の兄弟たちを、自分のからだとして神秘的に構成された……。キリストが父から遣わされたのは「貧しい人々に福音をもたらし、心の傷ついた人々をいやし、失われたものを捜して救うためである。同じく教会も、人間的弱さに苦しむすべての人を愛をもって包み、さらに貧しい人や苦しむ人のうちに貧しく苦しんだ創立者の姿を認め、かれらの欠乏を和らげるよう努め、かれらのうちにキリストに仕えようと心がける」（教会憲章7、8）のです。

確かに私たち教会は、本当の姿即ち主イエズスを通して、聖霊による神と人間との交わり、また人々の交わりの場である教会を見落としてはなりません。そして、宣教とはキリストをまだ信じていない人々や団体の中に福音をのべ伝え、教会を植えつける務めを果たす活動を指しています（宣教活動教令6）。

きて行くために、苦悩する人人のために、司祭は仲介者となる必要があるが、そのためにも信徒との共感が大切であると述べた。

第三回目の講演は宗教の土着化と祈りについてであった。歴史的にみて終戦後、外国のものが立派という理念が生じ、あこがれから信徒が増加し、宣教師自身にも人格と文化的教養、魅力があった。ところが一九六〇年代に学生運動や安保問題で受洗者数は減少傾向となり一九七〇年代には、増加率が以前の三分の一、あるいは四分の一に減っていった。

こうした要因には、高度成長や新興宗教が伸びていったこと、子供の減少などがあろう。

さらに、祈りについては人間の生活の中から出てくる詩編の祈りの意義を強調した。詩編には賛美、教訓、感謝、嘆きなど生活の場がある。私たちの祈りは、観想的な祈りが多いが、人間の悲しみや痛みなど、人間の現実で叫ぶ「現代の詩編」のようなものが、これからの日本にも必要ではないかと述べた。

そして、司祭が信者たちと共に歩み、痛みを共に感じながら「教会の母性の開花」を

教区司祭研修会
現実を直視した宣教を

東京教区
森　一弘司教

11月24日（月）～26日（水）の三日間、唐津市シーサイドホテルで、講師に東京教区の森一弘司教を招き「福音宣教」をテーマに、福岡教区司祭研修会が行われ、平田三郎司教をはじめ教区司祭、修道会司祭などあわせて46名が参加した。

共感、共存、共歩

森司教は福音宣教、信徒の役割、土着化と祈りなどについて合計三回、二日間にわたって講演した。

第一回目の講演では「福音宣教」について過去四回、司教団が指針を出したが、成果があまりなかったことを反省し、「福音宣教」という言葉のもつ意味を掘り下げた。

「福音」というのは本来「よい知らせ」「よい便り」で喜びが伴なうものであるが「宣教」そのものが護教論的になりすぎて本来の意味がそこなわれている。聖書の中で「福音」というと、そこには「喜び」がある。たとえば、マタイにはイエズスが共に歩んでくれるという喜び、つまり「共感」「共存」「共歩」があるし、マルコには「福音」という言葉を最初から出すことにより弱い人、小さい人に「よい知らせ」が付与されている。ゆえに私たちの福音宣教も教義だけでなく弱い人、貧しい人と共に「共感」「共存」「共歩」していくことが、大きな課題であると指摘した。

第二回目は、信徒の役割について。従来「信徒は受ける」「司祭は教える」「修道者は完徳の理想」という観念があり、「信徒」という文字も「徒労」「生徒」「徒然（つれづれ）」など信徒そのものには消極的意味合いが強い。そして、良い信者の模範を修道者的生活に求めていたことに問題があった。信徒固有の「召し出し」とは何か。現実の社会の中でキリスト者として生

今月のみことば

仕えられるためではなく
仕えるため
（マルコ10・45）
湯川　平田　寛神父

時の話題

草野純英神父

午前六時、私たちの共同体では、「朝の祈り」とミサが始まる。

時を同じくして、隣の丘にある天理教会から太鼓と拍子木の威勢よいリズムが飛びこんでくる。礼拝のひとときである。彼らは、夕方にも同じように、礼拝を欠かさない。祈りの熱気が伝わってくるのである。原理運動の人びとは、学生たちや、知識層をとらえて、熱心に布教し、街頭にまで進出して、「愛とは何か」と、それなりの論法で解いている。若いカップルといっても、同性同士を多く街頭で見かけるが、モルモン教の人びとは、家庭訪問に精出しているようだ。しかも、外人のかたがたが多く、言語や風習、心情の相違をのりこえて、布教に専念しておられる。エホバの証人といえば、聖書をふんだんに駆使して、自分なりの信念を、熱意をこめて人びとに訴える。先日も信者の生徒が、「格技」の授業を免除させてくれという。その成績は0点がついてもよい。その授業中は、清掃でも言いつけてくれれば何でも喜んでする、というのである。単なる反抗ではなく、信念にもとづく真面目な要望なのである。

ところでカトリックでの熱意はどうなっているのだろうか。中には、ここにあげた宗教の熱意にほだされて、転向した者もあるときく。

私たちが礼拝し仕えているのは、天地の創造主、現在も共に生き心身共に配慮して下さっている神ではないのだろうか。キリストは、単なる人間教祖様ではなく、神のおん子ではないか。神人キリストにまさる教祖は、考えられないと思う。しかも、私たちの罪を一切がっさい背負って、十字架にまでは りつけられた。これほど、身体をはって、一人ひとりのため力になって下さった教祖が、他にあるのだろうか。聖書の解釈も、個人のひらめきにのみ依存して、ある箇所を強調し過ぎるのは、キリストのたてた教会から的が外れているからではなかろうか。

信者として、目覚めて祈り、神と人との奉仕に燃え続けようではないか。

（泰星学園　イエズス会司祭）

眠りから覚めよう

司祭がまず 喜びを生きる

司祭にも信徒にもその立場・状況の違いはあっても、宣教は急務です。

（教区総代理山田成章神父）

年頭の願い全文は二面に掲載

求めて講演を締めくくった。

各講演の後、四グループに分かれて討議がなされた。その主なものをひろってみると、司祭は教える立場であっても、み言葉を信徒と分かち合う場も必要だ。

信仰の喜びを人々に伝えるためには、まず司祭自身がその喜びを感じ、人々の苦しみを分かち合い、共に理解して同じ立場にたって物事を考えることが大切である。司祭自身もっと霊性が必要である。

信徒は教会の中だけでなく日常生活の中でも信仰者であってほしい。福音宣教を堅苦しく考えるのではなく、キリストの為に喜びを伝える事として考えるなら、だれにでも可能ではなかろうか。信徒が教会の中では大人になりきっていない面があるが、司祭自身がそういった方向に追い込んだのではないかという反省も出された。

全体会のしめくくりとして平田司教は、第二バチカン公会議後開かれた教会に向かって、司祭は現実の社会をよく理解しながら信徒と共に歩む者であって欲しいとのべた。

福岡教区長　平田三郎司教

福岡地区

大名町　山田　成章
司教館　平田惣五郎
牧山　藤房
青木　保
川上　惣一
浄水通　ラミーレス
泉　類治
山川　辰幸
堤　要吉
マホニ
ドワイヤー
ヒルデン
須賀沢公男
鵜野　泰年
畠山　七郎
シュルツ
リシャール
竹森　勇
ラギダオ
山崎聡一郎
乾　盛夫
岩永　義人
渡辺　隆義
堤　敏雄
糸永　一
平田　敬
三村　邦明
下町　豊重
西田　邦洋
田川　清美
伊東　誠二
高木　善行
ラベル
西山　和男
塩谷　恵策
オチョア
生熊　秀夫
マギニア
棚町健之助
草野　純英
須賀沢公男
鵜野　泰年
畠山　七郎
シュルツ
リシャール
竹森　勇
ラギダオ
山崎聡一郎
乾　盛夫
岩永　義人
渡辺　隆義
堤　敏雄
糸永　一
平田　敬
三村　邦明
下町　豊重
西田　邦洋
田川　清美
伊東　誠二
高木　善行
ラベル
皿山ファミリーセンター
ライル

北九州地区

八王寺　デシャンプ
ボンカズ
J・ベルトラン
門司港　徳山　登
門司　モーゼ
小倉　ガイヤール
バスチ
山頭原太郎
山元　真
平田　寛
浦　俊雄
湯川　戸畑　若松
コース
小神学校
聖パウロ修道会
黙想の家
イエズス会
ツルデル
ラプラント
イエール
山内　清海
高見　三明
川口　康頼
松井　忠之
百村　等
山内　堅治
鈴木　忠一
マテオ
ウーリック
曽根　忠明
フリン
草野　純英
棚町健之助
マギニア
生熊　秀夫
オチョア
塩谷　恵策
西山　和男
皿山ファミリーセンター
ライル

佐賀地区

鳥栖　水巻
佐賀　黒崎
唐津　ラバルタ
武雄　バイヨ
伊万里　キニュ
多久　浦口　均
鹿島　直方
トラピスト　飯塚
新田原　田川
行橋　グロージャン
平田　正喜
平田　三好
深堀　勝人

熊本地区

玉名　グリン
手取　ジョー
オブライエン
ディキン
青木　悟
健軍　A・ベルトラン
島崎　マクナリ
島崎修道院　コニリ
荒尾　オマホニ
帯山　牧山　勝美
菊池　フォード
武蔵ケ丘　オカロール
八代　黒川　博
人吉　ポール
水俣　モラハン
本渡　カロール
大江　ハンター
崎津　ダイアモンド
中浜　一男
櫻井　尚明

在海外留学

みちくさ

新しい年を迎える度に嬉しさが減じているのは、充実への希望がなくなってきたためなのか。年を重ねるにつれて、革新的生きかたに挑戦してみる体力と気力の衰えを感じながら、一方では自分の経験に基づく理論に酔いしれるようになっている自分にもやっと気づきはじめた▼はやりの「福音宣教」も観念的理論や議論ばかりが先行しているように思われる。実践の伴わない知的遊びとしての福音宣教論議にはそろそろ飽いてきた。司祭はまず「宣教者」か「司牧者」かといった論争も「イエズスの生きざま」とは関係のない次元で論じられてきたような気がする▼ある人は、ペトロは司牧者タイプ、パウロは宣教者タイプと区分するのが好きだ。ほんとにそうだろうか。聖書をみると、ペトロは割礼（律法に定められたユダヤ人としての印）を受けた同胞ユダヤ人のための使徒とされ、パウロは割礼を受けていない異邦人のための使徒とされたとだけある。司牧者あるいは宣教者としての役割分担ではない▼ペトロが使徒として非キリスト者の同胞ユダヤ人の間に、宣教のためしばしば出かけて行ったのは明白である。にもかかわらず、伝統的小教区付司祭・司牧者像の狭い枠組のなかでは、それは十分に意義づけられていないように思える▼今年は「宣教者ペトロ」について研究してみたい。実践の中でつまずき、泥をかぶりながら福音宣教論を深めていきたい。もっとも、「悪戦苦闘の実践中に理論化のゆとりなどないはずだ」との陰の声も聞こえてきそうだが▼こんなことを考えていると、今年も腰を落ちつけるゆとりはなさそうだ。それでもいい。天国でゆっくり休ませていただける日までただひたすらに歩みつづけていたい。だから、年をとったなどといってる暇はない。すばらしい神の宝が隠されているであろう一九八七年に乾杯。

年頭の願い

福岡教区長　平田三郎司教

一九八七年の新春を迎え、教区の司祭・修道者・信徒一同に、幼子イエズスと聖母の平和の祝福が豊かに注がれるよう祈ります。

昨年は教区にとって記念すべき年でした。待望の司教座聖堂と教区センターが、私達の手で完成し、教区という大家族の家が大都市の中心に姿を現わし、世に開かれて宣教する教会ができたからです。大きな犠牲を払って、この大事業に参加して下さった皆さまに心からの感謝を捧げます。

福音宣教の出発の年

日本のカトリック教会は二年前から「宣教の基本方針」と「優先課題」を全信者に示し、今年の11月、京都で開催される「福音宣教推進全国会議」に向けて管区公聴会や小教区内での話し合いなどを通して準備をしてきました。

2月11日には教区の公聴会も開かれる事になっています。「旅する教会は、その性質上、宣教者である」との第二バチカン公会議の宣言を私たち教会はどのように受け止めているか、神の招きに答えて一つの共同体に集められた神の民、聖職者・信徒を含む信者は、この重大な使命をどのように理解し、自覚し、実行に移していくかが今年の中心課題と言えましょう。

信徒の宣教への使命と任務

宣教があまり伸びないのは、宣教の使命と任務が聖職者の負うべきもので、信徒には権利も義務もないといった考えがまだ残っているためかも知れません。ところで、私たちは洗礼によってキリストと堅く結ばれ、キリストの預言職に預かっていることを忘れてはなりません。主は天の父がどんな方であるかを人々に知らせるため、おん父から世に遣わされ、父から預かった言葉を、困難にもめげず、十字架も恐れず宣べ伝え、宣教の生涯を送られました。預言職とは、将来起ることを前もって予告する仕事ではなく、すべての預言者がそうであったように、神から預かった言葉を仲介者として人に知らせる人なのです。この意味で、主キリストは預言者の中の預言者と言えましょう。

私たちは、洗礼の時、おん子から預かった神のみ言葉を人々に伝える預言職をいただき、聖霊の特別の光りと力を堅信によって受け、預かったみ言葉を世に証す使命と任務を負わされました。

ところで、世間にあって信仰生活を送る信徒は、その在世性の故に宣教の特別の使命と任務を持っているのです。司教館や修道院ではなく、家庭で生活を営む信徒の宣教の場はまず家族であり、育児と教育がその大きな仕事です。学校や工場、官公庁や政治の畑で働く信徒の宣教の場はまさにそれなりの世界で、そこでの人々との日々の交わりを通して「地の塩」となり世の腐敗を防ぎ、人生に福音の味をつけるのです。「世の光り」となって世の闇を照らし、光を分かち合うことができます。「パン種」となって粉の中に浸透し、キリストに向けてふくらますのです。

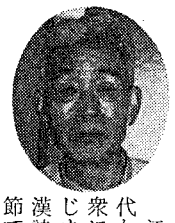
こういう意味で、信徒は教会の最前線にあり、教会と世との接点となり、対話を通して人々を祭壇のうたげに招くのです。信徒は聖職者が入れない、入ってはならない世の領域に現存しこれを福音化する教会です。世にはびこる不正、不公平、戦争、お金を中心にする社会政治政策を正し神をないがしろにするイデオロギーに反論するのも信徒の務めです。会社至上主義からくる人間疎外を改め、人間らしい社会を現場で作り上げて行くのも信徒の大きな仕事です。しかし、キリストの預言職に預かることは容易なことではありません。神からの恵みをいただいて信仰を強め、深め、体験して、神のみ言葉を人々が解かる言葉で、土地特有の伝統や風習にも触れながら、たてまえと本音のない福音を人々に伝え、伝えていることを生活によって証しするよう務めるべきでしょう。

司祭による宣教

「世から選び出され、世の者でない司祭」の大きな任務の一つは、ミサや赦しの秘跡を通して信徒をキリストを通しておん父との深い縦の交わりに導き、兄弟間の広い横の交わりに入れ、横、縦十文字の堅い結びの中で罪と死からの解放と神と兄弟たちとの和解の喜びを味わせ、信徒が祭壇のうたげへの招き人となるよう指導することです。「神の民」の中での司祭と信徒のそれぞれの固有の使命と役割を見分け、理解し合い、一致して前進するならば、教会全体の宣教はうまく行くでしょう。宣教の年に当たり、神の導きのもと、教会のこの大切な仕事がみごとな再スタートを切り、実を結ぶよう祈ります。

少年易老学難成　一寸光陰不可軽

伊東　誠二神父



江戸時代から大衆にもなじまれた漢詩の一節です。

人の目に刻一刻変容して映る自然の中で、諸相を何となく経験したつもりで永遠に去ってゆく生活態度に警告を与えているものだと思います。

江戸時代に信仰によって自然を見ることを土台としていたはずはないでしょうが、自然に内在し、無限の愛をもってそれを動かしておられる神を信仰によって見ることの出来る力こそ私たちの学力の中でおろそかに出来ないことです。信仰は私たちを動かす知恵を開いてくれるもの、神に自分が近づき、神に聞くことに始まり、神とともに生きることを学ぶことこそ「学」と言えることではないでしょうか、まさに「一寸の光陰軽ろんずべからず」。

無論、信仰は神のおん子によって全人類に開かれた超自然の道ではありますが、それが実を結ぶために、私たちひとりひとりの積極的な歩み出しが必要です。日常茶飯事の中でこそ自分の意志を注ぎ込んだ時にだけ「時」の貴重な宝が私たちのものとされています。

この事を私たちに意識させてくれるものが「祈りの心」と言われるものでしょう。

祈りとは言っても、いちいち定められた祈り文に道を探すような手間のかかるものでなく、想像以上に切実な思いを、共におられるイエズスさまに申しあげる私の答えと言った方がよいでしょう。

〝どらん。私は世の終わりまで、いつもあなたたちとともにいる〟とあらゆる時に私たちひとりひとりに呼びかけておられることを感じ取った時、主禱文の言葉がそのまま私たちの心に生き生きとした情感をもって申しあげることになるでしょう。

〝主よ、み旨がここに行われますように!!〟

〝み国が今ここに来ますように!!〟

年頭にあたって、このような私に成りあがってゆくことを願うばかりです。

おしあわせに!!

(馬渡島教会　主任司祭)

一九八七年を迎かて思うこと

松熊　覚

教区レベルでの青年連絡会議(教区青年委員会)が発足してもう一年が過ぎようとしています。今のところ役員・連絡網及びこの会の方向性等が決った程度です。何故この会が発足したのか?

85教区青年大会を一昨年の11月に開催。一五〇数名の参加者があり、皆さんのおかげですばらしい大会でした。

そこで「大会だけに終わらせては…」ということで、そのつながりを活かし青年どうしのコミニュケーションを図るために発足しました。しかしあの大会は、青年の力のみでなく、神父様方のバックアップが大きなものでした。ですから今度は青年たちから盛り上げる大会を開催したいと思う次第です。

さて今、教会から青年が離れているとよく聞きます。私もその一人でしょう。やれ!委員会、やれ!定例会と言っては、自分の小教区は、遠い存在です。これからは青年同志の声の掛け合いがなくてはいけないと思いますし、その中から青年会的なものを生み出してゆく。信仰的なものばかりが青年会でしょうか?酒を飲みかわし、色々話す場であっていいと思うし、信者として男女交際の場であっていいし、みんなが一つになってスポーツする場であってもいいのではないでしょうか。今の時代に合った流れでやらなければ…。また、信仰的なものも含めて世の中のものに負けないひと味違うものができればと思います。

最後に教区青年委員会に遊びに来てください。就職・結婚など、世代交替で今の委員が会議に出席できなくなっています。私たちにひとつ手をかして頂けませんか。よろしくお願いします。

(飯塚教会　青年)

司祭職に向かって一歩前進

谷口　雅春

突然、私の今年の抱負などと言われてもこまる。普通、人々は、毎年どんな抱負を立てるんだろうか。〝勉強をがんばる〟とか〝一日一善〟とか立てるのだろうか。私は、新年だからと言ってそんなことを意識した事はなかった。こまったもんだ。

そこで辞書を引いてみた。すると抱負とは〝心の中に抱いている考え・計画〟と書いてあった。考えてみると私はすばらしい抱負を持っていた。

これは、小神学校に入学する前から抱いていて、今も抱いているものだ。それは〝司祭になる〟ということだ。しかし、こればかりは私の力だけではどうにもならない。神の力、人々の援助、その他もろもろ。

とにかく、一分一秒を大切にすべてのことに全力をつくし、司祭職に向かって一歩一歩、歩むことを気分も新たに今年の抱負とはいわずに、司祭になるまでの抱負としたい。

(小神学校　高三)

ゆとりをもつこと

小嶋　まり

昨年はなんと慌ただしく過ぎていったことでしょうか。毎年12月になると、こう言っているようですが昨年は格別でした。本を読むことも、何かに深く感銘することも出来ず、とにかく目の前のことを消化するのに精一杯でした。その結果、消化不良をおこしてしまいました。〝木を切るのに忙しくて、斧を見る暇がなかった〟……Sr.渡辺和子が講演会で言われたこのことが、思い出されます。

今年は昨年以上に忙しくなることは明らかですが、物理的時間ではなく、精神的時間のゆとりを持っていたい、これが、私の今年にかける思いです。

そのために心掛けていきたいことは、

一、日々の活動を喜びのうちにする。

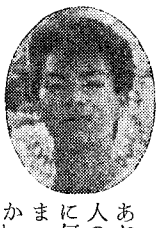
二、学ぶ姿勢を大切にする。

実際には、なかなか難しいことでしょうけれども、このことを心にかけているなら、「時間がない」とつぶやくことは少なくなるのではないかしら、と考えています。

(笹丘教会　青年)

心を開く

中村　隆



「去年あなたは人のために何をしましたか」と聞かれて、自分は何と答えることができるだろうか。確かに、知らない人に道を尋ねられれば、道を教えたりもしたが、自分から何かしていったことがあっただろうか。「さわらぬ神にたたりなし」とは言うが、自分から積極的に何かをするべきではないだろうか。そう言う自分も、自分がやりたくない事や知らない人を意識的に避けていたような気がする。そんな訳で、他の教会の人と交流することも少なく、自分の教会の中でさえも知らない人がいる。

自分は若い。だから教会の中においても、最も活発に活動すべきではないだろうか。しかし、現実には、学校や私生活のことで一杯で、何も出来なかった一年間を過ごしてきた。

だから今年こそは、自分から進んで精一杯、教会での活動を、教会のためそして自分のためにもやっていき、他の教会の人々と、心の交流を深め合っていきたいものだ。

(鳥栖教会　高二)

受験の山越え

戸田　みづか

私は、中学3年生です。今年の春、高校受験があります。私は今までに何度も考えました。どうして受験なんてあるのだろう。どうしていつもいつも勉強しなければならないのだろうと。そして、いつもあきらめて、しぶしぶやるという感じでした。

近ごろは、高校生になったら、新しい友だちが出来たりして、文化祭なんかもとても楽しくて、色々おもしろいこともたくさんあるのだろうなと考えるようになり、早く高校生になりたいなあというような気分にもなるのです。

高校受験は人生の中で一番はじめに越えなければならない大きな山だと思います。その山を越えるには努力しなければいけないと思います。努力してはじめて喜べる時が来ると思います。だから、これからも精一杯がんばろうと思います。

(黒崎教会　中三)

自由席

召命の集いに参加して

福岡・二日市教会　熊鰐　由里子

洗礼を受けてやっと半年になる。毎日曜日、息子と共にどぎまぎしながら、こうした行事を心の節目とするような気持ちで、教会へ行った。

大神学校の敷地の広さや建物の大きさを目にする時、豊かさと同時に威厳を感ずる。それはそこに集う人の誇りでもあると思う。

教会でバスの待ち時間中、神父様と走ってきた女の子の手のひらとを、パチッと打ち合った。それは鮮やかな一瞬の光景だった。その直後、息子が男の子に「イョッ」と言って、先ほどと同じことをしたのを見て、私はオヤッと思った。集いの終了後、息子が神学生の方たちのところへ走っていって握手していた。

手が触れあう時、思わず笑顔が溢れる。それは動的な動きを通して、内側にまで共鳴していくような明るさだ。その夜、以前知り合った友だちに合って、息子は手を打ち合ったことを、身振りを交えて話していた。

皆様とすばらしい集いに参加できましたことを、感謝しつつ。

全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目24—14
TEL　福岡(092)471—0245(代)
管制センター　TEL　福岡(092)471—0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5—1
TEL　北九州(093)671—8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡(712)8022　久留米(33)7401
佐賀((30)4040　小郡(72)3482

若者は教会刷新の力

新しい年に青年たちへ ―何をなすべきか

深堀勝人神父（教区青少年担当）が青年たちへ熱いメッセージ

教区の青年たちに向けて、教区青少年担当司祭の深堀勝人神父（行橋教会）がメッセージを発表し、青年たちに奮起を呼びかけた。

今日、教会内外で、刷新のために若い力への期待は大きく、これにカトリック青年がどのように応えていくのか反応が注目される。

今年は、いよいよNICE（福音宣教推進全国会議）が11月に京都で行われる。

それに向けて昨年は福岡教区はもとより全国各地で公聴会が開かれ、司祭、修道者、信徒の間で意見が交わされた。

そしてあちこちで青年たちの声を教会内にもっと反映させるべきだとの声があがっている。

そんな昨年までをふり返りながら、今、カトリック青年たちは何をなすべきなのだろうかと問うてみたい。

これまでいろんなところで「福音宣教」ということばを耳にしてきた。

しかし、多くの青年にとって「福音宣教」はいまだにピンとこない。何をすれば宣教できるのかといった疑問が残されているような気がする。

今年は、「言う」ことではなく、「実行する」年にして欲しいと思う。実際、ことばでいろいろ叫ばれても、行橋という福岡教区のはずれにいる私には、ことばは飛んできても、何が実行されているのかは伝わってこない。いつもと変わらない様子を呈している。

確かに現代は、ペトロの時代のように網を打って多くの収穫を得られる時ではなく、一本ずつの時代のような気がする。

カトリック青年たちが、今の教会に不足していることを敏感に感じ取り、教会内外の刷新に向けて、地道にしかし確実にキリストの望みを実現していってくれることを期待している。

そのためには、信仰と生活のつながりを日々新たにし、人生の価値を見定め、今を忍耐のうちに、でも重荷ではなく喜びのうちに、遠くて近い神の救いの恵みに向かって歩まなければならないと思う。

青年たちには、小教区、ブロック、教区レベルでの歩みの中で、今までの活動をもう一度ふり返り、新たなチャレンジの中で、自分たちが日常生活の中で出合うひとりひとりの人を大切にしながら、信仰のすばらしさを体験し、信仰共同体の証人として成長していくことを期待したい。

互いに兄弟として励まし合い、刺激し合い、支え合い、司教団の意向というより、主イエズス・キリストのみ旨として一つ一つの小さな歩みを大切にし、福音宣教を実践していこうではありませんか。

一九八七年　一月

主とともに、

主の恵みのうちに

キリスト教一致週間によせて

松井敏郎牧師

ここ数年、カトリック教会とプロテスタント教会の会堂を交互に用いて、一致祈禱週の共同の祈りを行っています。

福岡における一致祈禱週の共同の祈りは、関係者の話によりますと、一九七〇年の一月からのことと聞きます。日本基督教団城東橋教会の故森牧師と入江牧師が話し合い、同警固教会の前牧師村上師も加え、この三者がカトリック浄水通教会の当時の神父であった深堀師と協議して発足いたしました。

当初は、呉服町の角にあった新生館を用い、祈禱週間いっぱい、毎日共同の祈りが捧げられました。やがて深堀神父が転出されましたが、両教会間の連絡が適切に行われなかったため二、三年間中断いたしました。その頃、黙想の家の鈴木神父が、教区のエキュメニカルの担当者となられ、靖国神社国営化反対運動で、しばしばご一緒になる機会がありました。このような運動を共同で推進するためにも、一致の祈りはいよいよ必要であると感じられました。それで鈴木神父と語らい、更に聖公会の天野牧師とも相談し、一致祈禱週再開に漕ぎつけました。以前の祈禱週の守り方を反省し、これを永く続けるためには、無理のないやり方がよいと考え、現在のように、祈禱週間の一日だけ共同の祈りを行うこと、会堂および説教者はカトリックとプロテスタント双方交互とすることとして、今日に及んでいます。

キリスト教教会は唯一人の救主イエス・キリストの体でありますから、一致がなければなりません。しかし、その発展と共に、教理や組織について理解の相違が生じ、分裂に至ったことは、真に止むを得ぬ事であったと思います。それは確かに胸痛む現実でありますが、同時に主キリストから発する生命の豊かで多様な発展の力を示していると見ることもできましょう。大切な事は、互いに伝統を尊重しつつ、また根底にある一つの土台を見つめつつ、一致と協力のために神の憐みを祈り、励ましあうことではないでしょうか。（日基福岡渡辺通教会）

カトリック・プロテスタント合同でクリスマスのこころをつたえる

福岡

師走のあわただしさの中でしっとりとした風物詩にもなって来た「市民クリスマス」が、今年も12月9日（火）福岡市民会館で行われた。

最初に実行委員長の栗本高幸師（日本バプテスト連盟）があいさつに立ち、クリスマスの本当の意味と意義を知ってほしいと話した。

つづいて、大ホールを埋めたキリスト教各派の信徒一同が立ち上がり「もろびとこぞりて」を力強く合唱。正面の大十字架がスポットライトに照らし出されると、ルカ福音書2章8～14節を朗読する声が、暗い場内に静かにひびきわたった。

次いで、リンパ性白血病で11年の短い生涯を終えた、あっこちゃん（植木亜紀子）の日記や手紙を基にした映画、〝ママ、ごめんね〟が上映された。検査や治療と死ぬほどの苦しみの中で、神に憧れ、神に近づいていく、11歳の少女の姿に会場のあちこちからすすり泣きが聞こえた。

最後に、北九州市八王寺教会の徳山登神父が「私たちはいつも〝神さまといっしょ〟です」とメッセージをのべ、「ここに集まっている私たちは、平和の国の実現のために全力を尽くすことを約束します。」と祈って閉会した。

ナイス87に 青年・婦人の声を反映させよう

福岡地区信徒協

福岡地区信徒協の代表者会議は11月30日の午後から、カテドラル・センターで開かれ、指導司祭の山田神父をはじめ、17小教区から25名の代表者、福岡地区婦人会と修道女連盟から各2名の代表者が参加した。

この中で、山田神父は2月に予定されている「教区公聴会」について、司祭、修道者信徒の3者が福音宣教について腹蔵なく対話することが目的であると説明。各小教区においても司祭と話し合い、意見を寄せてほしいと述べた。

また4月29日には、教区長平田司教の司教祝聖25周年祝賀がバチカン大使をお招きしてとりおこなわれる予定であることが報告され、各小教区の協力が求められた。

さらに、11月に京都で開催されるNICE（National Incentive Convention for Evangelization）福音宣教推進全国会議への対応について委員の間からNICE信徒準備委員の構成が地域代表者の色彩が強いので、青年および婦人層からも代表を選出してはとの意見が多く出され、再検討されることになった。

聖職者親睦会

熊本

11月23日聖コロンバンを祝って、熊本市手取教会で熊本地区の司祭、修道者、カテキスタ、その他ハウスキーパーやマリア洋裁学校の職員など約百名が参加して親睦会が行われた。

12時から地区長デイキン神父の司式でミサが始まり、マリスト教育修道士会ブラザー山口のオルガンの奉仕で力強い賛美と感謝の歌声が堂内に響き渡った。デイキン神父は説教の中で日頃の労苦をねぎらい、感謝とともに励ましの言葉をおくった。

ミサ後、会場を信徒会館に移し黒川神父（八代教会）の乾杯の音頭で会食を共にした。食事のあとはビンゴゲームに興じた。準備された豊富な賞品をめざして、日頃のシスターのイメージをうちやぶるかのような喚声がこだまして和やかな一時を過ごした。

参加者のひとり、幼きイエズス会のシスター作野は「参加された神父様方、シスター方、皆さん心から楽しんでおられました。来年のこの日を楽しみに、今後益々教会と共に福音宣教に励む覚悟です」と語っていた。

召命を祈る 司祭の集い

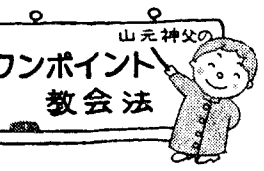
旧ろう二日夕、召命のために祈る司祭の集いが、聖コロンバンの祝いも兼ねて、カトリック・ファミリー・センター（南区皿山四―14―17、S・Mライル師）で行われ、コロンバン会九州地区長E・Fデイキン師ら二十名の司祭、修道士たちが参加した。

平田司教司式の共同ミサの中で、この集いのために東京から参加した同会の副管区長M・モロニー師が説教。自らの少年時代の体験から召命の芽生えをユーモアをまじえて述べ、キリストと教会と人々に奉仕する司祭の職務について語った。

夕食会ののち、ビンゴで楽しいひとときを過ごし、散会した。

なお、モロニー副管区長は召命担当を兼任することになったが、オーストラリアではこの道八年の経験をもつベテランで、「要請があれば、どこにでも行きます」と語っている。

山元神父のワンポイント教会法



ブームとまではいきませんが、教会の中で近年「教会法」ということばがよく聞かれるようになりました。

教会が、人間のひとつの社会である以上、そこには当然、規律が必要とされます。教会共同体ができて以来、時と場所の流れの中でさまざまな規律、法が生まれてきました。このような法がひとつの法典として整理され、まとめられたのは一九一七年のことでした。それが今、一般に「旧」教会法と呼ばれているもので、二四一四条から成る法典でした。その後も、教会の公文書によって法が新しく制定されたり、改訂されたりしました。

今から約25年前、教会の刷新のために第二バチカン公会議がローマで開催されましたが、それと平行して「新しい」教会法作りも進められました。そのための最初の呼びかけが、当時のローマ法王ヨハネ二十三世によってなされました。一九五九年のことです。この作業は四分の一世紀かかってやっと完了し、一九八三年の一月に、一七五二条から成る「新」教会法典が発布されたのです。これを機に、教会法の研究が再び盛んになり、教会の中でも「新しい教会法によれば」という表現がよく使われるようになったのです。

「教会法」のくわしい説明は、神学校での講義におまかせして、私たち信者が日々の生活の中でぶつかる問題に、教会法の立場から光をあてて行きたいと思います。

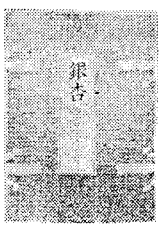
ただ、いつも考えておきたいのは「法は人のためにあって、人が法のためにあるのではない」ということです。

（小倉教会）

BOOK 読みは専科

☆銀杏

ペトロ・ネメシェギ著



四季を通じて、さまざまな美しさをみせてくれる一本の銀杏（いちょう）の樹。

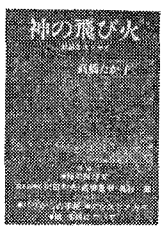
神学院の庭の銀杏を毎朝ながめながら、銀杏のいのちの不思議さに魅せられた著者がつづる随筆集である。

神・人間・恵み・祈り…さまざまなテーマをとり扱っているが、そのすべてに共通しているのは、いのちである。生ける神という泉から出、愛に開花して、神に戻るいのちの美しさ、神秘が読む人の心に伝わってくる。

一、六〇〇円（南窓社）

☆神の飛び火

高橋たか子著



本書の前半は、三人の神父―沢田和夫（東京教区）、高橋重幸（トラピスト会）、奥村一郎（カルメル会）―との霊的対話である。往復書簡ふうな対話は、私たちに神の福音をわかりやすく伝える。

後半は、作家である著者が神によって内的にどんどん変えられていく霊的歩みを、エッセイでつづっている。

一、一〇〇円（女子パウロ会）

パウロ書院

年末年始の休業お知らせ

○12月28日～1月4日

新年度の営業ご案内

○平日　10時～18時

○日曜　10時～16時

○定休　毎水曜日

旧年中は、ありがとうございました。

本年もお越しをお待ちいたしております。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
素材 石 理石 影石 大御 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

司教日程（一月）

1日　新年ミサ（カテドラル）
6日　教区新年ミサと祝賀会（浄水通教会、司教館新館）
15日　修女連研修会
18日　成人式（カテドラル）

福岡黙想の家

12月26日～1月4日　活水会
10日～11日　コロピエノ合唱団
広島福音の光幼稚園教師黙想会
18日　サン・スルピス大神学院教授静修

北九州修女連司祭・修道女対話集会

期日　昭和62年1月11日
場所　小倉カトリック教会
内容　徳山登師と山元真師の証し。分散会と全体会

教区修女連研修会

期日　昭和62年1月15日
場所　司教館新館5階
テーマ　「日本の伝統的風土におけるキリスト教の受肉化」
講師　本多正昭氏（産業医科大学教授）

成人式に参加を

今年も成人式を迎える人たちを招いて、福岡ブロック青年会主催の「成年の集い」を行います。

1月18日（日）午後1時より、カテドラル・センターで平田司教様を囲んで、ミサと集いをいたします。

ご両親、友人の参加も歓迎します。

福岡教区の公聴会

趣旨　教区宣教共同体である司祭・修道者・信徒が相互の対話を通して具体的な宣教実践の方途を探る
日時　昭和62年2月11日　午前10時―午後5時
場所　福岡市中央区大名2　福岡カテドラル・センター
テーマ　人々は宣教者であるあなたを待っている

62年度神学講座　第1学期

テーマ　〝申命記を読む〟
講師　高見三明師（サン・スルピス大神学院）
日時　4月7日～6月23日　毎火曜日18時～20時
場所　司教館新館　5F
会費　毎回　500円（当日受付で）
問合せ　092・522・5139　司教館

1987年度教区行事

2月11日	教区公聴会
3月21日	司祭助祭叙階式
4月16日	聖香油聖別ミサ
4月28日	バチカン大使教区公式訪問
4月29日	司教祝聖25周年祝賀式
8月15日	墓地ミサ予定
11月1日	基地ミサ予定

一九八七年度結婚セミナー

福岡
会場　福岡市中央区大名2　カテドラルセンター
時間　午後7時～9時15分
申込　☎092―522―5139

熊本
会場　熊本市上通町3―33　カトリック手取教会
時間　午後7時～9時15分
申込　☎096―352―3030

	福岡会場	熊本会場
第一回	1月17日(土) 22日(木) 24日(土) 29日(木) 31日(土) 2月5日(木) 7日(土)	1月9日(金) 11日(日) 14日(水) 16日(金) 21日(水) 23日(金) 25日(日)
第二回	3月19日(木) 21日(土) 26日(木) 28日(土) 4月2日(木) 4日(土) 9日(木)	4月1日(水) 3日(金) 5日(日) 8日(水) 10日(金) 12日(日) 15日(水)
第三回	8月27日(木) 29日(土) 9月3日(木) 5日(土) 10日(木) 12日(土) 17日(木)	9月2日(水) 4日(金) 6日(日) 9日(水) 11日(金) 16日(水) 18日(金)

☆互いに愛し合い、しあわせな家庭を築こうとしていらっしゃるお二人……あなた方の豊かな対話・実りある明日をねがって、このセミナーはひらかれます。

婚約者・最近結婚した人。宗教は不問。カトリック教会で結婚式を挙げることもできます。お二人でご参加下さい。

いぶき

幼子イエスに倣う

山内清海

「わたしは、カトリック信者たちの聖人ぶった、善人顔した姿が嫌いなんですよ」。少々酒がまわったわたしの友人は、このように本音をいってくれました。よくいわれることであり、旧友のかれからも、当然予想していたことではありましたが、これほどはっきりいわれると、あらためてことの重大さを考えさせられ深く反省させられました。

ずいぶん前のことで、すでにわたしのある著書でも紹介しましたが、毎日新聞の「読者の広場」欄に「自ら転んだ女の子に学ぶ」というタイトルの、或る幼稚園先生の記事が掲載されました。

庭で元気よく遊んでいた一人の男の子が転んで、火がついたような大声で泣きだした、というのです。ところが一人の女の子が、泣いている子の側に立って、しばらくじっと見ていたそうですが、何を思ったのか、急にあとずさりし、次には走りだし、転んで泣いている男の子の側に自ら転んで、じっに見事な演技を披露した、というのです。しばらく二人はお互いに顔を見合わせて笑っていたそうですが、しばらくして、わざと転んだ女の子が、ごく自然に、「さあ、立とう」、と言いながら相手の手をとり、一緒に立ち上がって、また元気に走り去った、という感動的な記事でした。「子供に学ぶ」とは、このようなことをいうのでしょうか。

各教会ではまだ、貧しい馬小屋に、寒々しく横たわっておられる、幼子キリストを見ることができるでしょう。わたしは、皆さんがこの幼子キリストの前で、もう一度、しばらくの間黙想なさるようお勧めしたいのです。

キリストは、何故このように、か弱い幼子の姿をとられたのでしょうか。聖パウロは「かれは本性としては神であったが、神と等しいことを固持しようとはせず、かえって奴隷の姿をとり、人間と似たものとなって自分を無とされた。その外貌は人間のように見え、死ぬまで、しかも十字架上に死ぬまで自分を卑しくして従われた」(フィリピ2・6―9)、と教えています。

キリストが、幼子の姿をとられて人となられたのは、神として、上から一方的にではなく、人間として共に苦しみ、共に歩きながら、人類の救いを実現なさりたかったからです。

教会が、クリスマスに続く各主日を、「聖家族」、「主の公現」、そして「主の洗礼」と定めているのも、キリストが、わたしたちと同じ人間であることを強調し、浮き彫りにするためだ、といえないでしょうか。表現を変えると、教会は、もっとも近づきやすい幼子の姿をとられたキリストをわたしたちに示すことによって、わたしたちにも、人となられ、十字架上での壮絶な死にいたるまでの苦しみを甘んじ受けられたキリストの心を、わたしたちの心として生きながら、救いのみ業に協力するよう、求めているのです。

このように考えると、冒頭に紹介しました、自ら転んで男の子を立ち上がらせた、あの可愛いい女の子は、人となれたキリストを再現し、わたしたちに何かを、強く訴えているようにも思えてならないのです。

もちろん、洗礼によって、キリストと共に霊的に復活したわたしたちは、再び罪の奴隷となることなく、神の子として強く生きなければなりません。だから、わたしたちと同じ人間となられたキリストについて特に強調する聖パウロも、「罪を除く外は」と付言することを忘れません。

だからわたしたちが、キリストのこのようなみ心を大切に実践しながら、カトリック信者として生きるならば、ごうまんで、偽善的生き方にうつったり、人々をキリストから遠ざける原因とは、決してならないはずです。

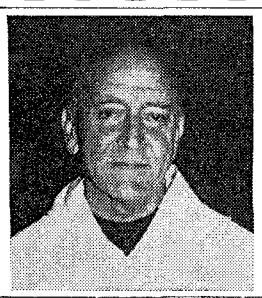
（サン・スルピス大神学院教授）

鈴木忠一神父御受難会新管区長に

御受難会福岡黙想の家の鈴木忠一神父は、さきごろ新管区長に選出された。

鈴木神父は福岡教区に来て10年。現在、エキュメニズム担当司祭、司祭評議会委員、その他で活躍中。益々多忙な身になるが、「福岡教区のため今後とも精一杯奉仕させていただきます。」と張り切っている。

J・ミケレーナ神父伊万里トラピスト修道院に着任



マルセル神父の後任として伊万里トラピスト修道院に着任したJ・ミケレーナ神父は教区司祭研修会に参加して、「福岡教区の皆さん、どうぞよろしく」と挨拶した。

小神学生募集!!

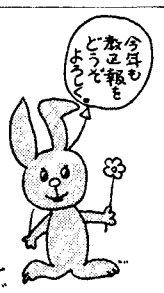
六十二年四月に小神学校入学希望者は所属教会の主任神父様と相談の上二月末日までに神学校にご連絡ください。当方より詳しくご案内申し上げます。

福岡市中央区浄水通38
福岡小神学校
校長　川口康頼
松井忠之（担当）
☎092―531―6821

編集室から

この一年が読者の皆さまにとって恵み豊かな時となりますように編集員一同、心よりお祈り申しあげます。

編集長　Fr.渡辺　隆義（小郡教会）
編集員
Fr.山内　堅治（聖パウロ会）
Sr.佐藤　妙子（女子パウロ会）
田町　節子（笹丘教会）
深堀　邦枝（大名町教会）



かのときのことのは

いのちには終りあり
能には果てあるべからず
世阿弥

『花鏡』に収録。能の精進には限りがあってはならないと同時に、能はまた限りなくつづくという自負もあるような気がする。詩歌の万葉、物語の源氏、演劇の能と日本文学の三大高峰である。

日本の演劇がそれらしい形をとるのは彼のころからである。彼のように作者、演出者、役者の三拍子をかね備えたのは、モリエールぐらいであろうか。その上彼は卓抜な数々の芸術論を残した。能はその高さ、深さ、貴さ、重さにおいて他に比類がない。まさに日本演劇のアルファであり、オメガである。

ペルー神父さまは、能をフランス語の大部な本で紹介され、クローデルの詩劇には能の影響があるといわれる。

（森山敬三）

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社　藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電(092)441-6585

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL092-521-0568

カトリック

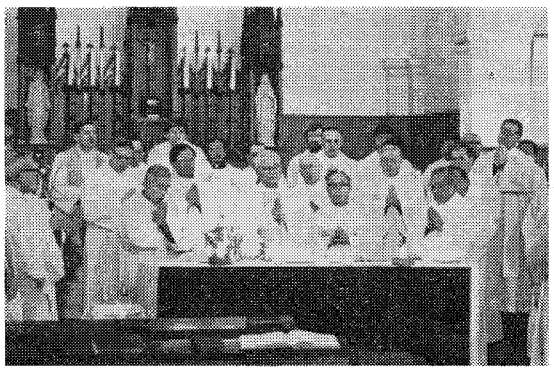
平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

開かれた教会づくり

'87福音宣教推進全国会議へ向けて
司教が教区の司祭たちを激励

司祭新年会

平田三郎司教は、教区の司祭たちに対して、「司祭と信徒の相互協力」を一層押し進めるように、さらには「小教区を越えた宣教・司牧」の可能性についても早急に検討をはじめ取り組むようにと、第一線で働く司祭たちを激励した。


平田司教、深堀司教（高松）と共に新年のミサ

浄水通教会と司教館新館で教区長平田三郎司教司式による教区の司祭の新年ミサ、および祝賀会が1月6日行われ、高松教区の深堀敏司教をはじめ教区の司祭約70名が参加した。

平田司教は説教の中で大要次のように語った。

2年間にわたって準備してきた福音宣教推進全国会議が11月、「開かれた教会づくり」のメインテーマのもと京都で開催されるが、これを理解するには教会の歴史をみなければならない。

16世紀のはじめ、宗教改革の嵐に対してトレント公会議は、羊がプロテスタントに流れないように教会の門を閉ざした。

しかし、第2バチカン公会議は「開かれた教会」を目指し、ヨハネ二十三世をはじめ、パウロ六世、ヨハネ・パウロ二世など近年の教皇は自ら宣教への旅に出かけ、エキュメニズムの精神に従って、カトリック以外の人々とも対話を重ねている。

一方、わが国には教会に対する長い迫害があったので、今日でも閉鎖的な風潮が残っているが、今や宣教への旅立ちが不可欠である。

司教団が打ち出した「開かれた教会」というテーマは三つの視点を持っている。

第1は、「日本の社会と共に歩む教会」である。社会の中で共に歩むためには、愛の文化、愛の文明を構築し、住みよい社会作りに努力しなければならない。

第2は、「生活を通して育てられる信仰」である。教会の中だけでなく職場で信仰をいかに生きるか。

家庭にあってはテレビなどの影響で、家族が一緒に祈ったりする機会が少なくなり、信仰生活が非常に稀薄なものになってきている。

また青少年の教会離れについても、その対応策が大きな課題である。

第3は「福音宣教をする小教区」である。教会はいつも地域の人々に対して開かれていなければならない。

また、今年の末にローマで特別シノドスが開催されるがそのテーマは、「信徒の召命とその使命」である。聖職者中心主義をただして、小教区の中では各々固有の召命と使命を有する司祭と信徒との協力体制の確立が急務である。

さらには、自分の小教区だけではなく、小教区を越えた課題でもある。

使徒職、宣教も考えなければならない。一つの小教区では数少なくても、いくつかの小教区が集まってやれば相当の数、力になる。

これからの方向づけとして、小教区の壁を越えた宣教、司牧を大切にしたい。

ミサ後、福岡地区婦人会の協力で行われた祝賀会は、深堀敏司教の「二つの教区が互いに開かれるように」との乾杯の音頭ではじまり、久しぶりに顔を合せた司祭たちが語らい、終始なごやかな雰囲気につつまれた。

ナイス'87

課題「開かれた教会づくり」に決定
教区の公聴会では
実のある材料を用意しよう

第一回福音宣教推進全国会議の課題が、予定よりもかなり早く決定した。

その実行委員会の発表によれば、『開かれた教会づくり』のメインテーマを、「日本の社会とともに歩む教会」、「生活を通して育てられる信仰」と「福音宣教をする小教区」の3本柱が支えている。別の表現を借りると、日本社会の一員である教会、信仰と生活の一体化と小教区宣教共同体であると受けとめていいだろう。

多くの教会は、十一月の全国会議に向けて、一斉にエンジンがかかっただろうか、あるいは、まだエンジンキーをどこに置いているのか、これから探す段階かもしれない。

福岡教区では、二月十一日の公聴会（司祭・修道者・信徒の研修会）が、宣教意識の高揚とその実践にかなりアクセルをかけそうだ。

宣教推進全国会議の教区代表者についても、ほぼ推薦を完了した。全国実行委員会の指示通り、司祭五人のうち一人は未定だが、遠からず全員決定の運びとなるだろう。修道者三人と信徒五人も心配ないと思う。とくに、信徒の中に二人の女性が予定されているのは頼もしい。一応、六月の定例司教総会までに、各教区の全国会議代表者名簿を東京本部に送ることになっている。

会議は踊る、でも踊らされない、実のある材料を用意したい。そのためには、頻繁な対話の時間を惜しんではなるまい。

また、宣教はむずかしいと思う前に、宣教する気があるのか、を自らに問い直す必要があろう。

教区総代理
山田成章神父

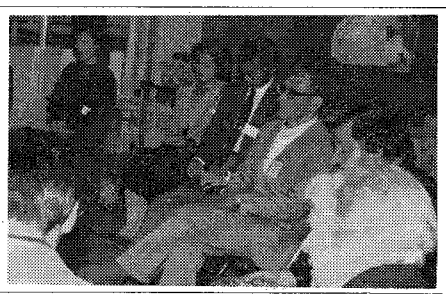
今月のみことば

私はあなたを
地の果てまで救いを
もたらすものとする
（イザヤ49・6）
人吉　ポール神父

宣教はキリストと一緒に

福音宣教研修会

北九州



北九州地区信徒使徒職協議会主催の「福音宣教」研修会が戸畑教会で開催され、司祭15名、シスター21名、信徒75名が参加した。

この研修会のねらいは「日本の教会の基本方針と優先課題」をよく理解し、実践に移すために、司祭、修道者、信徒が『三人四脚』をくみながら、それぞれの立場で宣教のあり方を見直し、これから開拓すべき新しい方法を考え、話しあい、相互理解を深めよう。また、2月11日に予定されている「福岡教区の公聴会」に備え、地区レベルでの福音宣教の意識とムードを高めようで、あった。

教区信徒協指導司祭の山田成章神父は、講話の中で「キリストは、私たちにとって最初の福音宣教者であり、宣教のモデルでもある。キリストの姿をもう一度見直し、そして自分自身の宣教の本質を見極め、自信と希望をもってキリストと共に宣教しよう」と強調した。

分散会では、▽小教区での宣教共同体づくりと宣教活動状況▽家庭の福音化、主婦の役割▽隣組、地域社会での宣教▽青少年グループの育成▽宣教の実践場面でのできごと▽宣教に対する姿勢、態度▽教会離れの信徒のこと▽ボランティア活動▽宣教ということのむずかしさ、など毎日の生活の中での体験や参加者各自の考えや悩み、苦労などが語られた。

最後に、北九州地区信徒協の指導司祭・浦神父がみことばの祭儀とあいさつを行い、ひとりひとりが宣教の大切さを確かめながら散会した。

（北九州市・戸畑教会　佐々木　信幸）

時の話題

殉教と集団自殺

草野　純英

二月の声をきくと、日本二十六聖殉教者の祝日がすぐにやってくる。四〇〇年前、秀吉の切支丹禁制のもとに、彼らは、信仰を棄てるように拷問をうけたが、生命の存続よりも、死を選んだ。ところが、彼らは全世界から崇敬をうけ聖人の位にあげられた。かつてご来日のヨハネ・パウロ二世教皇様も、殉教の地で熱烈に祈られ、メッセージまでだされた。

いっぽう、日本宗教界の中で昨年、ショッキングな事件として報道されたのは、教祖への後追い自殺であった。論評によれば、「生命の尊さ」を説くべき宗教が、こんなことでよいのだろうか、と、かなりきびしい批判がなされていた。いくら教祖さまのためとはいえ、将来性のある数人が、つぎつぎと惜しげもなく、自らの生命を断ってよいのだろうか、残された社会問題であると。

これら二つの出来事は、どこに相違があるのだろうか。どちらも、信徒が、自分の奉じる信仰のために、自分の生命を失っているのである。その相違は、私たちの「生命」の全権をもっておられるかたに、深く関連するのではなかろうか。切支丹を棄てた場合、自分に「生命」を与え、今まで配慮し、愛して下さった神そのものを棄てることになる。神を否定することは、信奉する信仰を棄てることになるので、死をもって、神のみもとに帰るほうを、いさぎよく決断したかたが殉教者なのである。

私たちと同じ状態である人間教祖が、いかに魅力をそなえていたとしても、私たちに生命を与え、天地万物をもって養い育て、罪のために体をはって贖ってくれたのだろうか。ただの同情、「死なば諸共」というのでは、考えさせる社会問題扱いにされても仕方あるまい。

ふりかえって、私たちの信仰は、殉教者がもっていたのと同じ信仰なのである。それを私たちが、今、生きているのである。これほどの深さと価値をもった信仰であることを強く意識し、感謝にみちて、より積極的な信仰に燃えたとうではないか。

（イエズス会司祭）

お互いさまの世界

教区修道女連盟研修会

福岡

本多正昭氏の講演に聴き入る

教区修道女連盟は、1月15日司教館新館で、産業医科大教授本多正昭氏（黒崎教会）を招き「日本の伝統的風土におけるキリスト教の受肉化」について研修した。

以下は参加者80名のひとりSr.作野の報告の要旨である。

午前の部で講師は、「仏教とキリスト教の対話」をテーマに、自身熱心な仏教徒だった若き哲学生時代に、カトリックの洗礼の恵みに預かった体験を、魂の遍歴としてとらえ、現代教会の沈滞の原因、聖霊の導きを回復する禅について言及した。

「仏教とキリスト教の出会い」、それは新しい論理で相助けられ、支えられて、互いに依存し合っているお互いさまの世界であるため形式論でなく、もっと日本人の宗教性に合致した、日本人の心をつかむ根本的考え方の回心、信仰の論理的回心が必要だと強調した。

午後の部は、「死の教育について」、今なぜ死の教育か？死の疎外はどこからくるのか？死を忘れた生きかた、死に背をむけて、生にしがみつく生き方は片翼飛行であると指摘した。

参加者の一人は、「東洋の論理は心身一如、分離されないなど非常に理解しやすく、温かいお話しでした。自分の人生が充実していると、死も恵みであり神への賛美であると、私たちの福音宣教の現代化に多くの示唆が与えられました。

講師が、生涯かけて取り組んでこられた、豊かな体験が、私たちにこだまして時宜にかなった素晴しい研修会でした。」と語っていた。

（文責・編集部）

みちくさ

若者が教会から離れていると大人たちは心配する。事実幼児洗礼を受けた多くのカトリック青年が教会の諸活動に関心を示さないし、参加もしない。若者の要理の知識や信仰のレベルを非難することしかしらない大人に嫌悪さえ感じている者も少なくない。だが彼らとよく話し合ってみると、大部分が教会に失望しているのがわかる▼若者について論じる偉い人はたくさんいるが、若者と一緒に社会の不正義に怒り、その痛みを共有しようとする人は残念ながら少ない。他の人には厳しく要求しながら、自らは安楽に生きることを選ぶ人の話に共感するはずがない▼こんな若者の教会離れの時代に、けなげにもカトリック教会に留まっている少数派の若者がいじらしい。キリストと直接つながっているからなのか。惰性のためなのか。教会を愛しているからなのか。ともかくも、せめてこんな若者たちにもっと積極的に聴き、応えてあげたい▼「今の若者は…」というまい。自分が若い頃はもっと真面目だったなどとはなおさらいうまい。実は自分が偉かったのではなく、取りまく環境がよかったのだと考えたい。だから今、若者に問題ありとするならば、彼らを取りまいている我々大人の側に問題があると考えてみたい▼若者たちの心は昔も今も、純粋なエネルギーに満ち溢れている。それを発散させる場が今や教会にないということこそ問題ではないか。大人たちがつくった小さな籠のなかで若い鳥たちがもがいている▼最後に、若者たちにも説教じみたことをいって悪いが、ナザレのイエズスこそ現代の若者の気持ちを一番よくわかってくれるだろう。彼のはみ出し人生こそ若者の生きかたの原点なのだ。聖書を読み、黙想し、祈りのなかで若きイエズスと対決してもらいたい。私はそれをやった。彼は応えてくれた。あなたにもきっと応えてくれるはずだ。

新成人へのメッセージ

若者よ、大志を抱け

中野　尚夫

若者なら、キリストのようなでっかい、でっかい心を持って欲しい。

生噛りのキリスト教の知識をふりまいて、おまけに自分の知識、教理を伝える方法が一番いいのだと競い合うに至っては、臭せえ、臭せえ、鼻もちならねえ。

万民を救うキリストの玄義は神秘だ。しかし抽象的ではない、すこぶる具体的だ。石殺しにしようと息まくユダヤ人の輪の中に、姦淫の女と一緒にたたずむキリスト。最後の晩さんの席で弟子たちの足を洗われたキリスト。そして「わたしがあなたたちを愛したように、あなたたちも互いに愛し合いなさい」(ヨハネ十三章三十四節)と新しいおきてを定められたキリスト。

十字架上で、ののしり騒ぐ群衆のために「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは自分らが何をしているのか、わからないのです。」(ルカ二十三章三十四節)と、とりなすキリスト。

十字架上のキリストの救いは、第一に一緒に十字架につけられた悪人の一人の上にきたではないか。そして、一部始終を見て「まことに、この人は神の子であった。」(マタイ二十七章五十四節)と言った異邦人の百夫長の上に。

明治維新の侠勇、西郷隆盛は「金も命も名誉もいらない」といった。せめて、これ位の肝っ玉で、己を低くして、キリストと万民、とくに見、聞き、触れるすべての未洗者の一人ひとりに奉仕してもらいたい。

そして全ての信徒がお互いに相手を愛し、尊敬し、協力しあった時に初めて「この人たちこそ愛の神の民だ」といって大勢の未洗者が集まるでしょう。

(健軍教会　信徒)

"次代"を共に担おう

澤田　豊成

成人式から一年"次代を担うのは君たちだ"と激をとばされた時は、月並みなことをと思いながら、今頭に浮かぶ唯一の言葉がこれなのだから不思議なものである。

思うに成人式とは、自分が大人として扱われるのにふさわしい年令に達したことを公に認めてもらうための儀式ではなかろうか。公に大人として扱われるのだから、未青年者としての諸制限はなくなるが、自分の行動に対しての責任を要求される。

必然的に大人としての自覚が求められ、先を考えた行動をとる必要性が出てくる。しかし、成人式を迎えたとたん、子供が大人に変身し大人として行動することができるのだろうか。私は出来ないと思う。身体のどこかが変わるわけでもないし、いきなりある能力を身につけることもない。だとすると、それまでに十分訓育されていない限り急に大人として振る舞えるものではない。まして、受験のための教育が重視され、道徳教育などの人間教育がおろそかにされがちな現代にあっては、到底無理なことである。だから、世に"新人類"と言われる我我の世代にとって、成人式は大人としての出発点である前に、成熟したおとなに向けての出発点なのである。

我々が担うべき"次代"までにはまだ少し間がある。それまでに、大人として振る舞えるようになるための旅立ちの時が成人式なのである。"次代"は確実に到来する。その"次代"がどのようなものであろうと、動じない大人になるために、我々は失敗を恐れずに試行錯誤を繰り返し、その一つ一つを鎧として身に着けていかねばならない。

我々の歩むべき道は、決して楽なものではないであろう。しかし、後輩の諸君、来たるべき"次代"を共に担うべく、勇気を奮って歩を進めようではないか。

(聖パウロ会　大神学生)

新成人に期待する

黒木　俊子

新しく成人式をお迎えになった皆さん、おめでとうございます。皆さんもご両親も、またまわりの人びとも、どれほど大きな喜びをもってこの日を迎えられたことでしょうか。私も大きな期待をもって次のことを申し上げ、私の祝詞としたいと思います。

一、一つには皆さんが今日こうしてあるのは、ご両親をはじめ近く遠くの多くの人びと、そして私たちをとりまくこの大自然の思恵によるものであるということです。

つまり私たちは誰一人自分の力では生きられず、命は支えられてはじめて存続するという自覚です。

二、そして、そこから生ずるのは「感謝する」気持であり、「共に生きよう」とする態度ではないでしょうか。

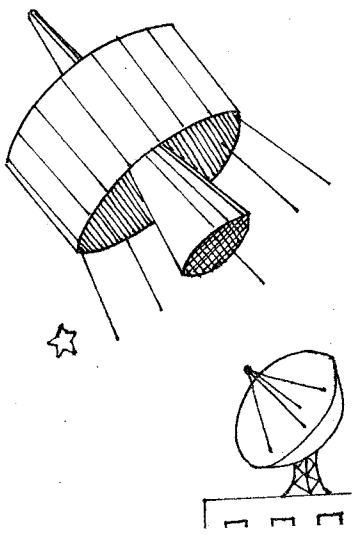
豊かな物に囲まれながらも物を大切にする心を忘れず、まわりの人と協力して生きるのが人間らしい生き方ではないでしょうか。

三、また、皆さんご自身の生き方の中で、いつも真実を大切にし、正義と愛を実行していただきたいと思います。

「人をより深く理解し愛すること」、特に今貧しく苦しんでいる人びとに、暖かい援助の手を差し伸べる人になってください。これが皆さんのこれからの人生を真に豊かにし、また日本が国際的にも優れた国になる道であると思うのです。

皆さんのご多幸をお祈りいたします。

(久留米信愛短期大学　学長)



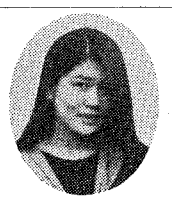
時にかなう

安部　智子

成人式を迎えられた皆さまおめでとうございます。

神さまのなさることは、全て時にかなって美しいと言います。私は高校に入学して、たくさんの友人に恵まれました。

その中のある友人は、欲しいものは、たとえ高価なものでも、何でも買ってもらうことができます。最初、私はその友人を羨望のまなざしで見ていたものです。



私のうちは、この友人のように何でも好きな時に買えるほど裕福ではありません。しかし、やはり欲しいと思うものはあります。ですから欲しいものはお小遣いをためて買っています。

けれども、最近その友人をかわいそうに思うようになったのです。その人は、やっと欲しいものが手に入った時の喜びも、我慢することも体験できません。彼女が将来結婚して家庭に入った時、苦しい事がおとずれる時、どうなるのでしょうか。そんな思いに至った時、今の自分の生活はこれで良かったのだと深く感謝することができたのです。現在を受け入れる事の大切さを知り得た事は大きなお恵みでした。

一人の人間が成人していろいろな事を体験する時、"神さまのなさる事は全て時にかなっている"と思えば、どんな苦しみも耐えられるのではないでしょうか。

成人式を迎えられ、これから希望のうちにも多くの試練等を体験なさるでしょうが、どうか祈りのうちに頑張って下さい。

(手取教会　高二)

憶い出

井野崎千代子

はたちの頃、帰郷した際に親友と近くの裏山に登った。懐かしい顔と軽食を共にしてのち、昔日よくした事を思い出してのことである。

気軽な装いでぶらっと出かけた二人は、肌寒い中をじっと耐えているいじらしいミカンと、冬なおみずみずしさをたたえる枝葉の間の坂道を、心を暖めながらカラコロカラコロと登っていった。

中腹で一息入れようと後ろにのびた坂道をふりかえる。ああ、新しい年明けの涼やかな風の中に平和な家々がある。友とここにいられることが喜びを増した。

振り向くと青い頂きが間近にある。さあ、もっと、もっと登ろうとくびすを返した。そこに友の声、「もう帰ろうよ」。えっ。

「どうして。行こうよ。ホラ、山が呼んでるみたいじゃない」。

呼んでるなんてキモチ悪い、と声がいった。その日過ごしたひとときを思い起こして、私はそれ以上何もいわなかった。

はたちを過ぎながら、この山の憶い出に似た経験をなんども味わった。その度、私は自分が何を怖れて自ら善しと信じることに近付いていけないのだろうかと自問してきた。幼なすぎたはたちだったかもしれない。ひとりで登らねばならない山も時にはあるのだということを知らなかったとは。

(西新教会　青年)

若者と車

泉　洸

私が成人式を迎えた昭和三十一年頃の車は乗用車・タクシーはもちろん90%が外車(アメリカ車)で、日本製はトヨタのクラウン、ニッサンのダットサンぐらいのものでした。

現在の様な車社会など夢にも見なかった。車を持つことは社会的地位のシンボルでした。今日の日本ではどうでしょうか。親のスネをかじりながらも通学にレジャーに、乗用車はとくに多く、若者向けに多用化しています。また個性的車も目立ち、ワゴン車など、何と多いことでしょうか。各々、使用目的が違い個性があり機能も違います。

若者達はどうでしょうか。人間としての生き方が外見を気にし、個性がなくあたりさわりなく社会の流れに乗っている様に見えるのは大人の見方かもしれません。車にも個性派が増えて来ています。若者にも、個性派の生き方をする人が出てきてほしいものです。この社会の中に、信徒の若者が一人でも多く福音的価値感の個性派として生きてほしいと思います。若さというのはそのように自分をテストしチャレンジできる年代であり、また可能性とエネルギーを持っていると思います。そのためには、常に福音に接し勉強し、進むべき道を見つけるようにしたいものです。

一方、聖職者や大人はこの様な若い芽を育てる義務と責任があると思います。

(新田原教会　信徒)

沼に咲く花であれ

A・スカットロン

成人式なしに成人になった私は成人者のための話になれていませんが、信仰の面から青年に期待したいことがあります。

1. 苦しい時自然に感じる意欲をいつまでも失わないで下さい。

この意欲は神から与えられたものです。社会も若者に新しい意見と力を期待していますが、実際は社会に同化することを望んでいます。

神から遣わされている意識を持ってどこまでもやるべきことをやって欲しいのです。

各々の役割は他に譲ることのできないものです。

2. これから入って行く社会によく目覚めなさい。

この社会は麦とともに毒麦も蒔かれている畑のようなものです。「すべて世のもの、肉欲、目の欲、生活のおごりはおん父から出ないで、この世から出る」(ヨハネ)。あなたたちは今は洗礼を通して、よい種を持っている人のはずです。

そしてこの毒麦はあなたの身近に、あなたの友人、職場の同僚、政治家、テレビのタレントの中にもあります。

目覚めなさい。このような時、一番大きな危険は妥協することです。今日手を与えれば明日は腕を引っ張られ次の日は泥沼の中に消えてしまいます。

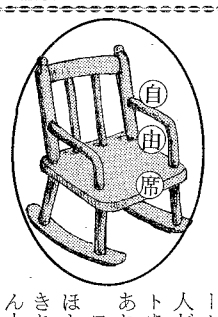
幸いに私たちを支え、立ち上がらせて下さる神がそばにいて下さいます。どんな人間でもこの社会の暗闇の中の灯、沼に咲く花のような存在になることができます。

この世のもっとも美しい花は、洗礼を受けてヨルダン川の泥から上がってこられたイエズス様です。

(唐津教会　主任司祭)

フィリピン出稼ぎの人たち

山口市　中村佳子



私は、二年八カ月の間働いたプロダクションの事務所で、多くのフィリピン人に接し、彼らの良い面も悪い目も沢山見てきました。

先の大統領選挙での多くの不正など、日本人には信じられない事だったのではないでしょうか。

フィリピンでは、10ドル払えば出生証明書を発行してもらえます。戸籍が徹底していない国の出生証明ですから、本人が別の名前で申請したとしても、お金さえ払えば正式な別の名前の証明書を作ってもらえるのです。それを持ってパスポートを作るのですから、一人が二つ・三つのパスポートを持っている事は珍しくありません。

日本に働きに来ている、ほとんどのフィリピン人はきちんと働きます。もちろん中には、金もうけのためには手段を選ばない人たちもいます。

とてもすばらしいな、と思うのは、親子の愛情の強さです。あれほど強く家族を思う人たちを他に知りません。彼らが日本で働いたお金を自分のためにはあまり使わないのは、すべて家族に渡すためです。「お母さんにあげるの」と言います。一生懸命に働いて手にしたお金を、国に帰って家族のために使うなど、日本人にできるでしょうか。

「家族のために……」これが彼らを日本への出稼ぎにかりたてる理由です。

物質的にのみ豊かになった日本に住む私は、フィリピン人の貧しい中から分かち合おうとする精神を、学びたいと思います。

全国警備業協会会員　誠実　責任　奉仕
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目24—14
TEL　福岡(092) 471—0245(代)
管制センター　TEL　福岡(092) 471—0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5—1
TEL　北九州(093) 671—8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡(712) 8022　久留米(33) 7401
佐賀((30) 4040　小郡(72) 3482

福音宣教は共同の使命

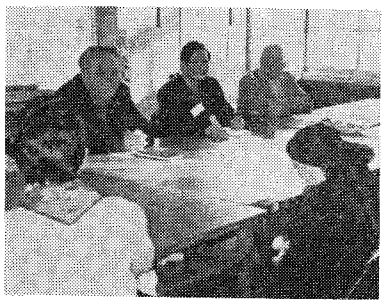
司祭と修道女が対話集会

北九州

福音宣教のため、日頃バラバラに活動していた観のある司祭と修道女が、現状を打破するため企画した対話集会がもたらした実りは少なくない。

地域・社会との関わりを深めよう

北九州地区の司祭と修道者の対話集会が1月11日小倉教会で行われ、司祭11名、修道者（6カ所のすべての会から）31名、合計42名が参加。内容は、3人の証し、分散会、全体会でグループ発表とまとめ。



証しの最初は来日40年のパリミッション会の徳山登師。「最近は貧しいキリストと共に働くことに宣教のポイントがあるように思われる。身近にいる貧しい人、例えば、刑務所の人たち、差別されている人々、フィリピン人やベトナム難民のために働きたい。日本社会で司祭とシスターが初代教会のように、すべてを出し合って力を合わせていけたらよい」。

つづいて黒崎の援助修道会シスター渡辺かおるは修道者としての立場から。「幼稚園ではほとんどが未洗者である。神との縦の関係だけでなく、生活を共にして育っていくところに宣教の土台がある。また地域の基礎共同体づくりができたらよい。

主任司祭は信仰の指導者として信徒の自立を図ってほしい。定期的に地区集会をもつこと。沢山の人が交替でリーダーになれば、自覚と責任をもつようになる」。

最後に叙階7年目の若い教区司祭山元真師。「宣教と司牧は根本的には別別のものである。宣教とはキリストをまだ知らない人に宣べ伝えていくこと、そのためには外へ出ていって証しすること、外部の人々との関わりの中で自分の信仰を見直していこう。」などと語った。

全体会の発表で、共通していえることは、福音宣教は自分自身から出て、外へ向かう心構えであり、それが、他の人々と関わりをもつことにもなるということ。

＊方法として

(1)心を開き相手の話をきく態度。(2)絶えず自分の信仰を見直す。(3)開かれた教会とする努力―信者同志、司祭と修道者が信頼関係をもち本音で関わっていく。(4)社会、地域との関わり―修道会の精神、カリスマを生かしながら各々の事業を宣教の場とし、種まきとしての自覚。

＊提案として(1)司祭と修道者が共同司牧できるよう司牧委員会にシスターも参加できたらよい。(2)聖書、典礼など共に学ぶ場があればよい。

＊今後の問題点(1)現代人特に若い人々に宣教していく時のことば使い。(2)信徒の養成にも地域差がある、など。

次回を期待しながら解散した。（Sr.杉本）

これからの教会の担い手を祝福

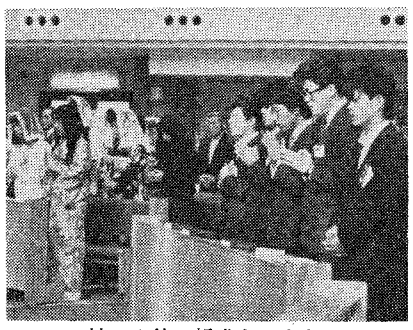
合同成人式に22名が出席

福岡

去る1月18日（日）午後1時より、福岡ブロックの合同成人式がカテドラル・センター大名町教会で行われた。

今回は例年と違い、平田三郎司教を中心にブロック内の8名の司祭によって新成人のためのミサがとり行われた。このミサには新成人の両親やブロックの青年たち、シスター、信徒など約70名が参列し、新成人のために、神への感謝と、神の祝福を願った。ミサ中平田司教は、教皇様の青年たちへのメッセージを引用しながら、これからの教会の担い手として活躍していくことを期待すると共に、新成人自身も、祝福と感謝のうちに社会人として、キリスト者として、大人の自覚と責任を、持ってほしいと語った。

説教のあと新成人たちによって「主のお望みになる人格形成、主のお望みになる社会への奉仕」の約束がなされた。



神のみ前で新成人の決意

丙午（ひのえうま）の年に当たり、全国的にも新成人が少ないとされる中、（大神学生4名含む）ブロック内からは例年より多い22名（大名9名、笹丘3名、茶山2名、西新1名、高宮2名、箱崎1名）の新成人が参列した。

ミサ後一階講堂でブロック内の先輩、後輩の青年たちの手で企画、準備された祝賀会が催され、新成人たちと喜びを共にした。

新成人（女性）の声

いつもとちょっと違った雰囲気の成人式で、かしこまってしまいました。多くの方に祝っていただいたことの喜びを実感し、とても嬉しい一日でした。今の喜びを忘れないで、歩んで行けたらと思っています。ありがとうございました。

新成人（大神学生）の声

「やっと成人になれた」という感じです。聖人なら最高ですけど……。社会的責任に対して不安をすこし感じます。私は司祭職への道を歩いて来ました。これからも歩き続けるためにもう一度、しっかりこの道を見据えて、一段と励んでいきたいと思います。

新たな発見の喜び

ライル神父の指導で夫婦の集い

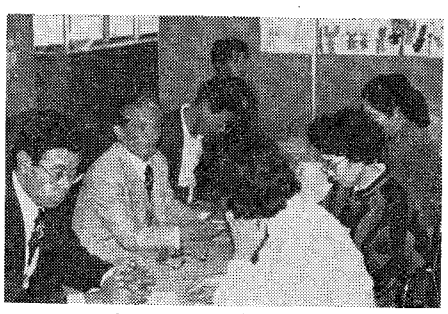
伊万里教会

伊万里カトリック教会において「夫婦の集い」という催しが行われた。福岡市、皿山カトリック・ファミリーセンターのライル神父とシスター吉永の指導、7組の夫婦を含む信徒21名が参加した。

「気持を楽にして子供の様な素直な気持と心を持ってこの集いに望むことが大切です」との言葉から始まり、まず「生命創造」というビデオを見て、生命の誕生の神秘とその喜び、そこに働く神の力の偉大さを知り「親として一人の人間として創造したことに対して責任を持つ」ことを再確認した。

さらに「分かち合い」では話す人は相手を信頼し、自分の心を開いて、子供になった気持で素直に話し、聞く人は相手が話していることを、ありのままに受け止め、相手のその時の気持に共感できるように理解し、心を開いて「聞く」のではなく「聴く」気持で。また、お互いに感じていること思っていることを書き、それに基づいて夫婦別に分かれて書いたことについての話し合いが二度もたれた。

この作業は、普段から夫婦がお互いの気持を見せ合うということに慣れていないために多くの参加者が困惑したようだ。気まずさと恥ずかしい気持で互いに向かい合い、これまでの夫婦の間での感情とか気持について話し合った。



夫婦で分かち合う参加者

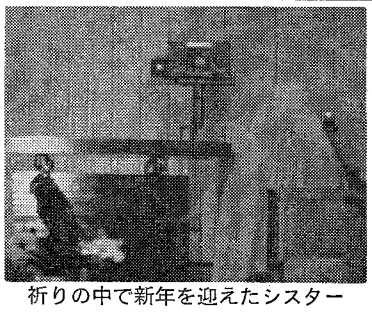
終わりにミサの中で「夫婦の誓い」を互いに誓い合い、その結びつきを強くした。

朝9時から午後4時半までの間、夫婦の結びつきの難しさと同時にその大切さ、神の教えの中に生きてこそ本当の夫婦のあり方があると強く感じた。（古川正行・美保子）

福音宣教の実りを願って

元旦を祈りで迎える

師イエズス会
福岡修道院



祈りの中で新年を迎えたシスター

師イエズス修道女会、福岡修道院では、新年と旧年を分ける夜のひとときを次のように過ごしました。

数えきれないほどたくさんの意向を携えて、一九八六年の大晦日の午後11時半より、一九八七年元旦の午前0時半までの一時間を聖時間として、聖体のみ前で過ごしました。

聖パウロ会の百村等神父様の司式で、特に福音宣教の実りを願いました。この一年間のうちに受けた多くの恵みに感謝し、同時に、一年をふり返って、積み忘れた大事な荷物に気付いて悔みながら、私たちにとってなににもまさる大切な宝物を、より多くの人に伝えていかなければならないとの福音宣教の熱意にもえて、決心を新たにしました。

聖体礼拝に続いて、0時半から、全世界を神の母マリアにゆだね、その取り次ぎを願ってミサ聖祭を行い、全教会と心を合わせ、特に教皇様の御意向のもと、世界平和を祈り求めました。

真夜中の静けさの中、聖体のキリストが、「さあ！私の愛を分かちあうために行きなさい」と派遣しておられるのを心で受けとめました。

福音宣教推進全国会議がこの秋に開かれます。宣教の実りのため、日本の教会の心を携えて祈り続けることこそ、キリストの派遣を生きることだと思います。（Sr.松本）

山元神父のワンポイント教会法

今回は少々堅苦しい話になりますが、ガマンしてください。

何が教会法の中で取扱われているのか、どんな法があるのかを簡単に知っておいた方がいいと思います。

新教会法の翻訳はまだ出来ていませんが、目次だけでも並べてみると、その内容がだいたい想像できると思います。

次のようなことが扱われています。

「総則」「神の民――信徒と聖職者」「教会の位階構成――教皇、司教、司祭について」「奉献生活――修道会やその他の会」「教会の教える任務――宣教活動やカトリック教育」「教会の聖化する任務――七つの秘跡」「教会財産」「教会における制裁や裁判」などです。

だいたい以上のテーマについて、いろいろな法や規定があるわけです。このような法の中には、神によって定められたものの他に、教皇や教会によって決められたものもあります。前者の例としては、「離婚の禁止」が挙げられます。また、司祭、修道者の「独身制」は後者の法になります。

神が定めた法は、だれもそれを変えることはできません。「離婚」は教会では決して許されないことになります。一方「独身制」は教会が定めた法ですから、教会（教皇）がそれを変えることができます。しかし現実として、教皇は司祭、修道者の「独身制」からの免除は与えていません。

よく問題にされる例を挙げてみました。しかし、このような「法の区別」をすることは、それを解釈する上での大原則になっているということを知る必要があるのです。次回は「離婚」について。（小倉教会）

BOOK 読みま専科

☆闇をてらす足おと

岩下壮一と神山復生病院物語
重兼芳子著

長い沈黙を破って、老人は語り始めた。

彼の両眼は、ハンセン病のため眼球ごと摘出され、鼻は崩れ、四肢も唇も麻痺している。親子の絆を断ち切られ、戸籍も抜かれた彼は、17歳の時、当時の院長だった岩下壮一神父に連れられて、神山復生病院に来た。以後、社会から隔離され、苛酷な運命を背負った人々と共に生きる共同生活が始まった。

青年期になった彼は、男と女の関係を絶対に許されない病院内で知りあった女性との愛に苦しむ。

岩下神父を心から慕っていた彼だが、二人の仲を裂いた神父に激しい叫びをあげた。「男が女を愛し、女が男を愛する。その当然のことをなぜ禁止するのですか。神父様も男なら、人間としての感情を持たないのですか。男の肉体があるのなら、裸のままの気持ちをさらしてください」

神父は、静かに答えた。「人間の心の奥には、他の人間が立ち入ることのできない領域があるのです。イエズスさまの光は、そこまで届きます…私はイエズスさまにすべてをさらしています。露わに、むき出しにされています。それだけでいいのです」。

大財産家の息子として生まれ、並み外れた頭脳で秀才コースを歩んでいた輝しい経歴を捨て、ライ患者の友、おやじとなってその生涯を捧げた司祭、岩下壮一神父。

本書は、ハンセン病のために差別と迫害の歴史を背負った盲目の老患者の証言をもとに、ライ患者と共に歩んだ岩下神父の面影を生き生きと描いている。（春秋社）一，800円

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 理 影 大 御 そ 他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

司教日程（二月）

3日　司祭評議会
11日　教区公聴会

福岡黙想の家

8日　サン・スルピス大神学院司祭静修
12日～14日　YMCA
19日　ミカエル会

福岡教区の公聴会

一、趣旨　福音宣教の意識の高揚と、教区宣教共同体である司祭・修道者・信徒が相互の対話を通して具体的な宣教実践の方途を探る
二、日時　昭和62年2月11日　午前10時30分―午後5時
三、場所　福岡市中央区大名　大名町カテドラル・センター
四、対象者　司祭　五〇人　修道者　五〇人　信徒　二〇〇人
五、テーマ　人々は宣教者であるあなたを待っている

日本カトリック婦人団体連盟
全国大会に参加しよう!!

テーマ：婦人による社会の福音化
　　＜一人でもできる福音宣教＞
日　時：昭和62年5月20日・21日
場　所：福岡教区カテドラル・センター（大名町）
会　費：各日ごと　2,000円
主　催：日本カトリック婦人団体連盟
　　会長　浜口美智子
　　顧問　島本要司教

基調講演や分散会の型で行われます。個人参加もできます。宿泊も準備しています。（一泊5,700円 朝食共）
詳細は、鬼木久美（092-541-6478）まで

いぶき

わらにもすがる思い

山内清海

ごま書房出版、東京外国語大学教授、吉沢典男氏の「日本語誤用辞典」シリーズ第二巻「どこかおかしい敬語」に、「わらにもすがる思いで……」という慣習的敬語の説明があります。そこで著者は、「『わらにもすがる思いでまいりました。どうかお助けを……』のように頼まれて、お金を貸してやる人は、よほど寛容な人か、敬語を知らない人だろう。これは、せっぱつまったときには、わらのようなつまらないものでもたよりにすることをたとえたもの。つまり『わらにもすがる』が失礼なたとえだから、こんな言い方をされては怒って当然なのだ。頼み事を聞いてやるのに、わら扱いされては、頼まれたほうはたまったものではない」（本文三頁）と、指摘しています。

そういえば、わたしも何度か「この手」にだまされ、いい気になって仕事を引き受けたことがあったことに、苦笑を禁じえません。

わたしたちは、このような表現を、屢々相手を屈服させる最後の切り札として平気で使用し、しばしば期待通りの効を奏しているのです。から不思議です。

ここでわたしは、ルカ福音書に記されている、「ファリサイ派の人と徴税人の祈り」（18・9―14）について思い出します。

なぜキリストは、ファリサイ派の人の祈りを批判されたのでしょうか。

それはかれが「自ら高ぶる者」として祈ったからです。事実かれは、自分を徴税人と比較して、「この徴税人のような者でないこと」を前提に祈っています。しかしかれの祈りが、キリストに高ぶった祈りとして非難された、もう一つの理由があった、とわたしは思うのです。すなわちそれは、かれが神を、人間のレベルにまで引き下げて祈っている、ということです。

かれの祈りを、少々極端な表現に変えると「わたしは、この徴税人のように、いろいろな悪事もはたらいてはいませんし、自分の務めにも、あなたにも忠実でした。だからあなたはわたしの祈りを聞き入れてくださるはずです」というようにはならないでしょうか。確かにこのような理論は、人間の世界では通るでしょう。しかし、だからといって、これをそのまま神との関係に応用することは、依頼の相手を「わら」にたとえる以上に、滑稽であり、失礼なことです。

確かに、嘆願は祈りの重要な要素の一つです。しかしわたしたちは、あくまでもお願いしているのであって、それを当然なことのように求める権利はありません。したがって、神に何かを嘆願するのが祈りであるように、神のみ旨を喜んで受け入れることも、また大切な祈りであること、を、決して忘れてはならないと思います。

旧約のヨブの祈りはそのよき例です。はじめかれは、次次と襲ってくる苦しみについて「何故」と問い続け、一日も早く苦しみから解放してくださるように祈ります。かれは心のなかで「自分は悪いことはしていない。自分は義人なのだ」、と信じているのです。つまりヨブは、神を人間間の依頼関係のレベルに引き下ろし、人間的理論で神をいわば説得しているのです。そして結果的には、神を「わら」扱いにしていることにもなるのです。

もちろん、最後にヨブは「思慮のないことばで、あなたの企てをかき乱したのは、わたしである。わたしは、自分をこえること、自分の知らない不思議について、知らないことを悟った」と、「自分の愚かさを引っこめ、塵と灰の上で」悔い改めています。

神殿で、遠く立って目を天に上げようともせず「罪びとであるわたしをあわれんでください」と祈った徴税人の祈りは、自分を「わら」と認めた、謙遜な祈りだったのです。

（サン・スルピス会司祭　大神学院教授）

主の呼びかけにこたえよう！
小神学生・中学生志願者募集

小神学校・修道会	入学・入会条件	連絡先
福岡小神学校	① 司祭職を希望するカトリック信者の男子。 ② 主任司祭の推薦。 ③ 4月に中学または高校入学の予定者。	〒810 福岡市中央区浄水通38 ☎ 092-531-6821
聖パウロ修道会 福岡志願院	① 聖パウロ修道会の司祭、修道士を希望するカトリック信者の男子。 ② 主任司祭の推薦。 ③ 現在小学6年生で、4月に中学入学の予定者（途中編入も可）	〒810 福岡市中央区小笹4-11-11 ☎ 092-531-0924
聖母訪問会 準志願院	① 本人が自由な心で、はっきりと入会を希望しているカトリック信者の女子。 ② 主任司祭の推薦。 ③ 身心共に健康であること。 ④ 現在小学6年生で、4月に中学入学予定者（途中編入も可）	〒810 福岡市中央区大濠1-7-14 ☎ 092-741-4250
師イエズス修道女会 福岡志願院	① 身心共に健全なカトリック信者の女子。 ② 主任司祭の推薦。 ③ 現在小学6年生で、4月に中学入学予定者（途中編入も可）	〒810 福岡市中央区小笹4-11-35 ☎ 092-531-0486
幼きイエズス修道会 熊本志願院	① 神と人への奉仕に生涯を捧げる決意がある方。 ② 現在小学6年生で、4月に中学入学予定者（途中編入も可） ③ 主任司祭の推薦。 ④ 健全な身心を持ち、共同生活に順応できる調和のとれたカトリック信者の女子。	〒862 熊本市渡鹿1-17-52 ☎ 096-364-0352

かのときのことのは

呼吸すれば　胸の中にて鳴る音あり。　凩よりも淋しきその音！

石川啄木

彼の第二歌集『悲しき玩具』のトップにある歌だが、時代からいうと26歳で亡くなる前年の、辞世に近いものである。

当時、不治の病とされていた結核におかされ、凩よりもさびしきその音を胸の中に感じた。

啄木の歌は青少年向きのセンチメンタルなものと思われがちである。しかし千年以上の伝統をうけつぎ、近代的なセンスをもって歌われた茂吉の絶唱と比較して、見劣りするだろうか。

歌の道からすれば、確かに正統でなかったかもしれない。にもかかわらず、いままでの歌にはない、生活に密着した新鮮な発想があり、一見無造作に書かれているようで、白秋の言うすぐれた技巧に支えられている。

（森山敬三）

フランシスコ山城寛英神父（カプチン会・那覇教区）
1月9日（金）、小郡市の丸山病院にて帰天。55歳。
昭和39年4月から41年3月までの二年間、福岡サン・スルピス大神学院で勉強し、46年12月に司祭に叙階された。

マリア深堀キクエさん（伊万里教会）
1月14日（水）、伊万里にて帰天。72歳。深堀勝人神父（行橋教会）の母堂にあたる。

アンナ曽根たかさん（西宮市）
1月16日（金）、西宮にて帰天。88歳。曽根輝明神父（イエズス会・泰星学園校長）の母堂にあたる。

教区報「カトリック」主催
広報一日研修会

教区報「カトリック」では教区内の小教区で広報、たとえば「小教区報」や種々の会報、機関紙にたずさわっていらっしゃる方々との交流情報交換のため、左記のように一日研修会を企画しています。

期　日　5月24日　広報の日
対　象　「小教区報」、各種委員会、活動団体の会報機関紙にたずさわっている方。
会　場　司教館　新館
問合せ先
教区報「カトリック」編集部
☎ 092-522-5139(司教館)
0942-72-3256(小郡教会)

編集室から

今月号は成人式を迎えた若者へのメッセージを特集しました。新成人への全教会の熱い祝福と期待が伝えられたら幸いです。

いつもキリストにおける確かな兄弟姉妹たちへ。（W）

おわびと訂正

昨年12月号二面で紹介しました、画家じんのうちはるお氏が浄水通教会に寄贈された作品は、「愛・厳」ではなく「愛・歌」でした。

1月号四面の『かのときのことのは』で、文中の「ペルー神父さま」は「ペリー神父さま」の誤りでした。おわびし訂正いたします。

中央出版　福岡支部
キリスト教関係、書籍、家庭の友
典礼聖具
ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社　藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電（092)441-6585

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL092-521-0568

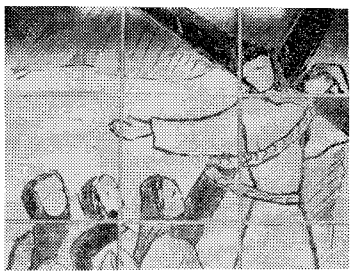
カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42319
定価一部60円

家庭は福音宣教の土台

四旬節司教教書で強調

福岡教区の四旬節司教教書『「開かれた教会づくり」の基礎』について教区総代理の山田成章神父にコメントしていただいた。



（カテドラルの「十字架の道行」より）

平田三郎司教の、一九八七年度四旬節教書『「開かれた教会づくり」の基礎』から、私なりの感想を書きとめてみたいと思います。教書は、以下の四項目に要点をおき、短い解説を加えています。

一、「第一回全国会議に向けて」

本年十一月下旬開催される福音宣教推進全国会議の課題「開かれた教会づくり」が、どのようにして決定したか、説明してくれます。

それは、全国16教区から提出された課題案を検討した結果、共通の問題として〝カトリック者の生活と信仰の遊離〟と〝教会の日本社会からの遊離〟が確認されたためなのです。

二、「生活のなかに信仰を生かそう」

教書は、全国会議の課題の三本柱の一つである〝生活を通して育てられる信仰〟に焦点をあてて考察しています。

真の宣教者の条件は、信仰の人でなければならない。

自分の中に蒔かれた信仰は小さなからし種であっても、成長と収穫の主である神への祈りの中で大きく育ちます。

自分を福音の精神に刷新することなくして、どうして隣人をキリストの心に近づけることができましょうか。生活の福音化を急ぎましょう。

三、「家庭で信仰に生きよう」

家庭の崩壊や危機などの暗い現実が現代の一つの特徴ですが、私たちは生きた信仰によって家庭を地上の楽園に変えなければなりません。

そもそも家庭は、信仰の実践、完成の第一の場です。その中心は、夫婦和合の問題から始まるとみていいのではないでしょうか。二人一体の、神秘的な愛の共同体づくりは、相互の信仰の実践なしには画餅に等しい。また、家庭は子供の最初の信仰教育の場であるから、子供に信仰の遺産を努力して伝えましょう。

四、「むすび」

以上のように家庭における信仰の実践は宣教活動の基礎・鍵であるから、夫婦や親子の間における信仰の分かち合いはとくに大切です。家庭の福音化から社会の福音化へ、これが緊急課題となります。（教書全文は二面に掲載）

教団は、宣教に向かって力強く歩む必要を感じて「日本の教会の基本方針と優先課題」を発表した。

優先課題には二つあり、一つは、主の食卓にあずかっていない人を一つに集めて、主キリストを通して神との交わりを食卓を囲む兄弟との交わりを深め、広めていくこと。第二は、日本の文化を福音化すること。そして貧しい人、疎外されている人々に目を向け、人間が人間として大切にされる社会を建設してゆくこと、である。

緊急課題としては①教区、小教区は、信仰共同体から宣教共同体となっていくように②カトリックの教育、福祉施設が、その究極目的である福音宣教を実現するため、連絡、提携を固くしてゆくこと③ことし十一月に第一回福音宣教推進全国会議を開催すること。テーマは、日本十六教区から提出された百六十の課題案を討議した結果、すべての信者が共通してかかえている苦悩の根本は、「信仰と生活、教会と社会の遊離」であることをよみとり、「開かれた教会づくり」と決定した。きょうは、兄弟として本音を語り合うようお願いします。

教区の公聴会に300余名が参加

あなたも宣教者です

'87ナイスに向けて大きく前進

第一回福音宣教推進全国会議が11月に京都で開催されるが、福岡教区でもこの精神にそって公聴会が開かれ、活発な意見が交わされた。

福岡教区公聴会は2月11日（水）午前11時から午後5時まで、カテドラル・センター大名町教会で、「人びとは宣教者であるあなたを待っている」をテーマに開催された。集会には平田三郎司教をはじめ司祭四十二名、修道者五十八名、神学生十七名、信徒は福岡地区九十一名、北九州地区四十一名熊本地区二十六名、佐賀地区二十五名、総勢三百余名が参加、まず平田司教のあいさつの中で日本司教団の宣教方針についての説明があり、続いて分散会、全体会のあと共同司式によるミサで、祈りのうちに閉会した。

十四の分散会では、それぞれの教会や修道院や地域の条件のもとで生きてきた貴重な体験が率直に語られ、などやかな中にも、真剣で活発な意見が交換された。全体会での報告によると、どの分散会でも共通してとりあげられたいくつかの問題点があると同時に、各分散会で数々の特徴ある討議がされたことを知り、参加者は興味深く聞き入っていた。

参加者たちの感想として、〝いい話し合いができた。とにかく司祭、修道者、信徒が一同に集まり、ふだん会うことも話すこともできない人と一緒に考えを交換し合い、共に祈れてよかった。時間が足りなかった。また計画してほしい〟などの声があった。

＜平田司教の話の要旨＞

福岡地区という神の大家族が一同に集まり、教会の大きな使命である宣教について話し合うことができることは、私にとっても、皆さまにとっても大きな喜びだと思う。

三年前、日本カトリック司教団は、宣教に向かって力強く歩む必要を感じて「日本の教会の基本方針と優先課題」を発表した。

宣教は難しい?!

分散会は20～24名の14グループに分かれたが、今回は司祭、修道者、信徒の対話の性格を持っていただき福岡教区の「福音宣教」の現状について、生活に根ざした見直しがなされた。

公聴会の閉会の挨拶で、福岡教区信徒使徒職協議会の山田耕三郎氏は「公聴会で得た貴重な体験をそれぞれの小数区に持ちかえり、これを機会に信徒一人ひとりが宣教者としての意識を持って頑張ろう。」と結んだ。

各分散会のまとめは後日、全小教区に送付されるが、全体会でなされた発表の中からいくつかを列挙してみると。

一、信仰を守る生きかたから、伝える生きかたへの変革が大切である。すなわち待つ教会から、自ら出かけて行く教会への脱皮が必要だ。

伝えるためには、信仰の喜びを持つことが前提であるが、さらに一歩進んで受け手の立場にたって、伝える者も学ばなければならない。

カトリック者は社会問題に対してももっと関心を持ち、小さき人々、抑圧されている人々の代弁者にならなければならない。

二、幼稚園や学校は福音宣教の場として、子供たちに教えるだけでなく、親たちにも福音に接する機会を多く与えるべきだ。

三、福音宣教は理屈でなく、ありのままに。知識を伝える前に、相手にとって有り難い人になることが大切である。

四、教会には様々なタレントを持った人がいるので、小数区の壁を越えて互いに協力し合うことが大切だ。

五、家庭崩壊、たとえば親子の断絶、離婚、重婚などで痛み苦しんでいる人々の救いのために、私たちは皆で知恵を出し合い協力すべきである。

六、仕事のために信仰生活が脅かされている。

私たちには生活の中で信仰を守っていくために血を流すほどの覚悟があるだろうか。

日曜日のミサも義務からではなく、共同体の日として、自分の信仰を深め、見直す日として、社会の中でも自分の権利として主張してもいいのではないか。

七、青少年が教会で自分の場を持てるような配慮が必要である。

親は自分の信仰態度が子供に与える影響について、もっと真剣に考えなければならない。

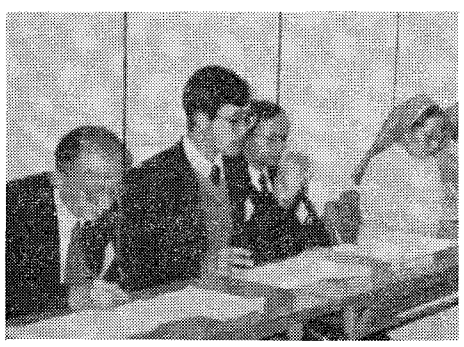
八、信徒と真の意味での対話ができる司祭がほしい。

教区内で、司教と司祭、司祭同志、司祭と信徒の対話をもっと活発にしてほしい。

九、地域社会に開かれた教会となるために、教会の諸施設を地域の人たちに解放すべきではないか。

教会行事への参加を呼び掛けるとともに教会も地域の諸行事に積極的に協力する。

十、福音宣教のためには、たえざる祈りと犠牲が必要である。



今月のみことば

わたしたちは
神の愛を知っており
また信じています
（Ⅰヨハネ4・16）
佐賀　アルベルト神父

時の話題

草野純英

ABグループ二大学挑戦可能ということだろう、ある新聞の皮肉コラムに「絵馬は一校につき、一枚ずつお願いします。――受験生様――神様より」というのが目にとまった。

二月から三月にかけて、受験生とその家族は、不安と心配と希望が渦巻く中で、落着かない毎日が続いていることだろう。

何かにすがらなければ、やり切れぬとばかり、太宰府天満宮を始め、全国各地の天神様は、急に忙しくなる。神殿にぬかずき、祝詞（のりと）をあげてもらい、お跋（はら）いを受け丹誠こめて絵馬を書き、神様が見落さないように、目立つ場所に掛ける。天満宮の絵馬は、何万枚あるのだろうか、九州一円のみならず、全国各地から奉納され、寒風にさらされている。

これらの人びとは、当然のこと、新年には「初詣で」をこの前哨（ぜんしょう）戦として、はたしたことだろう。

「ミサへは、しばらくご無沙汰します。いずれ、合格でもしたら、いくようにします。」

苦しい時の神離れ

「今、一分一秒でも時間が惜しいのです。教会どころではありません。」

「塾があるのでミサにはいけません。」

と当然の権利のように、教会に拒否反応を示される信者のかたがあるときいています。

神社詣での人びととの隔たりは、何と大きなことでしょう。毎日、毎分、毎秒を、支え、育み、見守ってくださっている三位一体の神、そしてマリア様の御心は、どんな思いをされるのだろう。

一生の一大事がある時ほど熱心な祈りと、神の祝福が必要であると頭では分っていながら、「神離れ」とは！

人間がどんなに勝手なことをしようと、結果は、一切合切、神のご計画通りになってしまうのに。

神のために時間を使うことが惜しいという人に限って、自分の気の向くことは、どんなにせっぱつまった時でも、平然と、何十分でも何時間でも、時間を浪費しているのではなかろうか。

大事な時機にこそ、神の御ふところに飛びこんで、祝福を受けながら、ベストをつくしていくことが信者の道であり、誇るべき特権ではなかろうか。

（イエズス会司祭　泰星学園教師）

みちくさ

「人間には口が一つ、耳が二つある。これは聞くほうを倍にしろということである。」とタルムードはいっている。たしかにこれに類する苦い経験は山ほどある▼人の話をよく聞きもしないで、勝手に腹をたてたり、罪にさだめたりして、相手に不愉快な思いをさせたこと。やっとの思いで相談に来ている方に対して、親身な対応を怠って深刻な亀裂を生じさせてしまったこと。そんな苦い体験をいっぱいもちながら、今なお聞くことの下手な自分である▼ところで「聞く」にせよ「聴く」にせよ、「きく」ということはなんだろう。単に相手のことに興味や好奇心をもって耳をそばだてることでもないだろう。「きく」ということは、相手への共感、共歩の世界に足を踏み入れることだと考えている。だから神さまが私たちの祈りをきいてくださるということは、私たちへの共感、私たちの世界との具体的なかかわりを意味するのだと思う▼一方「よくきく」ための要因に「こころの目」がある。人はだれでも自分のメガネを通してこの世界をながめている。自分のこころにかけているメガネをよく点検してみよう。先入観、偏見の色メガネを捨てて、福音のメガネをかけてみよう。そうすれば自分の目も矯正され、澄んできて、相手の真実がもっとよく見えてくるかもしれない▼小さき者の代弁者としてのキリストのことばを「きく」ためには、澄んだこころの目をもってイエズスのわざを直視しなければならなかったが、それはある人にとっては耐えがたい苦痛をともなった▼人の話をどうきいているかは、自分がその人をどうみているかということになるかもしれない。だが自分の色メガネをはずすのは難しい。私にはこれが一番よく合っているし、よく見えていると思えるからだ。「きく」ことの難しさをあらためて考えさせられている日々である。

1987年四旬節司教教書

「開かれた教会づくり」の基礎

福岡教区長　平田三郎司教

神のあわれみと聖座の計らいによって、宣教、司牧の任を託された福岡教区長は、四旬節にあたり教区内の司祭、修道者、信徒の皆さんにこの教書とともに心からの祝福をおくります。

「第一回全国会議」に向けて

日本カトリック司教団が「日本の教会の基本方針と優先課題」を発表し、福音宣教に対する自覚と実践を教会の全司祭、修道者、信徒に呼びかけてから、三年の歳月が流れようとしています。そしていよいよわたしたちは、今年の十一月、京都で開催予定の「第一回全国会議」に向けて、具体的な準備にとりかかっています。

司教団は、昨年十二月の臨時司教会議で、熱心な研究や討議の結晶として各教区から送っていただいた議題を、祈りのうちに討議しました。その結果司教団は、各教区から提出された課題案の根底にある共通の問題として、「信仰の実生活からの遊離」と「教会の現代日本社会からの遊離」が、福音宣教の障害になっているとの指摘を確認いたしました。

そこで司教団は、福音宣教を「生活から信仰を見直す」と同時に、また「日本の社会の現実の理解から」も、福音的なものは取り入れて育み、反福音的なものはこれを正し、かつ浄化するために、社会ともっと対話する必要を痛感し、第一回全国会議の課題を「開かれた教会づくり」と決定いたしました。

ところで、この「開かれた教会づくり」という課題は、次の三本の柱によって支えられています。すなわち、「日本の社会とともに歩む教会」「生活を通して育てられる信仰」それに「福音宣教をする小教区」の三つがそれです。

いうまでもなく、この目標は広大かつ深遠ですからその理解と実現には、永い年月を必要とします。しかし今回は、第二番目の「生活を通して育てられる信仰」に焦点をあてて考察したいと思います。なぜなら、これこそ教会が、社会とともに歩むためにも、小教区を宣教共同体にするためにも必須条件であり「開かれた教会づくり」の基礎であり、鍵だからです。

生活の中に信仰を生かそう

キリストの福音の、真の宣教者となるための最大の条件は、まずわたしたち自身が、信仰の人である、ということです。

宣教が人々をキリストへの信仰に導くということなら、持たないものを他人に与えることはだれにもできないからです。もちろん信仰は、神からの最大の賜物のひとつです。

しかしこの信仰は、キリストのたとえ話の「からし種」のように、はじめは目にも止まらないほど小さなものですが、やがては大きく、たくましく成長し、美しい花を咲かせ、空の鳥が巣を作って憩うほどの大きな枝を張るはずです。もちろん、神だけがこの小さな信仰を成長させることができます。

しかし、わたしたち自身、実生活において、とくに試練や逆境にあっても信仰に生きることが、信仰を成長させ、強く根づかせるための、不可欠の条件であることを忘れてはなりません。

したがってわたしたちは、福音の宣教者であるまえに、まず自ら信仰に生きなければなりません。そうでなければキリストの福音宣教者としては失格者となるでしょうし、たとえ口先だけの宣教者として活動しても、枯れ井戸のように、霊的渇きに苦しむ人々に、いのちの水を与えることはできないでしょう。また、実行の伴わない信仰宣伝は、根のない花のように、やがては枯れ落ち、人々に踏みにじられてしまうでしょう。

したがってキリストのお望み通りの宣教者になるためには、何よりもまず、自分自身が信仰の人として大きく成長しなければならず、そのためにも、わたしたちは信仰の忠実な実践者でなければならないでしょう。信仰の実践者として生きるとき、神はわたしたちの信仰を、福音宣教者に相応しく成長、完成させてくださるからです。

ところで、信仰を実践し、完成させる第一の場、それは家庭です。そこで、わたしたちにとって「家庭で信仰を生きる」ことが、とくに重要になってくるわけです。

家庭で信仰を生きよう

わたしたちはしばしば「家庭の崩壊」、「家庭の危機」といった言葉を口にし、耳にします。このような表現は、単なる時代の流行語ではなく、むしろいたましい生の体験に基づくもので、しかも早急な解決を求める嘆願の叫びです。毎日のマスコミを賑す蒸発、一家心中、生命の軽視、離婚や別居、家庭内暴力などがそれを実証しています。

このような「家庭の崩壊」や「家庭の危機」の要因は、たとえば夫婦間では、対話の不足、性格の不一致、誤った自由な生き方に由来する不忠実などがあげられます。また、親子の断絶、子供の過保護、子供への過度な期待とそこからくる強要、父親の権威の失墜などの親子関係の乱れも、その要因の一つといえるでしょう。

さらに最近、急激に増加している核家庭、仕事第一主義からくる単身赴任や長期の出稼ぎなどの社会の仕組み、教育内容や教育制度などの、社会構造などからくる非人間化も、たしかにその要因の一つだといえます。しかし、その理由が何であれ、現代社会が、多くの家庭の崩壊や破滅の要因をはらんでいることは確かな事実であり、カトリック信者の家庭だけが、例外であろうはずはありません。

ところで、現代これほどまでに、顕著になっている「家庭の危機」を救う道は、わたしたち自身が、キリストの福音に生き、その証を世に示す以外にありません。逆の表現をすれば、だからこそ家庭は、信仰実践のための最適な場所であり、したがって信仰を大きく育てるための大切な場所で、第二ヴァチカン公会議は「家庭教会」とさえ言っているのです。

家庭においてその中心である夫婦は、キリストのおことばどおり「もはや二人ではなく一体」（マタイ19・6）ですから、互いに愛し合い、ゆるし合い、重荷を負い合って、キリストの愛を忠実に模倣するよう努力しなければなりません。

結婚生活に伴う種々の困難を、福音の精神、つまり信仰によって克服してこそ、わたしたちの信仰はほんものとなり、成長し完成され、豊かな宣教活動の原動力となるからです。

さらに家庭は、両親にとって最大の任務である、子供たちの最初の信仰教育の場でもあります。信仰を無視して、理想的な教育はありえないことを考えますと、わたしたちは、家庭における信仰生活の大切さを、容易に理解することができるでしょう。

むすび

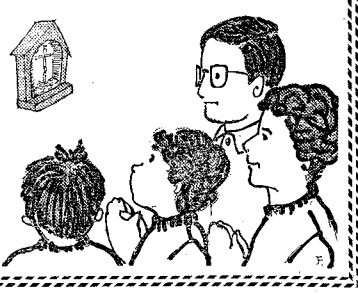
以上わたしたちは、約半年後に開かれる「第一回全国会議」の課題、「開かれた教会づくり」について、家庭における信仰の実践という観点から、考察してまいりました。

それは、家庭において信仰に生きることこそ、あらゆる宣教活動の基礎であり、また鍵であるとの信念に基づくものでした。

日常の経験からも明らかなように、わたしたちは、まず家庭で信仰生活を体験、実践し、同じ家庭を通して、神の民、市民社会へと少しずつ外に向かうことを思えば、これは当然の論理だというべきでしょう。

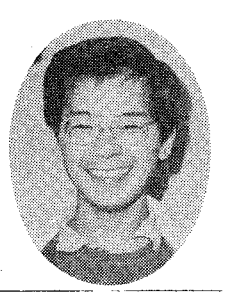
もっとも身近な家庭を福音化できないで、社会を福音化することは、できません。社会は、家庭の集合だからです。また自分たちの子供にさえ信仰を伝えないで、社会に向かってキリストの福音の証人となることなど、とうてい望むべくもありません。

家庭の福音化こそ、わたしたちがすぐに取り組むべき重要な課題ではないでしょうか。



炊き出し体験記

森山　健四郎



貧しい人々との連帯を目指して、12月から1月に行われた越冬炊き出しに参加した。

地下街で新聞紙を敷いて横たわっている人、狭い路地でダンボールの箱の中に入って寝ている人、公園のベンチの上で冷たい風を避けて毛布にくるまっている人、日頃は気づかない、いや意識的に避けて通っていた、これらの人々およそ百人に、おにぎりや、みそ汁を配る。何ともいえない気持、潜在的な自分の差別意識に気づいて、この人たちも同じ人間なのだと、自分に言い聞かせる。

若い頃の思い出や、転々と仕事を変え、今にいたるまでの苦労話をボソリボソリと語ってくれるおっちゃん。

「この人たちがいなかったら今頃わしはどうなっとったか分からん」。一般社会からは見はなされたが、この底辺の世界で受け入れられた人。

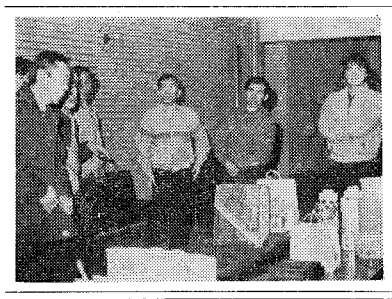
「この寒い中大変やね。このチョコレート開けてないけん食べんしゃい」。ほんとうに飢えている人は思ったより少ないのに気づく。彼らの中には、充分働けるのに何もせずブラブラ遊んでいる人や、趣味でこういった生活を選んでる人もいるようだ。

しかし、それを安易に怠慢や自業自得だと言って責めることはできない。彼らなりの社会的な問題が散在しているし、原因はどうあれ彼らはやはり貧しい人々なのである。

貰ったチョコを口に入れた瞬間、ふと感じた。彼らが、その存在と生きざまを通して叫び求めているもの、それはおにぎりではない。自分も一人のかけがえのない、必要とされ、愛されるべき人間なのだということを。小さな経験でも貧しい人の中に実際に足を突っ込むことによって、社会の苦しみや悪に対していつも敏感でありたいと思う。そこにこそ、神の豊かさが輝き出るはずだから……。

（御受難会・修練者）

大名町教会が継続



「炊き出し」は、二月いっぱい週二回福岡市の大名町教会が引き継いだが、参加した人たちは老若男女を問わず口々に「やってよかった。得ることが多かった」と感想をのべていた。

皆勤賞などに関しての返事

鵜野　泰年

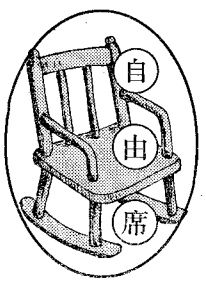
昨日は私の知人の幼児が熱があるのに幼稚園に行くといって、お母さんが心配しているにも拘らず行ってしまったのをみました。今日までは皆勤だから子供にしてみれば頑張ろうとしたのでしょうね。そういうことで皆勤、精勤賞をやめた幼稚園もあります。でも平等を打ち出しすぎても人間教育を画一化する恐れがあるような気もするのです。

私の考えでは、人間の生活の一こま一こまでは不平等のようにあっても人間生涯という見方ではみな平等であると思います。健康に恵まれなかった人は知的に恵まれていたり、学問に恵まれなかった人は芸術に恵まれていたり、神様が与えて下さるごほうびに決して不平等はないと信じています。幼稚園の皆勤や精勤は教育の観点から行っている単なるひとつのごほうびであり、むしろ神様が健康と皆勤を与えて下さったことに対する感謝という意味を多分にふくめています。

皆勤賞をもらった子はそういう意味で神様に感謝するように。また、もらえなかった子はやさしい心、親切な心などで神様がきっとごほうびを下さることを納得させていきたいと思います。幼稚園の賞は、これからの人生に横たわるあらゆる賞の初体験であろうと思います。

この世から一切の賞をなくすより、人生には現実として色々な賞があるのだということをわかっていた方が子供たちのためにもよいのではないでしょうか。そして賞の中でも最大の賞が天国であることを子供さんに教えて下さい。

（高宮カトリック幼稚園園長）



座視できぬ国秘法共同体の論議望む

吉永　勝則

今、自民党や統一神霊協会（勝共連合）が、この通常国会で制定を目指している国家秘密法（スパイ防止法）案について。スパイというと映画やテレビで見る〝職業スパイ〟を連想するが、この法案は防衛や外交に関するあらゆる事項が「国家秘密」となり、例えば政府が外国と核兵器に関する密約を結んだり自衛隊が核武装計画などを行ったことを調査、報道しただけで「無期懲役」などの重罰を受ける恐れがある。

日本のSDI（戦略防衛構想）への参加で民間企業の技術や研究が「国家秘密」とされると、従事者がそれを知らずに人に話しても処罰される恐れがある。報道の自由が封じられ、国民の知る権利が奪われると主権者である国民の監視が政府に全く届かないことになる。よって国家秘密法の制定は歴史の逆流と思うし、統一協会の活発な働きと合わせ〝危機感〟を持たなければならない。福岡県にも学者、文化人、弁護士が呼びかけ「国秘法阻止実行委員会」が発足。意見広告、国会への制定反対要請署名に取り組んでいる。

統一協会の霊感商法の被害や勝共連合の勢力がここまで広がったのは無感心と沈黙が見方をしているのではないか。いつかきた道をもどらないために、主の望まれる「平和」を真剣に論議する時だと思う。「知らなかった」ではもう遅い。

（門司教会信徒）

全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目24—14
TEL　福岡(092)471—0245(代)
管制センター　TEL　福岡(092)471—0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5—1
TEL　北九州(093)671—8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡(712)8022　久留米(33)7401
佐賀((30)4040　小郡(72)3482

キリスト教一致祈禱週間（1月18日～25日）

主にあってともに新しく！

一致は祈りから

世界的なキリスト教一致（エクメニズム）運動の潮流のなかで、福岡教区でもプロテスタントとの合同の集会がもたれたが、祈り、語り合いながら、互いにキリストにおける兄弟姉妹であることを確認し合ったことの意義は大きい。

ゴスペルソングを歌う西南大学の学生たち

1月22日、こ教一致のための祈禱集会が福としもキリスト岡カテドラル・センターで開かれた。

市内のプロテスタント・カトリック諸教会の信徒や牧師司祭、修道女らが約80名つどい、共に祈った。

毎年1月25日の聖パウロの回心の祝日を中心に全世界のキリスト教が一致へと向かう運動（エクメニズム）の祈禱週間の一つとして行われたもの。今年は「キリストにあってともに新しく」がテーマ。

集会は、大聖堂に鳴り響くパイプオルガンの奏楽（西南大・古沢嘉生教授）で始まり心を合わせて詩編を唱和、聖歌をうたい静かに祈った。

説教は入江清弘牧師（日基城東橋教会）が、キリストにおいて御父へ一つにとメッセージ。続いてルーテル、バプテスト、カトリック各派から共同祈願を捧げ、ともに主の祈りを唱えて祝禱を受けて閉会。司会は鈴木忠一神父（黙想の家）。

祈禱会後は一階ホールで茶話会。栗本高幸牧師（福岡バプテスト教会）の司会で平和と一致の喜びの雰囲気の中でゴスペルソングやMEの紹介などを織り込んだ意味深い集いとなった。

とりわけホスト役の平田三郎司教の誠実な一致へ向かおうとの短いスピーチに好感が持たれた。

茶話会もなごやかに

食卓を囲んで
本音の部分で語り合う

福岡市で、主キリストの福音宣教の使命を負う者が集いその課題と夢、喜びや悩みを共に語りあおうではと、去る1月26日黙想の家で「カトリック・プロテスタント宣教放談会」が開かれた。

福岡
黙想の家

普段はお固い感じの牧師先生、ツンとおすましの神父さま、マジメ人間の典型にされているクリスチャンがリラックス、一つの鍋を囲み杯を傾けながら通いあう心を宣教のエネルギーにしたい、そんな冬の夜の一時のぬくもりがほしい。主キリストの面影について、宣教、司牧についてホンネで話してみたい腹をわって通じあいたい。これがこの催しを企画した実行委員の熱いのぞみ。

宣教放談会には各教派から25名のさまざまなキリストの弟子がつどい、熱心に祈り、飲みかつ食い、そして放談した。

主の祭壇にのぼります

インタビュー

―　きょうは、司祭、助祭叙階を前にしたお二人の、心境を伺いにきました。

助祭候補者の森山信三神学生からどうですか。

森山　自分の無力さがたくさんみえて、ふさわしくないなあということを強く感じています。これじゃいけないと思えば思う程、焦り気負いもでてきますし、一方では、もうここまできたら信頼するしかないという気持ちもあります。複雑な思いがからみあっていて、今の心境を一言でいうのは難しいです。

―　山下正助祭は、司祭叙階を目前にしていかがですか。

山下　うれしいですね。助祭叙階の時はすごく緊張していたけど、今は、あまり緊張感がなくて、これでいいんだろうかと自分で思いながら一つ一つの出会いを大切にしていくという意味で、特に休みの時は、どういうふうに過ごしましたか。

―　神学校生活で、心に残っていることは。

山下　そうですね。霊的生活の面で神学科になっての4年間が充実していました。

―　森山さんはあと1年あるけれどもどうですか。

森山　一歩神学校を出ればたくさんの人たちが、悩み苦しんでいるわけで、そんなことを考えるとあまりにも安閑と過ごしてきたなあという反省があります。もっと社会のいろんな部分と関わりあって生活したかったなあと強く思います。

―　社会の底辺の人たちとの関わりの中での福音との出会いということですね。

山下　教会の仕事というよりは、信者さんとの個人的な深い話し合いがけっこう多かったと思います。

―　森山さんはどうですか。

森山　僕の場合は、いろんな子供のキャンプの手伝い。そのかたわら釜ヵ崎へ行ってきたり、フィリピンへ行ったりしました。何か、いてもたってもいられない、今のうちに見れるところはどん欲に見てやろうというそういう精神でやってきました。

―　先輩司祭たちをどういうふうに見ていますか。

山下　よくやっていらっしゃると思います。安心して飛び込んでいける何かが福岡教区のなかにあると思います。

―　オルガンをよく奏けるそうですが。

山下　音楽を通じて、深いキリスト教的な精神を皆さんに伝えることができたらと思います。

―　趣味はどうですか。

山下　やはり音楽ですね。霊性なんかもすごく好きです。

―　東洋の霊性、日本の霊性とかあるけれど。

山下　外国の方にかぶれていますから。（爆笑）

―　森山さんはいかがですか。

森山　今は、東洋の霊性にすごく関心を持っています。この前、高野山に行ったんですが、カトリックは典礼にしても形をいいかげんにしているなあって感じたんです。

―　坐禅とかしますか。

森山　ちょっとやったんですが、三日坊主でした。

―　信徒の皆さんへ一言。

森山　司祭叙階までにはあと一年ありますので、これからもお祈りください。

山下　これから司祭としての使命を果たしていく上で、皆さんのなお一層のお祈りとご指導をどうぞよろしくお願いします。

（四面に関連記事）

宣教クララ会
修道院新築落成

佐賀

佐賀市の「御聖体の宣教クララ会修道院」が、このほど佐賀郡大和町川上に新築移転した。

去る一月二十五日、平田司教様をはじめ、地区長アルベルト神父、地区信徒会長桜井太郎氏ほか県内各教会代表が参加して完成を祝った。これは今までの修道院が手狭になったため。

新修道院がお目見えしたのは、佐賀の〝嵐山〟といわれる景勝の地で、佐賀市から北に車で二十分、川上峡官人橋のたもと。総工費は千七百万円。軽量鉄骨による白亜の二階建て。敷地面積一九五平方㍍、延床一五九平方㍍でクボタハウス（株）の斬新な建築様式による。

同修道会がこの地に拠点を定めた理由の一つは、佐賀教会の信徒・石井文（62）さんが自宅の邸の一部を無償で修道院に提供したことによる。また建築費用は佐賀地区のミラノ外国宣教会が全面的に負担協力した。

宣教クララ修道会は昭和五十二年、ミラノ会の招請によって来佐、以来十年県内福音宣教の推進力として目覚しい活躍を続けている。

（佐賀　牧山満安）

離婚

「離婚」が多いとはいわれていますが、実際どのくらいのカトリック信者が離婚しているかを示すはっきりとした統計はありません。そのこと自体が、まず問題ではないかと思います。

だれも、離婚しようと思って結婚する人はいないと考えてよいでしょう。しかし、現実に離婚している人がかなりいるということは、結婚というものが、そんなに簡単なものではないということを示すと同時に、現実は理想のようにはなかなかうまくはいかないということを示しています。

信者の離婚数がはっきりとつかめていないことは、教会の離婚者に対する司牧がまだ本気でなされていないことを表わしているのではないでしょうか。離婚イコール悪。悪イコール地獄行きという、あまりにも短絡的発想がなされているのかもしれません。

キリストが、すべての人を例外なく救いに来られたのなら、その「救いのワク」から、だれも除外されてはなりません。むしろ、このような、どうしようもない状況に追い込まれている人たちこそ「救われ」なければならないのではないでしょうか。

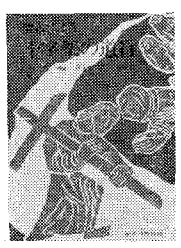
アメリカなどでは、離婚者や再婚者（教会法では姦通の状態）に対する司牧が具体的になされています。教会は、決して離婚を認めたり、許したりはしませんが、しかし、実際に離婚（再婚）してしまった人に対しては、キリストの心をもって受け入れ、司牧する必要があるのではないかと思います。

それがうまくいくためには、牧者である司祭だけではなく、教会のメンバー一人ひとりが、もっとキリストの心を理解しなければならないと思います。

（小倉教会）

☆聖書による
十字架の道行

編・深堀千代子
絵・カルペンティール



「十字架の道行」は、教会の伝統の祈りの一つとして、広くキリスト者の間で親しまれてきました。ことに、四旬節や黙想中には熱心に祈られてきました。しかし、今はだんだん忘れられてきているような気がしてなりません。

ここに紹介する「十字架の道行」は、現代の人々が聖書のことばを通して、主のご受難、ご死去、ご復活を思いめぐらしながら、十字架の道行の価値を再発見するために編さんされています。

祈りの構成は、真理であるみことばの黙想、道となる日日の私たちの生き方、命となる嘆願の祈りを聖書と典礼の祈りから抜粋してあります。従って、あなたに語りかけられるのは、主ご自身と教会の声です。

主のご復活にあやかるため四旬節中、個人で、また家庭で、学校で、教会共同体で、主の痛み、苦しみ、十字架上の死を私たちの生活の中で追体験しながら祈り、救いの秘義を深めるのに最適の小冊子です。また、練成会や黙想会で私たちの信仰を強めるのにも役立つ小冊子です。

一五〇円（女子パウロ会）

BOOK 読みま専科

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
素材　石　石他
理　影の
大御そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

司教日程（三月）

3日　全教区司祭集会
8日　青年の集会
18日　聖書実行委員会（東京）
21日　司祭、助祭叙階式　午前11時（カテドラル）

福岡黙想の家

1日　聖アウグスチノ会第三会黙想会
14日～16日　聖母カテキスタ会
29日～30日　善きサマリア人修道会黙想会

献金報告

邦人司祭育成の日献金
一、八九二、六一六円

児童福祉献金
四、八三三、一六二円

ご協力ありがとうございました。

二人の候補者のプロフィール

〈司祭叙階候補者〉
山下（やました）　正（ただし）
一九五九年三月二十二日生
霊名　ミカエル
所属　大楠教会
初ミサは、3月22日（日）午前10時30分より大楠教会

〈助祭叙階候補者〉
森山（もりやま）　信三（しんぞう）
一九五九年一月一七日生
霊名　スルピス
所属　箱崎教会

日本カトリック婦人団体連盟
全国大会に参加しよう!!

テーマ：婦人による社会の福音化
　＜一人でもできる福音宣教＞
日　時：昭和62年5月20日・21日
場　所：福岡カテドラル・センター（大名町）
会　費：各日ごと　2,000円
主　催：日本カトリック婦人団体連盟
　会長　浜口美智子
　顧問　島本要司教

基調講演や分散会の型で行われます。個人参加もできます。宿泊も準備しています。（一泊5,700円朝食共）
詳細は、鬼木久美（092-541-6478）まで

福岡ブロック高校生 津和野巡礼のお知らせ

日時　3月25日～26日
定員　30名
対象　（新）高校一年生～三年生（今春卒業予定者も歓迎）
会費　一人二五〇〇円。25日の昼食のために、各自弁当持参。なお25日の夕食、26日の昼食代はその都度徴収します。
集合場所と時間　大名町教会、午前8時
連絡先　山内堅治神父（聖パウロ会）
☎092―531―0924

香典返しを 福岡小神学校へ

故マリア・マグダレナ平田スギノ様（Sr.平田ひろえ・福岡小神学校援助姉妹会の御母堂）
故マリア深堀キクエ様（深堀勝人神父の御母堂）の香典返しとして、福岡小学校のため多大の御芳志をいただきました。
故人の冥福をお祈りし、厚く御礼申し上げます。

教区報「カトリック」主催 広報一日研修会

教区報「カトリック」では左記のように「広報一日研修会」を企画しています。

期日　5月24日　広報の日
対象　小教区で「小教区報」や各種委員会、活動団体の「会報」「機関紙」などにたずさわっている方。
趣旨　広報の意義の確認、交流、情報交換。
講師　高橋義博神父（カトリック新聞社）
会場　司教館　新館
会費　千円（昼食代を含む）
問合せ先
教区報「カトリック」編集部
☎092―522―5139（司教館）
0942―72―3256（小郡教会）

編集室から

教区の公聴会では、いろいろな問題点も浮かびあがってきましたが、それ以上に信徒が信仰を生きるために頑張っている姿に、改めて聖霊の力強さを感じました。
自由席では、子供を表彰することについて、鵜野泰年神父様から当事者としてのお考えをいただきました。
吉永勝則氏は国家秘密法の問題点を指摘しています。
教会が社会の種々の問題に関わろうとしている今、皆さまがたの幅広いご意見を期待いたします。（W）

いぶき

孤独との闘い

山内清海

「人間を孤独から救う唯一つのもの、それは信頼できる友情である」
これは、亡くなってすでに40年にもなるし、日本ではあまり知られてもいませんが、ボナールというフランスの画家の言葉です。この言葉は、特にかれが貧しい画家として、苦しい日々を送っていた頃の、温かい友情の生きた体験から得られた金言だ、といわれています。この言葉の真実性は、わたしたちだれもが、何らかの形で体験することです。だからこそわたしたちは、本当に信頼できる友情を大切にするのです。
わたしには何も、このような友情の価値や素晴らしさや、孤独を克服するための効力を否定する考えなど毛頭ありません。しかしボナールのように「友情を孤独から救う唯一のもの」とは考えていませんし、絶対的な条件だとも、思っていません。人間的友情だけではわたしたちが体験する孤独を、完全に解決することはできない、と信じるからです。
「わたしをののしるのが敵であれば、それを忍べるだろう。わたしを憎むものがさからって立つならば、わたしは身を隠して避けることもできる。しかしわたしの同僚の君が、わたしの友、わたしの親しい者、やさしく語り交わしたこともある君が、神の家で心を通じ合った君がそれなのだ」（詩55・13～15）、とうたった詩編作者の言葉を身をもって体験するとき、わたしたちは、友情の素晴らしさと同時に、そのもろさ、その限界をも知らされ、がくぜんとします。
では、一体何がわたしたちの孤独との闘いに、完全な解決の鍵を与えるのでしょう。
孤独といえば、わたしたちはキリストの孤独の苦悩を思いだします。キリストは「エルサレム、エレサレム、預言者を殺し、自分に遣わされた人を石で打ち殺す者、めんどりがひなを翼の下に集めるように、わたしはいくたび、あなたの子らを集めようとしたことであろう。しかし、あなたがたは、これに応じようとしなかった」（ルカ13・3）、とエルサレムを非難しておられますが、これはある意味でキリストの孤独の苦しみの表現だといえます。
キリストの孤独の苦しみは、ゲッセマニの園と十字架上で最高潮に達します。キリストは、人々の裏切り、敵たちの陰謀と中傷に苦しみ、弟子たちからまで解放されず、まさに「四面楚歌」的状況のなかで、血の汗を流しながら「わたしの魂は死なんばかりに悲しんでいる」、と叫んでおられます。
さらに十字架上でキリストは「父よ、なぜわたしをお見捨てになるのですか」と、自分の死ぬほどの孤独の苦しみを表現なさいます。ではキリストは、わたしたち人間の想像を絶するほどのこのような孤独の苦しみを、どのようにして克服されたのでしょうか。キリストが孤独を克服なさったのは、御父への絶対的信頼によってでした。
だからキリストはゲッセマニの園で、「父よ、もしゆるされることなら、この苦しみの杯を遠ざけてください」と祈りながらも、すぐに「しかし、あなたのみ旨のままに」と、付言なさり、十字架上で悶え苦しみながらも、「わたしの魂をあなたに委ねます」という素晴らしい御父への絶対的信頼を表現することをお忘れにならないのです。
いよいよ四旬節が始まります。わたしたちはこの季節中に、孤独の苦しみと闘い、これを御父のみ旨を実践するための手段として受け入れられたキリストを、できるだけ忠実に模倣すべく努力すべきではないでしょうか。
友情がたとえどれほど素晴らしくても、それが苦しい孤独を解決する最終的鍵ではない、という経験的事実は、神への絶対的信頼の必要を示唆している、とはいえないでしょうか。

（サン・スルピス会司祭　大神学院教授）

けがさじと思ふ御法のともすれば 世渡るはしとなるぞ悲しき　慈鎮

かのときのことのは

森山　敬三

『山上宗二記』に、利休はこの歌を常に吟じて「茶の湯を身すぎにいたす事、口をしき次第也」といって自戒していたとある。仏法を渡世の手段とする歎きである。
それは、この一筋につながった芭蕉の辞世の句「旅に病で夢（ゆめ）は枯野をかけ廻（めぐ）る」の推敲（すいこう）のときに盛（さか）るさかしらの茶は知らねども利休の心いささかは知る」というのがある。
め給へる」と、同じ精神である。「人生は一行のボードレールにしかない」との芸術至上主義の立場も、わからないわけではないが、それとは異る次元にある。
秀吉より切腹を命じられた利休は、それから免れようと思えば、できた。にもかかわらず、あえて切腹をえらんだのは、死をとして、自分の求めてきたものを、守り通そうとしたのである。
権門も屈する能わざることの強い精神を、現代の茶人たちは失ってはいないであろうか。吉井勇の歌に「世に盛るさかしらの茶は知らねども利休の心いささかは知る」というのがある。

ローマ時代、中世、ルネッサンス、近代、現代にわたり、カトリックの精神を根底においた、西欧芸術の軌跡をたどる、秘蔵のコレクション158点を一堂に――日本初公開。
特別展示 ペルニーニ（青年の肖像）天正少年使節親書 伊達政宗親書
神々と日々へのメッセージ
THE VATICAN EXHIBITION
大ヴァチカン展
※この広告を窓口へお出しください。当日料金から100円を割引いたします。
会期/4月29日(祝)―5月24日(日)
会場/福岡県立美術館（福岡市天神須崎公園内市民会館前）
開催時間/午前10:00→午後6:00（入館は午後5:30まで）
※休館日/5月11日(月)・18日(月)
主催＝大ヴァチカン展実行委員会・西日本新聞社
特別協力＝株式会社そごう・西日本鉄道株式会社
後援＝文部省・文化庁・ローマ法王庁大使館・福岡県教育委員会 福岡市教育委員会・日本教育新聞社・NHK福岡放送局 テレビ西日本
交通案内
地下鉄天神駅 徒歩8分
西鉄福岡駅 徒歩8分
西鉄バス25・85・93番系統 市民会館前 徒歩2分
はっとする、やさしさ。
そごう 黒崎 国鉄黒崎駅前 ☎(093)632-2111
入場料/当日券・一般1,000円・高大生800円・小中生600円　前売券・一般900円・高大生700円・小中生500円

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

任意保険に加入してから車の運転を致しましょう。
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社 藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電（092）441-6585

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL 092-521-0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42319
定価一部60円

山下正師司祭に

カテドラルで盛大な叙階式

森山信三神学生は助祭に

今年も福岡教区では、新しい司祭の誕生を祝った。司教は叙階式の説教のなかで、牧者としての司祭はキリストにならって、まだ群れのなかにいない羊たちのためにも働くようにと、福音宣教者としての牧者の姿を力説した。

祝福し合う新司祭(左)と助祭(右)

大楠教会での初ミサのあと子供たちから花束を受ける

司祭と助祭の叙階式が、3月21日カテドラルで盛大に挙行された。

約六百名の参加者の「きょうこそ神がつくられた日」の大合唱の中、十字架を先頭に助祭職の叙階を受ける森山信三氏、司祭職の叙階を受ける山下正師、続いて五十三名の司祭団と司式の教区長平田三郎司教が入堂。

平田司教は、説教の中で「司祭は神と人々の間に、また人と人の間に立てられた者として、牧者としての使命にあずかるものであり、全ての人に福音を告げなければならない。そして現代日本の教会の時のしるしである宣教共同体づくりを大切な任務として遂行していくように。」とさとした。

説教の後、司教の前に助祭受階者と司祭受階者が呼ばれサン・スルピス大神学院院長高木善行師を通して、選出の確認が行われた。まず、森山信三助祭受階者が助祭職を受ける決意表明。生涯独身を守っていく決意と聖務日課を唱える決意を表明し、司教に対する尊敬と従順の約束を行った。司祭受階者も司祭職を受ける決意の表明と司教への尊敬と従順の約束を行った。

参列者は叙階の恵みを求める連願を歌い、その後、司教は、助祭受階者に按手と聖別の祈りを唱え、こうして森山信三助祭が誕生した。

森山信三助祭

次に、司教は司祭受階者のために祈り、按手を行った。続いて臨席の司祭たちも一人ひとり兄弟に按手し、聖霊の恵みを祈り、聖別の祈りを唱えた。司祭用祭服の着衣のあと聖香油の塗油、パンとパテナ、ブドウ酒と水とカリスが授与された。

こうして誕生した新司祭、助祭は司教とまず平和のあいさつを交し、さらに兄弟となった司祭団また参列者との平和のあいさつによって、新司祭、助祭としての喜びを表わした。引き続いて新司祭は司教とともに感謝の典礼をささげ、助祭は奉仕の務めを果たした。

祝賀式のあいさつのなかで畠山春秋氏（二日市教会）は新司祭に、(1)祈る人であってほしい。(2)慈愛に満ちた人であってほしい。(3)イエズスの魅力を自分のものにしてほしい。と要望、新司祭がその任務を果たすとき喜んで協力しますと語った。

参列者は、叙階式の荘厳さの中に神の恵みの満ちあふれを体験し、新司祭と助祭の前途を祝福した。

（3面に関連記事）

今月のみことば

あすのことを思い煩うな
その日の苦労は
その日だけで十分である
（マタイ6・34）
老司　竹森勇神父

求められる新しい司牧者像

島本要司教が司祭集会で講話

島本要司教

全教区司祭集会が3月3日司教館新館で、講師に浦和教区の島本要司教を迎え、平田司教はじめ約45名の司祭が参加して行われた。

島本司教は「司祭と開かれた教会づくり」のテーマのもと「司牧の責任を委ねられている小教区司祭」に視点を置き、つぎのように語った。

一、福音を宣教する小教区の活性化のためには、小教区の信徒一人ひとりを宣教の熱意に燃えたたせなければならないが、そのためには小教区の中で、司祭と信徒の対話、役割分担を大切にし、司祭も信徒から「学ぶ」姿勢が大切である。とはいっても司祭は信仰の教師として、キリストから委ねられた牧者としての使命を果たすべきものであることを忘れてはならない。

信徒がやれるものはもっと信徒にやってもらい、司祭は司祭にしかできない任務に徹してほしい。

二、教会には青年会、婦人会、壮年会などいろんな活動があるが、うまくいっているところは少ない。これからは年齢性別をこえて、共通のものをもった人々がグループをつくって集まるのがいい。

これからのグループは画一化ではなく独自性、自主性を伸ばしていく、いわゆる多様性のなかでの一致“community of communities”をめざすべきである。

そのためにもその中心となるべき司祭には、権威による押しつけではなく、信徒にやる気をおこさせ、それを生かしていく指導力が要求される。小教区エゴをなくし、小教区の壁をこえた活動もこれからもっと必要になってくるだろう。

三、司祭には教会が何を教えているか信徒に忠実に伝える義務がある。

現代の教会は閉ざされた信仰ではなく、証し、伝える信仰に力点をおいている。具体的に、社会の中で生きる人間の痛みを知る必要がある。外国人登録法を例にとるなら、政治活動としてよりも、人間の倫理の問題として把握し、一人ひとりが認められ、人間らしい生活ができるような社会づくりに貢献してほしい。

四、青少年問題について、現代の若者には宗教心はないという人がいるが、実際はそうではない。現代の若者は以前と違い、哲学的、理論的アプローチではなく、フィーリング、体で感じるものを信じる。若者たちは本物を信じ、それについていく。その意味でも、私たちは自分の信仰が本物であるのかどうか検証すべきではないだろうか。教会離れは、教会に対しての若者たちの警告であり、教会が福音化されるなら、若者たちはついてくるはずである。

講話の後、質疑応答と分散会が行われたが、その中で、「司祭が、信徒の声を聞く勉強会を設けること。宣教・司牧の実践の場での体験を持ちより、小教区の司祭相互の協力を促進する。」などの声が聞かれた。

熱のこもった会場

駐日バチカン大使

教区巡視日程決まる

4月28日（火）筑後地区
12・00　昼食（司教館）
14・30　久留米信愛女学院
17・00　今村教会
夕食後小神学校
宿泊（司教館）

4月29日（水）福岡地区
9・00　聖パウロ会小神学校
9・30　カルメル会修道院
大神学院
11・00　平田司教祝聖25周年祝賀ミサ
夕食・宿泊(司教館)

4月30日（木）北九州地区
10・00　黒崎教会
聖ヨゼフの園
11・15　明治学園
13・00　八王寺本部での地区司祭との会食、懇談
16・30　新田原教会ミサ、聖母病院、夕食（新田原）
宿泊（司教館）

5月1日（金）熊本地区
10・30　マリスト学園
地区司祭との共同ミサ、会食、懇談（手取）
15・00　島崎老人ホーム
待労病院
17・00　天使園
恵楓園
夕食・宿泊（手取）

5月2日（土）佐賀地区
10・30　地区司祭との共同ミサ、会食、懇談
14・30　大和町の修道院、施設めぐり
夕食・宿泊(司教館)

5月3日（日）
9・30　西新教会ミサ
大濠・訪問会修道院
12・00　昼食（司教館）
帰京

時の話題

聖堂内の甘ったれ子

草野純英

「今すぐに、外へでなさい。」何度もガマンを重ねていた司式司祭は、ついに堪忍袋の緒を切らし、爆弾投下と相成った。

我が物顔に聖堂中を動き回り、奇声を発する幼児に、可愛さを通りこした思案顔が向けられる。親は、傍若無人のわが子を連れて、聖堂の外へ出る。聖堂での子供の躾はどうなっているのだろうかと、時々考えさせられることがある。

ここは神様の家、イエズス様、マリア様のご像の前では静かにして、手を合わせておかりするという習性を養ってもらいたいものだ。まして、聖堂は、体育館でもグラウンドでもない祈りの家であることを、常日頃、家庭祭壇の前でつちかっているべきではなかろうか。

ある親は、子供がグズグズ言い出すと、口封じのため、菓子を与える。聖堂は食堂でも、居間でもないのに。

早い時機に、宗教的情操をつけることは、それほど至難なわざではないと思う。

どんな性格の子でも、しんみりと真剣に話し、親が率先して模範を示せば、子供はついて行くのではなかろうか。

この家庭祭壇から聖堂への躾は、あらたまった処での礼儀正しさや、他人への心遣いを身につけさせることにつながっていく。

「放っておけば、そのうち静かにするようになるだろう。」といわれる親もある。

基礎のない子供に、この放任姿勢は、酷であろう。

外部からの押しつけや、甘いもので釣る方法は、一時しのぎに過ぎず、そのような子は、親の目が届かないところでは何を仕出かすか心もとない。

イエズスは「幼な子たちがわたしのもとに来るのを止めてはいけない。」（マルコ10・14）と、むしろ招いて下さっている。それにふさわしい姿勢で、聖堂にお参りできるならば、「イエズスは、幼な子たちを抱き、彼らの上に両手を置いて、祝福された。」（マルコ10・16）、という特別な恩典が、保証されているのだ。

わがまま一杯で聖堂に放置するようでは神に対し、参列者に対し、無礼千万といわれても仕方ないのではなかろうか。

（イエズス会司祭　泰星学園教師）

みちくさ

まだ高校生のころ、あるお寺の住職に神についての議論をしかけに行ったのをおぼえています。議論で相手を打ち負かすことにある種の快感をおぼえていた時代です。お坊さんは丁重にお茶をだしてもてなし、ただ静かに話を聞き、うなずいていました。あの時、私は議論に勝ったと有頂天になっていました▼あれから20年の歳月が流れて、自分が挑戦を受ける身になった今、あの時は本当は負けていたんだなあ、と思うようになりました。謙虚に自分のうちにあるキリストの事実を伝えることの大切さにやっと気づいたのです▼あちこちで「福音宣教といわれてもいまひとつピンとこないんです。」という声を聞きます。宣教はカトリックの教えを広めることだと思っている人が案外多いようです。教えとなると勉強が必要だし、自信もない。いきおい、神父様やシスターにお願いしましょうということになります▼ところがイエズスの考え方はちょっと違っていたようです。イエズスは弟子たちを派遣するにあたってどれだけの知的教育をほどこしたのでしょうか。弟子たちはイエズスの魅力をほかの人にも伝えたい気持ちを抑えることができなかったというのが事実のようです。新約聖書は、「私はメシア（救い主）に出会った」とイエズスを告げ知らせる小さな人々について数多く書き記しています。▼信仰の歩みのなかで、キリストの教えのすばらしさからキリストの生きかたのすばらしさにひかれるようになりました。自分がキリストによって自由であり、平安である事実を他の人にも伝えたいと思うようになったのです▼そのためにも、キリストに対するあの若き日のひたむきさ、確信をいつまでも持ちつづけたいと思うし、キリストへの熱き思いに満ちて、キリストによって生かされている事実を無心に伝える若い魂に出会いたいと願っています。

日本のカトリック教会の皆さま

皆さまの熱心な討議の結晶ともいうべき第一回福音宣教推進全国会議（以下、第一回全国会議と略します）課題案をお送りいただきありがとうございました。

私ども司教団は、十二月九日から開催された本年度の臨時司教総会において、これらの課題案をもとに、祈りのうちに討議を重ねました。

私どもは、各教区からの課題案を通して、皆さまが真剣にそれぞれの立場で福音宣教に取り組んでおられることを感じさせられました。これらの課題案はみな日本の教会の福音宣教のために無視できない重要なものばかりでしたが、私たちは、これらの根底にある共通の問題を確認いたしました。それは、福音宣教の実践に際して、カトリック信者としての私たち自身の生活と信仰の遊離、そして、教会の日本社会からの遊離でした。

そこで、司教団としては、福音宣教を考えるに当って、生活から信仰を見直していく方向、日本の社会の現実から福音宣教の在り方を考えていく方向を選びました。

こうして、私たちは、第一回全国会議の課題を「開かれた教会づくり」としました。

どこか遠いところで作られた信仰様式に生活をむりやり合わせる努力をするというのではなく、生活と日本社会を見つめながら、信仰の態度を改め、それを育て、証したいと願ったからです。それは、けっして、現実に迎合したり、妥協したりすることを目指すからではなく、生活の中でキリストの十字架と復活の神秘を真剣に生きることこそ福音宣教の源泉だからであります。

課題の中に掲げた三つの柱は、どれも、私たちが、もう一度、具体的に生活の中に信仰を育てながら、福音宣教に向うことを目指しています。

これからあと一年足らずに迫った全国会議のために、この課題をもとに、研究、討議、実践を進めてくださることをお願いいたします。

一九八六年十二月十二日

日本カトリック司教団

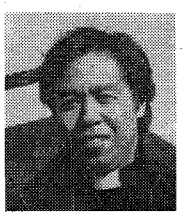
第一回福音宣教推進全国会議課題

- 開かれた教会づくり
  - 日本の社会とともに歩む教会
    - 人々と苦しみを分ち合うには
    - 社会の良心となるには
    - 新しい社会をつくるには
  - 生活を通して育てられる信仰
    - 職場で信仰を生きるには
    - 家庭で信仰を生きるには
    - 青少年が信仰を生きるには
  - 福音宣教をする小教区
    - 地域に開かれるには
    - 信徒と司祭でつくるには
    - 小教区の壁を越えるには、

韓国みたまま（その1）

神のみぞ知る　教会急成長の秘密

韓国ソウルの教会を研修のため訪問した教区の9名の司祭の中のひとり下町豊重神父が道中での貴重な体験を読者の皆さまに三回に分けて報告します。



「もう日本では最後の食事になるかも知れんぞ。お腹一杯食べとけよ」。先輩の神父様に昼食をたらふくご馳走になったのは、福岡空港内の食堂。既に他の神父様も来ており、食後はそれぞれ荷物のチェック。「アテンションプリーズ……韓国行きのお客様は……」のアナウンスに胸おどらせて、いよいよ搭乗。

「日本の教会の若者のために何を得ることができるだろうか」という私たちの期待を乗せた飛行機はソウルへと向かう。天気晴れ、風弱し、上々の条件だ。機内からみえる管制塔のレーダーがくるくる回って、我々の旅の安全を確認し、「気をつけていってらっしゃい」と手をふっているかのようだった。美しい雲海を眼下に、皆身をのりだしてはしゃいでいる。神の創造の一片を伺い知る。夕方、ソウルのキンポ空港に着陸。案内役のキムドクシュさんたちに迎えられ、市内に林立する教会を横目にして、宿舎であるフランシスコ修道院へと車で直行する。「アンニョンハシムニカ（今日は）」慣れない韓国語で兄弟たちに友好のごあいさつ。

カン司教（中央）を囲んで

兄弟たちの笑顔に「主は一人、信仰は一つ」（エフェソ4・5）というパウロの言葉を実感する。

ソン神父様、キムさんを交えてこれからの日程について打ち合わせをして、夕食を済ませた。

翌日はいよいよ現地の教会巡りである。まずは、ソウル市内の七〇万―韓国全体では二三〇万―の信徒をあずかるカン司教様に謁見した。40代の若き司教は司牧活動に余念がない。

「ソウルの信者はいかがですか」との問いに「信者は以前から社会問題に非常に関心をもっており、特に若者はキリストの真理を社会に浸透させようと頑張っています。」というお答えであった。（久留米教会）

「まず信仰を深めること」がトップ

教区の公聴会を是永通孝氏が分析

去る2月11日に開かれた教区の公聴会の報告書を作成した是永通孝氏（古賀教会）に信徒の声の特徴を前回の長崎教会管区公聴会のそれと比較、分析していただいた。

〈前回の公聴会の発言〉

1. 司教団の「基本方針と優先課題」は解りにくい。勉強が必要だ。
2. 小教区内の司祭・信徒間の対話が不足と、不満を訴える声が多かった。
3. 青少年の教会離れ
   教会内で活動の場を……
4. 自分自身の信仰の喜びがない。福音宣教に自信がない。
5. 家庭の福音化と子供の信仰教育が大切。

〈今回の公聴会の発言〉

1. 第一に自分の信仰を深めることが大切だ。
2. 家庭の生活に信仰が生かされていない。
   自分のつぎは家庭の福音化が大切だ。
3. 青少年の教会離れ
   教会内で活動の場を……
   役付け、スポーツなどでは不十分。青少年を引き付けるのは、彼らの悩みに応えること、司祭・神学生及び家庭の父親の与える影響が大きい。
4. 小教区内の対話が不足
   信徒間の対話不足、離れ信徒の呼び戻しで手一杯の声もあった。
5. 職場での福音宣教はことばによるより信者であることの表明と行動でしめすこと。

〈今回の特徴〉

A. 前回は大部分の信徒が司教団の方針に対して理解不足戸惑い、一部否定反応など受け入れ態勢不足のまま公聴会を迎えたためか、「方針はわかりにくい」となり、更にくすぶっていた対司祭、信徒間の不満がかなり出た。

今回それがほとんど無かったのは、福音宣教意識が浸透しつつあるとみてよいのか？

B. 前回下位だった「自分の信仰生活の見直し」がトップになった。

深化の過程＝混乱・拒否→内省・求心→外向・昂揚……の第2期に入ったのか？

前回も信仰優先が発言されたが、「信仰の出来上がり」をまっていては福音宣教は出来ないとされた。今回も「福音宣教は誰でも、いつでも出来る」「行動を伴う信仰を」の意見が強かった。

C. 家庭の福音化。あるシスターが「最近の家庭は崩れつつあるようだ」と発言されたが、家庭内信仰の崩壊を信徒自身強く感じている。

司祭、修道者と違い、利潤追及の競争社会に否応なく巻き込まれている信徒……神以外にマモンへの奉仕を強制されている信徒の悩みは大きいが、解決は信徒自身でしなければならない。

D. 全国会議の課題である「信徒と司祭でつくるには」に関する発言が意外に少なかった。

信徒間ではプライバシーの関係で本音を出すことは難しい。

むしろ司祭と信徒間でこそ本音を出せるし、出すべきではないか。

「司祭と一緒に……をした」また「……を一緒にしては」という協同についての発言が少なかった。

自由席

十字架のみ許に

荒木ミヨ

この十字架は木製、黒い漆に一刀彫の稜線を細く赤く浮かせ、ご像は金銅、やや大ぶりの台付きである。

三十数年前、仏教徒の家族の中で唯一人の病床受洗に、枕頭に十字架を祀り、ベールを被る勇気を持てるかと、気をもんでいた私に教会の方々は、何も案じないで任せてと言われる。

日々は、自分の心備えだけに緊張の中に過ぎ、受洗の当日は来た。

晴れた八月半ばの午前、さわやかな慈顔でお入りになった神父さまは、さっとさりげなくこの十字架を枕頭の机の上に置きながら、「おめでとう」とおっしゃった。そして代母の高木さんが側から優しく被せて下さったのがチュールのベールであった。

教会の方々、後に受洗のお恵みに浴した実姉も孫たちを連れて来ていて、狭い部屋いっぱい洗礼の式にあずかった。そして十字架もベールも私の信仰生活に溶け込んで行った。

慈恵病院で、主治医の内田先生は、私の病状の思わしくないとき、この十字架を手にしてしばし沈思された。祈って下さったのだろう、数々の思い出の中で、私は周囲のたくさんの方々に私の担う小さいが鉛のように重い十字架を、共に支えていただいているのを感じ、十字架を通して、生ける神の証し、真の愛を知ったのである。

入院を重ね、老いて病重く孤独な病床で、私には十字架上のイエズス様のみことばと祈りだけが支えのような日々もあった。

改心した罪人の祈りがまた私の祈りでもあった。

「主よ、主が王権を持って再臨されるとき、何卒私を覚えていてください。」

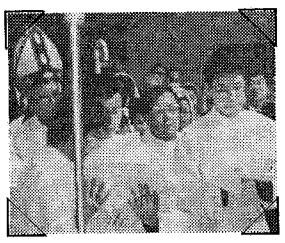
もっともっと重態で、体力も気力も尽き果て、臨終の時、このお祈りができるなら幸いだと思い、このよき終わりを切に祈る小康の現在である。（菊池教会）

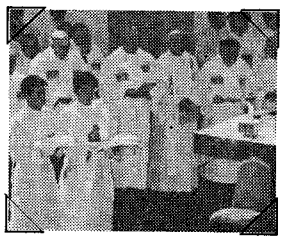
全国警備業協会会員　誠実　責任　奉仕
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目24―14
TEL　福岡（092）471―0245(代)
管制センター　TEL　福岡（092）471―0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5―1
TEL　北九州（093）671―8211

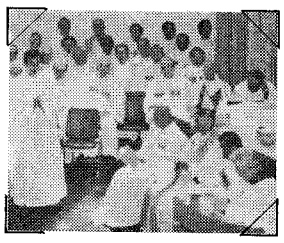
熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

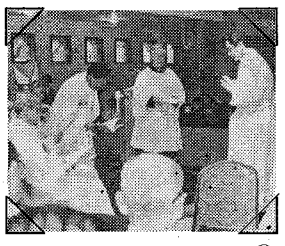
式典・花
木下株式会社
福岡（712）8022　久留米（33）7401
佐賀（(30）4040　小郡（72）3482

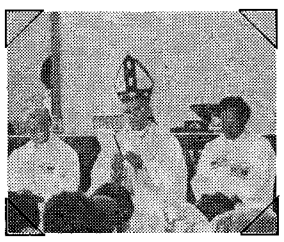
写真でみる 山下正神父誕生のドラマ

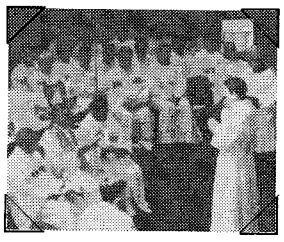

①

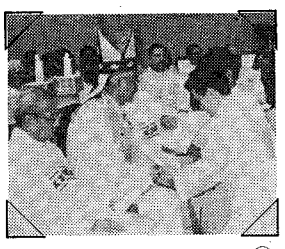

②

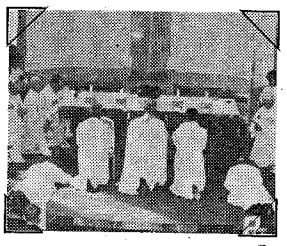

③


④


⑤

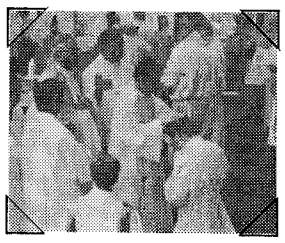

⑥

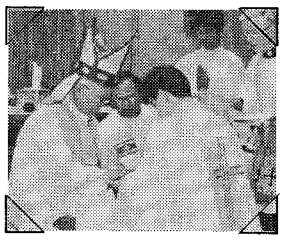

⑦


⑧

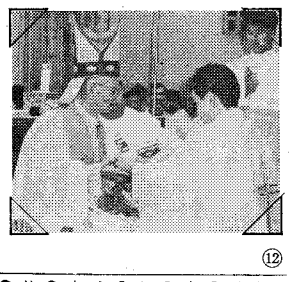
⑨

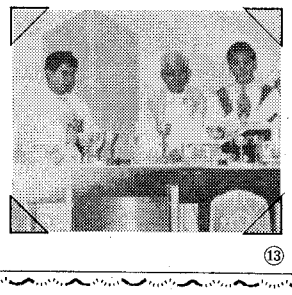
①司教、司祭団と共に入堂
②祭服をもって祭壇の前に立つ受階者
③司祭に叙階される者が呼び出される
④司祭に選ばれる者であることを大神学院院長をとおして確認
⑤司教は司祭職について訓話を与える
⑥司祭叙階候補者は受階受諾の決意を表明
⑦司教に対する尊敬と従順を約束する
⑧参列者一同は叙階の恵みを求める連願を歌う
⑨司祭叙階の按手を司教がまず受階者に

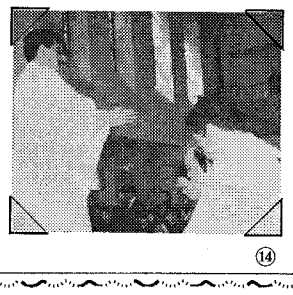

⑩


⑪

⑩つづいて臨席の司祭団が新しい兄弟に按手
⑪司祭職のための聖香油の塗油
⑫ミサ執行のためのパンとパテナ、ブドウ酒と水とカリスが授与される
⑬司教とともに感謝の祭儀をささげる
⑭新司祭による祝福


⑫


⑬


⑭

今田昌樹神学生が初誓願を宣立　福岡

今田昌樹神学生

今田昌樹神学生（アウグスチノ会）の初誓願式が、3月8日午前10時から福岡市笹丘教会で行われた。5名の司祭、修道士、シスター、信徒など多数列席し教会はいっぱいになった。

「神を求めよ」の歌と共に司祭団と今田神学生が入堂。管区長ドワイヤー神父は説教の中で、今田神学生が社会での立身出世を捨てて、アウグスチノ会に入り誓願を立てる喜びを語るとともに、外国人の宣教師は教会の土台を建てることができるが、日本人の心に話すには、日本人にまさるひとはいないと述べた。

説教後、意志の確認、誓願宣立、修道服と会則が渡され初々しいアウグスチノ会員が誕生した。

ミサ後、幼稚園ホールで祝賀会が催され、婦人会の温かい手料理と子供たちやシスター方の歌、第三会や神学生たちの余興で、今田神学生の初誓願を祝った。

初誓願後、今田神学生は心境を次のように語っている。

「母は、以前からカトリックでしたが、私が洗礼の恵みをいただいたのは、12年前の大学生の時でした。その間、多くの人と出会い、多くの人を通して働かれる神のみ業を感じました。アウグスチノ会に入会し、初誓願を目指して勉強して来ましたが、全てわかったわけでもこれで完了したわけでもありません。これからも毎日、福音的勧告に生き、深めていきたいと思っています」。

なお、今田神学生は3月下旬に東京へ移り、上智大学の神学部で司祭職を目指して勉強に励むことになっている。

恩師らと大楠教会で初ミサ

恩師の鵜野泰年師(右)、指導司祭のラプラント師(左)と一緒に初ミサをささげる

3月21日(日)午前11時より、大楠教会で山下正師の初ミサが行われ、7名の司祭や多数の修道者、信徒が参列して新司祭の門出を祝った。

ミサ中の説教で山下師の神学生時代の霊的指導司祭であったラプラント師は、当日のみことばを引用しながら「司祭はイエズスの前表であるモーゼのように人々を天国へ導き、人々の心を知って勇気、堅忍、忠実をもって神に祈る人であってほしい」と述べた。

ミサ後、祝賀会が行われ、主任司祭である鵜野泰年師があいさつに立った。その中で新司祭に「あなたは聖パウロ会の神学校に学び、また教区の神学校にも学ぶなど、移り変わりがあったけど、そうした中でも聖クララ修道院の方々や、たくさんの恩人、友人に恵まれ、愛されてきました。」と語り

「これからは、このような人たちへの恩返しとして、多くの人たちを愛し教会を愛してください。」と激励した。

また大楠教会の信徒を代表して青木実氏があいさつに立ち、大楠教会から初めて司祭が誕生した喜びを語るとともに、これからは良き指導者としてがんばってほしいとのべた。

ルルドを祈りのオアシスに　洗足園 大刀洗聖母

三井郡大刀洗町に養護老人ホームと特別養護老人ホームをもつ社会福祉法人希望の丘「聖母園」（理事長糸永武雄神父）で3月2日、平田三郎司教によってルルドの祝別式が行われた。

これは御手洗義春氏（東京在住）の20年にわたるルルド建設奉献の夢が、コンベンツアル聖フランシスコ会日本管区長萩原栄三郎神父の仲立ちによって結実したものである。

祝賀式で、糸永神父は「聖母園のルルドを祈りのオアシスにしよう。」とあいさつ。

また平田司教はお祝いのことばの中で、「人は人生の旅路で母を思慕するが、年老いて子供にかえる者は母なるマリアのもとにかえるのである。聖母とともにあることによって真の平和がもたらされますように。」とのべた。

さいごに在園者代表の鶴岡アサ子さんが「私は病弱で医者からもみはなされていますが、今はルルドの聖母マリア様をお迎えして、希望をもって生きたいと思います。」と喜びを語った。

教区人事

△モラハン　天神（水俣）
△ベラス　水俣（休暇）
△ベリオン　水巻（パリ本部）
△マホニ　名古屋（笹丘）
△ヒルデン　東京（笹丘）
△山下正　佐賀助任（新司祭）

教区修女連人事

会　長　Sr.会田俊子（援助修道会）
副会長　Sr.下山章子（サン・モール修道会）
副会長　Sr.川井博子（師イエズス修道女会）

誤解

山元神父のワンポイント教会法

「離婚した人」は、ゆるしの秘跡を受けることができないとか聖体の秘跡に与かれないとか言われますが、この点に関して、問題をきちんと整理しておく必要があります。

まずよく知っておいていただきたいことは「離婚」は教会の中では存在しないということです。結婚すればその二人は結婚の絆で結ばれます。たとえ二人が別れても（民法上での離婚をしても）まだ結婚の絆で結ばれているのです。だからその状態で再婚することは重婚になると教会は理解しているのです。

別れたままでいることは「別居」になります。ですから、秘跡との関連で言えば「別居」した状態では、秘跡を受けられることになります。結婚した状態のまま再婚する時、問題になるのです。ここのところを誤解しないようにしなければなりません。

ある人が再婚した時（相手の方と死別した時は問題ではないが）、「教会は離婚を認めた！」と騒ぐ方がおられます。この事についても誤解しないよう気をつけてほしいのです。

教会は決して離婚を認めたり、許したりしません。たとえ外面的に（民法上）「離婚」のように見えてもそれは離婚といいません。もし、ある二人が結婚していても、それが有効でない結婚である場合があるし、また魂の救いのために（これが教会法の第一の目的ですが）教会は結婚の絆を解消する場合もあるのです。そのためには、いろいろな調査をし、前の結婚の絆が解消された場合、教会の許可を受けて再婚することができます。

こういうとまた、誤解されるかもしれません。「簡単に再婚できるようになった」と「楽」を求めるのが人間の常。だから主任司祭に相談することもお忘れなく。

（小倉教会）

映画試写室

ミッション

十八世紀、イエズス会による南米への宣教は驚くべき成功をおさめた。この力を恐れたスペイン、ポルトガルは政治的取り引きに出、その結果、イエズス会本部はイグアス上流の伝道区から徹退することを決定。ついに一七五六年、その地のインディオはスペイン軍に亡ぼされた。

この史実をもとに、命がけで密林に入りこんで理想郷を築きながら、最後には教皇令に背いて伝道区に残り、インディオと運命を共にする二人のイエズス会士の姿を描く。

背景となる時代を知って観ることが望ましい。第39回カンヌ国際映画祭グランプリ受賞。4月中旬より一般公開の予定。

BOOK 読みま専科

☆神についての思索　山内清海著

長崎大司教区、要理研究所発行の季刊誌『要理教師の友』に連載した記事の収録。

神は存在するか、神はいかなるお方か、神のはたらきはどのようなものかと、「神について」の自然的、哲学的思索を試みた本。（聖母の騎士社　一、五〇〇円）

☆子どもが花開くとき　谷口正子著

登校拒否やいじめなど、わが子との苦しい情況に立たされた一人の母親（教師でもある）が、自分のダメさ加減を痛感しながらも、自分の子や教え子の問題に深くかかわりながら、互いに成長してゆく生活の記録がもられている。（女子パウロ会　九八〇円）

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
石　石他
理　影の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

司教日程（四月）

9日　地区婦人会総会
16日　聖香油ミサ（浄水通）午前11時
　　聖木曜日のミサ（カテドラル）午後7時
17日　聖金曜日（カテドラル）午後7時
18日　復活徹夜祭（カテドラル）午後7時
19日　復活祭（カテドラル）午前9時
26日　堅信式（玉名）
29日　司教祝聖25周年祝賀ミサ（カテドラル）

福岡黙想の家

1～2日　雙葉学園教師研修会
3～4日　笹丘カトリック幼稚園教師研修会
5日　ME地区会午後1時
15日　ミカエル会
※個人黙想は随時受け付けます

第26回 福岡教区クルシリヨ

クルシリヨは教会の要望に従い、使徒職に献身する信徒の養成をめざすものです。

日時　5月2日（土）19時～5日（火）16時
場所　福岡黙想の家　☎092-871-7108
参加費　八、〇〇〇円（宿泊食事、用品代として当日受付で）
携行品　ロザリオ、着替え、寝まき、洗面用具
連絡先　福岡教区クルシリヨ事務局　佐々木信幸　☎093-582-1654

第2回チョイス募集（ヤングウィークエンド）

テーマ　出会いと関わりを通して新しい生き方へ
日時　5月2日（土）19時～4日（月）18時
場所　福岡・泰星学園
対象　20歳以上で未婚の青年男女、信者・未信者を問いません。
参加費　一〇、〇〇〇円
世話人　☎092-871-7108　黙想の家　鈴木忠一師
　　深堀純・邦枝（大名町）
　　寺崎正雄（箱崎）
※申込み・問い合わせは、右記のいずれかにどうぞ。

第6回聖霊による刷新九州大会

テーマ：地域社会の中で福音に生かされている喜びのあかし人になれるように
講　師：ドモンティニー師（レデンプトール会）
　　溝口昭氏（ヴェリタス社社長）
日　時：5月2日（土）15時～5日(火)昼食
参加費：25,000円
申込み：申込み金 5,000円（当日20,000円）
　　郵便振替：福岡3-45988
　　加入者：カトリック・ファミリーセンター
　　☎ 092-541-6207
場　所：原鶴温泉「ほなみ」
※老若男女を問わず、どなたの参加も歓迎いたします。

九州大会実行委員会

教区報「カトリック」主催 広報一日研修会

教区報「カトリック」では左記のように「広報一日研修会」を企画しています。

期日　5月24日　広報の日
　　午前10時～午後3時（ミサを含む）
対象　小教区で「小教区報」や各種委員会、活動団体の「会報」「機関紙」などにたずさわっている方。
趣旨　広報の意義の確認、交流、情報交換。
講師　高橋義博神父（カトリック新聞社）
　　司教館新館
会費　千円（昼食代を含む）
問い合わせ・申込み先
教区報「カトリック」編集部
☎092-522-5139（司教館）
0942-72-3256（小郡教会）

平田三郎司教 祝聖25周年祝賀ミサ

司教祝聖25周年を迎えられた福岡教区長平田三郎司教様の祝賀ミサが、駐日バチカン大使カルー大司教様をお迎えして下記のように行われます。教区の皆様の多数のご参列をお待ち申し上げます。

記

日　時：4月29日（祭）11時より
場　所：福岡カテドラル大名町教会
主司式：駐日バチカン大使カルー大司教
＊　福岡市内からご参列の方は駐車ご遠慮ください。

福岡司教祝聪25周年祝賀実行委員会

いぶき

主の復活

山内清海

「主はまことに復活された。アレルヤ」

主キリストの復活は、キリストが神の御独り子、人類待望の救い主であることの最大の証しであり、キリストのすべてのみ教えの真実性の確かな保証でもあります。したがってキリストの復活は、わたしたちの信仰の基礎であるし、頂点でもあり、またある意味ではわたしたちの信仰のすべてだとさえ言えるかもしれませんが、今回はキリストの復活と洗礼との関係について考えてみましょう。

聖パウロはコリント人に「神は主を復活させ、またその力をもってわたしたちをも復活させてくださるのです」（前6・14）と書き送っています。また同じ使徒はテサロニケ人への手紙では「わたしたちは、イエズスが死んで復活されたことを信じているのですから神が眠りについた人々を、このイエズスのゆえに、イエズスといっしょに、連れ戻してくださるということをも同じように信じましょう」（前4・14）とも記しています。つまり聖パウロはわたしたちに、キリストがあの悲惨な死から、みごと復活なさったように、わたしたちも最後の日にかならずキリストのこの光栄ある復活に与ると教えています。

キリストの復活は確かに、わたしたちに与えられる復活の証しです。しかしわたしたちがこの復活の栄光に浴するためには、今からキリストの死と復活に生きなければなりません。このことを具体的に求めるのが洗礼なのです。

だから聖パウロは、「洗礼によってキリストとともに埋葬されたあなたがたは、死者の中からキリストを復活させた神の力を信じて身をゆだね、キリストに結ばれて、キリストとともに復活させていただきました」（コロサイ2・12）と教えています。

したがって洗礼は、まず、キリストが死んで復活なさったように、わたしたちが罪に死して、霊的に再生し、聖パウロの言葉を借りて「上にあることを求め」、「新しい人を着る」ことを求めます。

だから洗礼は、キリスト信者として、教会に公的に認められるための儀式であるばかりではなく、一生涯、キリストの死と復活の秘義に、忠実に生きるという、キリストとの公的な約束の儀式だとも、言うべきです。このように、キリストの復活の秘義の再現を、わたしたちに求める、洗礼の精神に従った生き方の延長、ないしその終点が、わたしたちに与えられる、決定的な勝利の復活であると言えないでしょうか。逆な表現をすれば、わたしたちが信じている、わたしたち自身の栄光に満ちた勝利の復活は、わたしたちが、洗礼の約束と、その精神にいかに忠実に生きるかに、関わっている、と言っても、けっして過言ではありません。

荘厳な復活の、聖なる徹夜祭で、復活したもうたキリストを象徴する「光の祭儀」とわたしたちに、救いの歴史を黙想させる「ことばの典礼」のあと、「洗礼の儀」と「洗礼の約束の更新」が行われるのも、このような理由によるものです。

わたしたちは、主の復活を迎えるにあたって、キリストの復活に基礎づけられた、わたしたちの確かな復活に対する信仰と、キリストの復活に結ばれた者として、相応しく生きる決意を新たにしなければなりません。そうでなければ、万花薫る自然界にも似て、わたしたちの心を喜びと希望、そして新しく力強い生命力でみたすはずの、復活節のすばらしい典礼も、たとえわたしたちに、復活したもうたキリストの力強い勝利を想い起こさせはしても、本当の意味の霊的実りをもたらすことはできず、ただ形式的祭りに終始するでしょう。

（サン・スルピス会司祭　大神学院教授）

編集室から

山下正神父様と森山信三助祭の誕生によって教区に新しい息吹が注がれました。共々に両師のご活躍を積極的に応援していきましょう。

昨年一年間教区報の編集スタッフとして活躍していただいた聖パウロ女子修道会のシスター佐藤は東京転任になり、代わりに同会のシスター手嶋が手伝ってくださることになりました。シスター佐藤のご協力に感謝をささげ、新しい使命の実りのためにお祈りいたします。

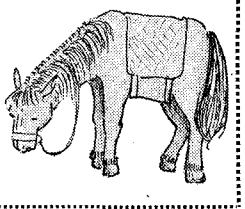
キリストの受難と死にあずかることによって、主の復活にもあずかることができますように。（W）

かのときのことのは

森山　敬三

駑馬だった
働いた
働いた
駑馬だった

堀口大学



駑馬（どば）とはのろい馬。この四行詩は最初の二行と最後の二行とが逆になっただけで、立派な詩になっている。

これを散文にすれば、駑馬だったから、働いた、働いたけれども、駑馬だった、となる。そして一行目と四行目が同じ言葉でありながら、意味が少し違ってきており、二度の働いたに長い時間が感じられる。

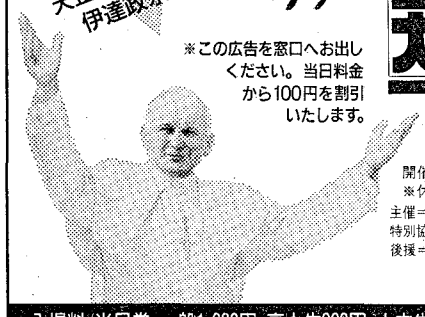
堀口大学は鷗外、上田敏とならんで、その訳詩集『月下の一群』で有名である。

当時フランスでもまだ無名だったアポリネール、コクトーなどをいち早く日本に紹介した。

少し詩に関心のある人なら、彼の訳したコクトーの詩、私の耳は貝のから、海の響きをなつかしむ、を思い出されるであろう。

ローマ時代、中世、ルネッサンス、近代、現代にわたり、カトリックの精神を根底においた、西欧芸術の軌跡をたどる、秘蔵のコレクション158点を一堂に――日本初公開。

特別展示
ベルニーニ（青年の肖像）
天正少年使節親書
伊達政宗親書



※この広告を窓口へお出しください。当日料金から100円を割引いたします。

神々しき日々へのメッセージ
THE VATICAN EXHIBITION
大ヴァチカン展

交通案内
地下鉄天神駅 徒歩8分
西鉄福岡駅 徒歩8分
西鉄バス25・85・93番系統 市民会館前 徒歩2分

会期/4月29日(祝)―5月24日(日)
会場/福岡県立美術館（福岡市天神須崎公園内市民会館前）
開催時間/午前10:00→午後6:00（入館は午後5:30まで）
※休館日/5月11日(月)・18日(月)
主催＝大ヴァチカン展実行委員会・西日本新聞社
特別協力＝株式会社そごう・西日本鉄道株式会社
後援＝文部省・文化庁・ローマ法王庁大使館・福岡県教育委員会
福岡市教育委員会・日本教育新聞社・NHK福岡放送局
テレビ西日本

ほっとする、やさしさ。
そごう　国鉄黒崎駅前　☎(093)632-2111

入場料/当日券・一般1,000円・高大生800円・小中生600円　前売券・一般900円・高大生700円・小中生500円

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL 093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社 藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電(092)441-6585

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL 092-521-0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42319
定価一部60円

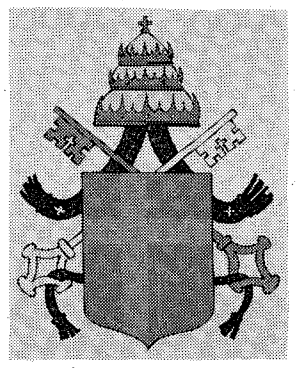
今月のみことば

私は聖とされた諸国民がささげものとなるように祭司の務めを果たす
（ロマ15・16）
小倉　バスティ神父

福岡教区長 平田三郎司教叙階25周年に

教皇からお祝いのメッセージ

司教叙階25周年にあたって、教皇ヨハネ・パウロ二世からお祝いのメッセージが寄せられた。
平田司教と教区民への教皇のこころあたたまるお言葉に、福音宣教への熱意を一層燃えたたせたい。（二面に関連記事）


ヨハネ・パウロII世の紋章

敬愛するペトロ平田三郎司教様

このたびの司教叙階25周年にあたり、ここにお手紙を差し上げて、この二十五周年という年月があっという間に過ぎ去ったとお感じになっておられることと思います。しかし、司祭職の充満である司教職があなたに与えられたことを思い起こすとき、きっと大きな慰めを禁じえないことでありましょう。
神の大きな計りしれないお計らいにより、あなたは、「主の群れを牧するために選ばれ、キリストの役務者、神の奥義の分配者である」（教会憲章21）人たちのひとりとされました。
また使徒たちの後継者を通して、この世でご自分の救いの業を継続しておられる主キリストは、二十五年の長きにわたってあなたに豊かないつくしみを注がれ、ご自分と一致したあなたの業をよみせられておられます。ですから、今このとき、主にふさわしい熱い感謝を捧げ、主にのみすべての誉れと栄光を帰すことは、時宜にかなったことと言わなければなりません。
司教様、あなたが初代司教をつとめられた大分教区において、また、ことに福岡教区において、信徒の数が増したことを承知しています。この銀祝を迎えて、愛するその信徒の方々が大勢、祝賀のため感謝の心で参集されることを私は心から期待しています。
なぜなら、あなたがさまざまの困難を乗り越えて、ご自分の役務をよく果たしてこられたこと、また、今も果たしておられることをよく承知しているからです。また、信徒の数もさることながら、たくさんの司祭や邦人の修道士、修道女を擁し、信徒の使徒職に対する熱意も日に日に増し、さらに信仰教育に携わる方々もおられます。このように、あなたの司牧活動は確かに豊かな実を結び、賞賛に価するものです。そこで、このたびの銀祝を機会にしばし歩みをとめて、これまでのお働きを正しく見直され、あなたの教会をこれからもよく牧していくための新しい出発点としていただきたいとおもいます。これからも、神があなたと共にいつもおられ、恵みで満たしてくださいますように。
私の心からのお祝いのしるしとして、あなたと、あなたの愛する信者の方々に使徒的祝福を送ります。
バチカンにて
一九八七年二月二十六日
教皇在位第九年
ヨハネ・パウロ二世

ナイス'87

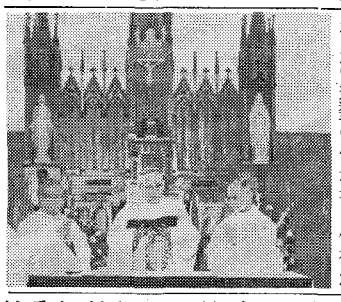
第一回福音宣教推進全国会議

教区代表者の役割

すでに福音宣教推進全国会議実行委員会の要求どおり、司祭五人、修道者三人、信徒五人の教区代表者が決定している（本紙4面参照）。
ところで、福岡教区は便宜上、福岡、北九州、熊本、佐賀の四地区（厳密にいえば三地区かもしれない）に分けられ宣教司牧に協力しているが、今回の教区の代表者には、それぞれの地区、あるいはグループでの役割が考えられると思う。
一例として、〇〇地区の代表司祭は、地区司祭の研修会を通して地区司祭の体験、意見、提言を集約し、それをふまえて全国会議の分科会や教区リポートの作成の場で意見を発表することが可能ではあるまいか。
また、修道者代表三人には、担当地区の修道者の意見、信徒代表五人にも、教区信徒の意見や各グループの意見、提言などの集約と発表が期待される。
各教区は、全国会議の課題の三本柱――「日本の社会とともに歩む教会」、「生活を通して育てられる信仰」、「福音宣教をする小教区」――についてのリポートを、9月16日必着で全国会議実行委員会に提出しなければならない。
そのために、8月23日午後3時30分から、福岡教区代表者の会合を予定し、よりよい教区リポートの作成を念じている。
聖霊は教区宣教共同体の一人ひとりに働いているが、それを無にしないためにも、集まって祈り、分かち合う必要があろう。何よりも教区代表者は、配布された公聴会記録や全国会議の資料などを研究しなければなるまい。
（山田成章神父　司教館）

聖木曜日・聖香油ミサ

司祭職の約束を新たに



4月16日の聖木曜日午前11時より平田三郎司教司式によって、聖香油ミサが浄水通教会で行われ、約65名の司祭、および多数の修道者、信徒が参加した。
ミサ中の説教で司教は聖木曜日が、聖体の制定と司祭職制定のお祝い日でもあることをふまえながら、次のように語った。
一．各司祭たちが一堂に会して叙階の約束を新たにする喜びに加え、今年は三人の司祭が25回目の約束をされることの意義は大きい。
二．高間で司祭職を制定されたのち、賛美の歌をうたいながらゲッセマネの園へ向かわれたキリストは、その責任の重さ、苦難に恐れおののきながらも、おん父への祈りの中で十字架の道を受諾された。司祭の道は、このキリストの姿に招かれている。
三．キリストの司祭職の品位は高いものであるが、人間としては弱いものでもあるから、キリストが十字架上で死ぬまでおん父に忠実であったように、司祭職に忠実であってほしい。
一方、信徒たちは、司祭を助け、バックアップし、祈りで支えていくように。
ミサ後、司教館新館で祝賀会が催され、司祭叙階25周年を迎えた三人の司祭をまじえ、団らんのひとときを過ごして散会した。

広報の日（5月24日）

新しい社会づくり
――あなたが支える正義と平和――

「社会の構成員は皆、世論づくりにおいても正義と愛の義務を果たさなければならない。それゆえ広報機関によって正しい世論をつくり、それを広めるように努力しなければならない。
（広報機関に関する教令8）

時の話題

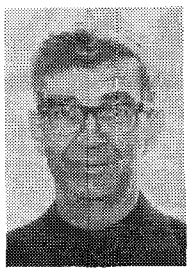
草野純英

幼児洗礼の是非

「かわいい子が生まれました。私たち夫婦は一生懸命に育てているつもりですが、この子が物心つくまでは、わが家に入籍させません。この子が、このままで育て上げてくれたのは、隣のオジサンやオバサンではなく、この私たち夫婦だなと、子供の自由を奪いとりすもの。」
だいぶ奇妙な夫婦だな、と驚かれませんか。実は、未だ洗礼を授けていない子供をもつ、信者の親たちの発言と同じことではないでしょうか。
何百万もの可能性の中から、この子は神に選ばれて、この夫婦を通して、尊い生命を頂きました。
天のおん父は、空気、水、光、太陽など、生存に必要なすべてのものを惜しげもなく無償で与えてくださいます。その上、毎日毎日、いろいろな賜物を、父母と共に頂いています。それら日用の糧ばかりでなく、イエズス様は、一人ひとりの罪を背負って、十字架の苦しみを受け、天の国を大きく開いて待ちうけてくださっています。世の父母がこれほど、わが子のために身体をはって世話した例があるでしょうか。神にまで贖われた高価なわが子に、日用の糧から、信仰のお恵みまで、出来るだけ早く、気付かせ、感謝、礼拝、賛美へと、手を合わせることを、躾けることは、わが子の自由を束縛することになるのでしょうか。日常の躾が大切にされるなら、神への道は、躾中の躾ではないでしょうか。親が自分たちの信仰のあいまいさから、しぶっているうちに、この子が他界したなら、わが子は、親が自分の自由を保証してくれたと感謝するでしょうか。神さまの前で親の姿勢にがっかりするでしょう。生まれた瞬間から、この子は、天の国籍をもっています。この点、他の宗教の場合と、本質的に違いがあります。
早くから、イエズス様、マリア様にかわいい手をあわさせ、祝福をうけ、将来の人生の荒波を乗りこえる基礎をつくってあげたいものです。
（イエズス会司祭　泰星学園教師）

喜びの銀祝司祭

山崎　聰一郎師
オブレート会
昭和37年6月24日叙階
現在　古賀教会主任



ブレンドン・シュルツ師
スカボロ会
昭和37年8月12日叙階
昭和38年来日
現在　吉塚教会主任

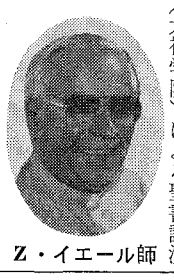
フランシス・カロール師
聖コロンバン会
昭和37年12月21日叙階
昭和38年来日
現在　本渡教会主任

活気あふれる福音宣教勉強会

福岡

福岡地区信徒使徒職協議会が、昨年七月に発足させた福音宣教部会が、まず福音宣教の根拠になるものを明確にするためにと、聖書と第二バチカン公会議公文書の勉強会をおこなっている。
この勉強会はすでに半年以上も続いているが、聖書の連続講演には非キリスト者やプロテスタント信徒の参加もあり、質疑応答も活発におこなわれるなど注目されている。
毎月第一日曜日には、午後2時から4時30分までカテドラル大名町教会で、山田成章師の指導のもと、社会と生活の見直しから信仰をとらえようとする、公会議後の教会刷新運動の根本精神をつかもうと、『教会の宣教活動に関する教令』を研修中。
今後は宣教活動を具体的に考え、企画し、実践に移すときの中心機関になればと、期待を寄せられている。
毎月第三日曜日は、同会場で同時間に、Z・イエール師（大神学院）による聖書講演が昨年八月から続いている。

山田成章師


Z・イエール師

聖書の中に流れている神の愛、キリストのみことばをほり下げながら、当時の人々の心の中にどうみことばが入っていったか、生きる喜びと希望、神の愛に、人々はどうふれていったかを洞察し、私たちの伝える〝福音〟とは何かを共に祈り、探求している。

みちくさ

山口県のあるミッションスクールにいっている高2の女の子から手紙をもらった▼「……S高校に入学してからいろんな意味で自分は変わったと思います。この春のひとときに自分自身を見つめてみようと思うのです。高校へ通い出すまで私は、キリスト教をほとんど知りませんでした。それが週一度の〝宗教〟〝心の家庭科〟の授業でキリスト教の門を見つけました。のぞいてみたいような、怖いような不安な気持でした。昨年10月末、学校の〝修養会〟で神父様に出逢い、講話を聞いて、扉を開くための鍵を見つけたような気がしました▼初めて、クリスマスの本当の意味を知ったとき、頭の片隅に信仰という言葉が生まれました。初めてのクリスマスミサに参列し、なぜか涙がでました。キャンドルの炎に、信者さんの白いヴェールに洗礼ということばがにじみました。でもその時は、ハッキリとしたものが分からず、時が過ぎました▼……この春休み、高校生の中国ブロック大会が開かれました。その中で出逢った一人の神学生との話を聞いてください。私が〝初ミサのこと、考えてますか〟ってきくと、〝まだ全く。…考えているのは結婚のことばかりだ！〟。私が笑ってその人を見ると、透き通るような瞳で〝だけど…司祭以外に満足できる仕事は考えられない〟。そして〝しっかりとキリストさんと友だちになれよ。ケンカできるくらいになったら真友になれるんだ〟って言われました▼神父様、私の心は今、満腹です。神さま、出会いをありがとう。私はいただいた鍵で扉を開こうと思います。みんなのように人の心を満たす人になれる自信はありません。でもキリストに近づきたい。神父様、それでもいいですよね……」▼手紙を読み終えた私は、〝いいとも〟とこころのなかで叫んでいた。神さま、清らかな魂との出会いをありがとう。

平田三郎司教
司教叙階25年の歩み

みながひとつになるように をモットーに教区民を導く

福岡教区長ペトロ平田三郎司教は3月26日、司教叙階二十五周年をむかえた。福岡教区には故深堀仙右衛門司教の後任として昭和45年1月23日に着座した。

戦後から大分司教就任まで、福岡サン・スルピス大神学院で聖書学、教会史、教父学を講義した。昭和37年に司教に叙階されてからは初代大分教区長として活躍。

司教協議会では、聖書委員会委員長、教理委員会委員長をつとめ、プロテスタントとカトリックの間ですすめられている共同訳聖書の実現に向けて共同委員長もつとめている。

さらにカテドラル建設では、自身の建築物への造形の深さをいかんなく発揮した。

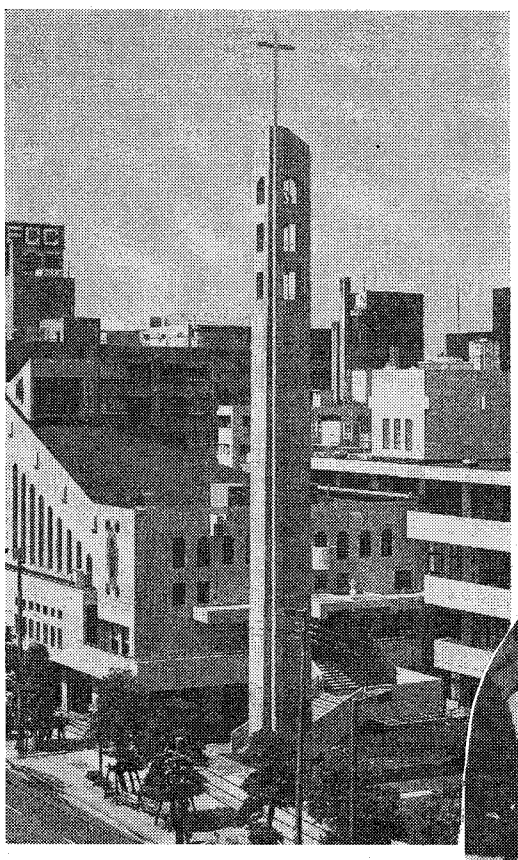
また、牧者としても各教会を巡り、教区民をはげましつづける父としての任務に多忙な日々である。

第二バチカン公会議の会期中　聖書を奉持して会場に入る平田司教（昭和39年）

福岡教区長として着座式であいさつ（昭和45年1月23日）

平田三郎司教の略歴

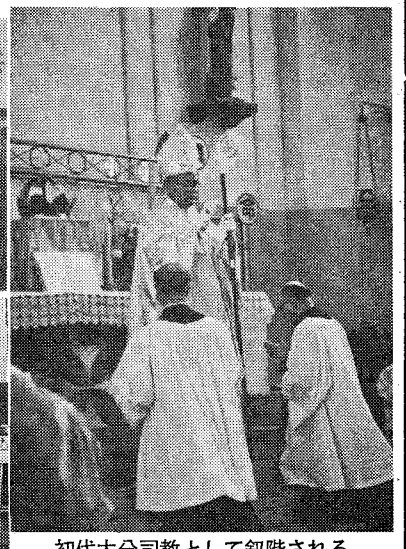
一九一三・八・十八　福岡県三井郡北野町に生まる
一九三二・三　長崎海星中学校卒業
一九三五・三　東京カトリック大神学院哲学科修了
一九三九・六　パリ・サンスルピス大神学院神学科を卒業し、司祭に叙階さる
一九四一・二　パリ・カトリック大学神学部卒業
一九四一・五　帰国後、20年間福岡サンスルピス大神学院教授となる
一九四二・四　3年間福岡泰星中学校教諭
一九六二・三　カトリック大分司教に叙階さる
一九七〇・一　福岡司教区教区長司教に任命さる
一九七〇・四　宗教法人カトリック福岡司教区代表役員に任命され、現在に至る


カテドラル・センター建設をなしとげる。バチカン大使カルー大司教は「歴史に残る大事業」と称賛した。（昭和61年4月13日）

子供たちにもきさくに話しかける司教

聖年大会（昭和50年）

教区創立50周年（昭和52年）


初代大分司教として叙階される（昭和37年）

自由席

高校生会 津和野巡礼記

高二　高野由起

「行ってよかった」この一言です。私は信者ではないので巡礼はもちろん初めてでした。だからなんとなく暗い雰囲気を想像していて、行く前は少し不安でした。が、この想像は全くの間違いで、「暗い」という言葉とは縁のない人たちばかりで、本当に安心しました。

印象に残っているのは、サビエル聖堂や乙女峠で聞いた話そして十字架の道行です。

サビエル聖堂では壁画が鮮やかに描かれていて、今までに見たことのない雰囲気だったので、また機会があったら来てみたいなあと思いました。

乙女峠での話は初めて知ることばかりで、とても驚きました。聞いているだけで本当にたまらない思いがしました。どれだけ厳しい拷問を受けても信仰を守り通していくことができるなんて、本当に偉大だとつくづく感じました。

津和野はすごく静かで落ち着いているなあと思いました。今までいろいろ旅行に行ったけど、たった二日間でこんなふうにいろんなことを与えてくれた旅はなかったと思うので、とても良い経験をしたなあと感じます。

（雙葉学園）

わたしのはつせいたい

小二　古川ゆりこ

三月二十九日は、わたしのはつせいたいでした。まえのよる、おとうさんおかあさんおにいちゃんおねえちゃんわたしでまるくなっておいのりをしました。いよいよ日よう日どきどきしました。はじめてイエズスさまのおんからだをいただきました。うれしくてイエズスさまわたしのところにきてくださってありがとうございます。とこころの中でいいました。

（久留米教会）

司祭職を目ざして頑張ります！

福岡小神学校 中学一年
サン・スルピス大神学院 ラテン科一年
谷口雅春（新田原教会）

聖パウロ修道会志願院 中学一年
坂口慶明（人吉教会）

村上幹雄（手取教会）右
松本麻人（水俣教会）左

全国警備業協会会員　誠実　責任奉仕
トステム株式会社
Toyo Security Tecnical Management
代表取締役　瀬戸福一
本社　福岡市博多区堅粕4丁目24—14
TEL　福岡（092）471—0245(代)
管制センター　TEL　福岡（092）471—0279(代)
支社　北九州市八幡東区西本町3丁目5—1
TEL　北九州（093）671—8211

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

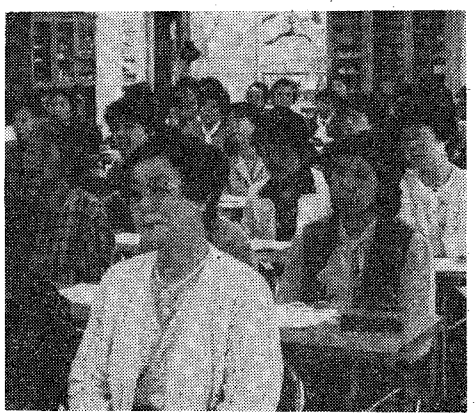
式典・花
木下株式会社
福岡（712）8022　久留米（33）7401
佐賀（(30）4040　小郡（72）3482

62年度地区婦人会総会 山内清海師が講演

家庭は信仰の実践の場

4月9日、司教館新館で行われた福岡地区婦人会総会後の特別講演で、サン・スルピス大神学院教授の山内清海神父が「家庭の福音化」について示唆にとむ話をし、参加者に深い感銘を与えた。

山内清海師


講演に聴き入る参加者たち

福音宣教はキリストを知らない人にキリストを知らせるということです。しかしまず、私たちがキリストを持たなければならない。持たないものを与えることはできないからです。

キリストの神秘的なからだとして、実際に生きているということが大切なのです。

私たちはしばしば、教会にこうしてほしい、ああしてほしい、といいます。しかし私たちもその一部なのです。教会が成長するためには、キリストの意のままに働く、動く肢体がふえなければいけません。

家庭の福音化

どこで信仰を実践するのでしょうか。それはまず家庭です。夫婦には夫婦独特の霊性があります。どんなに愛し合った夫婦でも、それぞれちがった性格、ちがった人格だから衝突することもありますが、それを通してゆるすこと、愛することを学ぶことができます。

難しいからこそ、神さまの前で夫婦の誓いをし、教会は秘跡を通して夫婦に恵みを与えます。努力なしにできるのでしたら、キリストは結婚を秘跡にあげることはしなかったでしょう。

信仰を判断の基準に

家庭はキリストの教えに従って生きる場所です。病気をしたとき、苦しんでいる時、何も悪いことをしていないのに、と言わないで、むしろそこに神の愛と期待を見うる信仰の人であってこそ、その家庭は福音化されていると言えるし、人々にキリストの教えのすばらしさをのべ伝えることができるのではないでしょうか。信仰をもって見ると、苦しみも死も、すべて神の前に価値があり、それを生きるのが家庭の信仰なのです。

父親の権利

今、家庭で父の権利は失われているのではないでしょうか。父の権利を復興させなければいけないと思います。家庭の責任者は父です。父を父として、子供に認めさせることは子供の教育にとっても、大切なことです。

子供に信仰を

家庭の福音化に大切なのは、子供に要理を教えることです。塾にはよくやるが、祈ることを教えることを忘れてはいないでしょうか。信仰に生きることのすばらしさを子供に教えているかどうか、反省しなければいけません。

家庭で、母として、妻として、またかげの人として信仰を実践し、信仰に生き、信仰を子供に伝えること。そして聖家族にならって、祈りの家庭、苦しみの中に喜びをさえ見いだしうる家庭、苦しみや試練の中で神が見え、神の声が聞けるような家庭、そのような家庭をつくっていただきたいのです。

福音をのべ伝える者として、まず、家庭を聖化するよう、よりいっそう努力してください。そのような家庭から、たくさんの司祭がでることを心から期待しています。

生きがい文化講座

一般にも開放

佐賀教会

佐賀教会の「布教委員会」が、主に未信者を対象にした「キリスト教文化講座」と「生きがい講座」を開設することになり、公募している。

各講座は一週間おきの木曜日、毎週どちらかの講座が開かれる。午前と午後の二クラス制で行われるため、幅広い参加対象者が考えられ、また参加しやすくなっている。

この講座を企画準備した布教委員会では、開設の目的を「未信者に対しての宣教を目的にして、人生の目的、日々生きていることの意味、これからの人生の過ごし方などに関して、生活、人生、家庭、仕事と結びつけて、日常生活の中で福音の意味が考えられるようになることを意図して開講する」と挙げている。

また「信者も含め、今日われわれが享受している文化および文化遺産の教会との関わり、キリスト教を基盤にした世界とは、キリスト教に生きた人物など、キリスト教文化の理解を通してカトリック教会の果たしてきた役割についても考える」としている。

講師陣は、カトリックの司祭として来日後、「竜谷大学」に学ばれ仏教界にも精通しているアレグリーニ神父（多久教会）、九州大学文学部教授で中世哲学専攻の稲垣良典氏、二十六聖人記念館館長で結城了悟神父など、多彩な顔触れである。

詳しい内容は、佐賀教会にお問い合わせください。

☎0952-23-4754

韓国みたまま（その2）

学びかつ行動する若者たち

下町　豊重　神父

我々「若手司祭団」と称する一行は、〝韓国の若者はどのように教会と関わっているのか〟を知るために現地を訪れた。第二日目のカン司教との謁見では、「キリストの真理を社会に浸透すべく奮闘している」とのお話であった。

では実際にはどうだろうか。「若者は非常に行動的で、キリスト教思想の及ぶ世界を作りあげるためにはいかなる犠牲もいとわない」と異句同音に力説するソウル市内の若手司祭団に促されて、若者のいる場所へ赴いた。

仏光町教会のチョン神父（左から2番目）と共に

そこは司教館に近いカトリックセンターであった。平日だというのに、しかも午前なのに何と三百余名の若者たちがカテケジス（教理）の講義を受けているではないか。その熱気の凄いこと。皆、圧倒されてしまった。しっかりしたカリキュラムをこなした者が、教会の教えを伝えることができるということであった。事実、教会学校の教師の殆どが青年なのである。それは学生であり、また勤労青年であるとのこと。

さて教会学校の教科書であるが、これまた若者が試行錯誤して作りあげるのである。もちろん、中央に各地からの情報が提供されて、対象に合うように作られるとのことであった。販売所ではボランティアの若者たちが生き生きと働いていた。

その夜、我々は彼らとトーキングする機会を得た。韓国の若者の生の声を聞く絶好の機会である。通訳のキムドクシュさん（ソウル大司教区の信徒使徒職協議会の老人分科会委員長であり、長安洞教会の委員長）に助けてもらい、お互い思うことを述べた。

韓国と日本の社会状勢が異なることもあって、我々にはたちうちできないところもあるが、とにかく彼らの熱意には驚かされた。

彼らから出た話の一つを述べよう。「私達の役目は、主の心を生きることである。だからまず、悩める人のところへ行って共に悩み、喜ぶ人と共に喜ぶのだ。それが魅力である。」

（久留米教会）

高校生会が津和野巡礼

福岡

3月25日朝、福岡ブロック高校生会30名（女性23名含む）は松井・山内・川上各神父様方と、大名町教会の平田氏に引率されて一泊二日の巡礼へと旅立った。マイクロバスの後方の席に押しやられたように、乗りこんだ男組は狭い上によく揺れることにもまいったが、それ以上に四分の三を占める女のコたちの元気の良さに圧倒されていた。

昼前、山口に到着。ザビエル記念聖堂で某氏から聖サビエル（ここではこう呼ぶそうだ）と聖堂の話を聞き、それで初めてこの聖堂はサビエルが来た時でなく、昭和26年にサビエル来日四百年を記念して建てられたのだと知る。

午後3時過ぎ津和野に到着。雪が降っている。宿舎の津和野教会のホルバート神父様は、さすがに外人だけあって明るさは日本人離れした面白い方だ。

乙女峠へ。氷責めや絶食などにも耐えていった殉教者の話は感動的だ。十字架の道行は寒くて祈るどころか同胞の一人と駆け抜けてしまった。黄昏るとこの界隈は深い静寂に包まれる。この町の物寂しげで落ち着いた雰囲気はロマンチックで好きだ。夕食に特製カツ丼を食べる。実にブルジョワだ。

翌日は萩、秋吉台経由で一路福岡へ。到着する間ぎわまで、歌合戦もどきまで催され短くも楽しかった旅は無事幕を閉じた。

★訪問後の3月31日に、ホルバート神父様が急逝された。ご冥福をお祈りします。

（西新教会　柴田智成記）

落とし穴

それでは「離婚」して再婚した人はどうなるのでしょう。結論からいいますと、「簡単に結論を示すことはできない」ということです。問題を簡単に割り切ろうとするところに落とし穴があります。一番大切なことは、専門家に相談することです。

一人一人の人間は皆、ちがっています。ということは、ちがった人間同士が一緒になる結婚もまた、ひとつひとつちがっているということです。教会法には、いろんな原則が定められているので、その原則にのっとって様々なケースが判断されていくわけです。

「離婚イコール悪」「再婚イコール悪」「悪イコール地獄行き」だから「離婚すると地獄に行く」といった発想は、あまりにも短絡的なもので、このように単純に考えて人を裁く人こそ地獄に行くのかもしれません。

「聖書」か「教会法」かという問いが出されたりしますが、そもそもこのような問いかけがおかしいのであって「聖書」と「教会法」は矛盾するはずがないのです。それでもある人たちはこのような問いの前で考え込んでしまいます。ローマで研究していて驚いたことは、出発点が「教会法」で到達点も「教会法」といった発想の教会法の専門家がいたということです。たしかに「教会法」の目指すところは「人々の魂の救い」（一七五二条）にはちがいありませんが、人を救うのは神の「みことば」です。

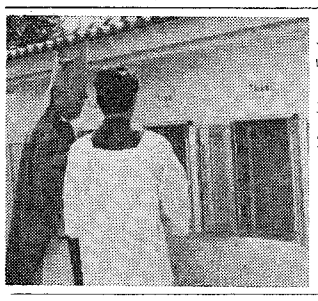
このように考えると「離婚」して再婚した人は、ある人たちが考えているように全く救いの余地がないわけではなく、むしろ、神の「みことば」によって力づけられなければならないといえるでしょう。

このような観点から「離婚者の司牧」がなされているアメリカの例を次回はみることにします。

（小倉教会）

荒尾教会の納骨堂が完成

熊本



荒尾教会の納骨堂が3月に完成、平田司教を迎えて祝別式が行われた。この納骨堂は村上籤治氏の製作で、家屋式のものと違い、塀式になっているのが特徴。

主任のオマホニ神父は「狭い土地の有効利用」と語り、同教会の宮崎正広さんは「祖先を大切にすることは福音宣教にもつながるものだと思います」と喜んでいた。

BOOK 読みま専科

☆ルカによる救い主の福音

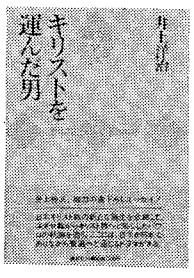
クロード・バスティ著

本書は、小倉カトリック教会の神父たちと多くの信徒が、ルカによる福音書を、とくに聖書研究会をとおして読み、祈ったことの結実であり、一人の研究ノートというよりも皆の分かちあいをまとめたものである。

ルカは、「家の中」の人人よりも「入って来る人」のために福音書を書いている。「万民のために整えてくださった救い」が一人でも多くの日本人の「心を開く光」となるようにと聖書研究会の資料をまとめたもの。（中央出版社　二、五〇〇円）

☆キリストを運んだ男

井上洋治著



キリスト教はユダヤ教を母として生まれたアジア文明の花であった。

パウロはユダヤ教徒として育ち、ギリシヤ文化の中で成人した。

アジアであるキリスト教はヨーロッパに運ばれ、世界になった。

日本は今、東アジアの特殊から世界的存在になるべく苦悶している。

私たちはパウロの生涯に、多くを学びうるだろう。

（三浦朱門氏評）

（講談社　一、二〇〇円）

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
素材 石 理 影 大御そ 石他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

司教日程（五月）

4月28日～5月3日　バチカン大使公式訪問
1日　熊本地区
2日　佐賀地区
3日　西新教会ミサ
5日　クルシリヨ（黙想の家）
10日　召命祈願ミサ（老司）
11日　御受難会の集会（黙想の家）
12日　福岡地区司祭の研修会
17日　堅信式（二日市）
20日～21日　婦人会全国大会（大名町）
24日　堅信式（田川）
31日　堅信式（大名町）

福岡黙想の家

2日～5日　クルシリヨ
10日　サン・スルピス大神学院司祭静修
10日～13日　御受難会の共同体の集まり
21日　ミカエル会

教区報「カトリック」主催 広報一日研修会

教区報「カトリック」では左記のように「広報一日研修会」を企画しています。

期日　5月24日　広報の日
午前10時～午後3時（ミサを含む）
対象　小教区で「小教区報」や各種委員会、活動団体の「会報」「機関紙」などにたずさわっている方。
趣旨　広報の意義の確認、交流、情報交換。
講師　高橋義博神父（カトリック新聞社）
会場　司教館新館
会費　千円（昼食代を含む）
問い合わせ・申し込み先
教区報「カトリック」編集部
☎092-522-5139（司教館）
0942-72-3256（小郡教会）

バザー

5月10日　福岡市老司教会
5月17日　福岡市笹丘教会
5月31日　福岡市光ケ丘教会
熊本市武蔵丘教会
いずれも、教会建設資金や救援活動のためです。おいでをお待ちしています。

日本カトリック婦人団体連盟 全国大会に参加しよう!!

テーマ：婦人による社会の福音化
〈一人でもできる福音宣教〉
日　時：昭和62年5月20日・21日
場　所：福岡カテドラル・センター（大名町）
会　費：各日ごと　2,000円
主　催：日本カトリック婦人団体連盟
会長　浜口美智子
顧問　島本要司教
基調講演や分散会の型で行われます。個人参加もできます。宿泊も準備しています。（一泊 5,700円朝食共）
詳細は、鬼木久美（092-541-6478）まで

A・A九州地域ラウンド・アップご案内

A・Aラウンド・アップと呼ばれる、アルコール依存症者のための集会が7月18日から開かれる。

この集会は、各地の行政機関（各県衛生課）、専門分野の協力を得て10年前より定期的に開催され、今回九州地区では初めての開催である。集会の目的は、さまざまな段階にある依存症者が、各地から集まりミーティングや、いろいろの催しを通して深い交流が交わされ、そこで自分の病気に対する自認、つまり病識と回復と成長の希望を持つこととされている。

日　時　7月18日(土)から20日(月)まで
場　所　熊本県高森町中島南阿蘇国民休暇村
参加費　三〇〇〇円
宿泊費　一泊（2食付き）で六二〇〇円
なお19日昼食代五〇〇円別途
対象者　本人、家族、関係者
申し込み締め切り　5月末日
申し込み・問い合わせ先
大黒　努（長崎市）
☎0958-24-8480

福音宣教推進全国会議

※福岡教区の代表者

△司祭
山田成章、A・ディ・ベルロ、J・ブロデリック、渡辺隆義、深堀勝人
△修道者
作野シズエ、富山憲子、安田智恵子
△信徒
山田耕三郎、桜井太郎、源島栄一、深堀邦枝、佐々木智子

※意見を交換する集会

福岡地区司祭　5月12日
熊本地区修女連　5月10日
福岡地区修女連　5月17日
北九州地区修女連　6月14日

編集室から

教区長平田三郎司教が司教祝聖（叙階）25周年を迎えられました。

今号では、教皇様から寄せられたお祝いのメッセージを掲載し、2面には思い出の写真をのせました。

次号で、駐日バチカン大使カルー大司教様臨席の祝賀行事の模様を報告する予定です。

教区報「カトリック」編集員一同も司教様の寛大さに支えられて、少しでも皆さまと司教様のパイプ役になれたらと努力しています。

皆さまの声を教区全体に反映させるためにも、どうぞ教区報「カトリック」をご活用ください。（W）

いぶき

世界を動かすもの

山内清海

「おかあさんの肩には苦労がいっぱい。生きているうちは『苦労はつきものよ』、とおかあさんはいうけれど、ぼくはみんな知っています。おかあさんがふとんのなかで泣いてたのを。ごはんを食べないのに『ママつくりながら食べちゃった』、そんなうそをついてたのも。ぼくの小さな手をにぎり、霜の夜道をあるいたとき、牛乳配達の朝だって、夜のお店にでかけるときだって、おかあさんは笑っていたけれど、ぼくの頭をなでながら、涙をスーッと落としたの、ぼくはみんな知っています。おかあさん、ほんとまっててもう十年。ぼくがきっとおかあさんに、おいしい空気をいっぱい吸わせ、しあわせつかんであげるから」

母子は、距離的な離別によっても、死によってさえも、けっして引き裂くことのできない強いきずなによって結ばれています。しかし母と子を結ぶこの強いきずなは、人目をひく母の美貌でもなければ、男まさりの偉大な業績や名声でもなく、子供たちのために自分のすべてを捧げ尽くして生きる母の生き方ではないでしょうか。

冒頭の詩は、高峰三枝子編、「母にささげる詩―おかあさん―」に紹介されている、当時小学校六年生、小沢孝道君の、『まってておかあさん』の一節ですが、子供ながらにも恐ろしいほどのするどさをもって、母子の断ちがたいきずなが何であるかを、見事に表現しています。

あらゆる自己犠牲をともなう純真で誠実な愛に生きる母の姿にこそ、わたしたちは筆舌に尽くしがたい母の偉大さと魅力をみることができます。母の子に対する愛ほど、美しく、不思議なものはありません。それは何よりも強く、たとえどれほど過酷な犠牲が求められても、それが生き甲斐となり、大きな喜びにさえ変わるからです。

最近は、種々の形態の女性運動がさかんです。それは、現代女性が、より積極的生き方を求め、より積極的に幸せへの道を切り開くためばかりではなく、自分に与えられたカリスマを十分に発揮して社会に貢献しようとする努力であるかぎり、とても素晴らしいことであり、それだけに高く評価されるべきです。しかし、もしもそこに、母親として生きるために要求される自己犠牲の精神が失われ、種々の困難からの逃避があるとするならば、それはしばしば、母としての生き方を見失わせ、母親としての幸福を放棄させることにもなりかねません。母親の幸福は、生命をかけるほど危険で困難な、そして長い発掘作業によってようやく見出す高価なダイヤモンドのように、母としての長い忍耐と犠牲の生活のあとで与えられる宝であり、報酬だからです。したがって、母親として誠実に生きることを拒む人、あるいはそのように生きるための努力を怠る人は、一女性としてはともかく、少なくとも母親としての幸福を断念することになるのではないでしょうか。

「ゆりかごを動かす者は世界を動かす」といわれるように、母親としての忠実な生き方に勝る生き方はないといっても、けっして過言ではありません、母親としての生き方の最高の模範が聖母マリアのそれです。

教会は、若葉かおり、万花咲き競う、この美しい五月を聖母マリアに捧げていますが、しかもその第二日曜日は「母の日」でもあります。「聖母月」と「母の日」の組み合わせは、けっして偶然ではないと思います。

世の母たちが、救い主キリストの母として、キリストのためにだけその生涯を捧げ、いつの代の人からも声をかぎり賛美される聖母マリアの生き方を模倣するようにという、切なる願いが秘められているように思えるからです。

（サン・スルピス会司祭　大神学院教授）

かのときのことのは

森山　敬三

真の道を祈りて叶はぬ事なし。天地も思ひほがすものなり。紅涙の出る程に徹する所、則ち神に通ずるかと存じ候由。　山本常朝

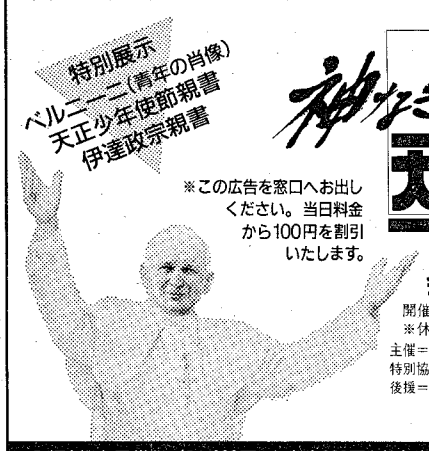
『葉隠』に所収。思ひほがすとか、紅涙の出る程に徹するとか、いかにも葉隠ならではの用語である。

三島由起夫はその著『葉隠入門』で、レモン・ラディゲも、秋成も、もう座右の書ではなくなった。

一冊残っているのは葉隠のみという。『入門』はさすがに葉隠の思想をあますところなく要約しているが、私は要約では見のがされている片言隻句の中に、深い人生智を見出す。

「常住死身」などということから、昭和四九年四月二〇日西日本夕刊に、佐賀市在住の作家河村健太郎氏が相当の根拠をもって『葉隠』に、常朝が生まれるほぼ五十年前、天草で翻訳刊行された『イミタチオ・クリスチ』の影響があることを、指摘しておられる。

ローマ時代、中世、ルネッサンス、近代、現代にわたり、カトリックの精神を根底においた、西欧芸術の軌跡をたどる、秘蔵のコレクション158点を一堂に――日本初公開。



※この広告を窓口へお出しください。当日料金から100円を割引いたします。

会期/4月29日(祝)―5月24日(日)
会場/福岡県立美術館（福岡市天神須崎公園内市民会館前）
開催時間/午前10:00→午後6:00（入館は午後5:30まで）
※休館日/5月11日(月)・18日(月)
主催＝大ヴァチカン展実行委員会・西日本新聞社
特別協力＝株式会社そごう・西日本鉄道株式会社
後援＝文部省・文化庁・ローマ法王庁大使館・福岡県教育委員会・福岡市教育委員会・日本教育新聞社・NHK福岡放送局・テレビ西日本
交通案内
●地下鉄天神駅 徒歩8分
●西鉄福岡駅 徒歩8分
●西鉄バス25・85・93番系統 市民会館前 徒歩2分
はっとする、やさしさ。そごう 西鉄薬院駅前 ☎(093)632-2111
入場料/当日券・一般1,000円・高大生800円・小中生600円　前売券・一般900円・高大生700円・小中生500円

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
(株)メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社 藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電（092）441-6585

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL 092-521-0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42319
定価一部60円

今月のみことば

私は神をあがめ
私の心は神の救いに
喜びおどる
（ルカ1・46）
八代　黒川博神父

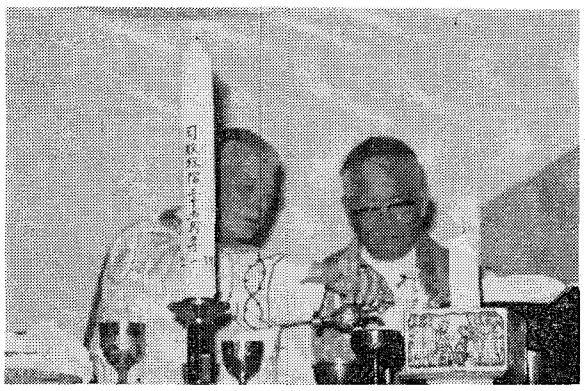
平田三郎司教　司教叙階25周年を祝う

教区民と感謝のミサ

1962年3月26日～1987年3月26日

教区公式訪問中の駐日バチカン大使も臨席

福岡教区長平田三郎司教の司教叙階25周年感謝ミサと記念式典が、4月29日、カテドラル・センターで、教区公式訪問中の駐日バチカン大使ウィリアム・アクイン・カルー大司教やかつての教え子でもある平山高明（大分）、深堀敏（高松）の両司教を迎えておこなわれ、教区内外の約七十名の司祭、六百名の信徒が喜びを共にした。



カルー大司教（左）と平田三郎司教（右）

平田三郎司教は一九一三年(大正2年)福岡県三井郡北野町生まれ。一九三九年に司祭叙階。パリ・カトリック大学で学んだ後、一九四一年以来約20年間スルピス会員として福岡サン・スルピス大神学院で神学生を養成してきたが、一九六二年三月二十六日初代大分教区司教として叙階された。

しかし故深堀仙右衛門司教の後継者として一九七〇年一月二十三日、第四代福岡教区長に着任。以来今日まで、精力的に宣教・司牧の任にあたっている。

以下は祝賀ミサ中の説教（平山高明司教）、式典でのあいさつ（ウィリアム・A・カルー大司教、深堀敏司教、山川辰幸師）の要旨である。

司教を受け入れる人はキリストを受け入れる

カルー大司教

福音をのべ伝えるためにキリストは全世界に使徒たちを遣わしましたが、使徒たちのわざは、司教をとおして今日まで続いています。

司教が福音をのべ伝えるとき、それはキリストご自身のわざです。

司教を受け入れる人は司教を遣わしたキリストを受け入れるのです。

教皇ヨハネ・パウロ二世は平田司教様と一致する福岡教区民に使徒的祝福をおくります。

共同訳聖書の完成に寄与された

平山司教

平田司教様は、大分教区の初代司教として教会の本質的使命である福音宣教を幅広く実践してこられました。

さらに司教様は日本の教会のために、また日本人に神のみことばをわかりやすく伝えるためのカトリック・プロテスタント共同訳聖書の完成に寄与されました。

また神の民の育成、聖化の任務を果たすべき司祭の養成にとくに心を配られ、大分時代にたてられた小神学校は形を変えても今も生きつづけています。

司教を中心に教区民が一致することは福音宣教の大きな証となります。

神学生養成への熱意にうたれる

深堀司教

福岡教区で育てられた私は、特別の感慨と親愛の情をもってこの日を祝います。

司教様がパリから帰ってこられたとき、私は神学生でしたが、神学生養成に対する司教様の熱意にうたれました。

司教様のお働きはいつも私たちの働きの励ましです。

司教と一致して今後も歩みたい

山川師（西新教会）

教区民一同にとって大きな喜びです。これからも司教としてキリストにならってその道を歩んでください。私たちも司教様と一致しながらますます頑張っていきたいと思います。

平田司教お礼の言葉

神の恵みと皆さんのお祈りのおかげでこの日を迎えることができました。

私自身は神学生の養成に生涯を捧げるつもりでした。

しかしヨハネ23世は私を司教に選ばれ、心あたたまる記念品を沢山くださいました。それはしっかり頑張ってくれるようにとのお心づかいであったと思います。

3月26日のお告げの祝日でしたので、聖母とともに「どうしてこの私が」とみ旨をたずねました。そして「あなたのお望みのままに」とお応えしました。

このお祝いの日に、司教として足りなかった点についてはゆるしを乞い、これからも皆さまのために生きることができるようにお支えくださるようお願いいたします。

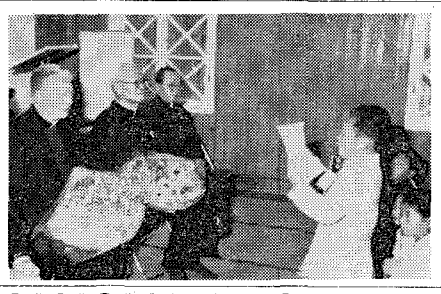
駐日バチカン大使公式訪問を終える

カルー大司教

駐日バチカン大使ウィリアム・A・カルー大司教は4月28日から5月3日までの教区公式訪問を無事終えて、5月3日午後、帰京した。

福岡、熊本、佐賀の三県からなる教区を精力的に視察してまわった大使は、各地区の司祭、修道者、信徒らと積極的に親しく交わった。

「訪問先で教区民の歓迎を受けて喜んでおられた」と同行した堤要吉神父（茶山教会）は語っている。



熊本天使園の子供のあいさつを受けるバチカン大使。左端

広報研修

教会のイメージアップに貢献

小教区のニュースの提供など協力を

教区報主催の「広報一日研修会」が5月24日の広報の日、『聖母の騎士』誌編集長の水浦征男神父を講師に、司教館新館で開催された。

今回は14小教区から27名が参加。

水浦神父は「教会広報の役割」について、「教会活動において、広報は中枢的な役割をもっているが残念ながら十分に機能しているとはいえない。一般社会に対して教会のイメージアップにつながるようなニュースをもっと提供しマスメディアを有効利用すべきである」と語り、さらに日本の教会の二大メディアである『カトリック新聞』に、小教区がニュースの提供をしたり、共同で読み、分かち合う場をつくること、『こころのともしび』の番組をビデオにとって活用することなどを提案した。

交換会では、編集スタッフが女性だけの小教区報やひとりで頑張っているところ、これから取り組もうとしているところなど悩みと同時にやりがいも報告された。

教区報からは、「各小教区で発行しているものを教区広報あてにおくっていただいて充実をはかりたい」と要望があった。

最後に、次回は編集の実務の研修をすることを確認して散会した。

聖母年

6月7日から来年8月15日まで

教皇ヨハネ・パウロ二世は、回勅『レデンプトリス・マーテル（あがない主の母）』を発表し、神の民の旅路の道しるべ、よき慰め手である聖母に祈るよう求めている。

時の話題

草野純英

物分かりのいい人というのは、好感がもてて、人のウケもよろしい。本人もゆとりと笑みをたたえながら、得意然とするものである。

「カトリックだって何だって宗教というのは、みな結局は同じことをいっているのさ。これといって一つのものにこだわることはないのさ」と。

一方、カトリックの古文書には、「教会の他に救いはなし」と言い切っている。こちらは、なんと石頭で、物分かりのわるい、心の狭い発言だといって、人びとは離れていくだろう。

「人の信じこんでいること」と、その対象の「現実のありさま」がぴったり合致する時に、私たちは、「真理」だとか、「本もの」だという。

ダイヤモンドとガラス玉

「これは、ガラス玉ではなくて、どうみてもダイヤモンドだ」と、信じこんでいれば、その人にとって、ガラス玉は、ダイヤモンドに変わってしまうが、ガラス玉自体は、ダイヤモンドに変質しないのである。専門家の鑑定の結果、これは、ガラス玉ではなくてレッキとしたダイヤモンドであると、実証されると、その人の思い込みは、初めて「真理」になる。

宗教にも同じことがいえると思う。どんなに歴史上すばらしい思想家、宗教家、哲人、聖賢と認められる人物であっても、「人」である限り、有限で、不完全な存在者であるので、人の道を創り出したり、礼拝の対象を編み出す権限はもたないと思う。

人間を含む大自然を創造された三位一体の神の、創造目的から、それに対応する人間の姿勢、これがカトリックである。

神であり人であるキリストを通じて、さらに深く、この道を知らされ、準備されたので神と人との道は、この一本に絞られてしまうのである。

ガラス玉がどんなに透明で日本的で私たちの心をとらえても、ダイヤモンドには、決して変質しないのである。

しかし、未知からくる善意そのもののガラス玉信仰は、本人にとってのダイヤモンドであるので、死後、神は暖かく迎えられるに違いない。

（イエズス会司祭　泰星学園教師）

お礼

福岡教区長平田三郎司教様の司教祝聖二十五周年祝賀行事は、予定のとおり、四月二十九日に無事終了することができました。これはひとえに、駐日バチカン大使カルー大司教様をはじめ来賓の司教様がた、教区民各位のご支援、ご協力の賜と感謝申しあげる次第でございます。

皆さまの上に神の豊かな祝福を祈りながら、とりあえず紙上にて御礼申しあげます。

一九八七年五月
司教祝聖25周年
祝賀実行委員会

日本カトリック婦人団体連盟総会

「婦人による社会の福音化」をテーマに

福岡

日本カトリック婦人団体連盟の総会は、5月20日、21日の両日、カテドラル・センターで「婦人による社会の福音化」をテーマに開催された。

総会には全国各地から約二七〇名が参加。平田三郎司教が基調講演、浦和教区の島本要司教（顧問）が説教を担当、分科会でも活発な分かち合いが行われた。詳細は次号で紹介予定。

みちくさ

六月の花嫁になる喜び一杯のあなたは、最愛の男性と教会で「生涯互いに愛と忠実を誓います」と約束し合います。そこできょうは、お祝いの心をもってこの言葉の重みを考えてみたいと思います▼あなた方が約束しようとしている〝愛と忠実〟は無条件のものです。相手が誠実な愛を示してくれる限りという条件つきではないのです。しかもその男性をこれからの人生のしばらくの同伴者としてではなく、生涯の同伴者として選ぼうとしているのです▼さらに司式司祭は「神が結ばれた（合わせた）ものを人が分けることはできません」ともいいます。自分がその男性を選んだのなら自分の都合でわかれることもできるでしょう。しかしもし神が合わせてくれたのなら、神の都合に合わせなければなりません▼ではいつ「神が合わせた」といえるのでしょうか。それは、あなた方が互いに〝救いのための助け手〟となることを受け入れるかどうかにかかっています。彼と生まれる子供の〝救い〟のために生きることこそ神があなたにもっとも期待されることなのです。この重大な任務が地球上の誰でもない、まさにあなたに与えられようとしているのです。この神からのすばらしい「召命」についてふたりでよく話し合い決断してください▼夫婦の愛はそのひとの救いのためなら自分は滅びてもよいといえるまで深められなければなりません。このような心を日々培っていかなければなりません。そのためにはあなたの夫となる男性のために祈らなければなりません。今すぐ彼とともに祈ることを始めてください▼誰もあなた方に幸せな結婚生活を保証することはできません。けれどもあなた方が〝互いの愛と忠実〟の深まりを祈り求める時、そこには私の祈り、そして教会とキリストの切なる祈りの保証があることを思いだしてください。

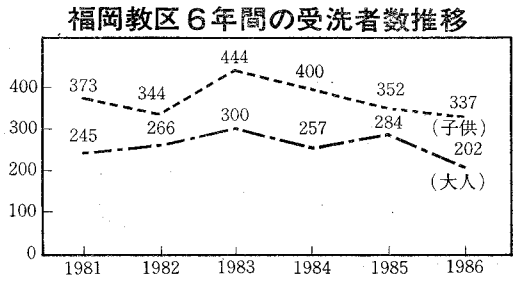
福岡教区教勢

(1986年1月1日～12月31日)

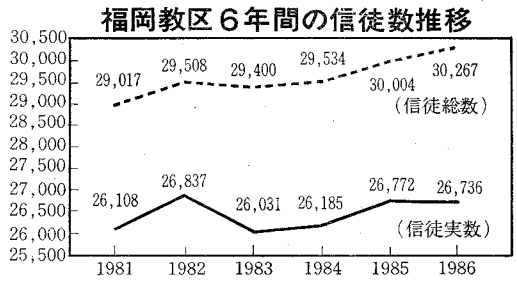
	小教区名 福岡地区	洗礼 子供	洗礼 大人	洗礼 臨終	求道者	堅信	ミサ参加 日曜	ミサ参加 復活祭	世帯数	婚姻 信徒間	婚姻 混宗	終油	転入 教区内	転入 教区外	転出 教区内	転出 教区外	死亡	居所不明	信徒実数 1986年	信徒総数 1986年
福岡地区	茶山	4	1	1	1	0	350	370	100	0	2	3	5	20	9	6	5	0	479	479
	大名町	21	7	4	29	0	540	1,000	360	3	21	23	21	51	28	39	13	492	688	1,180
	二日市	4	1	0	9	0	180	250	82	0	2	3	18	11	4	10	3	16	368	384
	箱崎	5	3	1	4	38	140	200	40	0	0	1	8	16	0	18	2	54	253	307
	笹丘	11	3	1	25	0	290	450	130	2	6	15	7	28	43	4	4	41	586	627
	光ヶ丘	12	3	0	7	38	260	550	262	0	1	8	16	32	20	27	3	170	715	885
	本郷	9	0	1	5	18	430	490	116	0	9	9	1	0	4	3	6	36	622	658
	今村	9	2	3	8	0	700	800	221	2	11	15	3	4	12	8	7	34	1,002	1,036
	浄水通	5	14	0	133	9	115	200	114	3	13	2	8	19	4	9	5	12	231	243
	古賀	6	0	1	5	0	170	250	186	0	0	2	14	10	5	7	1	30	450	480
	久留米	16	10	0	16	39	400	600	285	2	14	9	10	17	18	10	9	510	780	1,290
	馬渡島	6	0	0	0	0	100	420	82	0	2	3	0	0	0	7	3	23	434	457
	美野島	4	6	0	2	3	35	65	31	0	3	1	3	1	2	9	2	40	82	122
	西新	6	2	0	4	38	400	450	385	1	3	5	52	44	10	25	4	230	947	1,177
	小郡	3	5	0	0	1	100	200	106	0	2	10	17	0	2	2	0	4	302	306
	大楠	5	2	1	2	0	80	120	32	1	0	0	5	0	3	8	0	0	109	109
	大牟田	7	5	0	10	3	75	200	95	1	5	1	1	3	10	11	0	72	203	275
	老司	14	6	0	4	32	180	280	200	1	6	0	22	31	2	18	4	8	524	532
	高宮	5	5	0	0	26	130	280	224	0	6	4	0	13	17	13	5	100	437	537
	呼子	2	0	0	0	0	250	320	100	0	2	3	1	1	3	5	5	0	352	352
	吉塚	12	1	0	8	0	220	300	226	2	2	3	9	5	4	6	6	212	619	831
小計	21	166	76	13	272	245	5,145	7,795	3,377	18	110	120	221	306	200	245	87	2,084	10,183	12,267
佐賀地区	伊万里	7	1	0	3	0	70	130	80	0	0	4	3	15	0	4	1	35	209	244
	唐津	1	0	0	2	0	80	150	141	0	4	2	3	7	2	2	0	7	421	428
	鹿島	0	0	0	0	0	5	10	22	0	0	0	0	0	0	0	0	45	42	87
	佐賀	8	11	0	12	0	200	350	259	1	7	0	5	14	17	17	2	28	676	704
	武雄	0	0	1	1	0	20	65	21	1	2	1	0	4	1	4	1	17	96	113
	多久	3	1	0	0	0	25	50	27	0	2	0	0	1	2	4	0	6	111	117
	鳥栖	5	10	2	11	0	110	180	70	2	3	0	7	2	9	2	0	10	310	320
小計	7	24	23	3	29	0	510	935	620	4	18	7	18	43	31	33	4	148	1,865	2,013
北九州地区	八王子	0	0	0	12	0	90	120	86	0	0	1	12	0	3	0	1	31	216	247
	飯塚	2	5	0	3	31	70	140	85	0	2	3	0	0	7	4	0	4	226	230
	小倉	35	20	0	120	70	600	850	710	4	26	17	9	16	17	40	11	43	2,448	2,491
	黒崎	8	5	0	9	25	390	500	444	1	11	4	13	18	12	5	5	46	1,303	1,349
	水巻	2	7	1	5	27	165	300	195	0	4	0	16	1	14	4	2	13	600	613
	門司	1	4	0	44	0	160	210	183	0	1	4	13	4	9	10	4	9	425	434
	門司港	0	2	0	5	18	65	125	56	0	0	1	0	0	0	1	1	10	155	165
	直方	1	0	0	0	0	35	75	35	0	0	2	3	2	3	0	1	0	129	129
	新田原	27	8	13	1	30	900	1,200	429	7	2	24	19	10	9	5	8	42	1,736	1,778
	田川	0	0	0	0	0	60	98	51	0	0	0	0	3	4	0	1	26	172	198
	天神町	4	1	0	3	1	90	145	140	0	2	1	2	0	5	0	1	18	315	333
	戸畑	6	7	0	18	63	380	450	243	0	3	0	5	4	18	14	1	564	822	1,386
	若松	2	0	1	5	0	60	130	68	0	1	3	2	0	3	0	2	0	365	365
	湯川	16	1	2	4	23	400	600	298	1	3	6	25	14	3	4	3	140	912	1,052
	行橋	6	1	0	4	1	250	400	144	1	9	2	6	3	24	7	4	73	570	643
小計	15	110	61	17	233	289	3,715	5,343	3,167	14	64	68	125	75	131	94	45	1,019	10,394	11,413
熊本地区	荒尾	1	0	0	6	0	45	60	49	0	0	6	12	0	0	0	1	0	126	126
	人吉	3	5	0	6	0	80	180	85	0	2	0	0	8	4	4	5	18	222	240
	本渡	3	0	0	1	0	30	50	34	0	0	15	2	0	0	6	2	12	151	163
	健軍	5	4	0	20	9	200	350	182	0	0	0	2	1	2	0	1	2	445	447
	菊池	1	0	0	1	0	30	62	41	0	1	2	8	0	19	0	2	8	86	94
	水俣	0	0	0	0	0	46	80	66	0	1	0	0	3	0	0	0	22	157	179
	帯山	3	1	0	4	0	120	200	88	1	0	2	7	7	11	1	3	48	307	355
	大江	4	4	0	1	43	160	250	117	0	1	11	0	0	3	4	4	33	369	402
	崎津	2	1	0	4	1	85	145	94	0	4	3	0	0	0	3	3	26	283	309
	島崎	4	2	0	5	2	180	280	140	1	1	10	3	2	5	2	8	6	411	417
	玉名	1	1	0	3	1	60	75	37	0	0	3	5	0	1	7	2	4	103	107
	手取	6	19	2	22	0	380	500	560	1	16	41	41	16	16	18	17	93	1,047	1,140
	八代	1	0	7	11	0	130	280	58	0	0	2	2	0	0	11	0	8	216	224
	武蔵ヶ丘	3	5	0	16	7	140	180	166	1	0	40	8	1	16	7	4	0	371	371
小計	14	37	42	9	100	63	1,686	2,692	1,717	4	26	135	90	38	77	63	52	280	4,294	4,574
合計	57	337	202	42	634	597	11,056	16,765	8,881	40	218	330	454	462	439	435	188	3,531	26,736	30,267

注）司祭、修道士、修道女、神学生は含まれていない。

福岡教区6年間の受洗者数推移



福岡教区6年間の信徒数推移



福岡教区司祭・修道者・神学生

	司祭	修道士	修道女	大神学生	小神学生
1981	104	10	517	7	27
1982	104	14	523	8	23
1983	108	12	520	10	30
1984	102	11	532	12	11
1985	104	12	485	12	9
1986	110	11	507	8	15

一九八六年度の教勢を見て

山川辰幸神父（西新教会）

福岡教区の信徒数の増加が少ない状況の中で、気になることがある。それは総数と実数の大きな差である。

一九八六年には大人と幼児の洗礼数が五三九名であるのに実数では前年度よりも三十六名減少し、反対に総数は、二六三名増加しているのである。それは不明信徒の増加を示すものであり、総数と実数では三、五三一名という大きな差があり、これは福岡市内の教会の信徒が殆どいなくなったような数である。これは決して黙認すべき数ではないとおもう。

不明信徒とは小教区に登録された住所には住んでおらずどこへ行ったのか、全く探すてだてのない人だとおもう。

以前自分の小教区の不明信徒のファイルを見たら、約一千人の総数信徒のなかで四百名が不明者で実数六〇〇名となっていた。40%が不明とはとんでもない数である。

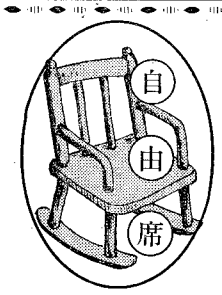
そこで、私は一人ひとり電話したり、電話帳を調べて住所や電話番号が変った人、他の区に転居している人などを調べたところ約二〇〇名の信徒がいるのがわかり、実数に加えたことがあった。

たとえ何年間も教会に来なかったとしても、そこに住んでいるかぎり実数に入れるのは当然のことであろう。小教区共同体が一丸となって探すならば、不明者になっている兄弟たちを探し出すことができるのではないだろうか。

テレビで、何十年も行方不明になっていた人を探し出して、再会させるという番組があるが、私たちも努力すれば、不明の信徒と再会することができるのではないだろうか。

チョイスに参加して

古川　ゆかり



2泊3日、長いようで短かった集いでした。自分を見詰めるという初めての作業に、本当に疲れきった思いでした。

私は、幼児洗礼を授かっているにも関わらず、不良信者で「神さまなんて」とずっと長い間、背を向けてきました。

それが、カトリックの幼稚園に勤め出して、魅力的なシスター方と共に過ごすうちに、偏見と誤解に気づかされたのか「神さまって一体何だろう、私の生かされる道はどこにあるのだろう」と悩むまでに更生(?)されてきたのです。

今思えば全て、ご計画なのでしょうか。そういう時にこの集いに参加させていただきました。

そこには、同世代の自分の道を探ろうと真剣に生きている同じような人たちが40名くらい参加していました。

お世話してくださるティームの方々の下で、一人ひとりが心の奥深くを分かち合ってくれました。その力に動かされたのか、気づかなかった自分の姿を知らされ驚きました。

その恵みを受けながら、今まで神さまに反抗ばかりしていた私も、私なりのやり方で門をたたいていた事になるかもしれないと考えました。たたくというより殴る、蹴るというひねくれた求め方ではあったけど、神さまは、しょうがない奴だと笑って見ていて下さったのではないかと感じられてきたのです。

そして今、不作法で、高慢で愛の少なかった自分を恥じています。

私を取り巻く全ての人々を、もっと素直に愛し、大切にしなければと、私一人では難しいことですが、神さまに助けられ、一緒に分かち合った人たちを思い出しながら、すこしずつでも実行していけそうです。

（黒崎教会）

神は、御旨のままに行われる

中本　岐余子

朝倉郡原鶴で行われた今年の聖霊による刷新九州大会の特徴は、期日の事を除けばすべて、人間の計画が打ち砕かれた事である。

人の問題、お金の問題、あらゆるものがくつがえされて、準備する者にとっては、あるがままに捧げて、御旨のままに動くしかなかったのである。

今年の3月2日、教皇様が熱誠こめて語られた「位階制度の賜物と、カリスマ的賜物とは異なるものですが、相互に補足しあうものです。私たちキリスト者は数は多いがキリストにあって一つの体であり肢体であるからです。神は、各々の役割に応じて、体の中に分裂がなく、各々の肢体が互いにいたわり合うことを望みました」のお言葉と共に「参加者及び参加できないメンバーの方々に特別のあたたかい祝福を送ります」と、折しも来福中のカルー大司教様の祝福をいただいた。

主の招きで集められた者は聖書の中の人と同様に、15歳の少年から、80歳の老女、聾者や体の不自由な方、未信者や新教の方と多岐に亘り、最後のミサの後、全員で声高らかに福音宣教を宣言し、証しがあった。

青年の召命、自己の固い殻を主の愛で破られた人、日毎に心も体も軽くなった人など、果てはホテルの従業員の方たちまでも変えられて、人は皆神の子である事を証明した。

（明治学園教諭）

中央出版　福岡支部
キリスト教関係、書籍、家庭の友
典礼聖具
ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

きぼうの電話　―喜ぶ人とともに喜び 泣く人とともに泣く―
(092) 865―1212
相談：生き方，家庭，学業，仕事，恋愛，宗教
時間：月・水・金曜日午前11時～午後4時
午後8時～午後10時
相談時間外テレホンサービス
カトリック　福岡黙想の家
〒814-01 福岡市城南区西片江1-17-63

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡 (712) 8022　久留米 (33) 7401
佐賀 ((30) 4040　小郡 (72) 3482

宣教者の原点を問い直す

'87ナイスに向けて 課題をもとに意見の交換

今年の11月に開催される第一回福音宣教推進全国会議に向けて教区としての意見をとりまとめる4つの集会がひらかれた。

一つは、福岡地区の司祭の集まり（5月12日）で15名が参加。他方、教区修道女連盟は熊本（5月10日）福岡（5月17日）佐賀（5月22日）の各集まりに合計約90名が参加して熱心に意見を交換した。なお北九州地区修女連は6月14日に、他の全国会議教区代表者もそれぞれに意見のとりまとめの作業をおこなうことになっている。

＜福岡地区司祭の集まり＞

「開かれた教会づくり」について、また各々の小教区現場での現状を分かち合った。

信仰共同体から宣教共同体へという表現は誤解を招きやすい。最高の祈りであるミサが魅力あるものとなっているかどうか、問いなおそう。小教区の壁をのりこえるために障害になっているのは司祭相互のつながり、協力体制の欠如ではないか。信徒に自信を持たせる養成が必要だ。などの声があった。

＜三地区修女連の集まり＞

各地区とも集まりのはじめに、渡辺隆義師（小郡教会）の講話を聞いた。同師はそのなかで福音宣教は福音の原点であるナザレのイエズスのわざ（行為）とことば（教え）を基本にしなければならないと強調。イエズスの行動様式、発想の仕方を自分のものとしてもっと深めようと呼びかけた。

講話のあと分散会のかたちで意見の交換がおこなわれたが、「かつては内に留まるようにと教育されてきたのに、今は出ていかなければと言われて少々戸惑っています」といった本音も聞かれた。

黄金週間に 各地で聖霊のいぶき

第6回聖霊による刷新 九州大会開催さる

筑後川のほとり、燃える緑の中、平田司教の承認と祝福を受けて、大会は5月2日～5日まで朝倉郡原鶴の「ほなみ荘」において、72名の参加者を得て開かれた。

指導はマテオ師（刷新全国委員、御受難会）が行い、講師としてドモンティニー師（レデンプトール会）、伊藤芳雄氏（横浜・大船教会）、シスター山中チヤ（刷新全国委員、聖母カテキスタ会）が導いた。

美しい小聖堂に一変した研修室のご聖体の前には24時間ただひたすら座りつづける者や、回心のめぐみと心の深いいやしを求め、祈る姿がつづいた。

参加者は福岡21名、熊本19名、長崎8名、大分4名、鹿児島4名、沖縄10名、関東関西4名、プロテスタントの兄弟姉妹3名など中学生から80歳の高齢者まで、身体の不自由な方2名を含み、また医者、農業学生、主婦と職業も様々であった。

「一人一人を、主はその愛と喜びで満たし、一つに結んで下さり、時のしるしに心を開く人々に復活の主の実在と、聖霊のみ手の業を示して下さった。

教皇大使カルー大司教様は、今大会に暖かい励ましのメッセージをおよせ下さり、最近の教皇様のお言葉を引用して意義深い教訓を参加者一同に示してくださった」。

（森　邦蔵記）

ヤングウィークエンド チョイスを開催

昨秋につづき、九州第2回目のチョイス（ヤングウィークエンド）が5月2日から4日まで福岡・泰星学園の聖書研究室を会場に行われた。

参加者は福岡ばかりでなく長崎・鹿児島・大分などからの若者30名。10名のティームを加え、寝食を共にしながら分かち合いを通して、自分を見つめ、自分を取りまく人々との関わりを見直し、自分を必要とする人々について考えながら、各自にたいする神からの恵みと使命に心を開く機会となった。

仲間づくり

「離婚」のことばかり書いているようですが大切なことなのでもう少し続けることにします。

有効な結婚の絆に結ばれたまま再婚すると、大罪の状態になるので秘跡は受けられません。これが大原則になります。それではそのような「再婚」をしてしまった人はもう「教会」の中には入れないのでしょうか。

北アメリカには『別居および離婚したカトリック信者の協議会』という全国レベルの組織があり、ほとんどの大きな小教区にグループができています。

私が働いていたニューヨークのある小教区では20以上のアクショングループがありましたが、その中に『離婚と再婚をした人たちのグループ』というのがありました。何度か参加したことがありますが、その雰囲気の明るさに驚いた覚えがあります。

集会は神を賛美する歌で始まります。次いで参加者の一人が聖書の朗読をします。その時は「放蕩息子」のたとえ話が読まれました。司祭が短いコメントを加えましたが、それは「放蕩息子」中心ではなくて「いつくしみ深い父」に焦点があてられた話でした。そのあと、しばらく沈黙の中に「みことば」を黙想しました。参加者は20名くらい。その中には司祭、助祭、神学生、シスター（小教区のカウンセラー）もいましたが、彼らはほとんど話しません。黙想のあと「わかち合い」があります。ぐちとかいいわけとか批難をこえて、彼らが今自分たちのおかれている状況、おもに心の状態をわかち合います。「みことば」を通して、彼らのそばにもおられる神を感じ、「みことば」に強められて今、彼らにできることは何かを求める真剣なまなざしに心うたれました。日本でも今「仲間づくり」が求められています。

（小倉教会）

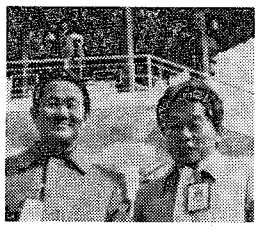
韓国みたまま（完）

若者の情熱の源を探る

下町　豊重神父

韓国の若者の教会に注ぐ心血は凄い。〝主の心を生きること が我々の役目である〟と言った彼らの燃える目が忘れられない。実に彼らは〝キリストの今〟を生きているのだ。教会の魅力を自ら見い出しているのである。ともすればレクレーション的な部分にのみ魅力を感じやすい日本の教会の若者との間に違いを感じた。

では、その思いはどこからきているのだろうか。自分の時間や趣味、時には仕事をも犠牲にして、ひたすらに他の人のことに気を配ろうとする彼らの熱意の最大の出所は、かつての先祖の「殉教の血」であるらしい。尊い生命をかけた先祖の霊的な遺産をことのほか誇りにしているのである。そして、それを活用しているのだ。もちろん、以前からの不安定な社会状勢を懸念する面も加わっていることは見逃すことはできない。緊迫感の中で自分たちの信仰を貫くことを喜びとしている。



案内役のソン神父様（左）とキムさん（右）

ところで韓国の信者の第一号は二百年前に遡る。しかし日本の信者のそれは四百年以上を数える。韓国において殉教があったように、日本でも多くの殉教者がいる。なのに日本ではどうして。社会が安定しているからか。

彼らの悩みは「どうしたらもっと主のように生きられるか」である。この言葉は日本の教会でも機会あるごとに聞かされる。ところが、教会の外ではあまり聞かれないのでは…。

韓国の若者は教会の外で、生活の中でそれを体験するのである。

最後に「日本の教会の青年の悩みは何ですか」と聞かれたことが印象に残っている。

こうして韓国の若者と出会い、またソウル市内に散在する信徒数八千人級の教会をいくつか巡ったわけだが、あらためて思うのは、〝神と人に対して、主の心をもって接すべきである〟ということだ。

若者の心が主の思いに近づけるように。

神の国には愛の免税店はないようだ。

カムサムニダ（ありがとう）。

（久留米教会）

第26回教区クルシリョ 使徒職に燃える

福岡教区クルシリョ（信徒使徒職練成会）は5月2日～5日にかけて、福岡黙想の家で行われた。

今回は9小教区から男性16名、女性14名、さらに御受難会の修練者2名と大神学院の3名の助祭を加え合計35名が参加した。例年になく若い人が多く若々しい教会の息吹を感じさせる集まりとなった。

指導司祭の渡辺隆義師（小郡教会）と練成長の松尾光敏氏（若松教会）をはじめスタッフ一同による指導のあと、最後は平田司教をとおして、キリストによってそれぞれの小教区、生活の現場に新たに派遣された喜びを味わった。

開催期間中、食事作り、準備、掃除とカゲの仕事は全て第1回参加の若者によってなされた。

青年信徒宣教者として 南米ボリビアに出発

水巻教会

長岡正志さん

長岡正志さん（26歳・水巻教会）が5月12日南米ボリビアの極貧村マチャカマルカに向け出発した。F・シエラ神父（イエズス会）の働きに共鳴したもので神父の手助けのため約三年間の予定。

長岡さんを助け、励ましている同教会の上野英子さんの話によると、マチャカマルカは三、七〇〇メートルの高地にあって人口約一万人。村人に農作物を作ることを教えなければならないが、塩分の多い土地のために神父はハウス栽培導入を計画している。農業高校を出た長岡さんには自分の知識、経験を生かすための絶好の場となるはずですが、農業のための条件は極めて厳しく、成功する保証はどこにもないという。

平田司教は「信徒宣教者として外国の貧しい人々のために教区の若者が奉仕することはすばらしいことだ」と長岡さんを激励し、さらに十分な働きができるようにとバイク一台をプレゼントした。

長岡さんは出発に先だって「農業高校はでましたが、これまでは運送関係の仕事をしていました。もう一度勉強のやり直しです。苦労は覚悟のうえで、できるだけのことをやってみたいと思います」と決意を語っていた。

BOOK 読みま専科

☆家庭―愛といのちのきずな

ヨハネ・パウロ二世著

長島正・世津子訳

本書は、一九八〇年の世界代表司教会議（シノドス）の後（一九八一年十一月二十二日）に発布されたヨハネ・パウロ二世の使徒的勧告『ファミリアーリス・コンソルチオ』である。

教皇は、今日の家庭をとりまく状況、家庭の諸問題に福音の光をあてて、結婚や家庭のもつ価値と使命を明らかにする一方、困難に直面する家庭に対して援助の手をさしのべるように求めている。

（カトリック中央協議会　一、〇〇〇円）

☆父さんの宝物

山浦　玄嗣（はるつぐ）著

「この作者には、すべての点で、もう脱帽だ。……こんな親子が現代にあったなんて。しかもドラマの世界ではなく現実にあったなんて。驚きだ。思わず拍手をおくりたくなる。」

精神科医であり、作家でもあるなだいなだ氏に、こういわせたこの著者は、8人の子供たちから次々にやっかいな問題を突きつけられ悪戦苦闘する父親だ。本音で生きる家庭の姿がここにある。

文章は軽快なタッチでユーモアに富み、読みやすい。

（女子パウロ会　一、一〇〇円）

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
石　石　他
理　影　の
大　御　そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

司教日程（六月）

3日　司祭・助祭候補者認可式（大神学院）
7日　「聖母年」の開始
　　堅信式（武蔵ケ丘）
8～13日　司教定例会議（東京）
14日　堅信式（若松）
16日　司祭評議会
21日　堅信式（佐賀）
29日　霊名の祝い

福岡黙想の家

1～5日　鹿児島教区・那覇教区・大分教区司祭の黙想会
6～7日　レジオ・マリエの黙想会
13～14日　宇部教会婦人会の黙想会
21日　地区婦人会の黙想会
※個人黙想は随時受け付けます。

教区人事

△ヤングキャンプ　手取（大分）
△赤倉稔　笹丘（名古屋）
△春山勝美　高宮（長野）
△棚町健之助　東京（泰星）

ヤングキャンプ師

赤倉　稔師

春山　勝美師

福岡地区婦人会 黙想会案内

福岡地区婦人会の皆さま、日本カトリック婦人団体連盟総会の開催に際しましては、多大なご協力をありがとうございました。

この度は、左記の要領で静かな祈りの一日を持ちたいと思いご案内申し上げます。日曜日ですので、日頃お勤めの方も是非ご参加ください。

日　時　6月21日（日）
　　午前10時～午後4時
場　所　福岡黙想の家
会　費　千円（昼食共）
詳細は、各教会婦人会長まで

教区墓地委員会からのお願いとお知らせ

教区墓地、納骨堂清掃
7月26日（日）午後1時30分
10月18日（日）午後1時30分
※清掃にご協力ください。

死者のためのミサ
8月15日（土）午後2時
11月1日（日）午後2時

納骨堂開放日
8月13日（木）
14日（金）
15日（土）
午前11時から午後3時

MEウィークエンド
ご夫婦へのご招待

マリッジエンカウンター（ME）は、今日の世界において、結婚をより豊かなものにする、最も有効でダイナミックな体験です。だから、参加した夫婦はみな一人でも多くの人々に、この週末の集い（ヴィークエンド）に出てほしいと願っています。

今年は下記のように開催されます。

日　時：7月24日から26日まで
場　所：福岡黙想の家

申し込み、お問い合わせは、下記へ
鈴木神父・黙想の家（092―871―7108）
深堀純・邦枝（092―801―5351）

A・A九州地域ラウンド・アップご案内

A・Aラウンド・アップと呼ばれる、アルコール依存症者のための集会が7月18日から開かれる。

この集会は、各地の行政機関（各県衛生課）、専門分野の協力を得て10年前より定期的に開催され、今回九州地区では初めての開催である。集会の目的は、さまざまな段階にある依存症者が、各地から集まりミーティングや、いろいろの催しを通して深い交流が交わされ、そこで自分の病気に対する自認、つまり病識と回復と成長の希望を持つことにあるとされている。

日　時　7月18日(土)から20日(月)まで
場　所　熊本県高森町中島南阿蘇国民休暇村
参加費　三〇〇〇円
宿泊費　一泊（2食付き）で六二〇〇円
なお19日昼食代五〇〇円別途
対象者　本人、家族、関係者
申し込み締め切り　6月15日
申し込み・問い合わせ先
大黒　努（長崎市）
☎ 0958-24-8480

いぶき

キリストを生きる

山内清海

重兼芳子著、『闇をてらす足おと』――岩下壮一と神山復生病院物語――（春秋社）に刺激されて、久しく本棚に置きざりだった、岩下壮一全集の全巻を読みおえたわたしは、かれの並外れた頭脳に堆積された学問と知識、司祭としての素晴らしい生き方に、あらためて、表現できない程の感動を覚えました。

わたしが岩下師の著書にはじめて接したのは、大神学院で哲学の勉強を始めたころだったと記憶します。そのころのわたしは、師の名著である『中世哲学思想史研究』や、『信仰の遺産』、それに『カトリックの信仰』など、高い水準の学問的著作よりもむしろ、かれの著書のなかではあまり知られていない、『キリストに倣いて』に深い感銘を受け、繰り返し読んだ記憶があります。

その『キリストに倣いて』に集録されている追悼文『戸塚文卿を憶う』、のなかで師は、フランスの詩人ミュッセの、「偉人とは如何なる人ぞ、若き日の夢を年老いて実現せる人をこそ……」という言葉を引用しながら、親友戸塚師の業績を称えています。

この言葉が、そっくりそのまま、岩下師にもあてはまることは、いうまでもありません。

わたしは『闇をてらす足おと』を読むまで、岩下師の若き日からの「夢」とは、かれ自身がたびたび主張していたように、「カトリック哲学に市民権を与える」ことだ、とばかり考えていました。

しかし今わたしは、師が生涯をかけて求めた「若き日の夢」とは、結局最終的には、より完全に「キリストを模倣する」ことだったにちがいない、と確信しています。

「主イエズス・キリスト、主は病める者、悩める者を特に愛し、これを慰め、いやし給いしにより、我其の御後を慕い、ここに病人の快復、憂人の慰めたる聖母マリアの御助けによりて、我身を病者への奉仕に捧げ奉る。ねがわくばこの決心を祝し、末ながくこの病院に働く恵みを与え給え」。

これは、小林珍雄氏が、その著書『岩下神父の生涯』（中央出版社）のなかで、復生病院長時代の、岩下師自筆の祈り文として、写真版で紹介しているものですが、おそらく師が毎日唱えていたであろうこの短な祈り文の中に、かれの生き方を理解するための鍵が、みごとに表現されている、といえるでしょう。

岩下師が、まさに生涯をかけて求め続けたもの、それは、徹底的にキリストを模倣することだったのです。だからこそかれは、約束された東大哲学教授の席も、大きく開かれていた実業家、あるいは外交官としてのまさに洋々たる未来もかなぐり捨てて、第二のキリストである司祭としての生き方を選ぶのです。しかし、司祭としての生き方をさらに徹底させたいと願うかれは、当時では不治の病として、人々にもっとも嫌われ、卑しめられていたライ患者たちの友、あるいは「おやじ」として生きる決心をします。それは師が、神でありながら、人々を救うために自ら貧しい人間となって、十字架上で死去されたキリストを模倣するためには、ライ患者のためにその生涯を捧げ尽くすことが、最上の方法だ、と考えたからにちがいありません。

岩下師の生き方は、真に価値ある生き方を求めながらも、しばしば、現世的で物質的な善や自己満足の虜となり、そのために不安と苛立ちの渦の中で苦悩する弱いわたしたちに、キリストを生きることの大切さを強く訴えている、といえます。「わたしは世の光である。わたしに従う者はけっして闇の中を歩くことはない」、と仰せられたキリストは、「まず神の国とその義を求めなさい」とも、はっきりと教え、諭しておられるからです。

（サン・スルピス会司祭　大神学院教授）

献金報告

司教叙階25周年祝儀
九、一一五、六〇〇円

聖地献金
七六五、四三七円

カリタス・ジャパン献金
一、六八九、四八六円

ご協力ありがとうございました。

編集室から

バチカン大使の教区公式訪問中に、平田司教様の司教叙階25周年が祝われたが、「贈り物の中に『霊的花束』がなかったのが残念」という声。「霊的花束などもうはやらない」「偽善的だ」などという方もいるが、純粋な「地の民の声」も大切にしたい。

ところで、5月の「広報一日研修会」には多数の方にご参加いただいたが、小教区で地道な広報活動をつづけている皆さまに敬意を表すると共に、これからもっと連繋を強めていきたいと思った。

教会における女性の役割を考えるとき、広報活動をとおして女性がオピニオンリーダーとしての役割を果たされるよう期待している。（W）

訂正

5月号2面で紹介した小神学生村上幹雄君は、上村幹雄君のあやまりでした。

「カトリック新聞」を読みましょう

全国版「カトリック新聞」は、日本と世界の教会の動きを伝える新聞です。

司祭のための勉強会
現代の宗教と若者

現代の若者はどんな宗教にひかれるのか。
若者をひきつける現代の宗教の魅力と魔力。

日　時：6月22日（月）
　　10:30-15:00
場　所：司教館新館5階
主　催：教区青少年担当司祭団
問合せ先：川上神父（大名町）
☎ 092-741-3687

のときのことのは

森山　敬三

まことや我は石のごと
影の如くは生きてきぬ……

中原　中也

『山羊の歌』に所収。修羅街輓歌Ⅰ～Ⅳのうち、Ⅳの一節である。

彼はシュール・レアリズムの詩から出発したが、その全詩集の中には、あっと思うほどの、きらめくばかりのものが、ちりばめられている。「生い立ちの歌」「汚れっちまった悲しみに……」「冬の長門峡」など。意あまって言葉がついていけないという感がする。

河上徹太郎は、やはりこの修羅街輓歌のⅢの一節、「もはや工夫を凝らす余地もないなら……心よ／謙抑にして神恵を待てよ。一の二行を、カトリック的静謐の溢れたものであると評している。

彼の祖母は、山口でビリヨン神父さまから受洗した熱心な信者であり、その環境は彼に多大の影響を与えた。

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

信頼に誠意と技術でこたえる
株式会社　藤木工務店
取締役社長　藤木鐵三
福岡支店長　藤倉良夫
福岡支店　福岡市博多区博多駅南4-18-2　電（092)441-6585

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL092-521-0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42319
定価一部60円

聖母に倣って生きる

「マリアの年」はキリスト生誕二千年の準備のとき

教皇ヨハネ・パウロ二世が去る3月25日に発表した回勅「レデンプトリス・マーテル」で予告していた「マリアの年」が、6月7日の聖霊降臨をもって開始された。この「マリアの年」は来年8月15日の聖母被昇天で閉じられるが、教皇は全教会が聖母とともにキリスト生誕二千年にむかって準備をはじめるようにと呼びかけている。

そのためにも教皇は「マリアの年」にあたって第二バチカン公会議の文書を読み直し、教会と聖母マリアについての理解を深め、日々の生活のなかでマリアを生きるように促している。

一方、教皇庁に設置された「マリアの年中央委員会」はマリアの年の目標として3点を強調している。①キリスト生誕二千年祭に向けて、具体的な「愛の実践」を強化すること。②キリスト教一致運動はキリストのお望みであるから、聖母にならって主のお望みに応えること。③聖母マリアが果たした独自の使命を思い、キリストと教会の秘義におけるマリアの存在をより強く認識しつつ、マリアへの崇敬を高めること。

教皇は回勅のなかで、13年後にキリスト生誕二千年を迎えようとしている今、聖母マリアとともにその準備を始めること、そのために聖母とともにキリスト生誕二千年を準備するのはふさわしい理解と信心を深めるように求めている。「主キリストの誕生を準備したマリアは、聖霊降臨のとき、すなわち教会の始まりのときも、弟子たちとともにあった。そして今、聖母は旅する神の民、教会の道しるべ、希望、なぐさめであるので、聖母とともにキリスト生誕二千年を準備するのはふさわしい」。

さらに、典礼省は、教会のなかに常に現存される聖母マリアと一致しつつ、聖母にならって信仰、希望、愛を生きることによって「マリアの年」を過ごすようにと「マリアの年の祝い方の指針と提案」という小冊子を出した。そのなかにはたとえば、①キリストの生涯の救いのできごとを黙想させるロザリオの祈りを頻繁に唱えること。②教義的に妥当なマリア信心であること。③聖母のご像は表敬の対象となって然るべきであること、などさまざまな具体的指針、提案がある。

平田司教の談話

福岡教区民も、教皇様のご意向にそって「マリアの年」を過ごしていただきたい。その本質的な使命は宣教ですよ、と示してくださっているのであります。

第二バチカン公会議以来、信徒使徒職とか、一般信徒の宣教、社会の福音化に対しての動きが活発になってきました。皆さまがたの集まりも、その一つの証左だろうと思います。

洗礼において、私たちが頂いた、死から生命への過ぎ越し、救いの喜び、信仰の喜びについて、認識を深めてください。持っていないものは、分け与えることができません。信仰の喜びをもって、世間の人々と交わることが、社会の福音化につながることと思います。

今月のみことば

あなたは行って
神の国を
宣べ伝えなさい
（ルカ9・60）
鳥栖　マグリン神父

ナイス'87

女性の力を結集した
社会の福音化は緊急課題
平田司教が総会で指摘

日本カトリック婦人団体連盟第13回総会が、この福岡の地において開催されますことは、地元の司教として、非常に光栄なことでございます。

さて、私たちカトリック信者は、過去三百年にわたり、過酷な迫害を受けました。特に九州の信者は、これが心の奥底に残っており、閉ざされた共同体として生きてきたのです。

ナイス（福音宣教推進全国会議）に向けて開催された、過去二回にわたる公聴会におきましても、それをうかがい知ることができます。

そういう環境の中にあって私たちは、心の目の変革を、つまり内向きから外向きへ、世界をながめるという精神が必要なのです。そしてその手本は、私たちが敬愛してやまない教皇さまです。バチカンに閉じこもらないで、世界に宣教の旅を続ける、本当にすばらしい教皇さまです。これは、外向きになりなさい、教会の本質的な使命は宣教ですよ、と示してくださっているのであります。

第二バチカン公会議以来、信徒使徒職とか、一般信徒の宣教、社会の福音化に対しての動きが活発になってきました。皆さまがたの集まりも、その一つの証左だろうと思います。

洗礼において、私たちが頂いた、死から生命への過ぎ越し、救いの喜び、信仰の喜びについて、認識を深めてください。持っていないものは、分け与えることができません。信仰の喜びをもって、世間の人々と交わることが、社会の福音化につながることと思います。

日本カトリック婦人団体連盟第13回総会を福岡で開催
テーマ 婦人信徒による社会の福音化

日本カトリック婦人団体連盟は、昭和49年に創立され現在、浦和教区の島本要司教を顧問とする、カトリック婦人による全国的かつ世界的な組織である。

また、同連盟は全国民間婦人団体連絡会の代表48団体の一つとして、日本の社会に協力するものである。

5月20日（水）21日（木）の両日、福岡教区カテドラルセンターにおいて、日本カトリック婦人団体連盟の第13回総会は、札幌から沖縄まで14の教区から二百七十名の婦人が参加して盛大に行われた。

地元の準備母体である福岡地区婦人会では、九州初の同総会を成功させるべく、昨年10月より再三会合を持ち、全国からの参加者に対する、その気配りは細にとんだものだった。

当日、早朝よりの受付は、市内各小教区の婦人たちが、「どんな時も、笑顔で挨拶しましょう」と申し合わせ、殺到する窓口に「おはようございます」という明るい声がいつも聞こえていた。

総会は、「しあわせな人」の典礼聖歌で始まり、次いで世界の平和に貢献し、一致のあかしを示すものとして「世界カトリック婦人団体連盟共同の祈り」が捧げられた。

引き続いて、テーマ「婦人信徒による社会の福音化」について平田三郎司教の基調講演が行われた。

「司教職25周年を迎えた、この老骨の司教に、このようにいかめしいタイトルの話を頼まれまして、非常に困り、仮病にでもなろうかと思いましたけど……」と話し出した司教の言葉に、会場から拍手と笑い声が上がり、なごやかな講演となった。

講演の中で司教は、まず「福音宣教を考える時、過去の反省も必要である」として過去三百年に渡る迫害の歴史と、戦中、戦後における差別などの痛みから来る閉ざされた心の解放を訴えた。

また、婦人信徒の宣教として女性が頂いているカリスマを考えてほしい。福音宣教には信仰の喜び、愛、赦し合う心が必要だが、このような福音化に必要な価値観を最初に体験するのは家庭である。福音化された家庭の輪がだんだん広がっていく、これが社会の福音化ではないか、と話し、「この集会が日本の宣教のために少しでも前進して素晴しい実りをあげるよう、神さまに祈ります」と結んだ。

二日目は、島本、平田両司教、福岡地区婦人会の堤要吉指導司祭、長崎連合婦人会の川添猛師、大名町教会主任の青木保師の共同司式で感謝のミサが行われた。説教で島本司教は「愛と喜び」について語った。（内容は三面に連載）

ミサ後、10グループに別れて分散会を持った。

各グループとも、この社会の中にあって、信仰を生きる婦人信徒らしい体験からくる喜び、悲しみ　苦しみの切々たる訴えに、皆、共感した。

この分散会で、地方から都会に子供を送り出している親たちから、都会での子供の生活の心配が出されたが、受け入れ側から、「早速、参加者名簿を利用して、移転先の教会の婦人会へ連絡をください」という話し合いになったのは、母親たちの集りであることを印象深くした。

散会して行く会場ロビーで「九州の信仰を見ました。勇気づけられて帰ります」の声に地元の婦人の顔が和んだ。

開会の挨拶をする浜口美智子会長

熱のこもった全体会

分散会場風景

大水幸一神学生の認可式

6月3日（水）福岡サン・スルピス大神学院で、6名の司祭、助祭候補者認可式が行われ、大水幸一神学生（新田原教会）も認可された。平田司教司式で、4名の司教、45名の司祭、百名近くの父兄で聖堂はいっぱいになり、今までにない荘厳な式となった。

認可式を終えた大水神学生は、「ここまでこれたのは神様の恵みと共に、皆さんのおかげです。これからも、苦しみを分かち合える司祭を目指して頑張りたい」と抱負を語っていた。

教区人事

△松井忠之　福岡小神学校校長（同校補佐）
△クラウジオ・ガザルディ　多久主任兼伊万里主任代行（休暇）

時の話題

永島洋三

「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です。この広島ほど、強烈にこの真理を世界に訴える場所は、他にありません。……」

広報の日をむかえるたびに、六年前の広島でのヨハネ・パウロ二世教皇の、この「平和アピール」を私は思い出す。

このアピールは、即時にテレビ、ラジオ等のあらゆるマスメディアを通じて、全世界に流され、世界中の人々の共感をよんだ。

一つのアピールが、九カ国語で同時になされたのは、それまで例がなかったといわれ、それほど世界中の人々に強烈に訴え、かつ受け入れられた平和メッセージであった。

教会とマスコミ

あれ以来、新聞、放送等のマスコミ各社は、カトリック教会にさまざまなコメントを求めるようになった。

特に人間の尊厳に関するニュースや記事、あるいは人権、倫理といった記事に関しては、教会の考え方を取材して、読者や視聴者に訴えるようになった。

これらの取材の要請に対し、教会は慣れていないためか、ちゅうちょする傾向にあるが、誠実に対応してほしいとマスコミ側は希望している。自分が答える立場にない時は、どこに連絡をとればいいのか明確に答えてほしいともいう。

人びとは良くも悪くも、マスメディアの情報の渦の中で暮らしている。

昨年のNHKの調査では「だれでもマスメディアによって、社会の動きを早く正確に知ることができるようになった」（69％）とか「必要な情報が簡単に得られるようになった」（68％）と感じている。

更に「同じことでも、人から聞くよりもマスコミで見聞きしたほうが信用できる」（63％）など、人びとの暮らしや考え方に、マスメディアは深くかかわってきた。

開かれた教会をめざし、社会の中で、教会が共に生きようとするならば、教会はマスコミとの共存を考え、マスコミを利用してほしい。

テレビ西日本　広報部長
（西新教会所属）

みちくさ

朝日新聞（5月29日付）読者の『声』の欄で、柏崎市の僧侶官親房さんの投稿を読み、ひさしぶりにさわやかな衝撃をおぼえた▼官さんは、親鸞を描いた三国連太郎監督の映画「白い道」の感想を映画批評としてではなく、自身の僧侶としての生き方との対比のなかで書いておられる▼「ぬくぬくとはいわないが、『壇家制度』のなかで生活し（仏飯を頂いて）、あそこはお布施がいいとか、ここはケチだとか評価し、自分の心が吝嗇（りんしょく）であることを恥じない。親鸞は虐げられた民衆のために平等の信仰を願い、己の生命を賭（と）して権力に向かっていった。そのエネルギーは今の坊主にはない」という。そして「映画の最後に、キンキラリンの七条けさが宙に舞う場面はケッサクだ。金襴衣（きんらんえ）を掛けるのは無用な貧しい〝骸骨（がいこつ）〟を隠すためにすぎぬ」と結んでいる▼この痛烈な自己批判を、カトリックの神父として私は厳粛に受けとめている。僧侶としての官さんの自戒は、ことばをいれかえれば自分のことにもなりかねないからだ▼「ぬくぬくとはいわないが、『小教区制度』のなかで生活し（教会維持費を頂いて）、あそこはミサ謝礼、結婚式、葬式の御礼がいいとか、低いとか評価して」いないだろうか。「イエズスは、虐げられ、蔑（さげす）まれた民衆の真の救いを願い、己の生命までも捧げた。そのエネルギーが今の神父にある」のだろうか。「なんのために自分の持ち物、住まう場所のために金をかけ、なんのためにすばらしく立派な祭服を身につける」のだろうか▼残念ながら、この「白い道」も同じ頃上映されていた南米でのある宣教師の苦闘を描いた「ミッション」も観ることはできなかった。しかしいつか「ミッション」を観る機会がおとずれたら、官さんのような視点で鑑賞してみたいと思った。

『聖母の騎士』編集長に聞く

コルベ神父と福音宣教

コルベ神父を語る『聖母の騎士』編集長の水浦征男神父

広報の日（5月24日）、教区報主催の「広報一日研修会」に講師として来福した水浦征男神父に、「広報」と「コルベ神父」の話をうかがった。

水浦神父は、コルベ神父と同じコンベンツアル聖フランシスコ会士で、月刊誌『聖母の騎士』の編集長でもあり、長崎県本河内の修道院に在住。

コルベ神父は当時の日本社会のなかで、貧しい身なりで、金品を恵むどころか自分が恵んでもらう生き方だったため、当時の日本の教会からは必ずしも歓迎されなかったという。（編集部）

―きょうは、広報について、それと、神父さまの修道会と関連の深い、コルベ神父さまのお話をいろいろお聞きしたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

以前に、教会の信徒は、マスコミで教会や福音がゆがんだ形で報告されるときには、訂正する義務があると聞いたことがありますけど。

水浦　世のマスメディアを浄化するというか、反教会的なものは、批判的な目で見るし、また、そういったものは利用しない、排除するような働きかけが、一般の読者、あるいは受け手としては必要だと思います。

―教会内ではどうですか。

水浦　そうですね、一つは、教会の出版物とか、番組とかを積極的にもっと盛りたてて、一般大衆に届くような形で、広げていかなければいけない。それは、たしかに難しいことなんですけどね。

―そういうマスメディアの活用による宣教で、日本でも先駆者の役割を果たされたコルベ神父さまのお話をこれからうかがいたいですが。

水浦　経歴を簡単に申し上げますと、一八八九年にポーランドで生まれましてね。家が、そう裕福でなかったもんですから、上級学校はあきらめていたんですが、たまたまある人が小学生のころのコルベ神父さまの頭が普通より優れているということに気がついて、自分が援助するから学校に行きなさいと、両親を説得してくれたんです。

それから、コンベンツアル聖フラスシスコ会の小神学校に入り大神学生にあがるころ、ローマに留学しました。

―コルベ神父さまは最初からマスコミ関係の仕事をしたいと願っていたのですか。

聖M・コルベ神父

刈取れるかどうかの心配より まず種まきに専心せよ

水浦　いいえ、そういうことは全然なかったですね。ローマにいってるころ、聖母の騎士会を創立するんですね。

なぜそういう気持ちになったかというと、神父さまの時代というのは、新しいいろんな反教会的な考え方が芽ばえてきた時代なんですね。

コルベ神父さまが目撃した一つの衝撃的な事件というのは、サン・ピエトロ広場で、秘密結社のグループが、反教会を旗じるしにしたプラカードを立てて、デモをしている光景で、それをまさに、彼は、サタンのシンボルと受けとめたんですね。

―なるほど。

水浦　それで我々はそれに対抗する運動をおこさないといけない。そこで、悪魔に対抗する力として聖母マリアを選んだんです。

―具体的に、なにをしようと思っておられたのですか。

水浦　まだ、神学生時代ですから、あまり派手なことは出来ない、ただ集まって、マリアに、自分たちの一生を奉献して、祈りながら悪と戦うということです。

卒業して、彼はポーランドに帰るんですけど、帰ってから最初に、それを広げるために、とった手段が、会報でね。それがあとで彼の発行した『聖母の騎士』の最初の活動になるわけです。

―日本にこられたのは、いつですか。

水浦　昭和五年です。

出版物を通して、一人でも多くの人に福音をというのは、もう、日本に来るときからの、彼の中心を占めている考え方だったですね。

―印刷機械はどうしたんですか。

水浦　当時、長崎教区では、『長崎カトリック教報』が、すでにあったんです。そして、その教報を刷っている印刷所に頼んで、創刊号は、そのカトリック教報の付録として出してもらったんですね。

彼が長崎に上陸して、一カ月目なんです。最初の頃は、ほとんど予約購読者もいないわけですから、修道士たちが手分けをして長崎の街頭に出て、人が集まりそうな所で配ったというんです。

―そういうのを、みんな喜んで読んでいたんですか。

水浦　いや、そうじゃないと思いますね。ほとんどの人が、もらってもすぐ、こう…

―ゴミ箱に…

水浦　道ばたに捨てたり、最初はなかなか読んでもらえなかったようですね。でも、なかにはその捨てられたものを読んで（笑い）読みたいといってきたとか。

―まけばよろしい。

水浦　そうそう。コルベ神父さまの考え方というのは、とにかく自分に出来るだけの努力をして、後はマリアさまとか神さまにおまかせする…。

その当時としては、今みたいに大量印刷というのは、難しい時代だったと思うのですけど、一番多く刷ったのが、月に6万5千部。

―すごいですね。

水浦　今、我々はたった4万しか出していないんです。大変だったと思いますね。

―コルベ神父さまは日本では、もっぱら『聖母の騎士』という雑誌にだけ携わっておられたんですか。

水浦　そうです。彼は、印刷の許可を得るために、当時大浦にあった長崎教区の神学校で、哲学教授をつとめているんですが、それ以外はもっぱら『聖母の騎士』の印刷、発行に没頭していました。

―しかしそのころから、聖人としてのなにかありましたか。そう、風格というか…。

水浦　当時を知っている人は、そういっています。おだやかで、大浦の神学校まで神父さまは本河内から歩いて行ってたんだそうです。一銭でも『騎士』のために、という意向で…。

―日本を離れられたのは…

水浦　一九三六年、昭和十一年の五月です。

―それは病気かなんかで。

水浦　第二次大戦のちょっと前です。病気じゃなくて会議があったんです。コルベ神父さまもポーランドの管区のメンバーですから、日本を代表して帰ったんですね。

そのときに人事の選挙があって、彼は創設したポーランドの聖母の騎士修道院の院長に任命されたんです。それで、もう日本に帰ることができなかったのです。そのままとどまって、一九三九年、ナチスがポーランドに侵入したとき、まもなく捕えられて、収容所に送られました。

―捕えられた直接の原因というのはなんですか。

水浦　当時は思想犯のひとりでしたね。出版物を出したり、一般大衆に対して影響力があったでしょう。

―コルベ神父さまが、もしいま日本にいるならば、福音宣教について、どういうことを言われるでしょうか。

水浦　そうですね、コルベ神父さまも、いま生きていたら『聖母の騎士』で終わってないと思うんですね。おそらくもっと、効果のあがるマスメディアを積極的に利用したんじゃないかと思うんです。

―結論としていえることは、コルベ神父さまがもってた情熱を我々が、持つこと。彼の時代を考えれば、我々の苦労というのは、まだまだ少ないんじゃないかと思いますね。

やってみてだめだった時は、神さまとの対話ができ、そこから糧をいただけるのではないでしょうか。

―久留米教会）

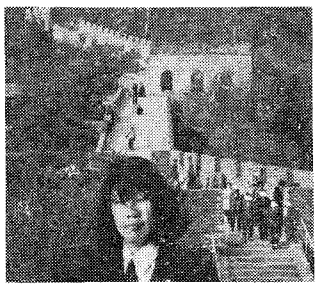
青年の船体験記（上）

ゆとりの中国から学ぶ

角　洋子

中国大陸に足を踏み入れた私は、感激で胸がいっぱいでした。天津港では、現地の少年少女たちが踊りと楽器で迎えてくれました。私たち一行は北京へと向かいながら、中国の方々の暖かい眼差しを感じました。

中国の踏切には、人や自転車が激しく往来する大きな道路でさえも遮断機がありません。事故が起これば、事故を起こした人の責任で、責任逃れはできません。一人ひとりが、つねに気をつけ、責任をもって行動しています。


万里の長城にて

日本で、事故が起きた場合、遮断機があればよかったとか、故障していたから、といって責任逃れをする人もいます。もし、遮断機が故障していたとしても、右左を確認していれば、事故が起こらなかったはずです。日本人がいかに責任を放棄しているかということに気がつきました。

全長六千キロといわれる万里の長城を訪ねたとき、雄大な自然の中に、今も息づく歴史の深さに強く感銘を受けました。ここでは、ゆっくりと時が流れています。近代化されてきているといわれますが、日本に比べると、まだまだといった状態です。しかし、中国の人たちは、明るく、素朴で、物質的なものにとらわれず、日々を大切に生活しています。広大な土地があり、人材もあり、いくらでも近代化の道をたどることができるのですが、決して急ごうとはしないのです。着実に一歩一歩進んでいこうとしています。

いかに私たちが物にとらわれ、目先のことしか考えないで、近代化を進めてきたことか――つくづく考えさせられました。今の物質的な生活を反省する必要があるのではないでしょうか。本当の意味でのゆとりを持たなければならないと思います。ゆとりを持てた時、神さまとの対話ができ、そこから糧をいただけるのではないでしょうか。

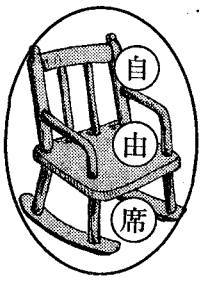
（久留米教会）

中央出版　福岡支部
▨キリスト教関係、書籍、家庭の友
▨典礼聖具
▨ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL 092-531-0899

きぼうの電話　―喜ぶ人とともに喜び 泣く人とともに泣く―
(092) 865―1212
相談：生き方，家庭，学業，仕事，恋愛，宗教
時間：月・水・金曜日午前11時～午後4時
午後8時～午後10時
相談時間外テレホンサービス
カトリック　福岡黙想の家
〒814-01 福岡市城南区西片江1-17-63

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡 (712) 8022　久留米 (33) 7401
佐賀 ((30) 4040　小郡 (72) 3482



宣教は笑顔から

小川　みちる

「おはようございます」

「おはようございます」5月20、21日の朝、会場のロビーで、北海道から沖縄までの全国からいらした方々と、お迎えする福岡の方々との間で交わされた、ほんのひと言の挨拶でした。

お互いに初対面だったと思うのですが、そのひと言で、心が和み一日の喜びが想像できるようでした。

それは、イエズスさまという大きな木に結ばれているという、キリスト者の安心感であったと思います。

「おはようございます」をロボットに言われていたらどうだったでしょうか。笑顔は、準備する物もありませんし、お金も必要としません。誰でも、いつでもどこでもすぐできます。でも自分の心が喜びを感じていなければなりませんから、本当に心からの笑顔は難しいです。

年齢も環境も経験も、皆それぞれ違いました。でも心から分かち合いができ、お互いに感激できたことは、それだけ皆が安心して心を開ける場であった、すなわち一つに結ばれている共同体であったということだと思います。外へ向かってはどうでしょうか。笑顔は「一人でもできる福音宣教」の一つと思います。

他者のための祈りを一日一回したら良いと聞きました。これも今からすぐできることです。

「内に向かっては、祈り、外へ向かっては、心からの喜びを表わそう」参加できたことに感謝しています。

（笹丘教会）

「分かち合いの集い」より

島本　隆芳

開かれた教会づくりの一貫として6月7日健軍教会では、第二ミサ後「分かち合いの集い」がありました。

参加者38名が6グループに分かれて信仰を日々の生活にどう生かしているかという大きなテーマに取り組みました。

初めは重かったみんなの口も、時間と共にあれもこれもと喜び苦しみ悩みが数多く出されました。その中から皆さんにも考えていただきたいことをいくつかとりあげてみました。

一、信者同士では気軽に話ができるのに、未洗者の方とは信仰について気軽に語り合えない。

二、仕事の関係で家族一同みんなそろって日曜日のミサにあずかれない。

三、学校でのクラブ活動との両立が難しい。部活をおろそかにすると仲間はずれにされる。

四、仕事の関係で家族そろってお祈りする時間がもてなくなった。

五、参加者共通の声として、今回参加できなかった皆さんに、次回はぜひ語り合おうと呼びかけたい。

何回も重ねるうちに、もっと具体的実行力のともなった結論が出るのではと次回を期待しております。

（健軍教会）

水浦　そう！ファイトだけはいうか…

―貴重なお話をありがとうございました。

開かれた教会への第一歩

対話はナイスへの具体的参画

北九州地区修道女連盟が集会

教区修道女連盟（会長Sr.会田俊子　援助修道会）は第一回ナイス（福音宣教推進全国会議）に向けて修道女の意見をとりまとめる集まりを、6月14日、小倉教会でひらいた。

集会はこれまで熊本、福岡、佐賀の各地区で行われてきた同様の集まりの最後のもので北九州地区の各修道院から代表18名とナイスの代表者Sr.安田智恵子（女子パウロ会）、Sr.富山憲子（ウルスラ会）が参加し、渡辺隆義師（小郡教会）の導入の話のあと、各々の事業体や小教区の福音宣教の現場での具体的実践や問題点が分かち合われた。

老人ホームの現場から

ホームのあり方として、弱い人を優先する姿勢で、皆がその人のことを心にとめている。お年寄りたちのこれまでの人生を大切にしながら、修道院共同体の仲間が分担してお年寄りたちに福音を語っている。語ることが自分の信仰の見直しにも役立っている。

病院の現場から

家族からみはなされたり、自己表現できない人の立場に立って考えるようにしている。重病の人に死の準備を福音的にさせる人の養成が課題となっている。

幼稚園の現場から

お母さん方と祈りの集いをもっている。

子供たちとの現場から

子供たちの話を聞いてあげる役割に徹している。

その他

プロテスタントの方々とのエキュメニカルな集いである朝禱会で話をして喜ばれたこと。老人たちの使徒職の会をつくって、お祈りの会をもったり、病人や小さな人たちのための活動をしている、などの事例が報告された。

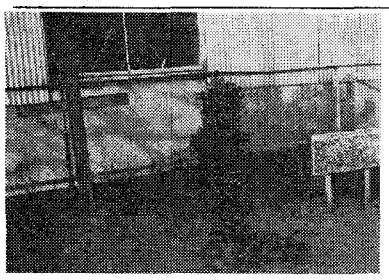
各分散会では「一人ひとりとの出会いを大切にしていく、声かけを大切にすること」などが確認されたが、「観想修道会の祈りによって、自分たちの活動が支えられています」との声も聞かれた。

一方、ナイスの課題については、上からの押し付けと感じるという声に、自分たちの意見も反映されていると思うという人もあった。そのなかで「どうしても私たちは教会の呼びかけを研究の対象としてとらえてしまう傾向が強い」との反省もあった。

会長Sr.会田の話　ナイスに向けての意識化、さらには超修道会的つながりにも役立ったと思います。この意味で、私たちもナイスに参画しているといえるのではないでしょうか。文書だけでは理解することが困難なことも、互いに心を開いて話し合うことによって、自分たちの進むべき方向も見えてくると思います。

殉教者ジョアン・又右衛門の記念碑建設の呼びかけ

堤敏雄神父



ジョアン・又右衛門殉教地（本郷流川）
（平田政芳氏の教区への寄贈地）

本郷教会

本郷教会では、郷土が生んだ殉教者ジョアン・又右衛門の記念碑を建設することになり、建設委員会を中心に、準備が進められている。

ジョアン・又右衛門は、苛酷なキリシタン禁教令の中で、伊達政宗の奥州藩から追放され、とくに今村、本郷を中心に信者村人たちをひそかに教え導き、周辺地方にも大きな感化を与え、ついに本郷流川で磔刑に処せられた殉教者である。

「ハタモン場」と呼ばれてきたこの地は、信仰の灯を伝えてきた殉教の地である。

本郷教会の堤敏雄神父は、次のように語っている。

「この殉教地を後代までたいせつに伝えるために、建設に向けて殉教者のPRをかねた募金運動をはじめています。私たちの趣旨にご賛同くださり、建設募金にご協力をお願いします。」

問い合わせ先
☎0942—77—0011
殉教記念碑建設委員会
（本郷教会）

第13回日本カトリック婦人団体連盟総会から

愛と喜びについて (1)

島本要司教

愛について語るイエズスの言葉は、私たち一人ひとりに対するイエズスの愛の告白という言葉で表現されます。「父が私を愛したように、私もあなたたちを愛して来た。私の愛に包まれて、いつも生きなさい。」

このイエズスの愛の訴え愛の言葉を、人をだますことを知らないイエズスの心に溢れる切実なる愛の言葉として、私たちはそれを聴き、それを信じ、それを受け入れなければなりません。イエズスの愛を頂き、その愛に自分の全存在を委ねる時、キリスト者の信仰が成り立ちます。

私たちキリスト者の信仰は「神さまの愛を信じること、イエズス・キリストの愛を信じること」です。言葉を変えて言うならば、「私は神さまに愛されている、イエズス・キリストに大事にされている」という、その確信をもって私たちの日々の生活を力強く、明るく、希望に燃えて生きていく、そこに私たちの信仰の真髄があります。

このイエズスの愛の告白を聴いてまず、私たちの信仰を見直したいと思います。もしかしたら私の信仰は、天主の十戒という掟を中心とした裁きの神に対する信仰になってはいないでしょうか。それが間違っているとは申しませんが、その神は「恐怖の神」となってしまいます。

そして私たちキリスト者の信仰も暗い、恐れの信仰となってしまうのではないかと思います。私たちは当然キリスト者として、掟を守らなければなりません。イエズスご自身もそのことをはっきりと教えておられます。「私が父の掟を守ってその愛に留まるように、あなた方も私の掟を守るならば、私の愛に留まるであろう」というお言葉をもって、掟を守ることの大切さを強調しています。

しかし掟を守らなければ地獄に落とされると言う恐怖心から掟を守るならば、私たちの信仰は、守らなければ仕方がないという重荷の信仰を、一生涯生きて行くはめになると思います。でも、私を愛してくださる神を喜ばせよう、その神の望まれることを、何でもできるだけ忠実に果たそうという愛の心で掟を守るならば、その信仰はきわめて明るく、イエズスの掟の実践も力強い、喜びに満ちたものとなります。

私たちの信仰の根本は、「私は、神に愛されているキリストに大切にされている」という信仰に徹することだと思います。

準備

山元神父の ワンポイント教会法

司祭や修道者になるためには、相当ながい間準備をするのに、人生の一大事である結婚のためには、それ相当の準備がなされていないように思われます。「離婚」の危機を乗り越えるためにも、結婚の準備をしっかりとしておく必要があるでしょう。

婚姻に関する規定の中に（一〇六三条以下）「司牧的配慮および婚姻の挙式前に行われるべきことがら」として、いくつかの項目があります。ここで最も大切なのは、司牧者が「（キリスト者同士の）婚姻の意義および（キリスト教徒たる）夫婦ならびに両親の任務について福音にそって説明し、信仰教育を行うこと」です。ほとんどの小教区では、それぞれの状況に応じて、「結婚準備講座」が設けられ、この教会の要求に従っているかもしれません。しかし、その内容についてはいろいろと見直すべき点があると思います。信者同士、信者と未洗者、未洗者同士と、いろいろなカップルが教会に結婚式を求めてやってきます。信者の場合、堅信以来（たまには初聖体以来）ずっと教会に来ていなくて、結婚式のために久しぶりに来られる人もいます。このような場合は、単に「公教要理」の復習をするのではなく、十分時間をかけて「生き方」の問題としてのキリスト教（福音）を見直す必要があると思います。

また、未洗者と結婚する場合、信者側が相手に受洗することを求める習慣（？）がありますが、このことに関しては慎重でなければなりません。親が信者同士の結婚を強く望むあまり、「受洗しないと結婚させない」といって結婚に反対し、相手方にむりやり（たとえそのときは受け入れても）受洗させるのは、後にその結婚を崩壊させる要因になりかねません。

（小倉教会）

老司教会で聖体行列

福岡

第一回福音宣教推進全国会議が開催される年にあたり、老司教会（主任竹森勇神父）では、「福音宣教のあり方」について、昨年から再三にわたって話し合いがなされ、まず私たちの信仰の基本である「ご聖体」と「聖母」に対する信心を大切にしようと、いうことになった。

「マリアの年」の行事は、10月に「聖母大会」を実施することにし、6月21日のご聖体の祝日に、聖体行列をおこなった。9時半のミサにひきつづいて、主任司祭の奉持するご聖体を侍者、子供、花まき少女が囲んで、そのあとに約二百名の信徒が行列をして、ご聖体に対する礼拝、賛歌、感謝をささげた。

病床の信仰歌人が「歌集」の再版を計画

荒木ミヨ

熊本県菊池郡の国立療養所再春荘で療養中の、カトリック信者で歌人の荒木ミヨさん（73歳）は昭和53年1月に同人たちの支援で、歌集「四旬節」を出している。

昭和28年に病床で受洗した荒木さんは、現在、40年来のリューマチの悪化による苦しみのなかでも歌人としての心を失っていない。

荒木さんは、「一般の雑誌に信仰の歌をのせて、理解していただくことは難しいことでしたが信者でない歌の仲間にも〝歌の心は祈りの心〟という自分の信念をわかっていただいたことがうれしい。今でも、身体の調子がいいときに少しずつ書きためています」と語っている。

また荒木さんの歌集を読んで感動したという菊池教会の松本たか子さんは「荒木ミヨさんの信仰の歌をぜひ日本の信者の皆さんに知ってもらいたい。信者の皆さんの協力で歌集の再版を」とスポンサーを探している。

問合せ先　熊本県菊池市隈府一五三〇—一七　松本たか子

BOOK 読みま専科

☆開かれた教会づくりをめざして—宣教日記—
森一弘著

日本の教会の成長のためには、自分たちの耳と目と心で福音を、そして生活と社会をみつめ、そこで信仰を育て、教会を刷新していこうとするのでなければ、日本人に魅力のある教会が育つはずがない。福音宣教の旗印をかかげて進み出した日本の教会が、今なすべきことは何なのか。東京教区の補佐司教として、宣教と司牧にあたる著者が、日々の体験を通して綴る宣教日記。

（中央出版社　九八〇円）

☆神のいぶき
J・A・マローニィ著
木鎌安雄訳
古屋功監修

本書は東方教会の霊性の研究家として知られるイエズス会士ジョージ・A・マローニィ神父の著作で、原題は『神秘家の息吹』であるが、日本語版では『神のいぶき』となっている。

著者は、現代の私たちに自分の存在の最奥の核である「心の中に入って見るように」そして神を見いだそうとする勇気があるだろうか。と問いかけながら息は神が人間に与えたもっとも大切な賜物である」と述べている。

（あかし書房　二、二〇〇円）

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 他
理 影 の
大 御 そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

司教日程（七月）

5日　帯山ルルド祝別式
31日　ウルスラ修道院（修練院）落成式

福岡黙想の家

4～5日　CLC黙想会
11～12日　ヤング地区会
20～22日　雙葉学園高校生黙想会
22～23日　雙葉学園小学6年生黙想会
24～26日　マリッジ・エンカウンター
27～30日　イエズス村

教区青年体育祭

日時　10月4日（日）
会場　熊本天使園
問い合わせ　深堀勝人神父
☎09302-2-0807
松隈　覚（飯塚）
☎0948-42-4059

MEウィークエンド
ご夫婦へのご招待

マリッジエンカウンター（ME）は、今日の世界において、結婚をより豊かなものにする、最も有効でダイナミックな体験です。だから、参加した夫婦はみな一人でも多くの人々に、この週末の集い（ウィークエンド）に出てほしいと願っています。

今年は下記のように開催されます。

日　時：7月24日から26日まで
場　所：福岡黙想の家

申し込み、お問い合わせは、下記へ
鈴木神父・黙想の家（092―871―7108）
深堀純・邦枝（092―801―5351）

62年度第三回 結婚セミナー日程

〈福岡地区〉
場所　福岡市中央区大名2　カテドラルセンター
8月27日(木)・8月29日(土)
9月3日(木)・9月5日(土)
9月10日(木)・9月12日(土)
9月17日(木)19時～21時15分

〈熊本地区〉
場所　熊本市上通町3―33　カトリック手取教会
9月2日(水)・9月4日(金)
9月6日(日)・9月9日(水)
9月11日(金)・9月16日(水)
9月18日(金)19時～21時15分
詳細は092-541-6207　Sr.吉永

練成会キャンプの案内

〈福岡地区〉
青年の親睦会
日時　8月1日～2日
場所　古賀教会
問い合わせ　川上神父（大名町）☎092-741-3687

高校生の練成会
日時　8月11日～13日
テーマ　Communication――キリストを知らない人と――
場所　福岡聖パウロ修道院
問い合わせ　山内神父（聖パウロ会）☎092-531-0924

〈北九州地区〉
北九州シーグ
日時　7月27日～30日
対象　小3～小6の女子
場所　古賀暁の星幼稚園
問い合わせ　中村久巳（戸畑）☎093-871-3019

北九州青年のキャンプ
日時　8月29日～30日
場所　龍王峡
問い合わせ　松隈覚（飯塚）☎0948-42-4059

〈熊本地区〉
少年少女の練成会
日時　8月11日～13日
対象　小4～中3
場所　菊池少年自然の家

講演会・集会のご案内

フィリピン・ネグロスと手をつなごう！
―「貧困・飢餓」から自立への希望の道をめざして―

話：ロメオ・エンペスタント神父
フィリピン・ネグロス島バコロド司教区司祭、BCC（キリスト教基礎共同体）委員会責任者
日　時：7月19日（日）P.M.1：30～4：00
場　所：福岡カテドラルセンター
主　催：「フィリピン・ネグロスに愛の手を」集会実行委員会
福岡地区信徒使徒職協議会・他

問い合わせ　青木神父（手取）☎096-352-3030

〈佐賀地区〉
青年の合同キャンプ
日時　7月29日～30日
場所　伊万里教会
問い合わせ　佐賀教会☎0952-23-4754

中高生の合同キャンプ
日時　8月12日～14日
対象　中学生、高校生
場所　①雷山のふもと　②呼子教会
問い合わせ　鳥栖教会☎0942-82-2282

〈修道会関係〉

いぶき

神への信頼

山内清海

「黒い土に根を張り、どぶ水を吸って、なぜきれいに咲けるのだろう。私は大ぜいの人の愛の中にいて、なぜみにくいことばかり考えるのだろう」。

今や、星野富弘の名前を知らない人はない、と思います。かれは、中学校の体育教師として赴任してわずか二カ月後、クラブ活動の指導中、宙返りに失敗して首の骨を折り、九年間の苦しい闘病生活もむなしく、手足の自由を奪われてしまいました。それでもかれは、入院中詩画に楽しみを見出し、その想いを花にたくし、筆を口にくわえて心の軌跡をつづり、それを雑誌や新聞に連載執筆しています。その一部は、『四季』『愛・深き淵より』、『風の旅』などのタイトルの美しい詩画集として出版され、多くの人々を感動させています。冒頭の詩もその一つです。

わたしはとくに、かれの詩画のほとんどが、さりげなく、道端にひっそりと、しかし美しく咲く花についてであることに気づきました。それはかれが、美しさに感動できる心をもち、花のうちに、目に見えるものよりもっと大切な価値を見出しえたからだけではなく、人知れず咲く一輪の花を、自分の胸のうちに脈打っている。まさに希望の象徴、と見ることができるからであろう、と思います。

それは、「私の首のように茎が簡単に折れてしまった。しかし菜の花はそこから芽を出し、花を咲かせた。私もこの花と同じ水を飲んでいる。同じ光を受けている。強い茎になろう」、と詠むかれの詩からも明らかです。

それでは、どうしてかれは、一輪の花を、希望の象徴と見ることができるのでしょうか。それは決して、孤独にあえぐかれの一時的な感傷のゆえではなく、かれが一本の花に、神の偉大な摂理を見得たからでした。

かれは、口に筆をくわえて、最初の一本の線を引いたとき、「すべての事を、つぶやかず、疑わずに行いなさい」、という聖パウロのことばを思い出した、といっています。つまり、かれにとって花は、神の摂理の象徴であったからこそ、かれの希望の象徴にもなりえた、といえるのではないでしょうか。

花といえば、キリストも野のゆりを、神の摂理を説明するための例として、用いておられます。

「ゆりの花を考えてみなさい。つむぐことも、織ることもしない。あなたたちにいっておく。栄華を極めたときのソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。きょうは野にあって、あすは炉に投げ入れられる草をさえ、神はこのように装ってくださるのだから、ましてあなたたちに対しては、ないおさらのことであろう。信仰薄き者たち……」（ルカ、12・27～29）と、キリストは諭しておられます。

先日、友人から、美しいゆりの花が届けられ、久しぶりに、殺風景なわたしの部屋に、うるおいと、安らぎを与えてくれました。

わたしは、卓上に飾られたこのゆりをながめながら、星野氏の花についての詩画集と、キリストのたとえばなしを思いうかべ、ゆっくりと花を想う心を失っていた自分が、とても恥ずかしく思えてなりませんでした。わたしたちは、星野氏に比べて、なんと恵まれた生活をしていることでしょう。それにもかかわらずわたしたちは、この世的なことがらに心奪われ、思い煩うあまり、神秘に満ちた美しい自然を通して、雄弁にわたしたちに語りかけている神の摂理への信頼を忘れてはいないでしょうか。わたしたちがしばしば体験する、苛立ちと不安の多い生活も、神の摂理への信頼が欠けているからかもしれません。

（サン・スルピス会司祭　大神学院教授）

召命練成会

日時　7月21日～23日
対象　小4～小6の男子
場所　福岡聖パウロ修道院
問い合わせ　聖パウロ修道院☎092-531-0924

イエズス村
日時　7月27日～30日
対象　小学生、中学生の男子
場所　福岡黙想の家
問い合わせ　黙想の家☎092-871-7108

マリアの集い
日時　8月17日～19日
対象　小5～小6の女子
場所　聖母訪問会
問い合わせ　聖母訪問会☎092-741-4250

バザー

7月12日　福岡市西新教会

献金報告

広報の日献金
一、三四四、六六三円

編集室から

「マリアの年」が始まりました。来年の被昇天まで続く「マリアの年」の過ごしかたについて、近いうちに、教区として赴任した。

博多の人を教化するのに、高踏な禅語や漢語ではなく、主に戯画とその賛によった。墓の図に「坐禅して人が仏になるならば谷わくどう（方言でガマのこと）は仏なるらん」など、そこには達観したものの自在さがあふれている。

八八歳で示寂するまで、紫衣を辞退したあれほどの高僧が、全く博多のひょうけもんになりきった。ユーモアたっぷりの仙厓にして、前掲のような歌がと一瞬驚いたが、あとで「仙厓さんなればこそ」と思うようになった。

なお、出光石油が、昭和三十年より毎年仙厓の絵を十二枚のカレンダーにしていることは壮観である。

としての具体的な指針もでることでしょう。

マリア様を何にもまして大切にしている人も、反対の人も、もう一度、自分の本棚にある第二バチカン公会議の文書や諸教皇の教書などにかぶっている〝ほこり〟をはたいて、聖母マリアに対する信心を見直しましょう。（W）

かのときのことのは

森山　敬三

独り住む庵の戸よりも世の中の人のこころぞさみしかりけれ
仙厓

東の白隠、西の仙厓いずれも禅画の大家である。前者が雄健・剛壮であるのに対し、後者は軽妙・洒脱。ドイツのクルト・ブラッシュが、どうして日本の絵画史にこの人たちのことが出ないか、不思議な国であるといっている。

仙厓は一七五〇年美濃に生まれ、栄西が宋より帰ってわが国に最初に建立した名刹である、博多の聖福寺の百廿三代の住持

新田原教会 共同墓地改葬

新田原教会共同墓地の改葬を計画推進中であります。当墓地に埋葬し不明になっている管理者（身内の方）を探しています。心当りの方は当教会へ御連絡下さい。

連絡先　福岡県行橋市大字東徳永384
カトリック新田原教会
☎09302―3―1594

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL 092-521-0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42319
定価一部60円

聖母をたたえ、模範に倣おう

平田三郎司教が司牧指針

「マリアの年」を迎えて

今から十三年もしますと、教会は救い主の降誕二千年を迎えます。

この記念すべき年を前にして教皇ヨハネ・パウロ二世は、教会の子らが母であるマリアさまを「神の家族」の母の座につけこの母をたたえ慕い、その微笑(ほほえ)みのもと、おん子を通しておん父との交わりに入り、兄弟間の交わりを固め、共に平和を味わうことができるよう「マリアの年」をお定めになりました。その期間は、今年の聖霊降臨の祝日から来年の聖母被昇天の祝日までです。

教会の母マリアさまと私たちとの深い関係を知り、子としてどのような態度を示すべきかを悟るために、私たちを産み育てた肉親の母との親密な繋がりを思い浮べて比べてみましょう。

人間の心の奥には、いろいろな愛情の流れがあります。友情の流れ、夫婦愛の流れ、母と子の愛情の流れなどです。これらの中でも、母と子の愛情は、もっとも清く、強く、深いもので、相互の信頼も他に類を見ないものです。青年期になって家庭を持ち、愛が妻子に向かう時にも、幼年期の母の姿、母の記憶は消え去らず、私たちは母を慕うものです。

世の母と子の関係がこのようなものなら「神の家族」と言われる教会での母と子の愛情の流れは、もっと強く、深いものであるはずです。神から遠く離れていた教会の子もいざという時に唇にのぼる祈りは、「天にします」よりも「めでたし」が先に来るのです。とにかく、この世の母とは比較にならない、すばらしい母が私たちには与えられているのです。

聖書に記されているこの母の姿を回想してみましょう。

マリアさまは、天使のお告げを受け、救い主の母となることを承諾するかと問われた時、処女の状態で母となることを承知しました。原罪の汚れなくして生まれ、処女の清さを保ちながら、神の母、私たちの母となられたマリアさまが、ご自分の子であり神でもあるキリストとその兄弟である私たちに示してくださる母としての愛の鼓動がどんなに優しく強いものであるかを察することができます。

多くの芸術家は、世紀を通して、処女の清さと母の威厳を兼ね備えているマリアさまの姿をキャンバスや大理石にどう表わすか努力を重ねてきました。

ナザレトでの三十年間の隠れた聖母の生活、おん子とその弟子たちの宣教を助ける聖母、カルワリオの頂でおん子を捧げ、「これはあなたの子です」と言われて私たちの母となられた聖母、教会が誕生したペンテコステの日、光に照らされて宣教に赴く弟子たちを見送り、見守り、実りを祈った母の姿はすばらしいものです。

私たちは、このような無比無類の母をいただいています。この母を敬慕し、その優しいまなざしのもとに共に生きて行きましょう。

教会が年間の典礼を通してたたえる聖母の祝日を心から祝い、また教会が勧めるいろいろの信心、とりわけロザリオを大切にしましょう。母を慕う幼な子が、朝から晩まで、何回となく母を呼ぶように、私たちも幼な子の心で「母マリアさま！」と繰り返し唱えたいものです。

共同体としても、聖母に捧げられている聖堂などに巡礼して母をたたえ、その徳をまねし、そのご保護を願いたいものです。

今月のみことば

父が私を愛されるように
私はあなたたちを愛した
（ヨハネ15・9）

大名町　青木保神父

広報担当者全国会議

'87ナイスは日本の教会の中・長期の展望を探る

昭和62年度の教区広報担当者会議が、7月6日から8日まで札幌市の定山渓で開催された。テーマを「福音宣教推進全国会議にむけて、広報担当者の役割」とし、広報委員長の浜尾文郎司教をはじめ各教区の担当司祭14名、4名の担当信徒、カトリック新聞社の高橋義博師、広報委員会事務局のメンバー4名が出席。

講師の、中央協議会事務局長岩橋淳一師、聖パウロ女子修道会のシスター長谷川昌子が11月の第一回福音宣教推進全国会議のポイント、また、取材のポイントをそれぞれ講演。その後、全員で熱のこもった討議がなされた。

全国会議のポイントとして全国会議へ向けて、各教区民の意識を高めるために、広報は何ができるか。全国会議までなく、その後の長期展望として考えられるものは。会期中の報道としては、何が出されたかは、カトリック新聞に掲載されるので、教区報としては、各教区色を踏まえた報道が必要である。

また、取材のポイントとして、教区民が一番知りたがっているものは何か。「全国会議は、日本に於ける第二バチカン公会議だ」と期待する人も多い中で、組織が大きいと無難なものを選びがちだが、報道にもチャレンジが必要ではないか。その他、インタビューや座談会のやり方などが話し合われた。

「キリストがメッセージであり、メディアであったように、私たち広報担当者もそれを生きてメディアにならなければならない。すなわち、生きてそれを伝えなければならない」という発言が、この会議を締めくくっているように思えた。

（深堀）

聖ペトロの祝日

教区民一人ひとりが大切な〝生ける石〟

霊名の祝いのミサで司教が説く

6月29日

ペトロ平田三郎司教の霊名のお祝いが6月29日（月）、福岡市の浄水通教会で行われ、ミサには福岡教区内の司祭約70名と多数のシスター、神学生、信徒が参列した。

平田司教は説教の中で、大要次のように語った。

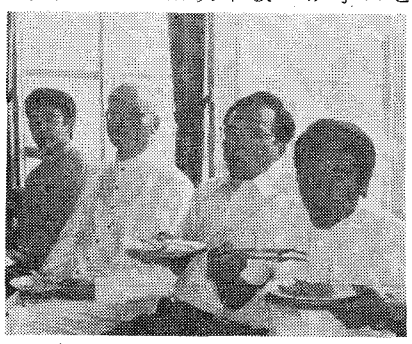
「6月29日は、私の司祭叙階記念日で、すでに48年の歳月が流れました。皆さまに感謝すると共に、神さまに対して、信徒の方々に対して『すみません』と申し上げなければなりません。あと2年で金祝ですが、それはおめでたいことと共に、地上の生活も短くなったということです。どうか私のためにお祈り下さい。

ペトロのお祝い日にあたり、『ペトロ』『岩』について一緒に考えてみたいと思います。

キリストは、ご自身を新しい神殿としてお示しになり、基礎を築かれましたが、自分の後継者としてペトロを選ぶにあたり、『おまえは、ご自身がわたしをだれだと思うか』と問い、ペトロは『あなたは生ける神の子メシアです』と答えました。そこでキリストは『おまえは岩である。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう』とおっしゃいました。

今私たちにとって万民を招き入れる建築が必要です。それは物質的でなく霊的な神殿の建築です。私たちはそのために召されています。建築の際、役に立たない石、捨て石がないように、役に立たない人はいません。すべて大切であり、そういった人こそ教会の礎となったりします。たくさんの信者をつくっていくために、また新しい神殿をつくっていくために司祭、修道者自身が、キリストという不動の岩の上に建っていきたいものです。すべての人々に対して、注意深い信仰教育こまやかな配慮を心がけたいものです。

日本の一億二千万、福岡教区では七五〇万の人々が、教会の中で生きた石となり、キリストにつながり、キリストに結ばれた生きた神殿となるように、聖ペトロと聖パウロの取り次ぎを願いたいと思います」。



写真はミサの後の祝賀会で司教（左から2人目）を囲んで歓談する司祭たち

青年歓迎会に50名が集う

福岡ブロックの青年たちが企画

去る6月28日、福岡小神学校で、今年福岡に転入した青年と今春高校を卒業した青年を対象とした、福岡ブロック青年歓迎会が行われた。

毎年、他教区から多くの移動青年が福岡教区にやってくるが、慣れない土地で何も分からないまま、教会を離れる人、回りに溶け込めず遠ざかっていく人、仕事が忙しくて教会に来れない人など、結果的には少人数しか残らないのが現状だ。

このような状況を打破するために、福岡ブロックの青年たちが中心になって毎年「移動青年の集い」を行っている。

今年は、呼びかけに応えて50名が参加。当日はまず、福岡ブロック青年担当の川上惣一師をはじめ松井忠之、山内堅治の各師による共同司式ミサが行われ、ミサの後、全員が弁当持参で近くの動植物園へ行き、昼食をとりながら歓談し、交流を深めた。

集いを企画した岩永恵子さん（茶山教会）は「ここでいろんな立場や考えの青年との出会いが実現したことはすばらしい。だからこの出会いを大切にし、各自の教会や青年会活動に積極的に参加し、もっともっとつながりを深めていかなければならないと強く感じました」と語っていた。

教区青年体育祭を成功させよう

教区青少年担当司祭団（代表深堀勝人神父）と教区青年委員会（代表松熊覚氏）では、来たる10月4日（日）に福岡教区青年体育祭を熊本県西合志町の熊本天使園グランドで開催することになり、教区内の全青年に積極的参加を呼びかけている。

この催しは、小教区を越えた青年相互の親睦と交流をはかるもので、すでに各小教区の青年への働きかけも始まっている。

時の話題

生態来吉

地域社会の苦しみ

聖ザベリオ宣教会の外は肌寒い風が吹いているのに、会議室の中は宮崎県下一〇教会の代表よりなる信徒使徒職協議会の集会で熱気がみなぎっていた。

昨秋の信徒大会で決定した一年間の活動方針「愛の実行運動」がこの三カ月間どのように実践されているかという反省会である。

愛とは何か、隣人愛とは何か、愛の対象は何か、どのように実践すればよいか、ある人は自分の家の軒の下で雨宿りしている人に傘を貸した、ある高校生は隣の老人の肩を叩いてやっているなどなど延々三時間に及んだ。

会議が終わって、私はふと一つのことに気がついた。それは宮崎県内にどのような苦しみや不幸があるかということについて、まったく発言がなかったということである。

「全世界に行ってすべての人に福音を宣べ伝えよ」という命令に従って教会は宮崎県に派遣されてきているのである。アルス村の助任司祭に任命された聖ヴィアンネーが、はじめて村に足を踏み入れたとき跪いて大地に接吻した。教会すなわち神の民である信徒は、自分が派遣されてきている県・市町村の地域社会を限りなく愛さなければならない。愛するならば、その地域社会におこっている人々の不幸や苦しみや嘆きを教会の不幸、苦しみ、嘆きとしなければならない。

ちょうどその時、宮崎県の県北と県中の土呂久鉱山と松尾鉱山に、砒素（ひそ）鉱害が起こっていた。

そこには長い年月、猛毒の亜砒酸によって汚れた空気と水のなかで生活し、全身を砒素と鉱毒に侵され、やがて肺癌、膀胱癌、肝臓障害その他諸々の病いで悲惨な死を迎える人々が、待っていた。

それ以来十五年、支援の輪は宮崎県境を越えて全国のカトリックに広がり、教会は被害者から友として迎えられるようになった。

愛の抽象論よりも地域社会の現実の苦しみを探そう。新聞やテレビは苦しみを探知する教会の触角である。毎日のニュースに愛の眼を注ぎ、逡巡（しゅんじゅん）することなく歩み寄ろう。

カトリック社研全国委員
（西新教会所属）

みちくさ

アグネス・H・Jさんが亡くなった。享年四十七歳であった。癌との壮絶な闘いを終えて、今、安らかな眠りにつかれたが、三年前にご自分の病気について知られてからは、死との対峙の日々であった▼母親であり妻でありそしてキリスト者であったひとりの女性の〝十字架の道〟を見守りながら、救い主イエズスの受難、死、復活を黙想せざるをえなかった▼少し元気な頃、Hさんは自分のために祈ってくれていた回りの人々に感謝の言葉を忘れなかった。やがて、進行した癌による身体の苦痛や精神的不安との闘いのなかで、「この苦しみの杯を私から取り去ってください」と神に求めるようになられた。そして「わが神よ、どうして私をお見捨てになったのですか」と言われたイエズスの苦悩、苦痛の叫びが病床のHさんの口から洩れてくるようになった。しかし神は、彼女の苦しみの極限のなかでも、イエズスの時と同じように、沈黙しておられるようだった▼神の沈黙は、私たちにも、神への信頼に対する試練をもたらすようになった。「あなたが、信じ、祈ってきた神は、結局、無力ではないか」、「神が愛ならば、なぜこれほどまでに人を苦しめるのだろうか」、「彼女の苦しみは本当に報われるのだろうか」と心にささやく声が聞こえてきた▼このような状況のなかで、苦しみの意味を必死に模索した。確かにHさんの十字架は、自身の罪の償いのためには、あまりに大き過ぎたように思う。だから彼女の苦しみは、きっと私の罪の償いのためでもなかったかと問うている。「本当にこの人は善い人であった」▼それゆえ、受難のわが子イエズスに復活の栄光をお与えくださった神が、イエズスの十字架の苦しみに与ったHさんに、さらには彼女と苦しみを共にした方々にも、復活の栄光の喜びを与えてくださることを確信したい。

戦後の信仰

前編

第二次世界大戦が終わって四十二回目の夏がやってきた。
教皇ヨハネ・パウロ二世が言ったように「過去を振りかえることは未来に対して責任を負うことである」ならば、私たちが戦時中のキリスト者のさまざまな困難を思い起こすことは、平和な世界をつくりだすために、信仰者としての責任を自覚することでもある。

ブレンゲ神父のご苦労

牧山敏浩

佐賀教会は市の中心部にある〝中の小路〟に面し、静かなたたずまいであった。
日本家屋の二階建てで、聖堂は畳敷きで落ち着いた雰囲気を保っていた。教会の周囲は広くお花畑になっており、桃やぶどうの果樹も多かった。春には花菱草、秋にはコスモスなどが咲き乱れ、戦時ではあったが、一歩教会に入ると何となく心が安らぐ思いであった。
パリー外国宣教会のブレンゲ神父が、昭和2年に佐賀教会と唐津巡回教会の主任司祭になられてから終戦の翌21年に帰天されるまで当地区で熱心に司牧された。また自然に親しみ、自ら温床を作ったり、花を栽培したりして自給自足の生活をされていた。
伝道士として長崎浦上出身の片岡弥吉氏が公教要理を教えたり、畑仕事をしていた。
賄いの小母さんは竈作いとさんといい、長崎五島の人で山口宅助神父の大正時代からずっと神父さまのお世話をされていた。信者は坂井、酒井、牧野、大塚、野口、古川、秀島、副島、牧瀬、山本さんらとその家族の方々であった。ミサ後は隣の和室で持参のお弁当を開いて和気あいあいとした極めて家庭的な雰囲気であった。
しかし戦局が一段と厳しくなるにつれ、キリスト信者に対する風当たりが次第に強くなり、神社参拝の強制や信仰に対する非難、侮辱が繰り返され教会にとっても受難の時代が続いた。
特に終盤に向かって、特高警察や憲兵が教会に立ち入るようになり、日曜日のミサに与るのも困難になってきた。
しかし聖母に対する信心が強く、折にふれロザリオを唱えることが多かった。空襲警報のサイレンの中で、防空頭布のままロザリオを肌身離さず首にかけていた。
馬渡島や呼子の教会からも出征兵士が次々に送られて行ったが、誰もが「不思議のメダイ」や「スカプラリオ」をしっかり肌身につけて戦地に赴いた。
佐賀教会でも西隣には憲兵隊があり、橋をかけて時々出入りしており、日夜監視されているような無言の圧力があった。敗戦の色濃くなってきた頃、ブレンゲ神父は外国人宣教師という理由だけで、一日中行動を束縛されるようになった。
「憲兵隊に見つからないように来なさい。玄関の靴も持って入りなさい」と神父は特に神経をとがらせ、信者の方も憲兵や特高の留守を見はからって、裏口からこっそり出入りして秘跡を受けた。
ついにブレンゲ神父もスパイ容疑という名目で、無実の身を警察に拘留されて最悪の事態となった。賄いのいとさんも呼び出しを受け、再三の尋問を受けるようになった。教会の二階には官憲が土足であがり込み常時駐在して、眼を光らせていた。壁には「戦陣訓」が貼ってあった。
賄いのいとさんが警察の留置場を見舞った時、日夜ロザリオを繰り、聖務日禱を唱えるやつれはてた神父の後姿を見た。
床の上には欠けた茶わんがひとつ転がっていた。
「聖母の被昇天（8月15日）も、もうすぐだね。祈りなさいよ」といとさんはかえって励まされた。
それから間もなく、突然釈放された。聖母被昇天の祝日の前日、8月14日のことであった。神父は警察での長い拘留生活と繰り返される尋問ですっかりやつれはて、持病のぜん息も一段とひどくなっていた。
聖母の被昇天の大祝日で、信者の心の中には敗戦の悲しみよりも、信仰の自由に対する喜びと束縛からの解放感が甦っていった。
※佐賀カトリック教会史並びに佐賀教会の坂井久代、酒井芳子、牧野寿さんより資料を提供していただきましたが、テレジア坂井久代さまは、7月3日に五島での「教会めぐり」の折、帰天されました。ご冥福をお祈り申しあげます。

（佐賀教会信徒）

捕虜収容所のこと

J・ツルデル

私は、昭和13年ころ大牟田にあった神学校でフランス語を教えていました。生徒は5名で糸永武男神父様や牧山藤房神父様たちでした。
やがて戦争への気配が濃くなり、私のような外国人は、いつもスパイのように扱われました。福岡市の「松屋」前などには「スパイに注意してください」との張り紙さえあり、いたるところで警察に尋問されました。
やがて神学校は司教館から大濠（今の聖母訪問会の所）に移りました。でも、戦争が始まるとそこは抑留所となり、捕虜として生活することになりました。外出こそできませんでしたが、敷地内で畑仕事をしたり、時には警察と一緒に大濠公園あたりを散歩したりしました。食事にも恵まれていました。ミサは一回だけできませんでした。
三カ月後、長崎に移る事になりました。長崎では最初、城山で生活しました。その収容所では食べ物もよくミサも毎日できて、日曜のミサは修道士さんたちといっしょでした。その後、本河内に移り、ここでは修道院と別の建物でしたが、修道院の人とも会え、その中にはゼノ修道士さんもいました。
やがて長崎から神戸に移されました。神戸の収容所には捕虜が一七〇名いてその内、司祭は25名位でした。他にグアムから来た捕虜も多く、技師やタイピストもいました。スクート会のスパー神父様は日本の大学を卒業したこともあって、日本語の読み書きにすぐれ、収容所内にあった日本語の新聞を読みながらそれを英語に訳し、それをタイプの名人がタイプしてまわし読みまでしました。神父様はニュースに何かを付け加え「戦争はまもなく終わりますよ」と言って、みんなに希望を与え喜ばせていました。
ここの収容所でもミサは毎日でき、ぶどう酒とホスチアは、パリミッション会の神父様が配慮して下さいました。ただ、ミサに与かる人が少なかったのは残念でした。
戦争後、アメリカからモントリオールへ向かいました。
モントリオールに一年間滞在した後、日本に戻ってきました。横浜に着いたのは12月25日のクリスマスでしたが、日本はとても貧しいと思いました。博多駅に着いたのは夜の11時でしたが駅には誰もいなくて、司教館まで夜の道を歩きました。司教館ではロビアール神父様が待っていて、あき缶で作った小さな火ばちに木炭を2、3個入れ「これは今晩だけですよ」とさし出してくれました。とても寒く貧しい状況でしたが、今でも心温まる思い出です。

（サン・スルピス会司祭　大神学院教授）

青年の船体験記（下）

韓国

盛んな若者の社会参加

角洋子

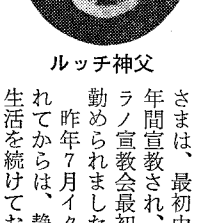
次の訪問国である韓国へと向かいました。
仁川港は、軍港ということで普通の港とは随分様子が違っていました。この港には、港門があり、常に閉まっていて、許可された船だけが通ることができるのです。船が通る幅しか門は開きません。重重しい雰囲気が漂っていましたが、港の外で子供たちが熱烈歓迎してくれたので、心うきうきでバスに乗り込みソウルへと出発しました。
来年のソウルオリンピックに向けて、国全体が活気づいています。急ピッチで進められ、街並みは日本と変わらずハングル文字を見なければ日本ではという錯覚さえ起こしそうになります。経済大国日本を追いこすのは、そう遠くない気がします。訪問しながら、日韓併合の傷跡は、いまだ消えていないということを痛感させられましたが韓国青年たちとの交流会は、楽しく大変有意義なものでした。
韓国には塾がありません。法律で禁止されているそうです。大学の数も少なく、よほど勉強しないと大学に入ることはできません。彼らはいわゆる点とり虫のガリ勉とは違います。自主的で向上心のある彼らは、それを内だけにとどめておくのではなく、外に向けています。社会に役立つこと、人のために役立つことを考え、行動しています。
個人主義で、自分のことしか考えない日本と比べ、若者のボランティア活動等の社会参加は極めて多いです。それを支えている一つに教会があります。
韓国には教会が多く、とても開かれています。バスで一緒になった通訳の池さんは、カトリック信者でしたのでいろいろとお話をしました。若者の活動も活発で、熱心に宣教しているそうです。＝一人でも多くの人に神の愛を＝彼らは、ボランティア活動を通して訴えているのです。
地道に私たちのできる範囲で、宣教という種まきをしていかなければと思う今日この頃です。

（久留米教会）

右端が筆者

ルッチ神父叙階60周年

戦後の佐賀県宣教で多大の貢献



ルッチ神父

去る6月11日イタリアのミラノ外国宣教会の療養所で、ルッチ・ミケレ神父さまが叙階60周年の記念ミサを捧げられました。
8月20日に八十五歳の誕生日を迎えられます。神父さまは、最初中国で二十一年間宣教され、日本ではミラノ宣教会最初の地区長を勤められました。
昨年7月イタリアに帰られてからは、静かな祈りの生活を続けておられます。
鹿島の教会でも7月5日ルッチ神父さまと心を一つにして、司祭職六十年間の恵みと、この三十年間神父さまを通して神さまから頂いた恵みを感謝してお祝いをしました。

自由席

聖書のこと

熊鰐由里子

聖書を前に、もう一歩踏みこんでいかなければと思う。文学書やその他の本なら、簡単に手にしてしまえるが、聖書には近づきやすさと同時に近づき難い印象も持っている。
求道期間中のこと、公教要理の勉強の前に、ロザリオの祈りを数名で唱えたことがある。ひざまずいて祈るという姿勢、祈禱書のページをまごつきながら追うという案配だった。
それは私にとって不慣れなことを、一定の姿勢の中に力ずくで抑えこんでいくという、特殊な感じだった。
こういうことを経た後に、静かな別な心の世界とでもいうものを、実感した。
聖書がもたらす響きは、心情に覚える喜びなんだと思う。それは文学書からのものとは、根本的に異質な何かであろう。
けれども、今もなお私は、聖書の字面の周辺でウロウロしている。

（二日市教会）

司祭叙階銀祝の感慨

山崎聡一郎（古賀教会主任）

黒髪は白髪と変わり、頬の筋肉は緩み、上歯は脱け落ち、堅いものはかめず、ウエストにはほぼ30センチのスペア・タイアが付いてしまった25年。「もう止めた」「もう止める」とつぶやきながらの25年。胸突き八丁、青息吐息の、七転び八転びの25年。
この25年何をしたかと自分に問えば、脳味噌の映写幕にはっきりと映るデッカイ0。愚か者はいたずらに歳をとり、25年過ぎてもやはり愚か者。食べ物を無駄にし、空気を汚し、あっちの人には助けられ、こちらの人には支えられ、そこここに不義理をしながら生きてきた25年。
祝われるようなことは何一つしていないのに、多くの人が祝って下さる。祝って下さる人々の中にはひっそりと生き、自身は誰からも生涯祝ってもらうことの無い人もいる。
感謝の心はあるのだが、感謝も充分にできない。少しは役に立って死にたい。0で終わることだけは、避けたい。
皆さまありがとうございます。

一九八七年六月二十四日

パイプオルガン・コンサート

演奏者　MARI KODAMA　児玉麻里
　　JOSE E. AYARRA　アヤラ神父
日時　9月21日（月）P.M.6：30（入場）
会場　福岡カテドラルセンター
場所　福岡市中央区大名2―7―7
乗物　バス停西鉄グランドホテル前下車
　　地下鉄赤坂又は天神駅下車
一般　3,000円　朝日メイト　2,500円
主催　朝日新聞社

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

きぼうの電話　―喜ぶ人とともに喜び泣く人とともに泣く―
(092) 865―1212
相談：生き方，家庭，学業，仕事，恋愛，宗教
時間：月・水・金曜日午前11時～午後4時
　　午後8時～午後10時
相談時間外テレホンサービス
カトリック　福岡黙想の家
〒814-01 福岡市城南区西片江1-17-63

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
　　096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡 (712) 8022　久留米 (33) 7401
佐賀 ((30) 4040　小郡 (72) 3482

指紋押捺制度を考える集会

李幸宏氏とSr.マリー・T・フルーレが証言

指紋押捺問題にはさまざまな意見があるが、押捺に反対する立場の人々の声にも耳をかたむけ、問題の本質を正しく把握することも大切ではないだろうか。

日本の社会と共に歩む教会をめざして、外国人登録法（外登法）「改正案」を問う集会が、福岡地区の集会実行委員会（福岡地区信徒使徒職協議会・他）の主催により、7月5日、福岡カテドラル・センターで行われた。

集会には、外登法に基づく指紋押捺（なつ）制度の改正に向けて、外登法問題に取り組んでいる愛知県立大学の田中宏教授や、指紋押捺を拒否している福岡県在住で、韓国籍の李幸宏（イヘングアン）氏と横浜市在住で、フランス国籍のSr.マリー・テレズ・フルーレ（サン・モール会）を迎えて八十名あまりが参加した。

青柳行信氏（吉塚教会）のあいさつの後、二人の拒否者が、拒否にいたるまでの思いやその背景にあるもの、施行以来続く差別など、それに抵抗する人人の願いを切実に語った。

続いて田中宏教授が「外国人登録法改正案をめぐって」と題して講演。歴史的観点から日本人と外国人、日中関係にいたるまでの展開を実例を通してわかりやすく説明した。

証言1　李幸宏氏

私は在日韓国人の三世で身体障害者ですが、五年ほど前から本名である李幸宏（イヘングアン）を名のりはじめました。

それまでは自分が自分であることを肯定する状況ではなかったのですが、自分自身をありのままに肯定して、それから周りの環境をつくっていくのでなければだめなんじゃないか、と思うようになりました。

また在日韓国人の障害者のメンバーの中に、本名を名のって正々堂々と、生きている人に出会い、自分たちのおかれている状態の認識が得られるようになって、指紋押捺の歴史的問題を正していくために拒否することにしました。拒否した今も、そして今後もいつ裁判のために呼び出されるかわかりませんが、生の声をぶっつけていくことで基本的人権を訴え続けていけるのではないかと思うのです。

証言2　Sr.M・T・フルーレ

三十四年まえに来日しました。当初は、外国人は押捺しなければならないと単純に考えていました。ずっと後になって、在日韓国、朝鮮人が指紋押捺によって、多くの苦しみを受けていること、また社会のいろんなレベルで差別を受けている人々との出会いを通して、自分も在日外国人として外登法に従うべきかどうか迷いました。周りの反応はいろいろあったのですが、人権を認めない法律に黙して応じることは、賛成することになると思いました。

法は皆の幸せのためにつくられるものですから、法律によって苦しんでいる人がいるのであれば、人間として、良心の問題として応じることはできないと思って拒否しました。法は人間のためで、人間を生かすためにあると思います。

そういう意味で外登法改正を心から願っています。

田中宏教授の講演要旨

指紋押捺が導入されて以来、今日まで約三十年余り、抵抗が続いています。当初から、この法律の実施に際して、たいへんな反対運動によって実施が延期されたといわれています。

外国人が指紋押捺を拒否しても、日本人が何も感じないということと、抵抗を無視してきたことなど、これらが重要な事実であろうかと思います。

ある時期に、日本人の指紋押捺が問題で人権侵害として市民運動が起こり、それ以後廃止された例があるにもかかわらず、外国人籍の指紋押捺がいまだに続いているのは、人間の基本的人権の普遍性がこの国ではまだ認められていないということではないでしょうか。

第13回日本カトリック婦人団体連盟総会から

愛と喜びについて (2)

島本要司教

次に、イエズスは喜びについて語っておられます。「私がこれらのことを話したのは、私の喜びがあなたがたの喜びとなり、あなたがたの心が喜びで満ち溢れるためである」と教えておられます。では、私たちの喜びの源泉、動機というのは何なのでしょうか。

それは、私たちがイエズスに、神に愛されているという、その事実です。

「これらのこと」とは何なのか。それはイエズスがその前にお話しくださった「父が私を愛しておられるように、私もあなたたちを愛してきた、私の愛に留まりなさい」という愛についてのお話なのです。ですから、私たちの信仰の喜びとは、神に愛されているという確信から心に涌きでる喜びなのです。

さて、福音宣教を進めていくその推進力あるいは原動力それは信仰の喜びです。

信仰がいかに大切なものであるか、つまり信仰が私にとって重荷でなく、喜びの泉であること、また私の生活の力強いささえであり、困難に遭遇した時、深い慰めと力であるということを、私たちはまず体験していなければ、自分の信仰を、価値あるものとして、確信と誇りをもって他者に伝えることは、心理的に不可能なのです。信仰の喜びとは一体なんなのか。それは、神さまを探し求めて生きる、謙虚な人に与えられる神さまからの大切なお恵みです。

ある女性が「信仰の喜びを会社の上司に叱られるごとに痛感する」と言いました。その人は、会社でミスをして「だめじゃないか」とどなられる、その時に信仰の喜びを味わうそうです。その時、その人は自然にヤーウェの「あなたは、私の目にとって尊いあなたには値打ちがある、私はあなたを愛してしまった」（イザヤ43―4）という言葉が出てくるといいます。これも、ヤーウェなる神の愛の告白の言葉です。しかしその人は、「神さまに愛されているからへっちゃらだ」という逃げ腰の姿勢でありません。もしそうであれば、信仰は逃避であって福音宣教の推進力となりません。

その人は「だめじゃないか」といわれた時、神、ご自身が自分に注いでくださる評価、期待、これに応えなければという目覚め、失敗ばかりの自分に、「あなたには値打ちがある、あなたを愛している」と言ってくださる、この神さまの期待に添わなければ悪いという強い意欲、明るい希望をこの神の言葉からくみ取っているそうです。

このように、神の言葉に生かされること、これが信仰の喜び、信仰の力と呼ばれているものなのです。

（浦和教区長）

「マリアと宣教」をテーマに

レジオ・マリエ黙想会

福岡黙想の家

レジオ・マリエ福岡クリアでは、6月6日と7日、福岡黙想の家で徳山登師の指導のもと黙想会を開催。

6日夜、福岡市内の各プレシディウムと熊本クリア合わせて20名が集まり「マリア様と宣教」をテーマにお話と黙想を行った。

翌7日、さらに人数を加えて、聖母の聖性と福音宣教のかかわりについて黙想した。

徳山神父は講話の中で「マリア様は単純な普通の生活をされましたが、その中でいつもイエズスさまを人々にあらわし、イエズスさまの心を人人に教えようとされました。十字架のないキリスト教はありません。福音宣教においても十字架を覚悟しなければなりません」と話した。

ちょうどその日は「マリアの年」の初日にあたり、マリア様を戴くレジオとしては、意義深い黙想会であった。

鬼木　記

山崎聡一郎神父 叙階25周年を祝う

古賀教会

6月28日古賀教会において、オブレート会管区長マホニー神父を招いて、山崎神父の司祭叙階二十五周年の感謝ミサ及び祝賀会が、厳粛かつなごやかに行われた。

◇　◇

山崎神父は一九三四年高知県に生まれ、一九六二年六月叙階。徳島県鳴門教会、次に兵庫県伊丹教会で司牧。

山崎神父の似顔絵

上智大学英文科で学んだあと、光ケ丘教会に着任。福岡泰星高校や秋田の養護施設・短期大学等で教師を歴任した後、一九七五年古賀教会の主任司祭として赴任し、今日に至っている。

◇　◇

神父は信徒を愛し、とりわけ青年たちと深夜まで飲みながら人生を語ることを愛し、「忙しい忙しい」と言いながら、愛車を駆って飛び回ることを愛し、大工道具を使って教会の古い建物と格闘することを愛し、ざっくばらんを愛し、……神父の仕事は「愛すること、耐えること、待つこと」と受けとめてその天職を愛し、すべてに愛多く、そのため信徒からも人間味溢れるわれらの教会の主任神父として愛されている。

（是永通孝）

帯山教会で ルルドの祝別式

本熊

帯山教会では、「マリアの年」にあたって、「マリアを通してイエズスへ」という伝統的な教えを少しでも共同体の中に生かすためにと、ルルドの建立を目指していたが、さる7月5日、平田司教を迎え、その祝別を行った。

司教は、聖母マリアに対する正しい崇敬について話し、マリアの心を大切に、「神の民」としての旅路を続けるよう諭した。

祝別式の後、信徒たちは信徒会館で司教を囲み、ささやかなパーティーでなごやかなひとときを過ごした。

信者の権利

山元神父のワンポイント教会法

教会法の中では「すべてのキリスト信者」は信徒と聖職者に分けられているが今回は、「すべてのキリスト信者」の義務と権利（二〇八条～二二三条）を見てみたい。まず本文を少し引用する。「キリスト信者は、自分の必要、特に霊的な必要、および望みを教会の牧者に自由に打ち明けることができる」（二一二条第二項）また「各人の学識、固有の才能、地位に応じて教会の善に関し、自己の意見を教会の聖なる牧者に表明する権利、さらには、時として義務がある。また、信仰と道徳に反しない限り、また教会の牧者に対する尊敬心をいだきつつ共通善および人間の尊厳を考慮しながら、その意見を他のキリスト信者に表明する権利と義務が同様にある。」（同条三項）

信者が霊的に自分に必要なことを教会の牧者に自由に打ち明け、「神のことばと秘跡の助けを受ける」（二一三条）ことは、あたりまえかもしれないが、そのことを教会法では「信者の権利」として規定しているのである。この権利は法によって保護されている。

司祭が忙しすぎるので信者は遠慮することがある。また司祭の方も、忙しさを口実にすることがある。両者の霊的、人間的成長のためにはそうであってはならない。信者は司祭によってつくられ、司祭もまた信者によって成長する。信者は洗礼によってキリスト者になってしまったのではなくキリスト者になり続けなければならない。司祭もまた叙階によって司祭になってしまったのではなく、常になり続けなければならない。両者は互いに高め合わねばならない。教会の発展もまたここにかかっている。

本音のかかわりがなければ「開かれた教会づくり」など、できるはずはない。

（小倉教会）

BOOK 読みは専科

☆呼吸と共に祈るロザリオ
―日本的な唱え方―
門脇佳吉著
呼吸を使ってするロザリオの新しい祈り方。
（あかし書房　三〇〇円）

☆ロザリオ
C・バリョヌェボ著
ロザリオの一つの唱え方として十回の「めでたし」のまえに意向を加えることを紹介している。
（中央出版社　五〇〇円）

☆ロザリオのこころ
松永久次郎著
各玄義の黙想を深めながらマリアの心をとおして救いのよろこびに導くもの。
（聖母の騎士社　四〇〇円）

☆ロザリオと十字架の道行
J・アルベリオーネ著
各玄義のテーマを黙想しながら教会や社会、家庭や個人に、多くの恵みを得させる祈りとして編まれたもの。
（女子パウロ会　一五〇円）

☆ロザリオの祈り
ドン・ボスコ社編
玄義ごとに美しい絵が挿入されたポケット版。
（ドン・ボスコ社　四〇〇円）

☆新しい時代の聖母
エスケルダ・ビフェト著
永倉規子訳
時代によって聖母信心にも種々のあらわれ方があったが、この本は『教会憲章』と『マリアーリス・クルトゥス』の考え方を中心に、現代教会のマリア論をしっかりと紹介し、聖母の道に従うよう黙想のヒントを与える。
（女子パウロ会　五五〇円）

☆聖パウロ書院からのお知らせ
八月中のお休みは、定休日（水）の他に、八月十五日（土）、八月二十日（木）も休ませていただきます。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
素材　石　石　理　影　大　御　そ　他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

八月の行事

※ゴチックは司教日程

5日　広島平和集会
11日～13日　高校生練成会（聖パウロ修道会）
15日　教区墓地のミサ
16日　聖信式（呼子）
19日　カナの会
19日～21日　幼稚園教師研修会（島原）
22日　カトリック医師会福岡地区総会（大名町教会）
23日　ナイス代表者会議
27日　福岡地区婦人会感謝ミサと追悼式
30日　聖信式（今村）

福岡黙想の家

9～15日　マリア会黙想会
16～22日　サレジオ会黙想会
29～31日　熊本のグループ（堀内やすよ）

62年度第三回 結婚セミナー日程

〈福岡地区〉
場所　福岡市中央区大名2 カテドラルセンター
8月27日(木)・8月29日(土)
9月3日(木)・9月5日(土)
9月10日(木)・9月12日(土)
9月17日(木)19時～21時15分

〈熊本地区〉
場所　熊本市上通町3－33 カトリック手取教会
9月2日(水)・9月4日(金)
9月6日(日)・9月9日(水)
9月11日(金)・9月16日(水)
9月18日(金)19時～21時15分
詳細は092-541-6207 Sr.吉永

8・15平和講演と平和行進

日時　8月15日（土）午前10時30分から
映画　もうひとつの広島
講演　「今ここまで来た日本の軍国化」
講師　横田耕一氏（九州大学教授）
場所　福岡カテドラル・センター
午後一時から平和行進をします。

練成会キャンプの案内

〈福岡地区〉
青年の親睦会
日時　8月1日～2日
場所　古賀教会
問い合わせ　川上神父（大名町）☎092-741-3687

高校生の練成会
日時　8月11日～13日
テーマ　Communication――神さまを知らない人々と――
場所　福岡・聖パウロ修道院
問い合わせ　山内神父（聖パウロ会）☎092-531-0924

〈北九州地区〉
青年のキャンプ
日時　8月29日～30日
場所　龍王峡
問い合わせ　松熊覚（飯塚）☎0948-42-4059

〈熊本地区〉
少年少女の練成会
日時　8月11日～13日
対象　小4～中3
場所　菊池少年自然の家
問い合わせ　青木神父（手取）☎096-352-3030

〈佐賀地区〉
中高生の合同キャンプ
日時　8月12日～14日
対象　中学生、高校生
場所　①雷山のふもと　②呼子教会
問い合わせ　鳥栖教会 ☎0942-82-2282

〈修道会関係〉
マリアの集い
日時　8月17日～19日
対象　小5～小6の女子
場所　聖母訪問会
問い合わせ　聖母訪問会 ☎092-741-4250

召命黙想会

祈りと働き

日時　10月10日（土）12時昼食から 11日（日）15時まで
場所　630 奈良市法蓮町746 善きサマリア人会 ☎ 0746-22-6160
指導　オヘール師（マリスト会）
対象　修道生活に関心ある女子信徒
会費　2,000円

＊ 問い合わせと申し込みは10月3日（土）まで、はがき又は電話で下記へ。

151 東京都渋谷区代々木5-16-2 善きサマリア人会　東京修道院 ☎ 03-485-0061　担当 Sr. 服部

福岡地区婦人会おしらせ

保護の聖人モニカの祝日に感謝ミサと年間に亡くなられた婦人とゆかりの方々の追悼式を行います。
日時　8月27日(木)　10時
場所　福岡カテドラル
司式　平田司教
連絡　岩永神父(二日市教会) ☎092-541-6478　鬼木

教区青年体育祭

日時　10月4日(日)
会場　熊本天使園
問い合わせ　深堀勝人神父 ☎09302-2-0807
松熊　覚（飯塚）☎0948-42-4059

いぶき

聖母マリア

山内清海

今年の前期、田中角栄の腹心の元秘書、早坂茂三著の「オヤジとわたし」（集英社）が、ベスト・セラーを続け、話題になりました。

著者は、本著の「友情は風雪にさらされて育つ」という項目で、田中角栄氏と、かれの親友、入内島金一氏との素晴らしい友情を紹介しています。入内島氏というのは、昭和9年、若干十五歳の田中角栄少年が新潟から上京して、当時の日本橋本石町の井上工務店に務めていたときの、いわば兄弟子でした。

貧しい家庭に生まれ育った入内島少年も、田中同様に裸一貫で上京し、苦労に苦労を重ね、後で材木屋として成功したのだそうです。ところでこの入内島は、田中氏が例のロッキード事件で地獄の苦しみを体験しているとき、しょっちゅう、田中の目白の家に来るようになった、というのです。かれは、毎週土曜の午前十時ごろ、判で押したように田中宅に来て、田中氏が仕事を全部片づけるのを待ちます。それから二人は昼食を共にするわけですが、その間かれらは、別に激しい議論を交わすわけでもなく、ただポツリ、思い出したように話すだけだったそうです。

「そのうちオヤジは入内島さんを前にして寝てしまう。そうすると入さんは、黙って腕を組んで、グーグーいびきをかいて寝ているオヤジの顔をじっと見ている。そよとも動かない。だいたいオヤジは二十分か三十分、ガーッと昼寝をすると、それで目を覚ます。寝起きのいいひとです。目をこすりながら『あッ、寝ちゃった。失敬……』「じゃ、角さん、わたしはこれで……』そう言って入さんは帰って行く」（本文29－30頁）著者は、このように二人の友情を描写しています。

田中氏の羽振りがいいときは、光よりも速く寄って来た人々が、ロッキード事件を境に、これまた光よりも速くかれのもとを去って行った事実を、直接に見てきた著者は、入内島と田中の友情に、真に男の友情を見て、感動したのでしょうが、わたしたちにも、二人の温かい友情は十分に伝わります。

わたしはこのエピソードを読みながら、ジーンと胸が熱くなるのを覚えるとともに、何故か急に、聖母マリアの素晴らしい生涯を思い起こし、感動を新たにしました。

聖母マリアは天使のお告げに対して、「わたしは主のはしためです。おことばどおり、この身になりますように」（ルカ1・38）、と答えられて、神の子キリストの母となることを受諾なさいましたが、その約束通りに、キリストのためにその生涯を捧げつくし、文字通り献身的な生き方に徹します。

キリストは聖母にとって、最大の誇りであり、生き甲斐でした。しかし聖母は、キリストが、素晴らしい説教や、驚くべき数数の奇跡によって人々の脚光を浴び、人気の絶頂にあったときには、一度もその姿を現していませんが、十字架を担ってカルワリオに向かうキリストに、無言のまま、影のようにつきそって歩きます。さらに聖母は、悶え苦しまれるキリストの十字架のもとに、悲しみにうちひしがれながらも、じっと立ち続けられ、御子の最後を見届けます。聖母の、無言で、しかし深い愛情に満ちたこのような動作が、キリストをどれだけ勇気づけたことでしょう。

8月15日は、聖母の被昇天の祝日です。さらに今年は「マリアの年」でもあります。わたしたちはこの機会に、聖母への信心を新らたにし、その実践に努めなければなりません。しかし聖母信心は、ただ聖母への特別な尊敬を表現したり、神と人類の仲介者マリアの取り次ぎを願うだけでは不十分です。聖母の素晴らしい生き方を模倣することも、聖母信心には欠かせない、大切な要素だからです。

（サン・スルピス会司祭　大神学院教授）

献金報告

聖ペトロ聖座への献金
一、四五一、八九一円

クララ岩永モルさん（健軍教会）
7月11日（土）、熊本にて帰天。72歳。岩永義人神父（二日市教会）の母堂にあたる。

編集室から

「『教区報』は毎月欠かさずに出しますか？」「いいえ、うちには夏休みがあります。」というやりとりは全教区の広報担当者の集まりの時のものです。

しかし、わが福岡教区報『カトリック』は今年も夏休み返上でがんばることになっています。

今月号は、「戦時下の信仰」を特集してみました。貴重な体験をお寄せくださった方々に感謝いたします。なお、できるだけ内容を割愛しないで載せるために今号と次号の二回に分けることにいたしました。

今年の2月に青少年担当司祭団の一員として、韓国・ソウルのカテドラルで韓国の青年代表者たちと会合をもったおり、「どうして神父様たちは、日本で韓国人たちが〝指紋押捺〟をさせられていることに反対しないのですか」と質問されて当惑した経験があります。

編集室では、教区報の内容について、読者の皆さま方からの投稿をお待ちしています。ご批判、感想、注文など大歓迎です。（W）

新田原教会 共同墓地改葬

新田原教会共同墓地の改葬を計画推進中であります。当墓地に埋葬し不明になっている管理者（身内の方）を探しています。心当りの方は当教会へ御連絡下さい。

連絡先　福岡県行橋市大字東徳永384 カトリック新田原教会 ☎09302－3－1594

そんなら死なずに生きて居らっしゃい。

夏目漱石

かのときのことのは

森山　敬三

『硝子戸の中』に所収。

ある女が、五度漱石を尋ねてきて、死ぬほど辛い話をした。そして先生だったら、この女をどうお書きになりますかと尋ねた。漱石は生と死のどちらにでも書けると答えた。そしてもう十一時になったから送りましょうと言うと、女は先生に送って頂くのは光栄で御座いますとのべた。本当にそう思いますかと尋ねたら、はっきり「はい」と答えた。それから前掲の文となる。死を覚悟しているほどの人が、同じ人間である漱石に送ってもらうぐらいを光栄と思うならまだ人生に喜びがあり、生きがいがあるから、「死なずに」ということになる。

ドナルド・キーンは、谷崎・川端は大文豪であっても、漱石・鷗外はそうではないという。なるほど、さもありなんと思う。

しかし二人は、大文豪というより、むしろそれを越えた一世代の文化の指導者であった。

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8－8
TEL 092－531－3831
夜間 092－521－0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092－552－8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL 093－771－3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店 ☎2－0646
行橋市駅前5秒店 ☎2－2390
北九州市黒崎年金病院前店 ☎641－4321
北九州市黒崎駅前名店街店 ☎641－7177
北九州市ダイエー城野店3階 ☎922－5637

未来へ――安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 藤倉良夫

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長 吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL 092-521-0568

カトリック

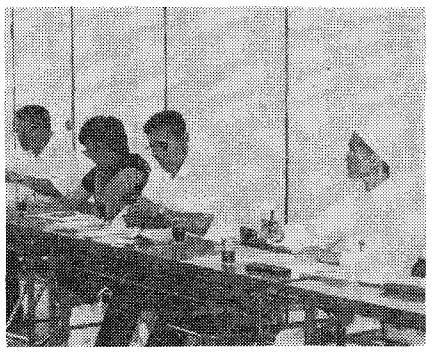
平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42319
定価一部60円

急げ！'87ナイス（第一回福音宣教推進全国会議）への意識化

福音宣教は今、実践の時

教区信徒使徒職協議会定例会で 山田成章神父（指導司祭）が指摘

福岡教区信徒使徒職協議会の定例会議が、7月26日(日)福岡市のカテドラル大名町教会で行われた。この会議は、今年の11月に京都で開催される「第一回福音宣教推進全国会議」に向けたもので、熊本、北九州、佐賀、福岡の各地区から司祭、シスター、信徒など20名が出席して、それぞれ現状報告を行った。



山田成章師（教区信徒協指導司祭）のあいさつ

福音宣教について悲観的な味方をする人もいるが、私たちはいろんな困難、障害、弱さがあっても宣教を第一の任務とし、神への信頼のうちにイエズスのあとおしをしなければならない。

福音宣教は今、実践の時である。

社会に福音の光を　熊本地区

一、新しい社会をつくるために、一人ひとりが「小さな愛の実行」を重ねていく。そのためにもっと社会の現実、例えば、いじめ、性や国籍、職業、出身などによる差別、偏見に問題意識をもつこと。

地域社会で行われているボランティア活動に参加して地域の人と一緒に、小さな人、弱い立場の人に奉仕する。

二、家庭で信仰を生きるために、片方が未受洗者の場合でも相手の信条を大切にしながら、自分の信条についても語ること。

家庭で夫婦、親子一緒に聖書を読み、祈る習慣を身につける。

三、教会の存在をアピールし、掲示板などを使って、みことばを告げ知らせること。

PTAや町内会などの地域活動に積極的に参加し、教会での催しなどを案内していてきているが、全国会議のために宣教を語るのではない。

「全世界に行き、すべての者に福音を宣べ伝えなさい」（マルコ16・15）は、教会すなわち神の民全員に与えられた使命である。福音宣教は、日本の教会の構成メンバーである司教を中心とする司祭、修道者、信徒全員がそれぞれの立場の特性に応じて協力し、責任を分かち合わねばならない。

二か月後に迫った第一回福音宣教推進全国会議に神の民全員が、さらに注目し、『カトリック新聞』『教区報』その他の書籍にも関心を持ち、司教団から出される種々の方針や課題を学び、自己のタレントや持ち場に応じて積極的に提案、実行していくことが肝要ではないだろうか。(F)

ナイス'87 福音宣教推進全国会議

なぜ、いつ、何をめざすのか

「福音宣教」という言葉が飛び交い、ナイス、全国会議といった話がひんぱんに語られている。

今、日本のカトリック教会は、何をしようとしているのか。何が起ころうとしているのか。これまでの流れから見てみたい。

第二バチカン公会議後、数回にわたる司教団の方針や提案に対しても、あまり反応しなかった人々に、一九八一年二月教皇ヨハネ・パウロ二世の来日は激震を与えた。

特に教会の現状の刷新を願う信徒の声は、あちらこちらで高くなっていった。

その頃、司教団はその決定事項をもっとスムーズに信徒へ伝達するための中央機構改革に取り組んでいた。その中で信徒中心の全国会議を司教会議レベルで行うことが提案され、具体化されていった。

一九八三年六月、定例司教総会は「福音宣教推進全国会議」の設置を決定、その中でこの全国会議は司教団に対する提案、また答申の場と規定された。同時に「基本方針と優先課題」の構想が生まれた。

一九八四年の司教総会は、「日本の教会の基本方針と優先課題」を採択発表し、第一回の全国会議を一九八七年に実施することを決定した。

その後、定例、臨時の司教総会を積み重ねながら、司教団の全国会議への基本姿勢を「聴き、吸い上げ、活かす」と確認。全国会議とそれに至るまでの具体的な活動についての検討がなされていった。

一九八五年十二月「信徒公聴会」「司祭研修会」など、教区別の行事が承認され、各地で「公聴会」「研修会」が開催された。

一九八六年十二月にこれまでの公聴会や研修会の結果をもとに全国会議の課題を『開かれた教会づくり』と決定した。

十一月の全国会議に向けてはむろん、各教会でも「福音宣教」を語る機会が多くなっ

今月のみことば

私は
仕えられるためではなく
仕えるために来た
（マルコ10・45）
呼子　田川清美　神父

時の話題

世の価値観と信仰

秋吉俊男

世間のニーズに、応えられる企業は栄えると同じように、世間のニーズに応えうる大学は、多くの若者や、その父兄のあこがれとなる。

日本では、このような有名大学を出れば、有名企業に入れるし、入社後も出世でき、生活も保証されるという、強固な学歴社会が出来上がっている。

このようになりたいというのが、世の人々のニーズであろう。

カトリックの学校も、例外でなく、ラサール、栄光学園を頂点とする進学校が、世の人々のニーズに応えて発展している。

このような価値観が一般化している中で、我々はどのように対応しなければならないだろうか。

私の目にとまるのは、このようなエスカレータに乗れない学生の方が多いということである。この中には、あきらめ型、無関心型と、まれに叙上の価値を認めない者もいる。

すなわち、「私はテストに失敗した」と言うことから、「私は失敗者だ」と言う自己像を、長い学校生活を通して持ち続けているのである。

したがって、そのような学生が、就職先を選ぶときも、仕事の種類ではなく、郷土指向であり、事なかれ主義的な、夢のない選び方であり、世話をする方が不安感にかられる。

カトリックの学校は、例外でなく、ラサール、栄光学園を頂点とする進学校が、世の人々のニーズに応えて発展している。

このような価値観が一般化している中で、我々はどのように対応しなければならないだろうか。

私の目にとまるのは、このようなエスカレータに乗れない学生の方が多いということである。この中には、あきらめ型、無関心型と、まれに叙上の価値を認めない者もいるが、いずれも、自己に対して否定的な、失敗型の自己像の持ち主が多いのである。

すなわち、「私はテストに失敗した」と言うことから、「私は失敗者だ」と言う自己像を、長い学校生活を通して持ち続けているのである。

したがって、そのような学生が、就職先を選ぶときも、仕事の種類ではなく、郷土指向であり、事なかれ主義的な、夢のない選び方であり、世話をする方が不安感にかられる。

つまり、前述の価値観と、それに即応した、社会の活動は、学校教育のあり方を含め、多くの若者を、失敗型の自己像の持ち主に変えているのである。

我々は、このような価値観以外に価値はないとする考え方と戦わねばならないと思う。

「まことの信仰があれば、このような価値観にとらわれることはない」ということであろうが、まことの信仰を持たない人にどうやってこれを知らしめるかが大きな問題である。

福岡工業大学教授
（大名町教会所属）

家庭で信仰を話題に　福岡地区

一、教会の建物を人が入りやすいものとなるように改造した。

二、一般向けの講座を開いて好評を得ている。

三、親からの要望と協力で、中・高生のためのお泊まり会をしている。

小教区を班に分け、教会にこれない人などへの細かい配慮を心がけている。

きめ細かな配慮を　佐賀地区

一、住む家のない人たちへの炊き出しやテレホンサービスの実施などをとおして社会問題や政治問題に福音の光をあてていく。

二、マスコミなどから得られる信仰に関する材料を家庭内の話題としたり、親子で信仰上の問題を話し合う。また家庭で霊名の祝日を祝う。

三、小教区で「家庭の日」を設け家庭の信仰を見直す。

四、教会で結婚したカップルのアフターケアを考える。

◇　◇

〈解説〉

午後一時半から3時間にわたって、各地区で行われてきた集会や実践の報告がなされたが、それぞれの地区の報告には地区全体の声が十分に網羅されていなかった。

さらに報告のなかで、福音宣教に対する取り組みが、自分の小教区の司祭の活動の紹介になっているのも気にかかる。もっと信徒として、家庭や地域社会、教会で個人として、共同体として福音宣教をどのように実践してきたか、その結果はどうだったのか、どのような問題に早急に取り組むべきかといった具体的内容がほしかった。

各地区の報告のあと、①小教区で司祭と青年が本音でぶつかりあえる場を早急につくろう。②小教区の縄張りを越えて、信徒やシスターの有能な人材を発掘し、利用しては。③教区の司祭団の声を聞く場を設けては、といった提案がなされた。

これらの提案にどうこたえていくか、教区の司祭、修道者、信徒間の本音の対話の促進がのぞまれる。（山内）

「マリアの年」にあたって司教団が指針

教書「聖母マリアに対する崇敬」を発表

日本カトリック司教団は、8月15日の聖母被昇天の祭日に、教書『聖母マリアに対する崇敬―一九八七年「マリアの年」にあたって―』を発表した。

このなかで司教団は、福音宣教推進全国会議の年にあたって、聖母に対する崇敬を通して、福音の教えを正しく悟り、生活の中で信仰を生き、人々の救いに協力する姿勢を確立しよう、と呼びかけている。

さらに、神のおん子・救い主イエズスの母マリア、救いのわざに協力するマリア、教会の母マリア、聖母マリアに対する崇敬について語ったあと、聖母への正しい崇敬についていくつかの原則をあげている。

一　キリストこそ唯一の仲介者であり、マリアは私たちをキリストに近づける。

一　福音書を学び、幼な子の心で聖母との親しさを深めること。

一　教会の伝統的な信心、典礼、祈りを基準にした聖母への信心を心がけ、とくに〝不思議現象〟と結びつけようとする傾きに注意すること。

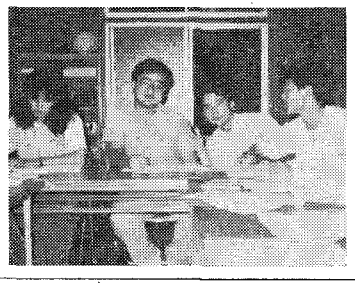
一　青少年の胸に聖母の姿をきざみ、家庭の中でマリアが夫婦・親子のだんらんの中におられるようにすること。

教区青年体育祭

10月4日に熊本で開催

10月4日に熊本天使園（菊池郡西合志町）で「教区青年体育祭」を計画している教区青年委員会（代表 松熊覚・飯塚教会）が教区の青年たちと各小教区の主任司祭、信徒に理解と支援を求めている。

代表の松熊さんは「一昨年は、『青年の社会参加』をテーマに教区の青年たちが共に考え、語り、祈ることによってカトリック青年としての生き方を考えました。今年は、レクレーションをとおして、より一層の交わりがもてたらと思います。青年会のない小教区からもひとりでもふたりでも青年が参加してくれることを期待しています」と呼びかけている。



みちくさ

夏の高校野球をテレビで観戦した。勝者の満面の笑みと敗者の涙が画面一杯に映し出された。「厳しい練習に選手たちがよくついて来てくれました」と喜びを隠せない監督。一方、敗者の監督は選手たちに「悔しかったら、明日からではなく、今日から勝つための練習を」と檄（げき）をとばす▼マスコミもこぞって勝者をたたえるが、勝つことはいつでも美しいことなのかと、ついすねて考えてしまう。「クラブでスポーツをやっている子供は非行に走らない」などと言われるとなおさらである。肉体を鍛えることも、ただ相手に勝つためであれば何かむなしい▼聖パウロは信仰生活を競争にたとえてもいる。しかしパウロには、我々が持っているような排他的勝利主義を感じさせないすがすがしさがある。彼には、激しく突き進みながらも、遅れてくるものに対してのいたわり、心づかいがある▼ナザレのイエズスになると、それはより一層鮮明だ。イエズスはいつも敗者の側にいたように思う。イエズスにとって健康な肉体は、多分、スポーツなどできない人々のために奉仕することによって、より意味のあることだったであろう▼鍛えられた肉体の持ち主が、自分の運動用具は喜んでかかえながら、体の不自由な人やお年寄りの小さな荷物を持ち上げることを拒否する姿はなんとも滑稽である▼九月十五日は敬老の日。老人の美しさは、敗者の美しさだ。彼には肉体的若さをもって勝つことをすでに超越した美しさがある。すべての老人には勝利の歴史の輝きではなく、誰も追随できない固有の人生の重みを感じる▼表彰などされたことないがスポーツを愛するがゆえに、せめて子供たちは、勝利第一主義の日本の大人社会の牢獄から開放させてあげたいと思う。何のためのスポーツなのか。「スポーツの神学」の誕生をこころ待ちにしている。

戦時中、多くのカトリック者がその信仰のゆえに敵視され、外国人宣教師が捕えられた。
「司祭、修道者、信徒たちが自分の信仰を守っていくために忍んだ、さまざまな十字架の上に現在の教会がある。
もちろん今なお、教会の戦争責任を問う声もあとを絶たないが、平和のための不断の努力を私たちのこたえとしたい。

赦しを請うた外人神父

Sr. 堀　シゲ

戦争と平和、生と死、悲惨と繁栄の事実を私たちはどう見たらよいのでしょうか。
昭和十六年十二月八日、戦争勃（ぼっ）発を耳にした時、不法な人々の手で磔（はりつけ）にされたキリストの御姿を眼前にみたように思いました。
当時、私はマリアの宣教者フランシスコ会々員として、横浜のゼネラル・ホスピタルに勤めていました。日本の敵国とみなされた国の人々は抑留され、女性は横浜市内に男性は神奈川県の高地の山の中の抑留所に送られました。
英国人であるシスターAも収容所へと朝五時に連行され、私たちはあまりに突然の出来事に驚き、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているかわからないのです。」とひたすら祈りました。
姉妹シスターAは胃潰瘍の病気があったので一日一回の食事の差し入れが許可されていました。幸いに毎日食事を運ぶことができ、神に感謝しながら通い続けました。
収容所の中には他の修道会のシスターもおられ、信者の方々とロザリオを唱え、ひたすら平和を祈っておられるのが耳にひびいてきました。話ができないので互いに目で合図し、無言のまま帰ってきていました。
また決して忘れられないのは山奥深く抑留されていた宣教師二十五名、修道士三名計二十八名のフランシスコ会、ドミニコ会、ラサール会の神父様方の神への完全な犠牲、自己を奉献されている姿でした。与えられる食事が少なく一日一日と体重減少、栄養失調がみられました。

差し入れは週一回金曜日に許可があり、その日を神父様方はどんなに首を長くして待っておられたことでしょう。
私と病院のボーイさんは40キロ位ずつ食糧を背負い、山すそから10キロメートルの道を登っていくのでした。それはまさに十字架の道行きのようでした。朝五時に病院を出発、午後二時の差し入れ時間にやっと間に合う状態でした。神父様がたは窓に顔をくっつけ、ボーイとモンペ姿の私が来るのを祈りながら待っておられました。
当時ミサを捧げることは許可されていました。ホスチアは簡単に差し入れができましたがブドー酒は贅（ぜい）沢品だといって許可がなく、東京まで行って内務省の許可を得なければなりませんでした。

戦時下の信仰

後編

時には忙しくて許可を得ないまま出かけた時、どんなに願っても許可されず、神父さま方は二本のブドー酒をみて許されないのを心配しながら祈っておられ、間仕切りガラス戸に「シスターもう少しがんばって」と指で書いて私を励まして下さる様子が見えました。
しかし、どうしても許されず神父さま方の期待に添うことが出来ないのを残念に思い泣きながら帰りかけた時、ふと頭に浮かんだのは山の中にブドー酒を捨てたらどうかという思いでした。
すぐ大きな松の木の下に捨て、その上にゴミをのせ窓から私たちを眺めておられる神父さまに手で合図し、ロザリオを唱えマリアさまの御助けを願いつつ帰途につき、後ろを振り返ってみると一人の神父さまが裏からソッと出てスータンの中に二本のブドー酒を入れておられるのがみえた時、私たち二人の喜びは言葉では表現出来ない程でした。
神父さま方は一週間ミサをあげられたことを知らせて下さり感謝して下さいました。
私たちは思い通りにならない辛さを感じながら、この辛い時期を明るく強く生き抜こうとがんばりました。
その後、戦争も激しくなり病院も外人経営の病院のために接収され、私たちは多くの外人シスターと軽井沢に疎開しました。
その後、二十八名の神父さま、修道士の方々は大変辛い思いをしながら平和到来の日を祈っておられたことでしょう。
終戦後、この神父様方から「輝く父なる太陽の光をさえぎって広島と長崎の母なる大地から多くの生命をうばい取った事を残念に思う」という赦しを請う手紙をたくさんいただきました。私たちのおこなった小さな行為を神父さまが喜んで下さったことを思う時、たとえ小さい善でも大きな愛をもって行えば、神は豊かな恵みと喜びを多くの人に与えて下さるということを体験いたしました。
今後もできるだけ、精神的に苦しんでいる人、病める人、身寄りのない人々のために小さな形で協力の手を差しのべたいと思うこの頃です。
（マリアの宣教者フランシスコ修道会　熊本第一修道院）

ロザリオを離さず

北九州市　一信徒

戦時中は？と問われると、正直なところ「食べ物を見つけるのに必死で子供を背負ってあちこち遠くまで親戚や手づるを訪ね歩き、食糧を少しでも手に入れる術で頭はいっぱい。教会どころではなかった」との思いが浮かびます。
キリスト教だからといって迫害された記憶はありませんが、とても悲しかった思い出はあります。空襲で、大きい建物は爆撃の目標になるからと立派な聖堂が取りこわされた時です。
聖堂の窓にはヒューゼ神父さまが苦労して募金をつのり母国から取り寄せた美しいステンドグラスがはめられ、当時は珍しい代物として私たちは宝とも誇りとも思っていました。
爆撃の目標になると町内から話が出たとき「とんでもない、米兵は同じキリスト教だから反って聖堂の十字架を避けてくれるはず」と反発しましたが、どうにもならず口惜しい思いをしました。
戦時中、キリスト信者だからと引け目を感じたことなど特別になかったと思います。なぜなら私の判断では日本はイタリアと同盟国だし、教皇さまのおられるバチカンはイタリアの親戚みたいなものだからと考えたのです。
父が教会の役員をしていた時、隣組で神社奉仕の当番が回ってくると、必ず「これは信仰と別問題」とはっきり家族に説明し、きちんと役目を果たしていました。だから私も神社参拝を義務づけられたら出かけて行きました。戦時下の日本人として信者であることを恥とか特別に考えたり悩んだりしませんでした。
次第に戦局が深まり、外人の神父さまたちは収容所に。遂に信者の集まる場も取り上げられ、棚町神父さまがあちこちの大きめな家を巡ってミサが捧げられました。日曜日のミサに行けない日が続いても、家庭祭壇の前で家族揃って唱える夕の祈りは絶えることがありませんでした。
また、身内に死者があるときは親族がその家に集まって葬儀のすべての準備や手続きを分担し、一週間毎晩集まっての祈りはとても心強かったし、その雰囲気は教会の喜びを体験するに充分でした。
とは言え、前にも言いましたように信仰は？と問われると、信仰生活の面で胸をはって語れるものは無いような気がします。
戦時下の青春は惨めなもので、燈火管制が発令されると楽しいクリスマスの行事もできず、青年の集会もお手あげ、まして防空壕を出たり入ったりする頃は、生きのびることに夢中だった気がします。
しかし、私たち信者にはロザリオを祈ること、不思議のメダイを通しての信頼がありました。どん時でも肌身離さず身につけていて無意識な中でも祈り続けていたように思います。
私の信仰はこれだったと言えましょうか。

狂気のひとこま

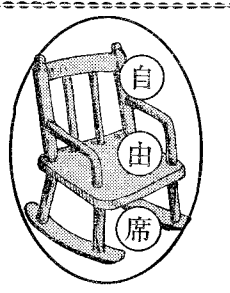
松室　淑子

戦時下の信仰――まだ信者でなかった私にもこのテーマは、昔の情景をまざまざと反省をこめて思い出させます。
当時、小倉下到津の電停ではさんで北側は西南女学院、反対側に私が通う県立小倉高女がありました。通学者はその電停から左右に分かれた通路をそれぞれ利用します。その岐路の電柱に、ある日大きな立看板が出されました。
その看板にはミッションスクールを非難する内容が書かれていたと記憶に残っています。その前を行く西南の人たちは顔をそむけたり、うつむき加減で足早に通りすぎて行くように見えました。同じ学生である私がじたことを思い出すと顔が赤くなります。まったく現代のいじめさながらいかにも看板の文面に同感だと言わんばかりの態度で、敵意のこもった眼差しを彼女たちに浴びせたのをいまだに忘れられないままでおります。
西南の学生は、ミッションスクールであること、米国人と関係がある学校という理由で敵視される理不尽さを感じながら懸命に耐えていたかもしれません。とくに、信者であった人たちの苦しみはどんなであったろうかと終戦後、次第に後悔の念が広がっていきました。十六、七歳の夢多く心やさしかるべき女学生の胸に、意味のない敵意を燃え立たせたあの日の苦しいひとこまは、刺のように心にささって抜けきらないのです。
そして私にとって、このような苦しい思いは、戦争が生み出した狂気のひとつだと心に深く写っております。
（小倉教会）

フィリピン　ネグロスの顔（上）

松尾　光敏

昨年十月から、若松教会と附属の天使幼稚園が一丸となって、「ネグロス島救援キャンペーン」を行い、募金活動を実施中ですが、私は、海を越えたネグロス島の人々が〝私たちに実際に何をもとめているのか〟しっかりと自分の目と耳で確かめるために、主任司祭のマルセル神父と信徒三名で3月下旬に現地を訪問した。
マニラから南に約四八〇キロのネグロス島バコロド市へ空路一時間で到着し、宿泊。
朝食後、ミセス・マリッチェ・サルムデさんの案内で、私たち一行は、BCC―COオフィス（キリスト教基礎共同体・本部事務所）を訪ね、集まった数十万円の援助金を渡し、現地の状況や活動をお聞きした。
バス（ジプニー）は安くて便利だが、30名余りがぎゅうぎゅう詰めで、約二時間半、ガタガタ道をほこりだらけで走り、腹わたが飛び出しそうであった。無事、ラ・グランハ・ラ・カルロータ市に到着した。セント・ビンセント・フェレーラ司祭館で一休みしたあと、ラ・グラハとナガシのキリスト教共同体に行き、中世の遺物であるアシェンダー（砂糖きび農園）を訪ねた。最初は、お互いとまどった感じであったが、開放的で明るい人たちに、村落や家庭の中にも入れていただいた。
信者たちが竹で編んで作った教会に案内されたが、電気がないので、数本の〝コカコーラ〟のビンに灯油を入れて灯をともして、夜遅くまで、聖週間の準備のために聖歌の練習や聖書の分かち合いが行われ、小さな子供から老若男女40名が集まった。ある家庭での集会には、子供から大人まで20数名が集まり、私たちは信仰における兄弟としての交わりを持った。
（若松教会信徒）



殉教者と私

中一　松本　恵

私たちは、7月28日から三日間、山口、島根に巡礼に行きました。
一日目は山口に行き、ザビエル公園、常栄寺、瑠璃光寺、ザビエル記念聖堂に行きました。ザビエルが日本へキリスト教を伝えるために通った道がとても長いこと、多くの国に布教してまわっていることにとてもおどろきました。
二日目には津和野の乙女峠、殉教徒墓、郷土館、太鼓谷稲荷神社などに行きました。前に本で読んだ人々のことが、さらによくわかりました。
キリスト教を捨てないために、いろいろなどうもんをうけても宗教を守りとおした人々のことを知り、とても偉い人たちだと思いました。きっと私があんなどうもんをうけたら、すぐに仏教にかえただろうと思います。
この二日間、信仰の厚い人々のことを学習したことで、私も良い人になれたらと思います。
（大名町教会）

福岡ブロック青年の親睦会に参加して

浦上　亜由美

福岡ブロックの青年の親睦を深めるためのキャンプが8月1、2日の両日、古賀教会で盛大に行われ、川上神父様、オブレート会の神学生2名を含む若者22名が参加しました。
1日は、あいにくの雨でしたが、夜中は最高に盛り上がり、他の教会の人たちともいろいろ話をして親しくなりました。
2日は、雨もあがり、みんなで海水浴にいったり、フリーの時間にはテニスやバレーボールなどをしました。私もできもしないテニスをして大恥をかきましたが愉快でした。
私は海水浴に歩いて行ける距離にある古賀教会の環境の良さと、みんなと共に運動できる場のある設備、天井の高い立派な教会でミサに与ることができたことに感動しました。
共に食事をし、祈り、寝、眠くなるまで語り明かした二日間は、私にとって忘れる事のできない思い出になりました。
これからもこういう会に参加して、良い友だちをたくさん得ることができたらいいなあと思います。
（大名町教会）

けど私にできるかな……
（手取教会）

中央出版　福岡支部
▨キリスト教関係、書籍、家庭の友
▨典礼聖具
▨ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

きぼうの電話　―喜ぶ人とともに喜び泣く人とともに泣く―
(092) 865―1212
相談：生き方，家庭，学業，仕事，恋愛，宗教
時間：月・水・金曜日午前11時～午後4時
午後8時～午後10時
相談時間外テレホンサービス
カトリック　福岡黙想の家
〒814-01 福岡市城南区西片江1-17-63

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡 (712) 8022　久留米 (33) 7401
佐賀 ((30) 4040　小郡 (72) 3482

人間の尊厳の回復

エンペスタン神父を迎えて
学びたいネグロスの信仰の実践

―「貧困・飢餓」から自立への希望をめざしてーフィリピンのネグロス島救済の集会が7月19日、同地で活躍しているロメオ・エンペスタン神父をむかえて、福岡カテドラルセンターで行われた。

年間、千人にものぼる子供の命が消えていくこの島に、福岡教区では二年ほど前から救援活動を続けているが、エンペスタン神父は、「ネグロスのことを気にかけてくださり、いつでもどこでも、あたたかい歓迎をうけて大変感謝しています」と次のように語った。「アキノ政権になっても人々の大きな希望である農地改革、経済の立て直しはほど遠い。教会はBCC（キリスト教基礎共同体）を組織して、自立と開放を目指している。司祭たちは、貧しい人々の中に入っていき、彼らと生活を共にし、週一回、人々が集まりやすい場所で、生活と聖書の分かち合いを行う。そこでは、人間の尊厳や救いの歴史のなかで、不正と戦う民衆の側にはいつも神が共にいてくださったことを学ぶ。ネグロスにとってよい知らせとは、皆が毎日三回の食事をすることができるようになること。教会は貧しい人々の側に立っています。そのために、権力者や軍隊から弾圧を受けています。36人の教会リーダーが殺され、司教館にも爆弾が投げこまれました。このような困難の中にあっても私たちは神に信頼して力強く歩いていきます。」

集会の世話人の一人でもある吉塚教会の青柳行信さんは「私たちにできることは、ネグロスのBCCに学び、自立への物心両面にわたる援助を継続して、愛のかけ橋を強固なものにしていくことです」と語っている。

援助金の送金方法

郵便振替
福岡6―3120 5

銀行振込口座
福岡相互銀行吉塚支店
（普通）
座番三一七
口座番号一二六三九三

名義はいずれも「ネグロスに愛の手を」

ネグロスの子供たち
（写真は松尾光敏氏提供）

聖心のウルスラ宣教女修道会
来日三十五周年を祝う
本部修道院の落成式も

福岡

7月31日、聖心のウルスラ宣教女修道会（福岡市南区塩原）の来日35周年と本部修道院の落成式が行われた。

式には平田司教をはじめ、建築にたずさわった方々や来日35周年を共に祝う約一〇〇名が参列した。

まず本部修道院（志願院・修練院を含む）の祝別が平田司教によって行われ、ひきつづいて感謝のミサが司教と10名の司祭の共同司式でささげられた。司教はミサの中でマリアの年に来日35周年と、落成式を祝うことの意義深さをマリアの使命とウルスラ会の使命の共通性から説いた。

ミサにつづき、記念式典では、平田司教と来日当初からかかわりの深い伊東誠二神父（佐賀県馬渡島）のあいさつがあった。

平田司教のあいさつ

「35年前にウルスラ会がこられて美野島の貧しい修道院で長い間過ごされました。まさにナザレの聖家族の生活だったと思います。貧しい無一物の生活から始まった会は、3年後には延岡に高校を設立するという大胆さといいましょうか、すばらしい宣教の精神をもって、仕事は広まっていきました。

今日、とくに感謝の心を表わしたいのは、ほとんどの修道会が東京に管区長館を持っていますが、なつかしい発祥の地、この地に管区長館を建ててくださったことであります。」

伊東神父のあいさつ

「私も、ウルスラ会が福岡に持っておられる非常に大きな執着というものを感じています。これからも摂理の中になにがあるかわかりませんが、イエズスの気持ちが初めてはっきりしたという最初の宣教女のことばのように、喜びを持ってさらに今からの歩みを続けていかれますように心から願っています。」

聖心のウルスラ宣教女修道会は一九五二年、中国より追放を受け、福岡市美野島で宣教活動を開始。

現在、福岡に大橋カトリック幼稚園、延岡に緑ケ丘学園高校、短大の教育事業、三重県では三雲カトリックの家の福祉事業に従事している。

第13回日本カトリック婦人団体連盟総会から

愛と喜びについて (3)

島本 要 司教

信仰の喜びの源泉、それは何なのか。神が私を愛してくださっている。しかもその愛は哀れみでない。愛と、哀れみは本質的に違うと言えます。哀れみは、弱い人に対する同情です。神さまが私たちを哀れむ時その哀れみの心は、何であるか。「あなたは弱い、だから罪を犯す、失敗を繰り返す、でも、あなたは本来、弱い者だから同情し大目に見てあげよう」これが、いわば哀れみです。ですから弱さというものを神さまは認め、大目に見、赦して下さる、哀れんで下さる。これは弱さを自覚している私たちに、すばらしい福音です。

でも、愛はそうではありません。愛はもっと積極的なものです。

あなたは素晴らしい、私はあなたに惹かれているというこの神の心、これが愛です。その愛を信じることができれば、あなたは幸せです。信じることができなければ、あなたの信仰は、まだまだといわねばならないと思います。

神が私たちを愛してくれている印は無数にあります。また一人ひとり違うこともあります。今日は、全ての人に共通していえる印を話します。

神の愛の確かな印、それは十字架上のイエズスです。

なぜ、イエズスはあのような無残な、傷だらけの姿で亡くなられたのだろうか。

それは神が、イエズスが私たちを愛して下さったからです。愛ほど傷つきやすいものはありません。愛が深ければ深いほど、その心は傷つきやすいのです。ところで、使徒聖ヨハネは神について語るとき、「神は、愛である」と教えております。神が愛そのものであるということは、神ほど傷つきやすいお方はいないという結論になります。

神が人間一人ひとりに注いでくださった愛、その愛を信じてもらえなかった、受け入れてもらえなかったというその心の痛みこそ神の心の傷といえます。したがって愛そのものであるが故に、神さまは傷だらけのお方である。

でもその傷だらけの神は霊であるがゆえに私たちには見ることが出来ません。

そこで、人となられた神、イエズス・キリストが十字架上で、愛ゆえに傷だらけになっておられる神の心を私たちに見せてくれます。

「ごらんなさい、神はこれほどまでに、あなたたちを愛しておられるのだよ。この傷の一つ一つは、あなたに対して注がれた愛、しかも信じてもらえなかった、応えてもらえなかった、受け入れてもらえなかった愛の傷なんだよ」という切実な愛の訴え、それが十字架上の傷だらけのイエズスの姿なのです。

（浦和教区長）

8・15 不幸な道を歩まないために
福岡市天神周辺を平和行進

終戦記念日でもある聖母被昇天祭の8月15日、午前10時30分から、福岡地区信徒使徒職協議会他の主催による「福岡8・15平和を建設する集い」が福岡市大名町カテドラル・センターで開かれた。

集会にはカトリック、プロテスタント各派の信徒、神父、牧師、修道女、一般市民等約二五〇人が参集。

韓国・朝鮮人被爆者の管区長Sr.M・G・フェラリスは「中国を追放されて日本にやってきましたが、神への信頼とキリストの愛を人々に伝えたいと励んできました。これからも宣教に励んでいきたい」と語っている。

終戦記念日でもある聖母被昇天祭の8月15日、午前10時30分から、福岡地区信徒使徒職協議会他の主催による「福岡8・15平和を建設する集い」が福岡市大名町カテドラル・センターで開かれた。

集会にはカトリック、プロテスタント各派の信徒、神父、牧師、修道女、一般市民等約二五〇人が参集。

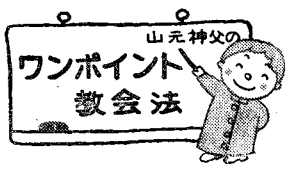
韓国・朝鮮人被爆者の証言を通して戦争を問いかける映画「もうひとつのヒロシマ」を観た後、横田耕一氏（九州大学・憲法学）によるテーマ「今ここまできた軍国化」の講演を聞いた。

横田氏は「第二次世界大戦の正しい戦争評価と伝達がされていない。今、軍事化とそれを支える共同体意識づくりが国家により強化され、国民が同質化される傾向が、教育その他の現況から明らかにみられる」と、日本の軍国化への道が急速に進められていると語った。

集会後、参加者たちは、再び戦前と同じ不幸な道を歩むようなことが決してないようにとの祈りと願いをこめて、天神周辺を平和行進した。

この日は、四十二年前を思わせるような真夏の日ざしであったが、沿道の人々はキリスト者の平和への祈りと行動をあたたかく見守っていた。

無効な婚姻



今回は少し勉強しましょう。

婚姻を適法にするためには、次の三つが要求されます。

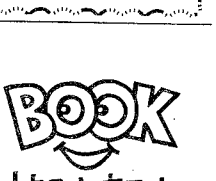
①当事者が、婚姻する資格を有し、②内的意志をもって、③その結婚する意志を適法な方式によって表わすことです。この三つの中でひとつでも要件が不足すれば、その婚姻は無効になります。つまり、①「すべての者は、婚姻を締結することができる。ただし、法によって禁止された者はこのかぎりではない。」（一〇五七条）という条項がありますが、法によって婚姻を防げる事情や障害がありながら結婚すれば、その結婚は無効になります。法による障害には以下のようなものがあります。それは、年齢障害、交接不能障害、きずな障害（前婚の絆が残っている場合）、異宗障害、叙階障害、無期誓願障害、誘拐障害、血族障害、姻族障害、広義障害、養子縁組障害です。（一〇八三条～一〇九四条）このような障害がある場合、それを権威者によって前もって免除されなければ、有効な婚姻を結ぶことはできません。

よく問題になるのは、異宗障害がある場合です。これは信者と未信者の結婚の場合ですが、この障害は、主任司祭とその権限を受けている助任司祭が免除することができます。

また、きずな障害というのは、前婚の絆に結ばれていながら結婚（再婚）しようとする場合で、この場合、前の結婚が解消されないかぎり、再婚することはできません。結婚は原則的に解消不可能ですが、ごく限られた場合にだけ、その権限を持つ人が解消することができます。これについては次回に説明します。

②の場合は、当事者が結婚する意志をはっきりと持っており、③はその意志を教会の定める方式で表明するということです。

（小倉教会）



☆老いと死の受容
日野原 重明著

いのちを見つめつづけてきた医の思想家が私たちに教えてくれる――どう老いるか？そして、死をどう生きるか…

人間は、必ず死を迎えなければならない。しかも、生の延長線上に死があるのではなく、私たちは、日々死を背負って生きているのである。この人生最大の難関――老いと死――の問題に、日本を代表する名医がアプローチする珠玉のエッセー集。

（春秋社　一、三〇〇円）

☆たたかう老人たち
重兼 芳子著

老人ホームや老人たちの集まるところを訪ね、さまざまな生き方のお年寄りの、なまの声や姿を著者のあたたかい眼で紹介している。

このルポルタージュは、『あけぼの』誌に二年間、連載されたもので、写真が豊富にはいっていて、それぞれが12ページ程度の短いものなので読みやすくしている。

（女子パウロ会　一、三〇〇円）

☆老いの人間学
村田 忠良著

「老いの人間学」を専攻する者の必要十分な資格は、老いを体験しつつある者であるべきではないだろうか。もちろん、人はすべて老いるのであるから、老いの人間学は老若男女を問わずすべての人の関心事でなければならない。

著者は精神科の臨床医として、老いの孤独を考え、老いの宗教心を思い、人生の豊穣の秋を歩む人として老いをとらえ、老いを視点に生と死を眺め、折々の思索を書き連ねてみたと言っている。

本書は北海道新聞に連載されたもので、多数の要望にこたえて一冊にまとめたものである。

（中央出版社　八八〇円）

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
石 石 他
理 影 の
大 御 そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

九月の行事

※ゴチックは司教日程

3日　オルガン・コンサート（カテドラル）
5日　オルガン・コンサート（手取教会）
6日　堅信式（健軍教会）
10日　オルガン・コンサート（久留米信愛女学院）
12日　オルガン・コンサート（久留米聖マリア病院）
13日　バザー（小倉教会）
14日　共同訳実行委員会（東京）
15日　共同訳奉献式（東京）
20日　「マリアの年」ふれあいバザー（大名町）
21日　オルガン・コンサート（カテドラル）
26日　森一弘司教の講演会（カテドラル）

福岡黙想の家

6～9日　御受難会共同体の集まり
10日　聖書研究会
12～13日　チョイス例会
17日　ミカエル会
22～23日　聖母カテキスタ会地区会

聖書からみる福音宣教

―連続講演と分かち合い―

講師　Z・イエール師
日時　毎月第4日曜日の午後2時～4時30分
　　9月27日より
会場　カテドラル・センター4階（福岡地区福音宣教推進研究部会）
問い合わせ　山田成章神父
☎092―522―5139

神学講座開講

日時　10月6日18時より
　　12月22日迄、毎火曜
講師　Z・イエール師
テーマ　ヨハネ福音書の読み方（続）
場所　司教館新館5階
会費　一講義につき五百円
問い合わせ先　司教館

教区青年体育祭

福岡教区の青年よ熊本に集合!!

すみきった秋空の中に、燃え立つ青春のエネルギーを、たたきつけよう。

時は！　10月4日（日）
所は！　熊本天使園
誰が！　深堀勝人神父（行橋）
☎09302―2―0807
松熊　覚（飯塚青年）
☎0948―42―4059

が、問い合わせに答えます。

講演会

講演　あらたな出会い
講師　森　一弘師（東京教区補佐司教）
日時　9月26日（土）
　　PM 2:00～4:00
場所　福岡カテドラル・センター
入場無料
問い合わせ先
パウロ書院
☎092―741―4588
主催　聖パウロ女子修道会

召命黙想会

祈りと働き

日時　10月10日（土）12時昼食から
　　11日（日）15時まで
場所　630 奈良市法蓮町746
　　善きサマリア人会
　　☎0746-22-6160
指導　オヘール師（マリスト会）
対象　修道生活に関心ある女子信徒
会費　2,000円

＊問い合わせと申し込みは10月3日（土）までに、はがき又は電話で下記へ。

151 東京都渋谷区代々木5-16-2
善きサマリア人会　東京修道院
☎03-485-0061　担当 Sr. 服部

パイプオルガン・コンサート

演奏者　**MARI KODAMA** 児玉 麻里
　　JOSE E. AYARRA アヤラ神父

日時　9月21日（月）P.M.6:30（入場）
会場　福岡カテドラルセンター
場所　福岡市中央区大名2―7―7
乗物　バス停西鉄グランドホテル前下車
　　地下鉄赤坂又は天神駅下車
一般　3,000円　　朝日メイト　2,500円
主催　朝日新聞社

いのち

十字架称賛

山内清海

十字架は、わたしたちキリスト者の生活と、切っても切れない深い関係にあります。わたしたちは、一日に何回となく十字架のしるしをしますし、聖堂はいうにおよばず、わたしたちの家や部屋にも、十字架がかけられています。さらに教会は典礼でも、十字架や、十字架のしるしを大切にしますし、たとえば聖金曜日の十字架礼拝も荘厳に行い、9月14日を「十字架称賛」の日と定めて、わたしたちに十字架への特別な信心を勧めます。今回は、「十字架称賛」のミサの朗読を中心に、その意義について考察しましょう。

十字架称賛の第一の理由は、それが人類に対する、神の無限の愛のしるしだからです。

当日の福音（ヨハネ3・13～17）でヨハネは、「神はこの独り子を与えるほどこの世を愛した。それは、おん子を信じる者が、一人も滅びることなく、永遠のいのちを得るためである」と教えます。そして世に遣わされた神の子キリストは、第二朗読（フィリピ2・6～11）の聖パウロのことばを借りると、「死にいたるまで、しかも十字架の死にいたるまで」わたしたちを愛してくださいました。だれも友のために、命を捨てるほどの愛を持てる者はいないからです。十字架は、まさに命を捨てるほどわたしたちを愛された、キリストの愛の象徴なのです。だからわたしたちは、孤独に苦しんだり、あるいは本当の愛に飢え渇くとき、キリストの十字架に、真の慰めを求め、勇気を見出すことができるのです。

十字架はまた、わたしたちの救いの象徴でもあります。ヨハネは当日の福音書で、「モーゼが荒れ野でへびを上げたように、人の子は上げられなければならない。これは、信じる者がすべて、人の子によって永遠のいのちを得るためである」というキリストご自身のみことばを記しています。このみことばの意味は、第一朗読（民21・4～9）で説明されています。神は、主とモーゼを非難したイスラエルの民に、かれらを噛む、もえる蛇をつかわし、そのために多くの人々が死にます。そこで民はモーゼのところに来て、自分たちの罪の赦しを神に祈ってくれるよう嘆願します。モーゼは神のみことばにしたがって、青銅で蛇を作って旗じるしのうえにつけ、噛まれた人々に、この青銅の蛇を眺めるよう勧め、こうしてかれらは救われます。

キリストは、この青銅の蛇をご自分に応用なさって、ご自分もこの青銅の蛇のように、やがて十字架に上げられて、すべての人の救いのもとになる、と教えておられるのです。キリストのこの約束は、あのカルワリオの丘の上で、人類史上最大のドラマとして実現されました。その故にこそ十字架は、わたしたち自身の救いの象徴でもある、といわれるのです。

だからわたしたちは、聖金曜日の十字架礼拝の賛歌で、「主の十字架をあがめとうとみ、その復活をたたえよう。見よ、この木によって、あまねく世界に喜びが来た」と歌うのです。

しかし、いかにキリストの十字架が救いの象徴であるとはいっても、それは決して、「救い」の自動販売機ではありません。わたしたちがキリストのこの十字架にあやからなければ、わたしたちの救いは実現されないからです。

かつて蛇に噛まれたイスラエルの民が、旗じるしのうえの青銅の蛇を眺めて救われたように、わたしたちも日々の十字架のうちに、本当の救いのみなもとと、復活の希望を読み取らなければなりません。

「十字架を通して、本当の幸福へ」、これがキリストのご生涯をかけた尊いみ教えであり、十字架称賛の、大切な理由の一つだといえましょう。

（サン・スルピス会司祭　大神学院教授）

献金報告

福音宣教行事特別献金
八九七、一二二円
※御協力ありがとうございました。

MEウィークエンド ご夫婦へのご招待

マリッジエンカウンター（ME）は、今日の世界において、結婚をより豊かなものにする、最も有効でダイナミックな体験です。だから、参加した夫婦はみな一人でも多くの人々に、この週末の集い（ウィークエンド）に出てほしいと願っています。

今回は左記のように開催されます。

日時　10月9日(金)20時から11日(日)まで
場所　福岡黙想の家
申し込み、問い合わせ
鈴木神父（黙想の家）
☎092―871―7108
深堀純・邦枝
☎092―801―5351

編集室から

特集〝戦時下の信仰〟いかがでしたでしょうか。一人ひとりが平和への発言のための勇気を持ちたいものです。

今月の編集作業は玉名教会のお世話になりました。時々ジュースなど差し入れをいただき感激でした。玉名教会には家族的な温かい雰囲気があります。隣には黙想者のために立派な建物があり、婦人会の方が奉仕しておられます。ぜひご利用ください。（W）

新田原教会 共同墓地改葬

新田原教会共同墓地の改葬を計画推進中であります。当墓地に埋葬し不明になっている管理者（身内の方）を探しています。心当りの方は当教会へ御連絡下さい。

連絡先　福岡県行橋市大字東徳永384
　　カトリック新田原教会
　　☎09302―3―1594

かのときのことのは

森山　敬三

昔せしかくれ遊びになりなばや
かたすみもとによりふせりつつ

西行

『聞書集』に所収。七〇歳のとき、幼時を回想して歌ったもので、かくれんぼしたときのように、人目につかず、隅っこのほうに身を隠したいという、孤独の思いをのべたもの。

ここから良寛までの距離は、もう殆どない。あのたけだけしい文覚は、西行が、仏道どころか歌ばかり詠んで廻っている、こんど会ったら頭をうちわってやろうと思っていた。

ところが、実際会うと、丁重にもてなしたので、弟子達は拍子抜けして、どうしたのかと聞いたところ、「あの西行は、この文覚に打たれんずる顔様か、文覚をぞ打たむずるものなれ」と言った、という。

実際、西行の修行を甘く見ては間違う。遊行と勧進と詠歌と滅罪と鎮魂とは、修行ということで、全く渾然一体となって、彼のこころのなかにあった。

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

未来へ――安心を創る
FUJKI 藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　　福岡支店長　藤倉良夫

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL 092-521-0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42319
定価一部60円

ナイス'87
福音宣教推進全国会議

教区の代表者が意見の調整

全国会議では「社会とともに歩む教会」で発題予定

11月20日から23日にかけて、京都で開催される第一回福音宣教推進全国会議（以下全国会議と記す）の福岡教区代表者の第二回目の集まりが、9月5日、司教館で行われ、教区の取り組みについて率直な意見の交換と調整を行った。

今回の代表者会議は、去る8月23日に行われた第一回会議の内容を掘り下げるためのもので、山田成章神父のまとめを中心に全国会議に対する教区の現状と展望が話し合われた。

全国会議では、教区信徒使徒職協議会会長の山田耕三郎氏が教区を代表して「社会とともに歩む教区」で発題することになっており、同氏からこの問題で幅広い意見が求められた。

低い全国会議への関心

全国会議に対する関心が信徒だけでなく司祭レベルにおいても低いことが心配されている。

なぜ今、「福音宣教」ということばを盛んに使いだしたのか、これまでの司祭・信徒の活動は「福音宣教」ではなかったのかといった疑問にまだ納得いく説明がなされていない。しかもかつて盛んに使われていた「信徒使徒職」と「福音宣教」のつながりについても明確さを欠いているとの指摘もあった。

教区の現状を説明する山田耕三郎氏（左端）

さらに「福音宣教」について会合を重ねても、抽象的議論が先行し、実際的、具体的なものが出てこないといったもどかしさを感じている人も多く、司教をはじめ司祭たちが率先して「福音宣教」の模範を示して欲しいと期待する声が強い。

社会とともに歩む教会

福岡教区は、全国会議の課題「開かれた教会づくり」の三本柱の一つ「社会とともに歩む教会」について発題することになっているので、この問題についてとくに討議された。

すでに各地区で実践されている病人、障害者やお年寄りの訪問、奉仕などのボランティア活動の報告とともに、教会がこのような人々のために開かれていることを知らせるための努力あるいは工夫の不足も指摘された。

さらに、現代社会の様々な問題に対応するためには、まず現代社会の正しい認識のための分析が必要とされた。そのためにも聖職者はもっと信徒の声に謙虚に耳を傾けるべきであり、信徒や修道者だけでなく、司祭職を志す神学生にも貧しさの体験学習をさせてはとの要望があった。

新共同訳（旧約）聖書が完成

18年間の翻訳作業の結晶

聖書を手に喜びの
共同議長　平田三郎司教

「聖書新共同訳」が刊行された。

カトリック教会の代表として、共同訳聖書実行委員会の共同議長をしてきた平田三郎司教は、完成にあたって次のように語っている。

「キリスト教諸教会が、『皆がひとつになりますように』との主のお望みに応え、力を合わせてこの「共同訳」の大事業に取り組んで十八年になります。

「新共同訳」は、現代日本における聖書の権威者の手で完成したもので、神の言葉に忠実で、わかりやすい聖書になりました。

9月15日には、この「聖書」の奉献式を東京で行い、神さまに感謝するとともに、教皇さまをはじめ、世界のキリスト教指導者、そして日本の読者に奉献しましたが、喜び、感謝の日でした。

来る9月30日には、教皇さまに献呈するために、私はバチカンにまいります。

この大事業完成のために、長い間、翻訳、編集に携わった方々、祈り助けてくださった皆さまに心からの感謝をささげます。

これからはキリストを信じる人々から、典礼その他の集会で、共同で使用されるようになりますが、諸教会の一致・エキュメニズム推進の一助として日本のキリスト教会にとって喜ばしいことです。

この聖書がすべてのキリスト者の手に渡り、またキリストを知らない多くの同胞に届くように祈ってやみません」。

今月のみことば

イエズスは
青年をじっと見て
いとおしさをおぼえた
（マルコ10・27）
健軍　ベルトラン神父

時の話題

佐々木信幸

いよいよ来月、はじめての「福音宣教推進全国会議」が開かれる。

この間、教区では、二回の「公聴会」そして各地区、各小教区でも「福音宣教」や「開かれた教会づくり」をテーマにした研修会や話し合いが行われたが、これに参加して、学び、感じ、反省したことを独断と偏見をまじえながら述べてみたい。

いまや、「福音宣教」ということばが、教会において流行語のように使われている。

洗礼と堅信によって「キリストの兵士に任ぜられ、外に出て福音を宣べ伝える使命を与えられた」ことを頭のレベルでは理解しているが、「いざ実行を」と改めていわれると、考え込んで動けなくなる。（実際には、それなりに動いているのだが、そのような錯覚にとらわれていた）。

だれでもできる福音宣教

「福音宣教」という言葉から、何か、仰々しく、ドエライことをやらなければという受けとめかたをしていたように思う。

「難しいなァ」第一歩を踏み出さないうちに拒絶反応がおこる。「聖書」や「要理」のことよく知らないのに宣教するなんておこがましい。よしんばやったとしても「失敗するのでは」とつい引っ込み思案になる。

上からやれといわれ、押し付けられたという意識から、義務のようにも受けとめる。そして、日常生活でよく使われる〝忙しいから〟〝暇ができてから〟などの言い訳をする。

わたくしたちの先輩である初代教会やキリシタン時代の信徒のことを思い浮かべてみたい。漁師、農夫だった彼らはどれほどの知恵者であったのでしょう。

ただ、ひたすらに信じ、信じていることを自信と喜びをもって隣近所の人々に分かち合ってきたことが目に浮ぶ。

時代や環境がちがっても、キリストは同じである。キリストがいつも自分の体の中にいることを信じ、キリストによって日々生かされていることを確かめ、毎日の生活の場で多くの人々と出会い、関わり、力まず、恐れず、素直に自分を示すことが、福音、キリストを伝えることになるのではなかろうか。

（戸畑教会所属）

福岡教区幼児教育連盟

保育のこころを研修

長雨つづきだった8月、久しぶりに晴れ間のみえた19、20、21日カトリック福岡司教区幼児教育連盟（会長・平田敬師）の第15回教師研修会が長崎県島原市のホテルで開催された。

教区全域54の幼稚園、保育園から三百七十五名の先生が参加。教育を語るにはあまりにも複雑になっている現代社会の中でこそ、幼児教育の重要性があることを二人の講師は強調していた。

講師の一人聖スルピス大神学院の山内清海師は、いわゆる教育者の姿勢ということから「現代教育者の理想像を求めて」と題して講演した。

二日目、教育の現場から、援助修道会の景山あき子修道女が「カトリック保育の原点」――心をいっぱい開いて聞いてみたい、子供のことば、神さまのおことば――と題して講演した。

その後、分科会が持たれ、どの会場も、熱のこもった討議がなされた。

二日目の夜のレクリエーションでは、各地の歌や踊りに笑いがたえず、特に炭坑節、あわ踊りは、全員が立ちあがり身軽に踊る若い先生に混じって、孤軍奮闘の園長先生（司祭）の姿が和やかさを増していた。

三日目、全体会に続く、感謝のミサが、平田司教他18名の司祭による共同司式で行われた。

会場を埋めつくした先生たちの力強い典礼聖歌の歌声は、明日を担う子供たちへ、神の望みの伝達者としての責任感であったろうか。

一方、現代社会のなかで生きる信徒は、なんらかの形で様々なイデオロギーとのかかわりを持っている。たとえば、労働組合に加入している信徒、さらに、カトリック者として、人権・平和・差別問題などにかかわっている地域社会や特定のイデオロギーをもった人々とともに活動している人も多い。

これらの人々から、「イデオロギーに注意しなさい」とか「キリスト者として行動しなさい」といった一般原則から、もう少し当事者の立場にたった福音の実践のための具体的指針がほしいという声が出されている。

以上の問題は、多種多様なイデオロギーとの対話を打ち出した第二バチカン公会議の精神ともからんで、「社会とともに歩む教会」を考えるとき避けて通ることのできない問題であるとの認識で一致した。

司祭は信徒と対話を

「福音宣教」の実践にあたって信徒は、まず司教・司祭たちに宣教のプロとしての自覚と実践を望んでいる。信徒を批判するだけではなく、自らどのように生きたらいいのか模範を示していただきたいとの声も強い。

司教・司祭と信徒の間の真の対話のための努力を継続していく必要がある。（渡辺）

司祭評議会

新メンバーで初会合

任期満了にともなう司祭評議会の評議員と常任委員会の委員の選出が行われ、新しい顔触れが決まった。

規約によると、司祭評議会は教区長司教の諮問機関であり、会長は教区長司教、副会長は司教総代理で、その目的は「司祭の生活と役務に関する事項のみならず、宣教及び司牧などについても、教区長司教の教区行政を助けることにある」となっており、任期は二年。

常任委員は評議委員のなかから選ばれ、評議会の円滑な運営を計る、となっている。

評議委員（敬称略）

平田　三郎司教
山田　成章（司教館）
青木　保（大名町）
平田　正喜（新田原）
山川　辰幸（西新）
堤　要吉（茶山）
岩永　義人（二日市）
高木　善行（大神学院）
渡辺　隆義（小郡）
松井　忠之（小神学校）
下町　豊重（久留米）
青木　悟（手取）
百村　等（聖パウロ会）
ガッザルディ（伊万里）
ディベッロ（佐賀）
ドワイヤー（笹丘）
ベリヨン（水巻）
ヤングキャンプ（手取）

常任委員

平田　三郎司教、
山田　成章、堤　要吉
山川　辰幸、岩永　義人
渡辺　隆義、松井　忠之
ディベッロ

◇　◇

新評議委員による初会合が9月8日、司教館で行われ、主に①「マリアの年」の教区としての取り組み②福音宣教推進全国会議について、話し合われた。

その結果「マリアの年」については、司教が早急に全小教区にメッセージを送ること、来年2月11日にカテドラルで「マリアの年」のミサを行うこと。

福音宣教推進全国会議の終了後、できるだけ早い時期に地区ごとに司教と代表者をよんで、教区主催の報告会を開くことなどを申し合わせた。

みちくさ

五日間の日程で、四年ぶりにフィリピンのマニラに行った。「街がきれいになったね」といったら、「それはマニラの一部だけです」といわれた。なるほどある小教区を訪ねたおり、小舟で小さな島に渡ったが、汚物と異臭が漂う波間に生きているたくさんの人々に心を痛めた▼ジャパゆきさんの背景を知るために、歓楽街にも足をはこんだ。話を交した女の子たちの大半が「家族のために、日本にいってお金を稼ぎたい」といった。しかし、日本で働いている仲間たちの哀しい現実を知っている子は少なかった▼長年、マニラでマスコミの仕事をしている内藤信公さんとの話のなかで、フィリピンの教会の貧しさが話題になった。フィリピンの信徒たちは自分が食べ物に事欠いても司祭たちには貧乏させないという。だから聖職者の生活は一般的にいって豊かなのだそうだ▼このような自国の教会の現状に疑問を持ち、貧しい人人とともに貧しく生きることを決意して叙階された若い司祭の多くも、やがて現状肯定派になっていくという。このような教会の体制に抗するかのように、貧しいイエズスを身をもって生きようとするのが、BCC（キリスト教基礎共同体）の司祭たちなのかもしれない▼生活に困窮している司祭を見るのは忍びないという信徒たちの温かい心にどうこたえるかは難しい。内藤さんは「富は、いつの時代でも、どの国においても聖職者を堕落させる」といったが、こころあたりのあることばではある▼第一回福音宣教推進全国会議も近づいた。福岡教区は同会議で、「社会とともに歩む教会」という課題を与えられている。どのような社会とどのように歩むのか。社会分析を待つまでもなく、私たちは日常的に、ともに歩む相手を選択しなければならない。くれぐれも、優先順位を間違わないようにしたいものである。

聞いて欲しい！働く青年の声

北九州市黒崎教会のバイヨ神父のもとで、生活の福音的見直しをしている青年労働者から、手記が寄せられた。
社会に妥協し過ぎたり、無気力になったりしている多くの仲間たちに、同じ苦しみのなかで信仰者としての連帯と奮起を呼び掛けている。

福音によって目ざめる

宇戸洋子（23）

私が社会にでて早くも5年が過ぎました。一番立派な会社は木材、建材などの卸売業と建設事業をしております。その中で私は住宅の方の事務関係をずっとやってきました。

高校を卒業してすぐに今の会社に入社しました。はじめはまだ右も左も分からず、ただ言われた通りに仕事をしているだけでしたが、だんだん仕事に慣れていくと、他の人と接することも多くなり、回りの状況も見えてきました。

入社当時にくらべて、社会全体の情勢がすごく変わってきているので、それに対応するために、それなりの方法をとらなければ企業として生き残っていけないようになっています。自分たちの時でさえ、かなりショックなことでしたのに、それ以上にひどい立場におかれている人々がいるということは、とても心が痛みます。

会社を維持するためには、何百人という人々の生活を犠牲にしなければならないのだろうかという疑問が出てきます。仕事がないということは、すぐに自分たちの生活に影響してくるので、大変なことだということは、誰もが分かっているはずだと思います。

現在、社会の中で働いている人の中で、まだ労働基準法などが徹底していない所があったり、私たちの知らない問題や苦労がたくさんあるようです。そのような問題にもっと目を向けて行くべきだと思います。

現代の若者は、政治や社会的問題などに無関心な人が多すぎると言われています。私も前までは、その中の一人だったと思います。ただ毎日決められた仕事をして、自分の回りが平和であればいい。いろんな問題が直接降りかからなければ、分からないといった状態だったと思います。

それが3年程前から教会の青年会に入り、社会の中で働いている人々と、直接接することが、できるようになりました。

生活の見直しの中で、自分が今まで知らなかった会社や職業についての話を聞くことによって、現在の社会の状態や弱い立場におかれている人々の存在を知りました。これから自分たちはどうやっていくべきかなどを話し合い、小さな人人がいかに大切であるかなどを学んでおります。

そして、月一回福音の分かち合いがあり、現在の生活の中で、どのように流れに、ただ流されているだけではなく、いろいろなことに対して、常に問題意識をもっていかなければならないと思っています。それには、たくさんの情報を正確に早く知るということが、最も大切なことだと思います。

そして自分だけの考えにとどまらず、多くの人と話し、一緒に考えて行くことも大切だと思います。

働くことは生きること

鍋内聖二（26）

北九州で広告デザインのグラフィックデザイナーとして働きもう6年になります。会社は8人の中小企業です。

デザイン専門学校を卒業し、すぐこの会社に入りましたが、デザインとは何かということがよく分からずに仕事をしてきました。そのデザインが少しずつ分かってくるにつれて、仕事がら多くの知識を得たり、制作過程においても打ち合わせなどで、いろいろな人と出会ったりします。また仕事とは別に画廊で展覧会をすることもできました。

しかし、好きでやっている仕事とはいえ、利点ばかりでなく、デザインは実力の世界というべきか鋭い感覚と新鮮な表現を求められます。時間がかかる仕事やアイデアがなかなかまとまらなくて、夜遅くまで仕事をすることもありますが、病気もせずにやってきました。会社内の人間関係や環境問題についても、特別に問題はなく、仕事をしながら、他の人と話をしたりしてやっています。

自分の仕事を簡単に紹介しましたが、働くとは一体どういうことでしょうか。仕事をし、お金を稼ぎ、生活をすることでもなく、また会社への貢献でもないと思います。働くということは社会の中で生きていくことだと思います。

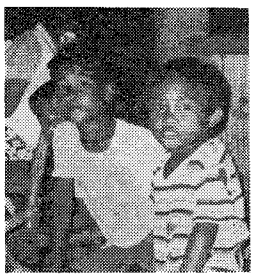
自分なりの理想をもって、お金を稼ぐため必死に生活しながらも、私たちは社会に対して無関心ではいけないと思います。

今私は、働く上で社会問題として「戦争と平和」「民族問題」「国家秘密法」に取り組んでいます。私は戦争の体験もなく直接見たわけではありませんが、人が人を殺し、征服し差別した事実を憶えているなら、国家予算の防衛費一%枠が守られるはずではないでしょうか。このような予算に私のわずかな税金でも使ってほしくありません。また外国人登録法に苦しんでいる人たちがいることを知らない日本人がいるでしょうか。

私はこれらのことを先に述べたように展覧会という形をとりながら、絵を通して多くの人々に認識と理解を求めていきたいと思っています。

ネグロスの顔（下）

フィリピン　松尾光敏



ネグロスの人たちとの会合では、健康や労働問題、教育問題が話題になった。

教会は特に「セミナー」等を開いて、リーダー養成に努めているそうです。

司祭がいない所では、全員が、特に毎日曜日に集まって聖書の分かち合いを行い、日常の生活の事などについて話し合っている。

病院が遠く七十キロも百キロも離れているので、自然に生えている雑草を選んで共同で薬を作っているとのこと。

皆は共同体の中で、中央や本部等からくる援助金についても分けあって生活しているそうです。

村人たちは、老人も若者も子供たちも砂糖産業に大きく依存しており、アシェンダと言われる農園で労働者として働くことが望みですが、多くの人々は仕事を見つけることができません。今は死の季節といわれ、砂糖キビの作業は全くなく、村人は自分たちで食物を植えるための土地を持っていません。そこで計画を立てて家畜類を飼う事や米を共同で作ることなどを共同体として日々話し合っている状態です。

彼らは、衣食住、医薬品等の生活必需品の最低の保障を望んでいるのです。

年齢も名前すら分からない子供たちも多く、ただただ信仰に強められ、希望を失わず、哀しい状況の中で生きているのです。

今後も、ネグロスの人々と継続的なコミュニケーションを続けながら、分かち合いを行い、進歩と平和のために連帯し、神の国の共同体となるよう使徒職に努める覚悟です。

教区の皆さんの援助とお祈りをお願い致します。

（若松教会信徒）

幼児教育研修会に初めて参加して

岩丸真弓

カトリック福岡教区幼児教育連盟の第15回教師研修会が8月19日から3日間長崎の島原市で開催され、初めて参加した。

初めての研修会、期待より不安が先に立ち会場へと向かったことを思いだす。

山内清海神父さまは「教育者の理想像」をお話しされ、ご自分もまた、同じ探求者であると語っていらした。

「いつまでも自分を追いつづけ、身動きできなくなってもはい上がろうとする力、それは神との出会いの中で見いだされる」ともおっしゃっていた。ささいな事でも弱音をはいてしまいがちな私は、恥ずかしい感じがした。

シスター景山あき子からは、愛することの大切さ、子供をからだ全体で感じ、神さまのお言葉を伝えていくことを教えられた。それにはまず、祈ること、私自身が、神さまとお話しすることが大事だと思った。

お二人のお話は奥深く、私に神とのすばらしい出会いをあたえてくださった。

分科会でも、初めて顔を会わせた先生同士が、飾らずに自分の胸の中を話し、ある方は、今壁にぶつかっている事やいじめを、神を通してなくしていった事など、現場でのさまざまな話を語りあった。

私より経験も長く、体験も多くしてこられた先生方の姿を、私の数年後の姿に照らし合わせてみると、一人で乗り越えられるか不安です。でも、先生方の輝いた目を見た時、私もそうありたいと思った。

この研修会で、山内清海神父さま、シスター景山あき子、多くの先生方とすばらしい出会いができたことに感謝します。そして、ここへ皆を導いてくださった神さまにも感謝します。

研修会前にあった不安は消え、次の研修会では、一歩でも二歩でも成長した姿で皆さんに会えるよう希望で燃えている私です。

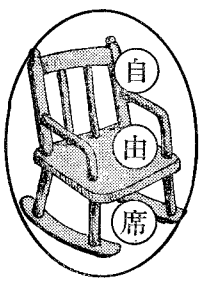
（田川カトリック幼稚園）

ロザリオの珠（たま）

荒木ミヨ

十月はロザリオの月！　私は、ロザリオのマリアさまが一番好き、身は久しく痛み、心は常、罪に傷ついている私にとって、まことに癒やしの聖母である。

実家の離れで、姉と二人の家で、私もよくロザリオを手にした。祈るときも、祈ることの出来ないときも――どうしても心騒いで落ち着かないとき、掌（てのひら）の中でさらさらロザリオの珠を鳴らせていると、不思議に平安がかえって、聖母は私を神さまのみ許に導いてくださる。



黒漆の珠褪（あ）せるまで
ロザリオを
握りたりけり
祈らぬ時も

今日の私に、病院の明け暮れは忙しい、と言うと笑われそうだが、何年も決められた時間とのおつき合い、私のように、動きの鈍いものは、精一ぱい動いて、休み休みの昼間はロザリオを手にすることもない。ベッドの上に身体を伸ばして身も心も安らかになって、指を曲げて数えるのである。十分でも、十五分でもその日の玄義を――私の幸せなひとときである。

かつて、秋深い頃歯科外来に通って、待ち時間を見込していつもポケットにロザリオをしのばせて行った。

ポケットにロザリオの珠
さぐりつつ
歯科待合に
足冷えてをり

夜は消灯後のひとときに、一日の病苦を捧げて祈るとき、もう苦しみの続く明日への恐れもなく、唯、神と共にと想うばかりである。

そして、ロザリオの珠を繰りながら、今日読んだどなたかの御教えの一つ、聖母のお恵みのマントは単純なのだと言うことばを、ふと思い起こして、心を散らしているのである。

（菊地教会）

若さが爆発　高校生練成会

土生（お）礼子

8月11日から2泊3日で福岡ブロック高校生会、参加者28名による練成会が、聖パウロ修道院で行われました。

11日は、ほとんど全員が朝から集まって、スポーツをしました。おかげで受付時には、疲れまくってバテバテのスタートとなりました。

私たちは、コミュニケーション―神さまを知らない人々と―というテーマで、西田リザさん、稲垣恵一さんの講演を聴き、4班にわかれ分科会を行いました。

改めて考えさせられることもありましたが、友だちの意外な一面が見れたり、おもいっきり笑わせてくれる話も聞けました。

二日めのキャンプファイヤーは雨で中止となり、ゲームをしました。誰が考えたか、自校の校歌を歌わせるという罰ゲームも、しっかり決まっており、余儀なく罰を受けるハメとなった人たちは、充分同情される余地がありました。

三日めは、司教さまのミサで解散となりました。寝る時間も惜しいくらい、話したいことはあったのですが、あっという間に三日間は過ぎてしまいました。

でも、その一日一日は参加してよかったと思えるすばらしい思い出で、この夏休みに大きな贈り物をもらったように思えます。ありがとうございました。

（大名町教会）

中央出版　福岡支部
▨キリスト教関係、書籍、家庭の友
▨典礼聖具
▨ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL 092-531-0899

―喜ぶ人とともに喜び　泣く人とともに泣く―
（一人で悩まないで）
きぼうの電話
(092)865-1212
相談日：月・水・金
午前11時～午後4時
午後8時～午後10時
カトリック　福岡黙想の家
〒814-01 福岡市城南区西片江1-17-63

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

式典・花
木下株式会社
福岡 (712) 8022　久留米 (33) 7401
佐賀 ((30) 4040　小郡 (72) 3482

日本の司教団は、三年前に「日本の教会の基本方針と優先課題」を発表したが、そのなかでは、社会の小さな人々とともに歩むことがうたわれている。

このような人々のために「きぼうの電話」を設置して、福音的かかわりを大切にしている、御受難会のマテオ神父が「相談電話のことを知らせ、利用してほしい」と訴えている。

ひとりで悩まないで

福岡「きぼうの電話」のマテオ神父が呼びかけ

「きぼうの電話」が開設されて、すでに二年を経過しているが、マテオ神父は、相談を始めた動機について「私たちキリスト者は貧しい人、悲しむ人、苦しんでいる人たちを助けたいと思っている。きぼうの電話はそういった人たちに手をさしのべる手段のひとつです」と語っている。

「電話をかけてくる人々の悲しみ、苦しみ、寂しさに共感することで、彼らは支えられ、励まされるが、そこは福音の種まきの土壌でもある。電話相談のなかでは、真に助け得るのは神であることを伝え、神に心を向けるように勧めます」といっている。

そしてその実りも少しずつみえ始めているようだ。

この電話相談のユニークさは、洗礼を受けていない人たちから「どう祈ったらいいのか」「神のみ摂理とは何か」といった宗教的質問も受けていることだ。スタッフはこのような質問にも聖書を説きあかしながら答えている。

きぼうの電話で相談を受ける人たちは、相談者の悩みを受容し、慰めを与え、支えとなり、ある場合には、神の計いにより頼むことを勧める。

マテオ神父は、「きぼうの電話は友だち、近所の人たち、職場の仲間を助ける福音宣教の場になるので、より多くの人に知らせてください。この電話によって一人で悩み、苦しんでいる人に少しでも希望を与えることができたら幸いです」といっている。

相談電話　092(865)1212

共に祈ることが大切

地区婦人会ミサで岩永義人師説教

8月27日(木)聖モニカの祝日に福岡教区地区婦人会は恒例の感謝のミサと、この一年間に帰天された会員、または会員縁りの方々を追悼する式を、福岡カテドラルで行った。

西九州に大災害をもたらした台風12号接近によるフェーン現象で、一段と暑さの増す中を一五〇名ほどの会員や家族が集まった。

ミサは、平田三郎司教、顧問の堤要吉師、大名町教会主任の青木保師、二日市教会主任の岩永義人師の共同司式で行われた。7月17日、母堂を天国へ見送られたばかりの岩永師が説教。「母は、よく祈る人でした。私のつつがない司祭職まっとうのためにも祈ってくれていました。天国でも祈ってくれると思いますが共に生きて祈ってくれる人の存在は大きな支えです」と、働きと共に祈りによる支えの力強さを語った。

ミサに続き追悼式が行われた。祭壇の前には、たくさんの花で飾られた40数名の故人の写真が置かれ、その中に思わぬ人を見つけて涙ぐむ人、幼な顔の写真に胸しめつけられる人々の献香が続いた。

式の後、「親類や兄弟の反対で、教会で葬儀が行えなかったけど年忌を前に、こんなに盛大に追悼できて、うれしくてたまりません」という未亡人の言葉に、準備した役員たちの疲れ顔が笑えんだ。

祝卒寿

G・ベルトラン神父様

北九州八王寺のパリミッション会本部で療養中の、同会のG・ベルトラン神父は、8月24日、90歳の誕生日を迎え、先頃同本部で、仲間の司祭が同師を祝った。

第13回日本カトリック婦人団体連盟総会から

愛と喜びについて(完)

島本　要　司教

私たちが、神さまに愛されているもう一つの印は「私たちが生きている」という事実です。

しかし、私たちは自分の力で生きているのでなく、生かされているのです。なぜ神は、私を生かしているのか。それは私が、神さまにとってかけがえのない大切な存在だからです。それは、私が偉いからでなく、神さまが私を必要としておられる。罪や欠点だらけの私であるにも関わらず大切な存在として生かしてくださっている。

この事実から、神さまに愛されていることを悟らなければならないと思います。私たちがこのように神さまに愛され、生かされているという根本的な事実を認めるならば祈りなさいと言われなくともおのずと、神さまに対する感謝と、賛美の祈りがわいてきます。また、このような神さまをもっと知ろうとする時、当然、聖書にも親しむようになります。

また神さまが愛してくださっているのは、この私だけでなく、私たちが毎日出会うどんな人をも、神さまは愛してくださっているのです。

そして、このことからイエズスが教えてくださる、隣人愛の掟も当然のこととして理解できます。

教皇さまは一九八一年の訪日の際、信者でない若者から「日本という国は、お金さえあれば何でもできる国です。でも私たち若者は、このような国に何の魅力も感じていません。生きがいも感じません。このような私たちにキリスト教が希望を与えてくださるというのでしたら是非、お話を伺いたい」という質問をうけ、それに「あなたが、あなただけの幸せを求めている限り、本当の幸せに巡り合うことはないでしょう。他の人を幸せにしてあげなさい、そうすれば、あなたも幸せになれます。あなたの身の周りに目を開いて、そこにいる貧しい人、苦しんでいる人、病気の人、ひとり暮らしの孤独な人に目を留めなさい。そして、その人たちにあなたの愛を注ぎなさい。そうすれば、あなたは幸せになるでしょう。それは、あなたと幸せの巡り合いです」と答えていらっしゃいます。

社会の福音化と福音の伝達という大切な使命を、イエズスさまご自身に委託されている私たちは、その福音宣教の源泉である喜び、その喜びの支えである神の愛を信じる信仰と、神が一人ひとりを大切にしてくださっている、その一人ひとりを心から大切にする、その愛の心を祈り求めていきたいと思います。

(浦和教区長)

ボーイスカウトが阿蘇で合同野営

日本カトリック・ボーイスカウト連盟に所属する、高宮教会(福岡)と手取教会(熊本)の合同野営大会が、8月20日から24日まで熊本県阿蘇坊中で開催された。

今回の合同野営は九州初の画期的試みであった。

当日は、未受洗の子供たちも入れて約一二〇名のスカウトが参集した。

カトリック・ボーイスカウトは信仰の基盤に立っており、ミサは大切な行事となっている。手取教会のジョー神父と高宮教会の須賀沢公男神父の共同ミサには、信者と未洗者のスカウトがミサ答え、奉納にも両者がかかわった。また聖体拝領のできない子供たちのためには、一人ひとり祝福が与えられた。

キャンプファイヤーでは、ふりしきる雨の中、野営長の大任を果たした須賀沢神父に参加した人たちが賛辞をおくっていた。

高宮教会のボーイスカウト団委員長の鳥越義弘氏は「司祭と信徒、そして未洗者が合体した真の福音宣教の場であったと思います。スカウト活動をやってて良かったと、みんなが思うほど、すばらしい野営大会でした」と語っていた。

イエズス村でのびのびと

福岡

福岡黙想の家で、恒例のイエズス村が、7月27日から30日の4日間、開催された。

中学生5名、小学生7名が参加、テーマ『祈るってどんなこと』にチャレンジした。

スタッフのことばによると「イエズス村憲法は『第一条ペトロのようによく食べる、第二条パウロのように力強く話す、第三条ヨハネのように静かに祈る』ですが、この中で何といっても第三条が難しいのです。よく食べ、よく話すのはみんなお手のものなのですが……」とのこと。

リーダーたちは、集まった村民たちの若いエネルギーを何とかして燃焼させようと努力。聖堂で祈るだけでなく、黙想の家の庭中を元気に走り、サッカーボールをけり、枯れ枝でバーベキューに舌つづみをうった。

また朝6時起床、朝食無しで近くの油山へ登ったのは、相当こたえたらしいが、みなこなした。

ふだんできない、のびのびとした活動の中で、子供たちは、神のすばらしさを体で感じとっていた。

新しい泰星を同窓司祭達に披露

四年前から福岡奉星中学・高等学校(理事長キース・ウーリック神父)で教育に従事しているイエズス会が同校の姿をみてもらおうと、8月31日(月)、同窓の司祭たちを招待した。

当日は京都教区の村上透磨、越智健の両神父をはじめ第二回卒業の青木保神父(大名町教会)ら多数の司祭たちが集まって思い出話に花を咲かせた。

ウーリック神父は「これからも、教区の皆さまと協力して、より一層の飛躍を目指したい」と語っている。

『ひと休み』

山元神父のワンポイント教会法

前回はまじめに勉強したので、今月は少しかるくいってみましょう。

ローマでの勉強は、昭和56年10月から始まりました。ローマには教会関係の大学がたくさんありますが、私が通ったところはバチカンのすぐ近くにあるウルバノ大学という大学でした。

教会法専門コースの同級生は11人。アジア、アフリカのいわゆる発展途上国の学生の多い大学で、同級生はインド、マレーシア、ナイジェリア、ウガンダ、ルーマニア、チャドから来ていました。日本人は一人。教授はイタリア人の他に、スペイン人、中国人もいました。講義はイタリア語。言葉を三か月勉強しただけで、講義を聞き始めました。そんなこと、できるはずがないと思われるでしょう。

そのとおり!できないのです。いや、聞くだけならだれでもできるのですが、それを理解することはまさに超人ワザ。凡人の私に講義の内容の理解などできるはずもなく、当分の間は聞くだけの人でした。つまり、ローマで最初に学んだのは教会法ではなく忍耐でした。

教会法の改定は、第二バチカン公会議と同じ時期に始められたのですが、その作業はたいへんなもので、実に二十数年がかかりました。新教会法が完成されたのは昭和58年の1月です。ですから、私たちが研究を始めた頃は、ちょうど旧教会法から新教会法への過渡期にあたったわけで、机の上にはいつも旧教会法典と公会議後に出された様々な試案がならんでいました。

新教会法がまもなく完成されるということで、ローマには世界中からたくさんの学生(ほとんど神父)が教会法を学びに集まってきました。ウルバノ大学でも毎年、学生が倍に増えていきました。新教会法の現代語訳もずい分出ています。日本語訳も来年には出されるでしょう。

(小倉教会)

BOOK 読みま専科

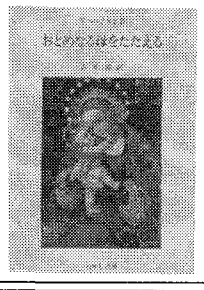
☆聖母マリアに対する崇敬
日本カトリック司教団教書

教皇ヨハネ・パウロ二世は、今年一月一日のミサの説教のなかで、六月七日の聖霊降臨から来年八月十五日の聖母マリアの被昇天までを「マリアの年」とすることを発表した。つづいて三月二十五日には『救い主の母』という回勅を通して「マリアの年」について説明を与えた。このたび日本の司教団が教皇と同じ意図のもとに、マリアに対する正しい崇敬を呼びかけて出版したのが、本冊子である。

内容は救いの歴史におけるマリアの使命、今も教会と共に生きつづけるマリアの姿を簡潔にまとめている。

(中央協議会　三〇円)

☆おとめなる母をたたえる
聖ベルナルド著
古川　勲訳



本書は、マリアに対するベルナルド自身の個人的信心と孝愛の情を表明するために書かれたものである。これは一一二〇年から一一二五年までの間にできた作品。とくに第二説教の『星を仰ぎなさい』の中には、マリアに対するベルナルドの深い信頼と希望に満ちた心があらわれている。

一節を紹介すると「もしだれか、この世の流れの中で、地上を歩いているというよりも、激流にもまれ、嵐にあっているように思う者があるなら、そして波にもまれたくないならば、この星の輝きから目を離してはならない」。

マリアの信仰、謙そん、神と人々への愛が、現代に生きる者にとってもよき模範であることを教えてくれる。

(あかし書房　一〇〇〇円)

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3—2—9　TEL 092-531—1231

祭壇・洗礼盤他
石の素材
石の理想
石の大御所
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

十月の行事

※ゴチックは司教日程

9月26日～10月10日　バチカン訪問
4日　教区青年体育祭
9日～11日　MEウィークエンド
12日～16日　教区邦人司祭の黙想会
堅信式（馬渡島）
18日　高宮教会バザー
教区墓地清掃
堅信式（笹丘）
25日　茶山教会バザー
手取教会バザー
「聖書から見る福音宣教」勉強会（カテドラル、Z・イエール師）
福岡地区信徒協役員会
福岡地区婦人会新田原巡礼
29日

11月1日　堅信式（吉塚）
3日　召命の集い（サン・スルピス大神学院）
8日　大楠教会バザー
志免教会バザー

福岡黙想の家

3日～4日　山口県宇部教会婦人会黙想
4日～9日　コロンバン会司祭黙想
9日～11日　マリッジ・エンカウンター・ウィーク
12日～16日　教区邦人司祭黙想
18日　大神学院静修
18日～25日　サレジオ会司祭黙想
24日～25日　福岡雙葉学園中学黙想

召命の集い

召命がピリリ!!

〝……感じよう、神さまの刺激……〟

とき　11月3日（文化の日）
ところ　福岡サン・スルピス大神学院
対象　神さまによばれている全ての人々

公募

教区報「カトリック」紙名変更でご意見を

教区報「カトリック」のご愛読ありがとうございます。

ところで、最近、全国版「カトリック新聞」の購読者拡大が緊急となっていますが、福岡教区の教区報「カトリック」の読者の中に、全国版とまぎらわしいとの声がしばしば聞かれ、あちこちで混乱があるようです。

このために、来年度から新聞名の変更を考えています。

教区報「カトリック」は30数年にわたる輝かしい歴史をもっており、新しい名称もそれに相応しいものでありたいと願い、読者の皆さまから新しい名前を公募いたします。

現在の名称を保持すべきであるとお考えになられる方もその旨、ふるってご応募ください。

編集長　渡辺隆義

応募方法

ハガキでお願いします。
締め切り　本年11月末日
送り先　〒810
福岡市中央区浄水通39
司教館
教区報編集部

ご参考までに、教区報を発行している教区の新聞名をいくつかご紹介いたします。

福岡教区＝カトリック長崎教区＝カトリック教報
鹿児島教区＝鹿児島カトリック教区報
那覇教区＝南の光明
横浜教区＝カトリック横浜教区報
東京教区＝東京教区ニュース
京都教区＝京都教区時報
広島教区＝広島教区報
札幌教区＝カトリック札幌教区時報

コンサート in 今村教会

プログラム
合唱　福岡室内合唱団
オルガン演奏　江尻孝子
バイオリン独奏　岸辺晴子
日時　10月18日（日）午後1：30開演
場所　今村教会聖堂
入場料　無料

神学講座開講

日時　10月6日18時より12月22日までの毎火曜日
講師　Z・イエール師（サン・スルピス会司祭、大神学院教授）
テーマ　ヨハネ福音書の読み方（続）
場所　司教館新館5階
会費　一講義につき五百円
問い合わせ先　福岡司教館
☎092―522―5139

いぶき

「自己改心」

山内清海

カトリック教会の暦では「布教の日」が定められています。今年は、来たる10月18日、年間第二十九主日がその日に当ります。

「布教の日」というのはむしろ伝統的表現で、今日的には「福音宣教」というべきでしょう。いずれにせよ教会は、伝統的にこの日を「信仰弘布会の日」として、すべての人々に宣教心を呼び起こさせ、世界の福音化のために、霊的、物質的援助を呼びかけ、全世界の宣教者たちの交流を推進してきました。だから、教会は特にこの日に、全世界のすべてのカトリック信者たちに、祈りと積極的な活動、献金などによって、福音宣教に協力するよう求めているのです。当日の献金は全部ローマに送られ、そこから世界中の宣教地に、宣教活動の援助金として送られます。日本の教会も永い間、このようにして集められた全世界からの援助金によって助けられ、成長してきたのです。

しかし日本のカトリック教会は、諸外国からの莫大な援助と期待にもかかわらず、未だに、世界の教会への援助どころか、経済的、人材的独立さえもできない状態にあることは、とても残念なことです。この点でわたしたちは、たとえ全世界の教会から批判されても弁解はできません。

わたしたちは、福音宣教のために出来るかぎりの努力を尽くしはしたものの、活動方法はいうまでもなく、福音宣教に対する熱意などについて、反省すべきことが多いからです。

わたしはここで、キリストの有名な「種まきのたとえ話」（3・1―23）を思い出します。種は、あるいは道ばたに、あるいは土の薄い岩地に、そしてある種はよい土に落ちました。しかし種は確かにまかれたのです。

福音宣教とは、種まきだけではありません。もちろん、「まかぬ種は生えぬ」といわれますから、福音宣教も、キリストを知らない人々にキリストを知らせる、いわゆる未信者にキリストを告げ知らせるという、基本的な努力は欠かせません。しかし、せっかくまかれた種が、奪われたり、苦難や迫害につまずいたりして芽も出せなかったり、世の思い煩いや富の誘惑に覆いかぶせられて、実を結びえなかった、というキリストのみ教えを、わたしたちはけっして見落としてはならないのです。

福音宣教には、先ずわたしたち自身の「自己改心」が求められるといわれるのはこのためです。種をまくことはもちろん大切です。しかしわたしたちは、すでにまかれた種を確実に成長させる努力を怠ってはならないのです。

キリストの教会の成長とは、冷たい石を積み重ねて石垣を築くこととは本質的に異なっています。教会とは、キリストの生きた神秘体ですから、わたしたちも、キリストの神秘体の生きた肢体として成長し、百倍、六十倍、三十倍の実を結ばなければなりません。だからわたしたち自身が先ず、心の中にまかれたみことばの種を具体的情況の中で実践し、霊的に大きく成長すべきです。

わたしたち自身の霊的成長こそ、福音宣教の基礎だからです。

（サン・スルピス会司祭　大神学院教授）

司教団が三年前に「日本教会の基本方針と優先課題」を公布して、全キリスト者の宣教心の高揚を呼びかけたのは、このような現実的情況をどうにかして克服しなければならない、という意図によるものでした。

今年の「布教の日」が、過去三年間の努力の成果を問い、福音宣教への力強い再出発を検討する、「第一回福音宣教推進全国会議」のわずか一か月前であることは、それなりの意義があるといえましょう。いずれの場合にも、わたしたちに、今後の福音宣教のあり方について大切な反省をうながしているからです。

編集室から

熊本県の阿蘇で合同野営を行うボーイスカウトを励ましに、高宮教会（福岡市）の須賀沢神父様は福岡から自転車に乗って、手取教会（熊本市）のジョー神父様はドシャブリの雨の中をバイクでかけつけた、と聞いています。大型バイクに乗る神父様は他にも数名いますので、教区報もいつかこれらの神父様の雄姿を「フォーカス」しようかと考えています。

2面に、働く青年の声を二席載せました。教会にもこのような青年たちがいることは嬉しいことです。頑張ってください。

「公募」でお願いしてありますように、教区報の名称を変更することを考えています。『カトリック』が教区の新聞であることをよくわかっていただける新しい名前をお願いいたします。

（W）

香典返しを福岡小神学校へ

故クララ岩永モル様の香典返しとして、岩永正人様より、福岡小神学校に多大のご芳志をいただきました。故人のご冥福をお祈りし厚く御礼申し上げます。

福岡小神学校

かのときのことのは

森山　敬三

あはれなり胸の血のなごりのゆらぎ
熱もゆる唇ゆ
もれいづるぷろしゆちやい

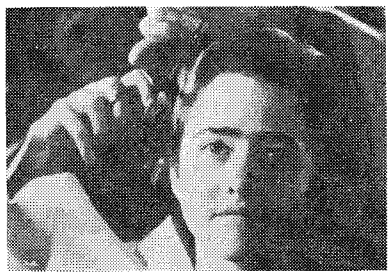
森鷗外

『うた日記』にぷろしゆちやいと題して所収。日露戦争従軍のときのこの詩集は、佐藤春夫が『陣中の竪琴』で、わが作詩の教科書として絶賛し、とくに注目されるに至った

この詩は七連からなり、珍しくロシア兵の立場にたって歌ったものである。

大敗北を喫したロシア軍のなかに、一人生き残った兵隊がいた。飢えと寒さと病気に悩まされ、きび畑で死にかかっている彼が、ふと故郷の家を思い出し、父母よ妻よ子よと叫ぶ、その次の連である。

ぷろしゆちやいはロシア語で、最後のさよならのこと。あの憎しみの敵兵にも涙をそそいだ鷗外の心を見る。



フランス映画　**テレーズ**
幼きイエズスの聖テレジアの映画化!!
10月3日(土)より 福岡・てあとる TENJIN でロードショー公開!!
特別鑑賞券　¥1,200
当日券　一般 ¥1,500　学生 ¥1,300
只今発売中　取扱い所・聖パウロ書院
☎ 092―741―4588

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL 092―531―3831
夜間 092―521―0820

任意保険に加入してから車の運転を致しましょう。
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL 093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店 ☎2―0646
行橋市駅前5秒店 ☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店 ☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店 ☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階 ☎922―5637

未来へ――安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 藤倉良夫

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長 吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL 092-521-0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42319
定価一部60円

新共同訳聖書を教皇に献呈

平田司教がバチカンで

教皇ヨハネ・パウロII世（左端）に特別製の新共同訳聖書を手渡す平田司教

平田三郎司教は9月30日バチカンにおける特別謁見の場で、共同訳聖書実行委員会共同議長として『聖書　新共同訳』の記念版第一号を教皇ヨハネ・パウロ2世へ献呈した。

『聖書　新共同訳』は、去る9月5日、各教派からなる多くの聖書学者をはじめ、翻訳家、国語学者の18年の歳月をかけた珠玉の名編として完成、一斉に出版された。

9月15日には、関係者による献本式が行われたが、その中で共同議長をつとめた平田司教は「神の豊かな恵みとともに、多くの方がたの祈りと励ましを感謝する」と述べ、「この新共同訳は、単に分裂したカトリック教会とプロテスタント諸教会の一致を目的とするだけでなく、全人類の一致と平和を願う運動であり、聖書に示されたイエズス・キリストこそ、全世界の主であり、人種や文化のあらゆる障害を取り除く平和の主であると確信いたします」とあいさつした。

駐日バチカン大使カルー大司教は「教皇さまは6年前の訪日の際、聖書共同訳の話をお聞きになり『忍耐をもって努力してください』と、励ましていらっしゃいました」と語って、平田司教が持参することをすすめた。また、聖書司教委員会でも送本するより是非持っていきましょうということになり、バチカン訪問による献本の運びとなった。

平田司教は今回の旅行について、次のように語っている。「教皇さまに手渡したとき各国の司教たちとの謁見の中でしたが、お渡しすると『ごくろうさま。ありがとう』といって喜んで受け取ってくださいました。

また謁見に先立ち、バチカンの教理省や教会一致秘書局などを訪れ、経過報告とともに『聖書　新共同訳』を贈呈したが、とくに教会一致秘書局のウィレブランツ枢機卿は、彼の仕事上からも強い関心と喜びをあらわしました。居あわせた各国の司教も日本の教会の努力をたたえるとともに製本、印刷技術のすばらしさに驚いていました。

共同翻訳作業の困難な話になると、プロテスタントの強い米国や諸宗派の強い国の司教たちは日本のカトリック教会の事情を、自分たちの問題として大きな関心を示し、完成を喜んでくれました。」

ナイス'87

福音宣教推進全国会議

こんな気持で参加します

福岡教区代表者の声

11月20日～23日に京都で開催される福音宣教推進全国会議を前にして、三人の代表者に抱負を語っていただいた。

ディベッロ神父（佐賀教会）

この会議は日本の教会にとって希望あることだし、みんなの信仰を聞くこともできるので、楽しみにしています。

『開かれた教会づくり』がテーマですが、このことは前から努力してきたことでもあります。たとえば、日曜日のミサ後にお茶をサービスすることを、教会が神との出会いの場であると共に、人々との出会いの場として実行してきました。こうして体験もふまえて、会議に参加したいと思っています。

St.作野シズエ（幼きイエズス会熊本信愛修道院）

不安と共に、大きな恵みを感じます。同時に、会議のすばらしさと重大さも感じます。参加するにあたって、ただボンヤリとしてではなく、教会が望んでいることをよく意識したいものです。そのためにも、習慣的になりがちなことに対して、自己反省をもこめて、もっと意識した行動を持ちたいものです。

佐々木智子さん（戸畑教会）

青年代表というよりも、青年の一人という気持ちで参加したいと思っています。

不安なこともいっぱいありますが、私たちにできないことを年配の人にしてもらったり、年配の人たちができないことを私たちがするというような教会内での〝つながり〟また初めて来る友だちに「ここが私の教会よ」と気軽に誘える雰囲気づくりを考えながら、会議に参加したいと思っています。

今月のみことば

み旨が天に行なわれるとおり、地にも行なわれますように

（マタイ6・10）

戸畑　浦俊雄　神父

時の話題

是永通孝

いま私たちは数多くの、しかも玉石混交した情報に囲まれています。その中で本当に必要な情報を取り入れることが大切だと思います。そこで、私のしていることを皆さんのご参考にと述べさせていただきます。（ただし私たちの心の糧となる情報だけを対象とし、経済・科学等の新しさを必要とする情報を除きます）

情報と私たち

情報の取得

よい情報を取り入れようと、常に心がけておく。

私たちはぼんやりしており、よい情報を見逃すことが実に多い。

例えば、ミサの『聖書と典礼』のパンフレットを捨てずに、ABCの3年間（今年はA年）まとめると、旧・新約合わせた絵入りの聖書を手にすることが出来る。

情報の選択

1 古典を読む。数百・数千の長い淘汰を経て、今日まで生き残った古典は優れた内容を含んでいる。

2 新刊書はなるべく読まない。泡沫のように生まれては消える新刊書を読む大きいエネルギーと、そこから得るものの少なさを考えてみよう。

3 新聞・テレビ等にはよい情報が交じっており、注意すれば私たちは、いながらにしてこれを入手できる。

情報のメモ

1 本の場合　本を読みながら参考になるページにしおりを挟み、鉛筆で印をつける。

2 新聞・テレビ等　新聞は忘れずに切りぬく。

テレビ等は要点をその場でメモする。

情報の蓄え

しおりを挟んだ本はそのままにしておく。メモは小さな箱に投げ込んでおく。

整理とファイル

3か月か半年ごとに読み返し、転記し、ファイルにとじる。

最後に

作ったファイルを折にふれ、繰り返して読む。私たちは、自分が思っている程度以上に、極めて理解力がないことを知ること。

私感ですが、ファイルの内容が日本・外国あるいはキリスト教・仏教等を問わず、何か一つに収れんされるような気がします。

（古賀教会）

講演会

'87　聖書週間

☆ホスピスの現場から
—死をむかえる人々とともに—
講師　藤江良郎氏
（福岡亀山栄光病院院長）

☆新共同訳聖書が完成して
講師　Z・イェール師
（共同訳聖書実行委員）

とき　11月15日（日）午後2時～5時
ところ　福岡カテドラル・センター

優勝は熊本ブロック

教区青年体育祭に一七〇名集う

熊本

さわやかな秋空のもと、10月4日、熊本天使園で、福岡教区青年体育祭が開催され、23教会から約一七〇名の若者たちが参加した。

午前10時30分に、12名の司祭たちもまじえて入場行進、コロンバン会地区長のヤングキャンプ神父が「ベストを尽くしてがんばって下さい」と開会宣言。つづいて熊本の松川義雄さん（菊池）と一戸ひとみさん（手取）が選手宣誓。（写真下）

開会式の後早速、5ブロック対抗で、パン食い競争、綱引き、仮装行列、百足競争、リレーなどの競技を行い、最後は全員一つの輪になりフォークダンスで和気あいあいの大会となった。

閉会式では、優勝した熊本に賞状と優勝カップが、二位の筑後、三位の北九州にはそれぞれ賞状がジョー神父（手取）から手渡された。

重責を果たした実行委員長の松熊覚さん（飯塚）は「たくさんの人があつまり、体育祭を盛大に開催できたことを嬉しく思います。

大会までずっと協力してくれた仲間や神父さまに感謝します。

これからもこのつながりを大切にし、教区の青年として頑張っていきたいと思います」と話していた。（写真上は佐賀ブロックの仮装行列）

指紋押捺問題に超教派で取り組む

北九州

超教派のキリスト者（カトリック、日本キリスト教団、聖公会、バプテスト、ルーテル）が9月25日、北九州市で、「外国人登録法の抜本的改正を求める九州・山口キリスト者連絡協議会」（略称＝九州・山口外キ連）を発足させた。

今回のキリスト教関係者の動きは、「指紋押捺拒否」の問題に真正面から取り組もうとしているもので、今後の動向が注目される。

外国人登録者の約80パーセントが韓国・朝鮮人であり、指紋押捺問題は特に、韓国・朝鮮人の問題と深いかかわりがあると指摘されている。

南山大学の阿南成一教授は「……問題の核心は指紋押捺の仕方や回数とかにあるのではなくて、その背後にある韓国・朝鮮人に対する偏見とそこからくる疎外にある」といっている。

当日、まだ一度も押捺していない、小倉の高校生許伯基（ホンバジ）君は「16歳になった去年の3月押捺をしなかった。僕は歴史によって宙ぶらりんな人生を何人（ひとじん）として生きていったらいいのか考えている。自分は先天的韓国人、後天的日本人です。

しかしこれからの社会では、広い視野をもつ本当の国際人になれると思う」と語った。

発足会に参加した湯川教会の川畑夕美子さんは「この取り組みが、単なる政治運動に陥る危険性を含みながらも、自分がこれにかかわるのは、キリスト者としての生き方が問われていると思うからです」と話している。

ミサを生きる司祭に

教区司祭の黙想会

教区邦人司祭の黙想会が10月12日から16日まで、福岡黙想の家で行われた。

今年は、シュワイツァー寺カトリック別院のフランコ神父を説教師に、平田三郎司教をはじめ、26名の司祭たちが参加した。

日頃、説教する立場にある小教区の司祭たちにとって黙想会は、身体の休養と霊的充電の意味がある。

フランコ神父は、司祭生活の原点を聖体祭儀に位置づけ、キリストの動作を繰り返すだけでなく、動作が意味しているキリストの心をもって、聖体祭儀をとり行うべきだと述べ、ヨハネ福音書から①まず信徒を愛すること②自分のことを忘れて、人々を慰め、励ますこと③全ての人々がひとつになるように御父に祈ること、などをあげた。

S・ライル師

司祭評議会委員に

カトリックファミリーセンターのS・ライル神父（コロンバン会）が教区司祭評議会委員に選ばれ、評議員は合計19名となった。

なお本紙10月号で評議員の任期が二年となっているのは三年の誤りです。

みちくさ

福岡、熊本、佐賀の各地からカトリックの青年たちおよそ一七〇名が熊本天使園（菊池郡西合志町）のグラウンドに集合した。運動会のためである。教区の信徒数三万人に比して、その数を多いとみるか、少ないとみるか人それぞれだと思うが、現状からすれば、嬉しい数字といえるだろう。▼準備段階から青年たちとかかわった者の一人としてまず、実行委員の青年たちを〝よくやった〟とねぎらってやりたい。時間と労力を惜しまずに奉仕した彼らに、その純粋なこころに私たちも学ばなければならない▼遊びごとばかり、と苦言を呈している真面目な大人たちの顔が目に浮かぶ。だが、考えてもみたい。その昔、若者が教会（司祭館）にたむろしていた頃、教会にはもっと〝遊びごころ〟があったはずだ。司祭たちもよく若者と時を過ごした、と古老のひとりが語っていた。教会は若者のたまり場であり、そこにもキリストがいた▼ある宗教団体の地区文化会館で行われていた集会では、駐車場にズラリとバイクが並んでた。こんな真面目な会合に、これほどの若者が集まるためには、その前後にどれだけのどんな遊びがあったことだろうか、と想像する▼自分を中心に全てが動かないと不安になる指導者たち、信徒がいつもお客さん気分の教会、建物を美しく保つために細心の注意を払うあまり、汚すことしか知らない人々を寛大に迎え入れることの出来ない教会の建物と諸施設▼躍動する若者をみながら、現状打破の夢を彼らに託したいと思った。いつか、内なるものに目を向けるその時がくるまで、彼らの傍（かたわ）らにいよう。キリスト者として自分の足で立ち、自分の意志で手を動かそうともがいている若者たちをやさしく見守ろう。若者たちよ教会の澱（よど）みを動かす捨て石たれ。神は明日の教会を若者たちの手にゆだねている。

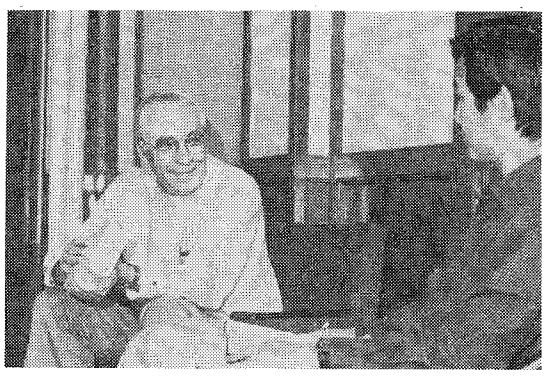
Z・イェール神父『聖書　新共同訳』を語る

キリスト教界の歴史的偉業

十八年の歳月をかけて、カトリックとプロテスタント諸教会が共同で取り組んできた旧約・新約聖書の翻訳が、新共同訳聖書として完成し発行された。

編集部では早速、新共同訳聖書の翻訳作業に最初からたずさわってきたサン・スルピス大神学院教授ゼノン・イェール神父を同神学院に訪ね、この日までのご苦労や意義などについてお話をうかがった。

平坦ではなかった道程のゆえに、関係者の喜びもひとしおであろう。（Yはイェール神父）



出版されたばかりの聖書を手に喜びを隠せないイェール神父（左）

——新共同訳聖書の完成おめでとうございます。

Y　「やっと」と「とうとう」の二つの思いです。

共同訳の聖書のためのカトリックとプロテスタントによる初めての集まりは、一九六九年の七月でした。

その日は、アームストロングが月に足をおろした時で、人々は新しい時代の到来を感じていましたが、日本のキリスト教界にとっても新しい時代の幕あけでした。

暗雲が漂ったことも

——聖書の翻訳作業では、どの教派と協力されたのですか。

Y　おもに日本キリスト教団、聖公会、ルーテル教会、バプテスト教会などです。

最初の頃は翻訳チームにカトリックの学者が少なかったのですが、途中からローマで研究を終わった人たちが参加するようになって層があつくなりました。

——新約聖書の共同訳が九年前に出されたようですが、評判はいかがでしたか。

Y　気をつけていただきたいことは、最初は、聖書の共同訳は教会の信徒のためというのではありませんでした。むしろ、キリスト者でない人々を対象にしていました。そのために一般の人が読んですぐ理解できるように心掛けました。ただ固有名詞などの訳語がなじめないとか、敬語の問題などで教会の信徒に十分に受け入れられなかったのは、残念ながら事実です。

あの当時は暗いトンネルの中に入った状態でした。どうしたらいいのか分からない状態が二年間続いたのです。共同訳は可能かといった深刻な悩みも出てきましたが、結局、それまでの一般向けという方向を転換して、信徒が自分たちの聖書として受け入れることができるものにしようということになったのです。

実際、聖書を普及させるのは信徒をとおしてですから、その意味で、新共同訳が信徒に受け入れられ、信徒をとおして人々の手に渡るように期待しています。

——プロテスタントの聖書では、〝ペテロ〟となってますが、新共同訳では〝ペトロ〟となっていますね。

Y　それは、現代の表記法の問題です。〝tr〟は〝トロ〟となります。

イエスかイエズスか

——共同訳聖書で使われていた〝イエス〟の名称が、新共同訳聖書では〝イエス〟になっていますが。

Y　共同訳新約聖書では、ギリシア語の原音を採用して〝イエス〟としました。

新共同訳が〝イエズス〟でも〝イエス〟でもなく〝イエス〟にしたのは、カトリック以外の教会の事情によります。

もちろんカトリックの典礼において共同訳聖書を用いるときは、司牧の面から〝イエズス〟と言うことができます。ただ文書などで引用するときは問題があります。

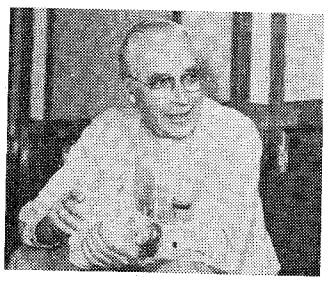
イエスという呼び方は、一八六〇年頃、聖書が中国から日本にはいってきたときに、中国語（北京）で耶蘇（イェースー）と発音されていたものが、イエスになったのです。一方、イエズス（ゼズス）はフランシスコ・ザビエルの時代からのものです。私は、イエスでは教会一致のためにプロテスタントの兄弟を、またイエズスでは日本の殉教者のことを思い出します。

——新共同訳には、共同訳で用いられなかった言葉が復活しているようですが。

Y　そうですね。たとえばマタイ福音書の5章3節は、前の共同訳聖書では「ただ神により頼む人々は幸いだ」となっていましたが、新共同訳では「心の貧しい人々は幸いである」となっています。またローマの信徒への手紙3章のなかで、共同訳では〝神の救いの働き〟〝神との正しい関係〟〝正しい者〟〝救いの働き〟などと訳されていたものが、すべて〝義〟となっています。

それは、ことばとしてそのまま理解したほうがいいのと、教会の中ですでにある程度は定着していると思われるからです。

それと敬語も新共同訳の特長でしょう。文体も洗練されたものになっており、口語で聖書が文学的香りを放つようになったという人もいます。



学問的批判にたえうる聖書

——世界の共同訳聖書の現状はどうでしょうか。

Y　すでに三百の言語で共同訳が発行されています。

アジアだけをみても、韓国語では5、6年前に全聖書の翻訳が出ていますし、フィリピンやスリランカ、タイでもそうです。インドには数種類の言語の共同訳があります。

——翻訳にあたってはどのようなご苦労がありましたか。

Y　日本語として、より正しいもの、美しいものをめざしました。作家の小川国夫さんの熱意が非常に大きな力でした。また、現代かなづかいや差別用語などは、NHK、新聞協会、国立国語研究所などの資料から研究しました。

さらに共同訳の特長は個人訳でなくチームであること。このために自分の理解や好みではいけません。チームの合意が得られるまで徹底的に話し合われました。

特にカトリックとプロテスタントが教会一致の精神で共通の翻訳聖書を作ろうとしたものですから、互いの妥協の産物ではなく、厳密に学問的な批判にたえうるものになりました。

しかも、旧約の第二正典の書物が続編として加えられていることは大きな意味があります。

現在、この続編付の新共同訳聖書がカトリック教会だけでなくプロテスタント教会の教役者や信徒の方々にも買い求められていることは注目すべきことです。

——これからの展望はいかがですか。

Y　「開かれた教会」を目指した第二バチカン公会議の願いでもあった教会一致運動を進めていくうえで、共同訳はどうしても必要でした。

それが今、日本でも実現したのですが、新共同訳聖書の完成はあくまでも私たちにとって一致への歩みのための第一歩でしかありません。

この新共同訳聖書が、カトリック・プロテスタントを問わず全てのキリスト者に受け入れられ、祈り、分かち合い、黙想、研究などに用いられることが、翻訳に携わった者の一人としての願いです。

そして、父なる神とキリストを知りたいと願っている全ての人々の手もとに、皆さまの手をとおして届けていただきたいと思います。

二か月あとに、第二回福音宣教推進全国会議をひかえた9月26日（土）の午後二時から、福岡カテドラルセンターにおいて、聖パウロ女子修道会主催で東京教区の森一弘補佐司教の「あらたな出会い」というテーマで、講演会が行われた。

当日は福岡地区はもちろん、遠くは大分、熊本、北九州から四〇〇名余りの人人が集まって、司教の話に熱心に耳を傾けた。

司教は、自分の少年、青年期から福音に出会うまでの体験を話されたあと、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音のそれぞれ違う点にふれて、その人たちがどういう状況にいるかによって福音のとらえ方が違っている。キリストに出会った人たちが、キリストによって与えられた喜びとは何であったろうか、と問いかけながら、まずマタイ福音について、自分がどうとらえているかを話された。

あらたな出会い（上）

森　一弘　司教

一部を紹介すると、

マタイは取税人で、ユダヤ人の社会から冷たい差別の目で見られていた。そういうマタイにイエズスはことばをかけただけではなく、彼と食事を共にして、彼と同じ立場に身をおかれた。このことは、当時のメンタリティーからいえば自分も差別されるということになる。

イエズスの原体験を私たちは忘れてしまっているのではないか。「これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない」。この小さな者というのは、人間すべてを指していると思う。

私たち一人ひとりの人生を大事にしながら、かけがえのない存在として受けとめ、どんなに苦しいことであろうが、いっしょに歩もうとしてくれるイエズスこそ、マタイの福音体験だったと思う。

（手嶋）

広がれ　青年の輪！

頑張る放蕩息子

10月4日早朝、眠たい目をこすりながら、おにぎり片手に教会を出発。途中道に迷いながらもようやく熊本天使園に到着。これから楽しい運動会が始まるのかと思うとじっとなんかしていられない、という子供のような気持ちを抑えながらの参加でした。

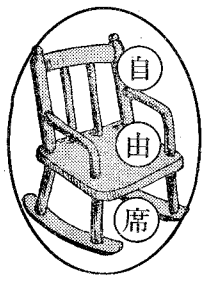
入場行進から閉会式まで、終始それぞれのブロックの特徴がよく出ていたように思います。

ズッコケあり、笑いあり、またある競技には小学生が参加したり、終わりが近づくと自分たちのブロックの点数稼せぎに一生懸命になったりと、さまざまな光景を見ながら、みんなが一つになって何かをやることの素晴らしさを改めて思い知らされたような一日でした。

我が小倉教会の青年会、別名G・H・M（がんばるほ・うとうむすこ（むすめ））の会は今年の4月に新しく出来たばかり。他の教会の青年会とも交流を図りながら会を発展させていきたい、と思っていたところへ教区青年体育祭の話。これを逃す手はない！とさっそく参加の申し込み。これでさらに親睦が深まったと思ったのは私だけでしょうか。

一昨年の青年大会は一緒に考えることとゲームでもって親睦を図り、今回は体を動かすことによって。これらをステップにこれから先、一人でも多くの教会の内そして外にいる青年たちと手を取り合い、教会に、社会にかかわっていけたら、と思うこのごろです。

（小倉教会）



アジアに目を向けよう

青木　悟　神父

今年の8月末、『対日アジア女性の問題について考える会』（手取教会内）のグループのフィリピン訪問に参加させてもらいました。

最初の夜、一時ごろドーンという音で目ざめましたが、雷の音かと思ってそのまま眠りました。その朝、それがクーデターの始まりだったと聞かされました。朝ミサの後外に出ると、鉄砲の音が聞こえてきました。爆撃を見ていた子供たちは、飛行機が飛び去ると、またバスケットボールに興じていました。フィリピンの分裂の苦しみ、政情の不安、それに対して楽観的なのか、慣れてしまったのか、明るさを失わない精神的なたくましさを感じさせられました。

私たちが訪問したある工場では、一日一二〇円ぐらいで働いているそうです。また、ある農家では、作物の5%ぐらいしか受け取ることができないということです。漁村やトンドのスラムでも、貧しさに変わりありません。そのために、日本などの外国に出稼ぎに行くのです。

フィリピンはアジアで唯一のカトリック国です。教会は、大きな土地と力を持っているという印象を受けましたが、貧しい農村やトンドなどで、また海外労働者の世話などを通して貧しい人々と共に生きようとしている姿もありました。

私たちもカトリック信者として、アジアの兄弟として、このような隣人に目を向けていかなければならない時ではないでしょうか。

（手取教会）

中央出版　福岡支部
▨キリスト教関係、書籍、家庭の友
▨典礼聖具
▨ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

ひとりで悩まないで
きぼうの電話
(092)865-1212
〔生き方・家庭・学業・仕事・恋愛・宗教〕
月水金 午前11時～午後4時 午後8時～10時
福岡黙想の家

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡 (712) 8022　久留米 (33) 7401
佐賀 (30) 4040　小郡 (72) 3482

〝親身のお世話で好評〟
福岡教区「カナの会」すでに52名の結婚成立

カトリック信者の結婚のお世話と、信仰に基づく幸せな家庭づくりに協力しようと、福岡教区の「カナの会」（代表古賀正助氏・二日市教会）が頑張っている。

教区の「カナの会」は福岡市周辺の小教区から選出された十六名の委員から成っており、毎月第3水曜日に例会を持っている。

例会では、各委員たちが申し込み者の経歴や希望を書いた書類や写真などを持ちよって話し合っているが、申し込んだ本人が一覧表の中から選ぶこともできるようになっている。

現在は、福岡教区内はもちろん、全国各地の同種の会とのつながりもできており、14都府県から男性六〇名、女性一〇三名の申し込みがある。

信徒は男性三十一名、女性四十六名、未洗者は男性二十九名、女性五十七名。

これまでに結婚が成立した人は男性十八名、女性三十四名にのぼっている。

これから全小教区に委員をつくって連絡を密にし、大きな広がりになるよう期待されている。

古賀正助さんの話

「カナの会」の委員になって8年になりますが、お世話する時は、その方の身になって考えています。お世話するほうも、されるほうもすべてを神さまにゆだねる謙虚さが大切です。それが結婚してからもうまくいく秘訣だと思います。結婚相手を探しておられる方は一度「カナの会」にご相談ください。

福岡教区「カナの会」委員（　）内は教会名。敬称略。

福岡地区　古賀正助・児玉幸子（二日市）、平田ユリノ・柚木寿満子（大名町）、饗庭良子・溝口千枝子（吉塚）、三沢マサ子・山口八重子（光ケ丘）、是永恒子・井上祥子（古賀）、村山多摩子・安部良子（高宮）、森田しげ（浄水通）三原順子（老司）、和智淑子（笹丘）、宗喜代子（西新）、井手シズヨ（大楠）、山本信子（美野島）

熊本地区　吉村傑雄・藤島栄子（手取）、農沢隆・西川厚巳（玉名）、松川守一（菊池）

ふれ合いバザー

青空広がる9月20日（日）大名町カトリック教会でバザーが開かれた。今季バザーは珍しくないが、テーマを「マリアの年ふれ合いバザー」――開かれた教会づくり――としたこの一日には、少しユニークな雰囲気があった。

カテドラルの広さと天神という地の利を活かし、収益に目的をおかず、信徒全員がだれと、どんな関わりをするかが大切にされた。

子供会は楽しいゲームを通して、青年会はビデオ、婦人会は炊き出しに友愛セール、ヨゼフ会は古本市。シスターたちが中心のアジアの人々への愛のコーナーは、バングラディシュ、フィリピンのネグロスなどの手芸品の即売その他、チボリ里親運動、アルコールや薬物中毒者の厚生施設スズランハウスなどへの理解を求める窓口となっていた。

福音宣教パネル展には、ユニセフの援助活動の状況を示すパネル、「平和を祈り、求め、考える」被爆者団体からのパネルやアウシュビッツ、南京事件などのパネルが掲げられ、教皇訪日の際の「平和アピール」が掲示された。

日曜午後4時から行われている英語ミサに来ている留学生や出稼ぎに来ているアジア系の人、その他の外国人信徒も参加、中でもフィリピンの青年グループによる生バンド演奏には道行く人もしばし足を止めていた。

またユニークな試みとして大名町教会でかつて結婚式を挙げたカップルと教会の近所の人たちへ招待状を出し、親睦コーナーとしていた。

誰が「小さな人々」か、福音宣教って何かを考える一日となった。（松浦）

フランシスコの喜びを共に
高宮教会

10月3日の夕方、高宮教会（福岡市）で、近郊の司祭たちの参列のもと、「フランシスコ帰天祭」が行われた。

式では、フランシスコ会士の須賀沢公男神父がフランシスコ像に献香したあと、説教。「アシジのフランシスコは福音の原点に帰り、キリストを本音で生きた人です。私たちにとって生活の規範は、いつも福音を生き、キリストを本音で生きることです」と強調した。

同神父は、「フランシスコを慕う福岡教区の方々を聖人が祝福して下さるよう祈っています」と語っている。

聖母行列で「マリアの年」祝う
老司教会

可憐なコスモスの花が野山に咲きみだれて揺れるロザリオの月、晴天にも恵まれた10月4日、福岡市のはずれにある老司カトリック教会（主任竹森勇神父）で聖母行列が盛大に行われた。

この催しは、福音宣教の意識づくりと霊的生活の高揚の一貫として設けられたもので、去る6月の聖体行列とともに同教会の今年度の大行事のひとつであった。

今年は、「マリアの年」にあたって、全教会とともに聖母を黙想し、聖母を賛え、聖母に倣うために相応しい行事をという意図もあった。

子供たちをメインに、という主任神父の願いで、子供たちを中心に、大勢の信徒たちの信仰と力に支えられた〝手づくりの聖母行列〟となった。

十字架を先頭に、侍者の少年たち、菊・コスモス・バラなど色とりどりの花びらをかご一杯にたずさえた花まき少女たち。母親たちがつくった美しいバラの花輪、その小さな花輪がロザリオを先唱する子供たちの手から手へバトンタッチされ、一連が終わると飾られた聖母像に捧げられていった。見事なチームプレイである。緊張し、とちりながらも懸命に〝めでたし〟を唱える一、二年生。その澄んだ声に力強く唱和する信徒たちの祈りの声があたりにこだましていた。

同教会の信徒のひとりは、「聖母マリアに対する子としての謙虚な心情が吐露され、聖母への愛がより一層深められました。全ての人の働きと思いもそのまま主のみもとへ、芳香となって昇っていったような思いです」と話していた。

ネグロスからの訴え(1)
ロメオ・エンペスタン

私たちはアキノ大統領になった後、フィリピンは大いに変わると信じていました。

マルコス時代の貧困や失業、子供たちの栄養失調状態、軍隊に痛めつけられた苦しい体験も解決していくであろうと大いに期待していました。ところが数か月後、アキノ大統領でさえ新しい事はなかなか出来ないということが分かり、希望がだんだん失われてきています。

特にネグロスでは経済状況が悪くなる一方です。すべての砂糖農園は50%～60%の土地しか栽培されておらず、製糖工場も長くて五か月しか動きません。砂糖だけで成り立っている島なので農園労働者、工場労働者共に厳しい状況におかれています。

貧困を解決すべく労働組合は組織拡大、労働条件、賃金要求等の闘いを進めています。教会もBCC（キリスト教基礎共同体）を中心に土地改革を求めて懸命に運動をしているところです。

このような運動の高まりの中で、政府は大量の軍隊を派遣して力で抑えようとしています。ネグロスの三、四の村では飛行機による爆撃、大砲や戦車による攻撃を受けています。六月末までの統計によると一六〇軒の家が焼かれ、また教会や組合のリーダー三六名が誘拐され、殺されたり行方不明のままです。

軍隊はラモス将軍、トレトク国防大臣に率いられており、アキノ大統領はコントロールする力を持っておりません。

五月の国会議員に選ばれた人々は、大企業や国際通貨基金、世界銀行等、世界的にもお金を動かす力のある所と、関係の深い人々です。ネグロスでも七人の議員を選びましたが、全員が地主です。彼らは選挙運動中はたえず土地改革を実行すると訴え続けていましたが、選挙後は皆黙ってしまい、何人かは土地改革は共産主義的でよくないと言うようになりました。

ネグロスが、このような危機的状況に追い込まれた理由は、必ずしもマルコス政治の失敗また砂糖の国際的な価格暴落ばかりではありません。フィリピン、ネグロスに基本的な問題があります。それは国の経済が外国企業、多国籍企業に握られているという事です。

（ネグロス島　司祭）

現実をみる

教区報に書き始めてもうすぐ一年になる。この欄を通じていろんな出会いがあった。電話もずいぶんあったし、直接にお会いして話を伺ったこともあった。「離婚できそうだ」と思って来られた方もいれば、「離婚の方法を教えて下さい」とみえた方もおられた。すでに離婚して再婚し、今の結婚がどうかして教会で認められないかという相談もあった。

ともかく、問題は単純ではない。話を聞いてみればわかる。聞いてみなければ単純にわり切れると思いこんでしまう。

「離婚してはならない」というのは神法である。神ご自身が定めた法である。

「法」というとどうしてもなにか人を縛りつけるような感じを受けるのだが、この神法には、人が幸せであるようにという神の願いと人々への期待がそこに込められている。

しかし、現実は必ずしも神の思い通りにはいかない。「結婚」がある以上「離婚」があるし、「出会い」があるかぎり、また「別れ」もある。人はロボットでない以上、自分の判断を誤りうるし、そこから当然望むべくもない結果を招いてしまう。それが現実である。

「離婚」は悪である。たとえそれが善いようにみえても、やはり悪である。かといって「悪だ、悪だ」といくら叫んでも、それがなくなるものではない。

教会は「離婚は悪だ」と言い続けなければならない。神の教えを守り、それを伝えることが教会の使命である。教会は救いの道具である。掟を守ることは救いの手段である。だから教会は掟を守らせるのである。だが、ただそれだけが教会の使命ではない。「現実」をよく見なければならない。「結婚」してない人は「離婚」することも、その問題で悩むこともない。教会はただ「守れ」というだけではなく「痛み」を分けてもらわねばならない。（小倉教会）

BOOK 読みま専科

☆テレーズ《空の手で》
C・D・メーステル著
福岡カルメル会訳

今もテレーズは人をひきつけずにはおかぬ不思議な魅力を持っている。それは彼女のすべてが祈りと確信に満ちていて人の心を魅了し、絶えずくり返していた御父、愛、貧しさ、兄弟愛、委託、希望などのテーマが非常に普遍的であるために、すべての人の心に訴えかけるからであろう。

本書は、テレーズのメッセージを、今一度思い起こすことにある。とくにテレーズに見られる希望を聖化する働きが、既刊の自叙伝、手紙など多く引用してまとめている。

（聖母の騎士社　五〇〇円）

☆天草の土となりて
―ガルニエ神父の生涯―
浜名　志松著

本書は、キリシタン殉教の苛烈な歴史を刻む天草島に、キリシタン解禁後まもなく渡島し、八十一歳の生涯を閉じるまで五十余年にわたり、大江教会の司祭として、自分のすべてを神と島民のためにささげつくしたガルニエ神父の話である。

本書の執筆のきっかけとなったのは、次のエピソードに、著者が深い感動と強い衝撃をうけたことによる。

神父は死の直前、信者のおもだった者たちが「フランスのご遺族の方には遺言はありませんか」ときいた時、「遺言は無か。自分の墓石は金をかけてつくるな。墓をつくる金で、病人や難儀をしている者に与えてくれ」と言って息を引きとったといわれる。

（日キ教団出版局　一、三〇〇円）

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
石
石
他
理
影
の
大
御
そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

十一月の行事

※ゴチックは司教日程

1日　堅信式（吉塚）
追悼ミサ（大橋墓地）
3日　召命の集い（サン・スルピス大神学院）
堅信式（新田原）
8日　堅信式（新田原）
9日　司祭館落成式（飯塚）
15日　堅信式（武雄）
聖書週間講演会（福岡カテドラル）
滞日アジア女性問題を考える会2周年記念講演会（手取）
20～23日　第一回福音宣教推進全国会議（京都）
29日　聖書週間講演会（横浜市保土ケ谷）
30～12月2日　司祭研修会（熊本県阿蘇）

〈12月〉
3日　大神学院祭（図書館落成式）
6日　シュワイツァー寺カトリック別院落成一般公開（熊本県玉名郡菊水町）

福岡黙想の家

5日　ヤングママ黙想会
7～8日　北九州レジオマリエ
戸畑青年会黙想会
12日　笹丘婦人会黙想会
14～15日　佐賀青年会黙想会
22～23日　地区聖母カテキスタ会黙想会
23～24日　聖公会司祭研修会
28～29日　カトリック共助組合研修会
※聖書入門講座10日（火）から毎週火曜日午後6時半～8時半。会費　毎回二百円

公募

教区報『カトリック』紙名変更でご意見を

教区報『カトリック』のご愛読ありがとうございます。ところで、最近、全国紙『カトリック新聞』の購読者拡大が緊急となっていますが、福岡教区の教区報『カトリック』の読者の中に、全国紙とまぎらわしいとの声がしばしば聞かれ、あちこちで混乱があるようです。

このために、来年度から新聞名の変更を考えています。

教区報『カトリック』は30数年にわたる輝かしい歴史をもっており、新しい名称もそれに相応しいものでありたいと願い、読者の皆さまから新しい名称を公募いたします。

現在の名称を保持すべきであるとお考えになられる方もその旨、ふるってご応募ください。

編集長　渡辺隆義

応募方法

ハガキでお願いします。
締め切り　本年11月末日
送り先　〒810
福岡市中央区浄水通39
司教館
教区報編集部

ご参考までに、教区報を発行しているいくつかの教区の新聞名をご紹介いたします。
福岡教区＝カトリック
長崎教区＝カトリック教報
鹿児島教区＝鹿児島カトリック教区報
那覇教区＝南の光明
横浜教区＝カトリック横浜教区報
東京教区＝東京教区ニュース
京都教区＝京都教区時報
広島教区＝広島教区報

11月15日　講演会　'87聖書週間

第1部　☆ホスピスの現場から☆
―死をむかえる人々とともに―
講師　藤江良郎氏
福岡亀山栄光病院院長

第2部　☆新共同訳聖書が完成して☆
講師　ゼノン・イェール神父
共同訳聖書実行委員

とき　第1部午後2時　第2部午後3時30分
ところ　福岡カテドラル・センター
入場　無料
主催　福岡教区報『カトリック』
福岡教区信徒使徒職協議会
福岡地区婦人会
福岡地区修道女連盟
福岡エキュメニズム委員会
問合せ先　福岡司教館　☎092-522-5139

市民クリスマス

〈福岡〉
日時　12月7日（月）
午後6時15分開演（5時半開場）
映画　「塩狩峠」
メッセージ　踊一郎牧師（バプテスト教会）
場所　福岡市民会館大ホール
☎092-761-6567

〈佐賀〉
日時　12月17日（木）
午後6時
場所　佐賀県立美術館ホール

〈熊本〉
日時　12月21日（月）
午後6時
場所　熊本市民会館

献金報告

移住の日献金

一、〇八八、〇四九円

いのち

死について

山内清海

最近「死について」の研究会や著書が目立ちます。これは柳田邦男氏が指摘するように「現代医学のなかであまりにも非日常的なものにされてしまった『死』を、『タブーの世界』から『開かれた世界』に引き出し、誰でもが自然な気持で話し合えるものとする」（『死の医学』への序章、新潮社版）必要があると、人々が考えるようになったからでしょう。もちろんこのことはとても大切なことです。なぜなら「死」を考えることによってはじめて、真実の「生」を考えることができるようになるからです。しかし、そうなると問題はますます複雑になります。死についての十分な解答は、医術をこえた信仰の助けなしには得られないからです。

先日、ある国立病院の看護部長から、看護職員を対象に「宗教と心」についての講演の依頼がありました。その依頼の手紙には、「病院で治療の効もなく死を迎える患者も多いなかで、病に苦しむ患者さんが、心安らかに人生の最後を迎えられるよう、看護婦として少しでも援助できたらと、常に悩みます。そのような時にどのように接したらよいのか、そのための心構えのようなものを、また死を前にして患者さんが、宗教によって心安まる事例も多くありますので……」と書いてありました。

死は、わたしたち信仰者にとっても、最も大切な問題の一つです。たとえ信仰者といえども、死の事実と、死の恐怖を避けては通れないからです。

では信仰は、死について一体何を教えるのでしょうか。死者のミサや、葬式の典礼文には、主として二つの思想が表現されています。その一つは、わたしたちは、死によって御父のもとで永遠の幸福に与る、という信仰表現です。信仰は、神を信じる者にとって「いのちは滅びることなく新たにされ、地上の生活を終わって後も、天に永遠のすみかが備えられて」（「死者の叙唱」より）いると教えます。だから教会は葬式の典礼で、神のみもとにかえるに相応しくなれるように「すべての罪のきずなから解き放ってください」と、死者の罪の赦しを祈り求め、心を清めてくださるよう祈るのです。死はしたがって、永遠の生命への旅立ちであり、人生の目的である神のみもとでの、永久の幸福の始まりです。病苦のみならず、人生のすべての苦しみはすべて、この幸福を得るための手段です。

典礼文に表現されているもう一つの思想は、わたしたちもキリストの復活に与る、という信仰です。なぜならキリストを信じるわたしたちにとってキリストの死と復活は、永遠のいのちと復活の希望を与えてくれるからです。司祭が、墓地または納骨堂で「ここに葬られる者を、復活の日まで安らかにいこわせてください。復活であり、いのちであるキリストによって、永遠のいのちの喜びを受けることができますよう」と祈るのもそのためです。神でありながら虫けらのようにあつかわれ、十字架上で壮烈な死をとげられたキリストが、しかし三日目に復活なさったように、キリストを信じ、キリストと共に生きる人は、キリストと共に「死に打ち勝ち」復活の栄光にも与る、というのがキリストが身をもって教えられた信仰です。

十一月は「死者の月」です。教会は特にこの月に、練獄の霊魂のために祈るよう強く勧めます。しかし、「死者の月」はわたしたちに、わたしたち自身の死についても真剣に考えるように促しています。わたしたちは、信仰をもって死を見つめてこそ、真の信仰者として、死を恐れない、むしろキリストの復活への希望と喜びに満ちた人生をおくれるからです。

（サン・スルピス会司祭）大神学院教授）

編集室から

共同訳聖書の完成を「わが子の誕生」のように喜んでおられる、イェール神父様に18年間のご苦労をうかがいました。興味深い話題がたくさんありましたが、残念ながら紙面の都合により割愛せざるをえませんでした。

森一弘司教様（東京教区補佐司教）のお話の要旨を2回に分けて紹介します。

フィリピンのネグロス島で活躍しておられるエンペスタン神父様の講演は、若松教会の守谷栄二さんのご協力で3回に分けて掲載します。なおこの講演は、去る7月に北九州市で行われたものです。

教区報『カトリック』の新名称を公募していますが、これまでにいただいた名称をご紹介いたします。ご協力ありがとうございます。

『福岡教区報』
『福岡教区教報』
『福岡教区新聞』
『カトリック福岡教区報』
『福岡教区報　世の光・地の塩』
『福岡教区月報』

（W）

記念講演

◎『滞日アジア女性の問題を考える会』
設立2周年記念講演
講師　大島静子氏（東京ヘルプ代表）
○フィリピン訪問報告
日時　11月15日（日）午後1時30分～3時30分
場所　手取教会ホール
熊本市上通町3-34　☎096-352-3030

ヘブライ語教えます

ヘブライ語（現代）会話
対象　初歩者
教授方法　個人教授または3～5人グループで
問い合わせ先
福岡市中央区平和3丁目8―7
深草　禧子（よし）
☎092-531-5993

のこのときのことのは

森山　敬三

露の世は露の世ながらさりながら
小林一茶

『おらが春』に所収。

同じ書に「我と来て遊べや親のない雀」六歳の弥太郎とあり、親のない子はどこでも知れる、爪を咥（くわ）へて門に立（た）つ、云々と前書きがある。

あの自我の強い、ひねくれ者の一茶の心の中には、生涯、棒のように貫いたうつくしい愛情があった。六歳というのは、その時の気持になって書いたものであろう。

五十二歳になって、やっと信濃の柏原に家を構え、初めて妻をめとり、長男、次男は生まれたが間もなく死んだ。

その後、長女は無事に年を越したので、「這へ笑へ二つになるぞけふからは」と喜び、親子三人して迎えた初春を「目出度さもちう位也おらが春」と祝った。

しかしその娘もまた秋には亡くなって、前掲の句を読んだのであるが、さりながらに無限の哀感がこもっている。

六十二歳のときには妻をさえ亡くした。「小言いふ相手もあらばけふの月」

Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8―8
TEL　092―531―3831
夜間　092―521―0820

〝任意保険に加入してから車の運転を致しましょう〟
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092―552―8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

未来へ――安心を創る
FUJKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL 092-521-0568

カトリック

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092－522－5139
振替口座　福岡3－42319
定価一部60円

聖書週間

ホスピスの現場から

プロテスタントの医師が証し
Z・イェール師は新共同訳聖書を語る

福岡カテドラル

第11回「聖書週間」の初日、二つの講演が行われた。第一部は福岡亀山栄光病院院長の藤江良郎医師が、ガン告知問題や全人格的医療への取り組みをホスピスの現場から。

第二部は「聖書（みことば）をご聖体（御からだ）と同じように大切にしていますか」と大神学院のZ・イェール師が講演した。

講演会は11月15日（日）午後2時から、福岡カテドラル・センターで行われた。開演に先立ち準備に忙しい信徒協や婦人会、女子パウロ会のシスターに手伝いを申し出る人、一緒に椅子を運び込む人など、聖書に親しもうとする人びとにふさわしい開幕の準備光景が見られた。

死を真正面に見据えること

第一部「ホスピスの現場から」――死をむかえる人びとともに――と題して藤江良郎医師が講演。学生時代にクリスチャンになっていたが「7年前福岡県粕屋郡志免町の亀山医院に勤務するようになり、そこで牧師でもある下稲葉医師に出会い、聖書に再会。ホスピス（終末医療）に取り組むことになりました」と切り出した。

同病院はホスピス併設の一般病院で、ガンと知って自分から入ってくる人もいるが、本人は知らずに大学病院やガンセンターから送り込まれるケースも多いという。これらの患者にただ科学の技で対するのではなく、心の触れ合いの技で対しているという。

「人間は必ず死にます。これまで、医療は治すことだと患者も医者も考えていましたが、やはり治らない病気があることを問うべきです」と死を正面に据えての医療を考える時に来ていることを指摘。「死を正面に見据えるとは、死を向こう側から見ることであり、それはキリストの十字架であるべきです。全ての人を救ってくださる神の愛を感じればこそ、罪人である私にも堂々と医療ができます」と語った。（今回の藤江良郎氏の講演の要旨は、後日、本紙に掲載予定）

「病いは神との出会いの機会」と語る藤江氏

聖書を聖体のように大切に

第二部は「新共同訳聖書が完成して」――日本のキリスト教界の歴史的大事業――と題してイェール師が講演。

「宗教改革という大きなドラマのなかで、聖体、ミサなど秘跡を重要視したカトリックと、キリストのみことばをより重要視したプロテスタントとに分かれてしまった。それは、カトリック教会が聖書から遠ざかる原因にもなってしまったということです。だが、みことばなしには教会の中を生き生きさせることはできません。だから、公会議が開かれました。キリスト者として生きるということは、神のみことばを身につけることです。教会は、主の聖体を大切にするのと同じく、聖書を尊敬しなければなりません。そこに教会一致があります。これは、神の望みと恵みです」と熱っぽく語った。

第1回福音宣教推進全国会議開催

活発に意見を交換

会場前（京都司教座聖堂）の福岡教区代表

『開かれた教会づくり』を目指す第一回福音宣教推進全国会議が11月20日(金)から23日(月)の4日間、京都で開催された。福岡教区からは平田三郎司教をはじめ、司祭、修道者、信徒の代表など、16名が出席した。

受付のあと、各教区が発題、分団会という手順で進行。福岡教区からは、信徒使徒職協議会会長の山田耕三郎氏（光ケ丘）が「日本の社会とともに歩む教会」というテーマで発題した。

最終日は、答申（案）を審議した後、感謝のミサをもって閉会した。詳細は次号に掲載。

今月のみことば

私の言葉を聞いて行う者は、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている

（マタイ7・24）

大牟田　西田邦洋神父

召命の集いに千人

大神学院

「召命がピリリ！感じよう。神さまの刺激」のテーマで、サン・スルピス大神学院恒例の「召命の集い」が行われた。

初めて、雨の中の集いとなってしまい、準備した神学生たちは不安を抑えながら当日を迎えた。

今年は、対象を男の子だけでなく「神さまに呼ばれているすべての人びと」とし、多くの信徒、特に女の子の参加も呼びかけた。呼びかけに応えて、悪天候にもかかわらず、千人近い信徒の参加を得て行われた。

今年は、男子、女子、保護者と三つのグループに分けての講話がなされた。

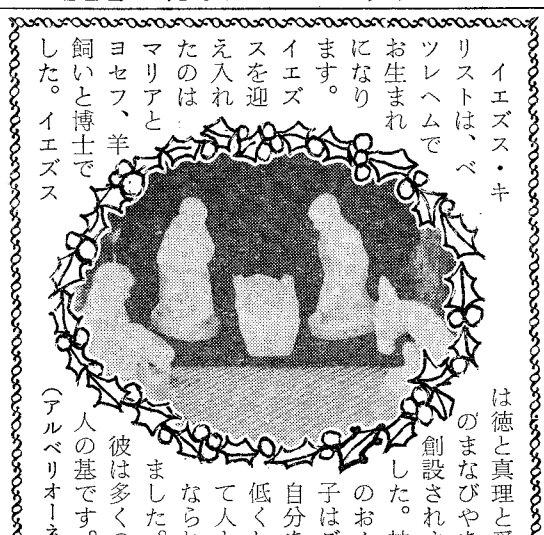
大神学院作成によるスライドの他、幼きイエズス修道会志願院の生活を内容とするスライドも行われた。特に、女の子への講話は、シスター金森（サン・モール会）の協力を得て、初めて行われた。また若干ではあったが各修道会のパンフレットを集めて、修道会を紹介するコーナーも設けられた。

四年生以下の子供たちは、雨のためグラウンドでは遊べず各教室に分かれて、神学生を身近に感じながらゲームを楽しんでいた。

今年は予期せぬ雨に、計画を大幅に変更せざるをえず、建物の中だけの召命の集いとなったが、心の中に神さまの刺激をピリリと少しでも感じとってもらえたらと今、思っています。

お願いしたアンケートに、早速、応えて下さった中から「朝からの雨で、皆さん大変だったでしょうが、雨のおかげで二つのスライドを見ることができ、司祭召命の大切さを知ったことは本当に大きな刺激でした」「女子のためにも準備くださったことは、とてもよかったと思います。普段、教会学校で伝えられない体験ができたと思います」など、たくさんの励ましを戴き感謝しています。来年も、お待ちしています。

召命の集い実行委員長
神学科三年　真浦　健吾



イエズス・キリストは、ベツレヘムでお生まれになります。イエズスを迎え入れたのはマリアとヨセフ、羊飼いと博士でした。イエズスは徳と真理と愛のまなびやを創設されました。神のおんこは自分を低くして人となられました。彼は多くの人の基です。

（アルベリオーネ）

時の話題

牧山満安

去る十月中旬、佐賀市で佐賀善意銀行設立二十五周年の記念行事が行われた。地元新聞社と社会福祉協議会の共催で「社会福祉セミナー」と題し延べ三日にわたって催され、作家の曾野綾子さんも講師として来佐、すしづめの会場で記念講演をされていた。期間中シンポジウムや分科会など、珍しく多彩な催事であった。

「善意銀行」とは、ご存じのように名前はいかめしいが、つまるところ民間の助け合い機関で、誰でも自主的に金銭預託のほか、労力、技術（特技）などの善意を登録することができる。引き出す側の市民は、〝困っていること、協力してほしい事柄〟を事務局に申し出る仕組み。双方のパイプ役となる運営委員は、需要と供給の内容を検討調整して、斡旋するのである。永い経験によって身につけた専門的知識や技術が意外に活かされるケースが多い。預託者の場合は普通新聞紙上で紹介され、需要の申し出は電話やハガキでなされているようだ。例として次のような預託がある。

金銭＝小遣い・貯金、香典返し、還付金、歳末募金など。

労力＝庭掃除、ガラス拭き、力作業など。

技術＝通訳、大工、散髪、点訳、朗読の吹き込み、写真、演芸・奇術といった類も。

その他献眼、献体などもふえている。

私は、久しく善意銀行の活動を見守ってきたが、この度の一連の行事を通して、わが福岡教区にも〝善意銀行〟らしきものが作れないかとしきりに模索している。預託者のネットの拡がりや信徒間の交流、多様な技術預託者の確保、信徒相互の協力と助け合いは大きな教区の力となって――と夢は膨らむ。

教区「善銀」設立への模索

もちろん、こうした組織作りや実務を、どこで誰がやるのか？という質問に即答できる妙案がある訳ではないが、新しい時代の福祉活動の一環として如何だろう。福岡教区の中心部に、受け皿となる活動の根拠地を探し求めることは不可能なことであろうか。今後とも有志の方がたと一緒に考えてみたい。

佐賀新聞社社友
（佐賀教会所属）

7教会対抗でソフトボール大会

郡小

本郷、今村、久留米、大牟田、小郡、鳥栖、二日市の7教会対抗親善ソフトボール大会が、11月1日、小郡市のグラウンドで行われ、熱戦が繰り広げられた。

各教会から子供の部と大人の部2チームが出場し、応援を含めて約二五〇人が参加。

試合は、子供の部で久留米教会が初優勝。大人の部では、今村教会が司教杯を手にした。

初優勝を遂げた久留米教会子供チームの監督下町豊重神父は「ここまでこれるとは思っていませんでした。子供たちがよく頑張ってくれました」と喜んでいた。

また大会実行委員長の富本秀雄さん（鳥栖教会）は、「教会間の親善が一層深められました」と話していた。

J・ベルトラン師帰天

パリ外国宣教会会員ジュリオ・ベルトラン神父は、かねてより同会八王寺本部で病気療養中であったが、10月27日同本部で帰天した。

享年90歳。

（3面に関連記事）

みちくさ

溢れる感謝で、司祭叙階10周年の記念日を迎えた。よき協働者である小教区の皆さまに、まず感謝したい。貧しい人々が豊かな祈りで支えてくださっていた。祈りのありがたさを実感できるようになったのは近頃のことである。

「私のためより他の人のために頑張ってください」と励ましてくださる方もいる▼司祭になったことを後悔したことはない。その時その場で、いつも必要な助け手を与えていただいたし、わがままに精一杯生きさせていただいた。ただせっかく頼って来てくれる人に、キリストを十分に示してあげることができないことを申し訳なく思う▼これからの生き方を考えるとき、もっと宣教者に徹しなければと思う。自分の身近にいる小さな人々とのかかわりを掘り下げ、広げていきたい。神のみ前で、自分の弱さを直視できたら、人々の弱さ、痛みを自分のものとすることも容易になることだろう▼さらに、教区（在俗）司祭として、時代を越えた司祭の生き方、こころをみつめてみたい。それは多分、在俗を生きたナザレのイエズスに直接導いてくれるであろうから。聖職者中心主義、小教区制度のなかで落ちこぼれている信徒の叫びに、もっと敏感にならねばと思う▼いつも温かく受け入れてくださっている司祭仲間にも感謝と敬意を表したい。10年たってやっと、司祭でありつづけることのできる恵みの偉大さの片鱗にふれることができた。司祭として生きることの難しさを少しばかり体験できた今、こころから尊敬できるようになった▼司祭職をめざす若者たちには、司祭として生きることのできる幸せを伝えたい。イエズスがまず大切にした人々、ことがら、行動様式を探究し、自分のものにしていただきたい。司祭になったら、自分のではなく、キリストの教会をつくるべきだ。そのために一緒に働ける日を待っている。

キリスト教と仏教の霊性交流センターとして注目されている、『生命山シュワイツァー寺カトリック別院』が、11月23日に落成した。

院長となるソットコルノラ・フランコ神父（ザベリオ会）は「諸宗教との対話によって、豊かな霊性を」と語っている。

（編集部）

『カトリック別院』きりすとのこころとみほとけのこころ

東西宗教交流センター

熊本・菊水町

——念願の〝祈りの家〟が熊本県の菊水町に完成されたそうで、おめでとうございます。

『生命山シュワイツァー寺カトリック別院』とはユニークな名前ですね。

フランコ　シュワイツァー寺は、浄土真宗のお寺で、古川泰龍先生が住職をしておられます。古川先生は、活動的なお坊さまで、シュワイツァー博士を尊敬し、ご自分のお寺を『生命山シュワイツァー寺』と命名したんですよ。

私は、お坊さまのご家族と一年間生活をともにさせていただきいろいろ学びました。

——神父さまがこのようなお仕事を始められた動機は何でしょうか。

フランコ　私は、10年前に日本にきましたが、それより数年前イタリアにいる時から、諸宗教の方がともに祈れる場の構想を持っていました。

日本に来てから、仏教が人々の日常生活のなかで及ぼしている影響力の大きさを知り、仏教とキリスト教者双方のための『祈りの家』をつくることをこころにきめました。

もしイスラム教の国でしたら、イスラム教の人たちと一緒に祈れる家を。

こころに休みを与える

庶民のための祈りの家

——具体的には、どんなところでしょう。

フランコ　私の願いは一般大衆に祈りの場を提供することです。皆さんが、少しこころに休みを与えて、座禅とか念仏とか、冥想とか各人が自分で一番よく祈れるいろいろな方法で祈れる雰囲気をつくりだせたらと思います。

——どのようなきっかけでこの構想を思いたたれたのですか。

フランコ　産業医科大学の本多正昭先生との出会いが大きな契機になりました。

本多先生はカトリックですが仏教に深い造詣を持っておられ、おかげで古川先生にお会いできました。これが「カトリック別院」をここに建設するきっかけになりました。

私自身は、日本に来てすぐ、神道を研究しました。それから仏教の研究にかわりました。

今は、親鸞の『歎異抄』を勉強していますが、近いうちに教えてくださっている古川先生と一緒にこれをイタリア語で出版したいと思っています。

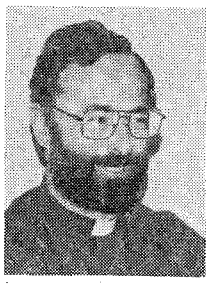
草の根の対話を始めよう

——どのような生活をしておられるのですか。

フランコ　4人のシスター方と祈りの生活をしています。

——本堂や客室はどれくらいの大きさですか。

フランコ　場所は熊本県玉名郡菊水町で土地は約3千2百坪の広さがあります。静かなところで、西の方に有明海を眺めることのできるすばらしい景観です。



ただ交通の便が少し悪いですが、でも菊水の高速インターからなら車で約20分ぐらいです。もしお電話いただいたら、迎えにいってもいいですよ。

宿泊については、お客さまも私たちと同じ建物の中で、一緒の生活をしていただきます。現在、4畳半の和室が7つあり、同室でよければ14名まではゆっくり泊まれます。

もちろん、一人でも、二人でも大歓迎です。

本堂は木造の大和建築様式とでもいえるもので、15畳ほどの広さがあります。

日帰りのグループの場合、20名までは大丈夫ですよ。

——ここでは、お話をきいたりミサに与ることもできるのですか。

フランコ　もちろん希望者にはお話もします。しかし基本的には、ここは各人が静かに自分をみつめる場所です。ミサはシスターたちのためにさげていますのでそれに与ることができます。

ミサのやり方では、以前、シュワイツァー寺に2か月ほど泊まられた押田成人神父さまから示唆をいただきました。できるだけシンプルな形で、象徴が目立つように、ワビ、サビの感じのものを取り入れることにしています。

たとえばね、シスターたちの小さな聖堂の祭壇には屋久島の杉で幅80センチの一枚ものを使っています。

——これからの仏教とキリスト教の対話、交流について神父さまはどのような展望をお持ちですか。

フランコ　第二バチカン公会議やアジアの司教会議も諸宗教間の対話の促進を表明しています。

私たちは、日本人が千年以上の歴史のなかで、体験してきた仏教をもっと勉強することによって、日本人のこころに触れる方法で、キリストを伝えることができるのではないでしょうか。

互いに相手の信仰を尊敬しながら、自分の信仰を証しすることによってそれは可能になると思います。

——対話ということでは、カトリック教会のほうが、積極的なようですが、仏教界ではどうですか。

フランコ　そうですね、たとえば、今年、比叡山で行われた宗教サミットは一つのしるしになると思います。

仏教系の大谷大学では、キリスト教と仏教の出会いの歴史についての講座があると聞いていますよ。

これまでは、どちらかといいますと、学問のレベルでの対話が主でしたが、これからは、草の根つまり一般大衆のレベルでの対話が求められるのではないでしょうか。

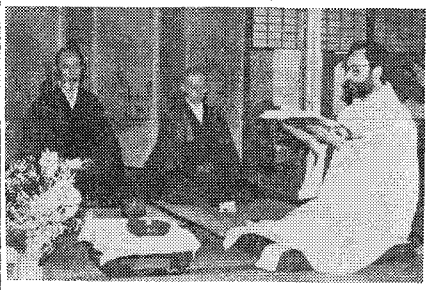
——禅についてはどうでしょうか。私は、個人的には禅は仏教における修道生活のようなイメージを持っています。それに比べて、浄土真宗は一般信徒の信仰生活の匂いを感じますが。

フランコ　そうですね。真宗の創始者親鸞上人は、悟りをさがしても達することのできない罪人のことを考えています。救われるのは、自力ではなく他力、阿弥陀によって救われたことを信じて、その救われた生活を感謝しながら、念仏を唱えることを教えました。

日本の歴史のなかでも、禅はハイレベルで、浄土真宗はもっと庶民のレベルで成長してきました。

——極端な言いかたかもしれませんが、禅とカトリックの修道者が対話し、真宗にはカトリック信徒との対話の接点がある、ととらえることもできますね。

フランコ　そうです。真宗には、現実の生活で混乱している人がどのようにしたら救われるかという信徒の霊性とでもいえるものがあります。



みことばのこころに触れて

キリストへの信仰をゆたかに

——祈りの共通性についてはいかがですか。

フランコ　キリスト教にも念仏のようなものができるといいですね。

真宗の方はナムアミダブツと唱えますが、『阿弥陀』ということばには、限りない光、命という意味があります。この無限の光に頼って、喜ぶこと。キリストは神から遣わされてすべてを照らすおん子ということで、共通性があるのではないでしょうか。

——教区の皆さまに何かご要望がございますか。

フランコ　祈りの家としての『カトリック別院』は、すべての人のために開かれています。

この前も、四人のおばあちゃんが歩いてきて、三位一体の絵の前で、ナムアミダーと祈っていました。そして、祭壇の前に四百円置いていきましたよ。このような庶民の祈りの場として育てていきたいと思います。

教区の皆さまが『カトリック別院』を祈りの場として、さらには仏教との出会い、対話、交流の場所として気軽に、大いに活用していただきますように、期待とお願いを申し上げたいと思います。

——神父さまの遠大なご計画の成功をお祈りいたします。

問い合わせ先
熊本県玉名郡菊水町蜻蛉
一三九一の七
生命山カトリック別院
☎ 096885-2284・2285

キリスト教は長い歴史の中で、立派な体系をつくってきたが、いつのまにか生活の中でイエズスとの出会いを、私たちに見えなくしてしまったのではないだろうか。

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネのそれぞれの福音記者が、自分の生活人生の中で、福音をとらえている。このことが、私たちにとってたいせつなことではないか。

むつかしい教えを理解して、自分の信仰を養うこともあっていいだろうが、背伸びする必要はないし、むしろ最初の出発点は、それぞれの生活体験であろう。個々の問題点がはっきりしていて、この中にイエズスを位置づけていく。つまり自分のありのままの生活の中に福音を位置づけていくことではないかと思う。

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネのそれぞれに福音の体験があったように、私たち一人ひとりの独自な福音体験があっていいのではないだろうか。

マタイがイエズスと出会って体験したのは、自分の人生を自分の力で切り開いていくことのできない状態にある、小さな存在がイエズスに出会って希望を得た体験があった。

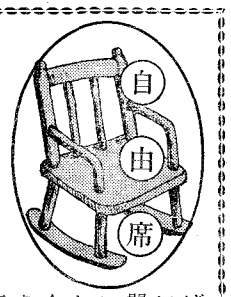
ルカの場合は、神に向かって嘆きのことばや叫んでいる人たちを前提としている。つまり生活の中で泣いている人間の姿に注目している点ではないかと思われる。そのなまなましい声に、神がイエズスをおくってくださった。だから喜べ、というのである。

原体験の中で、私たちは自分の希望、喜びを見いだして、それを伝えていくことのうちに、イエズスとの真の出会いが実現できるのだろう。

（手嶋）

あらたな出会い（下）

森一弘司教



福音宣教としての結婚準備セミナー

S・M・ライル神父

私たちはいま、開かれた教会とは？福音宣教とは？といろいろ考えたり、体験を分かち合ったりして、大いに関心を持って進んで来ています。ところで、家庭崩壊の現状と、そこからくる心の傷の痛みは老若男女を問わず、多くの人におよび、その影響は社会、国、世界へと蔓延しています。

そこで、健全で信頼に満ちた家庭建設のために、教会（わたしたち）が心を注ぐことは、大切な福音宣教であります。そして、その出発点である婚約者のための「結婚準備セミナー」は家庭福音化のための大切な役割をもっています。

このセミナーでは①夫婦愛を育てる新婚時代②カップル間に豊かな対話を③家庭経済④妊娠と出産⑤夫として妻として、父として母として⑥二人で歩む道の価値観⑦結ばれた二人の道、と以上7回のプログラムに二人で参加してもらいます。そのつど、いろんな先輩夫婦の体験を通した分かち合いを聞いたあと、参加者の二人が話し合うといった方法です。

「最初は、このセミナーに出席すれば教会で式を挙げてもらえると思って必死に通いましたが、お話しを聞いてるうち、とんでもない自分の考えに気づきました。彼との対話によって、今まで知らなかったお互いを見つけることができ、大変感謝しています。今までは頭でばかり分かっていたような気がします。このような二人の時間を設けていただきありがとうございます。悲しみで心がふさがる時、喜び満ちあふれる時、キリストさまと一緒に分かち合いたいです」というノンクリスチャンの参加者の感想がこのセミナーの意義と必要性を物語っていると思います。

このセミナーを手伝っているある夫婦は「夫婦で教会のために何かしたいとつねづね話し合っていたのですが、これこそ夫婦にできる信徒使徒職、福音宣教ですね」といっています。

教皇ヨハネ・パウロ2世は、一九八〇年の「家庭に関するシノドス」を踏まえた使徒的勧告『家庭——愛といのちのきずな』の中で「結婚と家庭が人間に与えられた価値の中でも最も大切なものの一つである」とまた、「教会は結婚と家庭の価値を大切に生きていこうとする人々を励まし、光を与えたいと願って奉仕するものである」とおっしゃっています。

このような大切な福音宣教のために、これからも信徒の皆さんと力を合わせていきたいと思っています。ご協力をよろしくお願いします。

（皿山ファミリーセンター所長）

中央出版　福岡支部
キリスト教関係、書籍、家庭の友
典礼聖具
ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL 092-531-0899

ひとりで悩まないで
きぼうの電話
(092)865-1212
〔生き方・家庭・学業・仕事・恋愛・宗教〕
月水金 午前11時～午後4時 午後8時～10時
福岡黙想の家

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096—352—3306
096—352—8622

式典・花
木下株式会社
福岡 (712) 8022　久留米 (33) 7401
佐賀 (30) 4040　小郡 (72) 3482

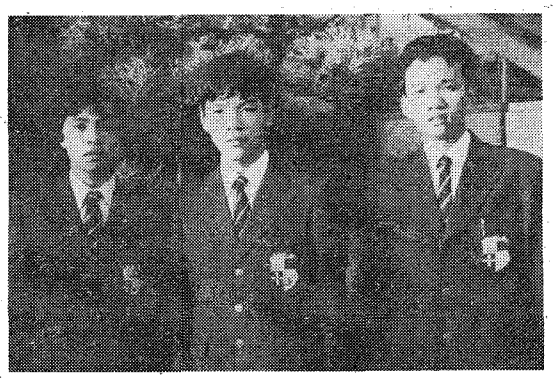
難民の子らに奨学金を

大学進学に学資の壁
里親たちが支援を求める

熊本

熊本マリスト学園高等学校で学んでいる3人のベトナム人難民少年が、来春の大学受験を前に学資の難題を抱えている。

他の生徒の何倍も勉強に励む子供たちに、健軍教会の里親たちはもちろん、同教会の信徒たちも、夢をかなえてあげたいと奔走している。



写真右より、グエン・タン・ニャン君、ド・トウリ・クアン君、グアン・バオ・ロック君

3人は、グエン・タン・ニャン君(19)、ド・トウリ・クアン君(20)、グアン・バオ・ロック君(18)。

ニャン君は、昭和58年7月にボートでベトナムを脱出。大村難民受入センターから熊本にやってきた。両親と兄弟3人はベトナムに、兄弟2人はアメリカにいる。同年11月にマリスト中学の聴講生として2年に編入。

クアン君は、母親と兄弟3人で、昭和55年6月に脱出。57年6月にマリスト中学2年に編入。母親と兄弟2人は埼玉県に在住。

ロック君は昭和58年6月にベトナム脱出。同年11月にマリスト中学2年に編入。両親と兄弟4人はベトナムに、兄がフランスにいる。

三人とも両親あるいは父親が旧南ベトナム政府軍のもとで働いていたため、いまだに就職できず、またその子弟は、大学進学の道も閉ざされている。

熊本に難民としてやって来てからは、熊本市にある健軍教会の福山和男さんや平川秋次さんらが里親になって面倒をみている。

一方、同教会は、難民の家族を援助すべく『健軍教会難民部』を設置し、物心両面にわたる支援を展開している。

福山寿子さん(健軍教会難民部代表)**の話**

これまで、3人とも、マリスト学園のご好意で頑張ってきました。大学進学の問題で不安な毎日を過ごしている彼らを見ると、学力が十分にあるだけに、何とかしてあげたい、とこちらもあせります。

この子供たちの夢をかなえてあげるために『大学進学基金』のようなものを考えています。一口いくらでも結構ですから、皆さまがたのご協力をお願いしたいと思います。

問い合わせ先
熊本市健軍三―八―三七
カトリック健軍教会難民部
代表　福山寿子
郵便振替口座番号
熊本8　31587

故J・ベルトラン師葬儀ミサ・告別式
司祭、信徒ら多数が参列してお別れ

10月27日に帰天したジュリオ・ベルトラン神父の葬儀ミサと告別式が、10月29日、平田三郎司教の司式によって門司教会でとり行われ、30名の司祭、多数の修道者、信徒、恩人らが参列して故人の冥福を祈り、遺徳をたたえた。

ベルトラン神父は一八九七年フランス生まれ。去る8月24日に卒寿を祝ったばかりであった。一九二二年九月にパリ外国宣教会に入会、一九二五年6月6日に司祭叙階され、三か月後の九月には、韓国で宣教活動を開始。約25年間同地で宣教したが、健康に恵まれず、いったん帰国。

一九五一年に来日し、若松教会を皮切りに、福岡市の聖母訪問会修道院、北九州市の援助修道会修道院付司祭を歴任し、門司教会主任となった。その後は、八王寺本部で闘病生活をおくっていた。

平田司教は説教のなかで、「ベルトラン神父さまは、ミサは十分できませんでしたが、〝ベッドが祭壇〟という生き方をとおして、皆のために命を捧げました」とその生涯をたたえ、「神と人々への奉仕のために生きた神父さまに倣おう」と語った。

告別式では、信徒を代表して、小倉教会の片岡光男氏が「門司港教会に着任されてから、水害の跡地に教会を建てられましたが、神父さまの熱意、祈りと柔和さに心を打たれました」と弔辞をよんだ。

ベルトラン神父は北九州市湯川にある教会墓地に埋葬されることになっている。

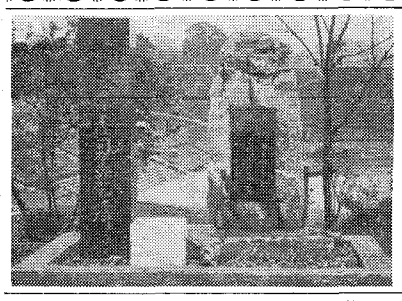
(写真は献花する平田司教)

歴代主任司祭の顕彰碑完成

菊池教会

菊池教会(主任フォード神父)では、11月3日、新しい墓地で歴代主任司祭の顕彰碑の祝別と追悼ミサを行った。

同教会墓地は、菊池市を見おろす菊池公園の一角に位置し、菊池、山鹿、植木、合志の信徒らが埋葬されているが、改葬を機会に、信徒たちの強い希望で、故人となった歴代の主任司祭、ドノフ、リンチ両師の業績をたたえるために、顕彰碑と祭壇を建立したものである。



当日は、雨模様のあいにくの天気であったが、信徒はもちろん同教会とかかわりの深い一般の人など、多数が参列した。

祝別式は聖コロンバン会管区長のグリフィン神父が司式し、主任のフォード神父とベラス神父(水俣教会主任)が見守った。

祝賀式であいさつにたった、菊池女子高等学校校長の荒木修氏は、「ドノフ神父様とは30年近いおつき合いで、こころの通い合う方であり、私の相談相手でした」となつかしみ、「自分は信者ではないが、歴代の主任神父さま方には大変お世話になりました」と感謝の言葉を述べた。

ミサの後、参列者たちは、歴代の司祭たちがたたずみ、兄弟姉妹たちが眠る同墓地で会食し、思い出話に花を咲かせていた。

北九州正平協講演会
ネグロスからの訴え (2)
R・エンペスタン神父

教会は第二バチカン公会議後、この飢えた人々に何ができるのだろうかと考え始めました。

〝教会に来なさい〟と言っても彼らは朝食をせずに来て、帰っても食べる物がなく、子供たちは学校も続けられない厳しい状況にあります。

この貧しい人々の生活に役立つプロジェクトを始めることにしました。共同耕作、小さな物を縫って販売、また信用組合を作りお金を貸し出すなどです。同時に祈りの会を始めましたが、集まったのは主に地主たちで、労働者に「現状が神の意思であり、この状況を受け入れなさい」とすすめようとします。これでは、社会の仕組みを変えなくては、と思いました。

そこで地主たちとの対話を試みました。彼らが教義を正しく理解し、目ざめるように、教皇書簡、教会の社会的教えなどを読み、社会的責任について話合い法律で決められた最低賃金を払うようにすめましたが、このようなセミナーを催す教会や司教、司祭は共産主義的だと反発し、誰もこなくなりました。

そこで教会は労働者や農民、一番貧しい人々の中に直接入っていくことを始め、こうしてBCCの学習が始まったのです。目標は〝人々が自分のことに目ざめること〟です。「人間は神の似姿として創られ、貧しくとも人間として生きる権利があること。同時に責任もあり、互いに愛し関心を持ち合い、助け合うこと」が話されました。

その中ではいつも『人間の救いの歴史』について話され「神はエジプトから奴隷の状況にあるイスラエルの民を脱出させ自由の身にしてくださり、十二部族の分けられた、カナンの地での出来事」は神による初めての土地改革であることに気付き喜びに満たされました。自分たちの願いが神の行いでもあったことを知り、共同体のために働くなら明るい希望があることを知ったのです。

またフィリピンが持っている基本的な問題である、外国の支配からくる帝国主義、歴史的背景からの封建制度、政府が少数の人々の利益のためしか動かないことなどを学び合い、教会の救いが霊魂の救いだけでなく、貧困や体の不自由さなどの具体的な事柄から解放されることと知りました。

「貧しい人に福音を告げ知らせるために」キリストは来たと言うことは、本当に貧しい人々にとって、一日三回の食事ができる、基本的な飢えから救われることを意味しています。

(文責　守谷栄二)

病人の集まり①

「開かれた教会づくり」が叫ばれている。あちらこちらで議論され、その具体策が考えられている。だれに向かって「開く」のか。二回にわけて、そのひとつの方向に焦点をあててみたい。

教会は、結婚の問題で苦しんでいる人、特に、別居や離婚している人に対して開かれていなければならない。ここで「離婚している人」とは、厳密には離婚して再婚している人たちも含まれる。また、ここでいう「教会」とは、バチカンや聖職者だけを指すのではなく、すべての信者を意味する。

「教会」は貧しい人、弱い人に開かれていなければならない。そして、ただ開くだけでなく、その中に「包み」こまなければならない。『私が来たのは健康な人のためではなく、病気の人のためである』といわれたイエスの言葉が、実現されているところでなければならない。私たちは皆、病人だということを知らなければならない。いやされる必要のある者だと悟らなければならない。

「……ねばならない」という言いまわしを、続けてたくさん使ったが、これは「教会」が「教会」であるために各人が身につけていなければならないことである。病気の種類は数えきれないほどある。私たちは必ず、何らかの病気にかかっている。この意識を持たないかぎり、「開かれた教会づくり」などできない。

「病気」で苦しんでいる人がたくさんいる。ある「病気」のために、教会に入れてもらえない人たちがいる教会から締め出されている人たちがいる。締め出している人もまた、病人であることに気づいていない。

「キリスト者」という名前をいただいていながら、まだまだ「キリストの心」をつかんでいないところに教会が開かれてない大きな原因がある。

(小倉教会)

幼きイエズス修道会
『久留米天使園修道院』新築・落成を祝う

養護施設『久留米天使園』で子供たちの養育にたずさわっている、『幼きイエズス会久留米天使園修道院』が新築落成し、10月22日、平田敬神父(久留米教会主任)の司式によって定礎・祝別が行われ、同会管区長Sr.泉キリエをはじめ工事関係者など多数が参列した。

現在地に移転してすでに24年になるが、この間、同施設の管理棟が修道院がわりに使用されていて、『修道院』の建設が望まれていた。

管区長のSr.泉は「修道院のなかで体験する、神から愛されている喜びを、子供たちに、協働者に、地域の人たちに分かち合っていきたい」とお礼を述べた。

BOOK 読みま専科

☆せかいでにばんめのうまごや

文・金川幸子
絵・中村有希

この絵本の物語は、アシジに生まれたフランシコが主人公。神さまを賛美した太陽の歌、小鳥や狼さえフランシスコの話を聞きいったということは有名である。特に現在、全世界でクリスマスにかざられる馬小屋は、フランシスコが最初のクリスマスを偲んで創ったものと伝えられている。

絵は子どもによろばれる美しい切り絵で描かれている。

(中央出版社　七五〇円)

☆かみさまのおくりものはすてき

文・村上博子
絵・藤田三歩

救いを待つ人々に、神さまがイエスさまをおくられること、旧約時代の待望の心とイエスさまがおくられたよろこびを、幼い子どもにわかるように、やさしく、短い文章でまとめている。

絵は古典的であり、現代的であり、その調和がよくとれていて格調高い。レトロ(懐古調・回顧)ブームの今、よろこばれるものであると同時に楽しまれる絵本。

(女子パウロ会　七五〇円)

※パウロ書院は12月29日～1月4日までお休みします。

綜合建設業
八千代建設株式会社
取締役社長　田中　清
取締役副社長　渡辺　勝三郎
〒810 福岡市中央区薬院3―2―9　TEL 092-531―1231

祭壇・洗礼盤他
石材
石の理想
石の影響
他の御
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

十二月の行事

※ゴチックは司教日程

11月30日～12月2日　司祭研修会（熊本県阿蘇）
3日　サン・スルピス大神学院祭（図書館落成式）
〃東西交流センター〃
6日　生命山カトリック別院落成一般公開
熊本地区第一回福音宣教推進全国会議報告会（手取）
7日　福岡市民クリスマス
13日　教区信徒協の集まり
14～18日　臨時司教会議
17日　佐賀市民クリスマス
20日　堅信式（馬渡島）
21日　熊本市民クリスマス
24日　クリスマスミサ　福岡カテドラル・センター
25日　クリスマス平和行進17時より（カテドラル）

福岡黙想の家

4日　雙葉小学校小学生黙想会
6日　茶山教会婦人会黙想会
26日～1月3日　善きサマリア人修道会黙想会

献金報告

布教の日献金　一、一四二、六〇二円

クリスマスのミサ時間

教会	前夜ミサ（24日夜）		降誕ミサ（25日）	
カテドラル（福岡市）	18：00	20：00	9：00	16：00
小倉教会（北九州市）	19：30	23：00	10：00	
久留米教会（久留米市）	19：30	22：30	9：00	
佐賀教会（佐賀市）	20：00		9：00	18：00
手取教会（熊本市）	19：00		10：30	

市民クリスマス

〈福岡〉
日時　12月7日（月）午後6時15分開演（5時半開場）
映画　メッセージ　「塩狩峠」
場所　福岡市民会館大ホール（バプテスト教会）☎092-761-6567

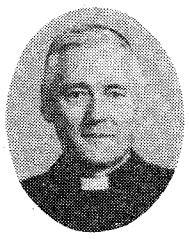
〈佐賀〉
日時　12月17日（木）午後6時
場所　佐賀県立美術館ホール

〈熊本〉
日時　12月21日（月）午後6時
場所　熊本市民会館

教区人事

ウィリアム・カリー神父島崎教会（熊本市）に着任

コロンバン会のウィリアム・カリー神父は、千葉県の成田教会から熊本市の島崎教会に七月中旬に着任した。



カリー神父は、約20年前に熊本市の帯山教会で2年間司牧した経験があり、今後の活躍が期待されている。同神父は、「福岡教区の皆さん、今後ともよろしく」と語っている。

いぶき

キリストを待つ

山内清海

先輩のH神父が亡くなられて、ちょうど一年になります。十年余りにも及ぶ癌との壮烈な闘いの後の死でした。「もう一度見舞わなければ」と願いながらついに果たせなかったことが、わたしには唯一の心残りでした。しかし、最後までキリストの十字架の苦しみに積極的に与りながら、苦しい表情を見せることもなく、いつもロザリオを唱えていた先輩神父の姿は、かれを知るすべての人に、忘れようにも忘れられない深い感動を与えたことでしょう。

葬儀の中、一人の小学生の弔辞が、聖堂を埋めつくしていた参列者の涙をさそいました。それは次のような内容のものでした。「神父さま、ぼくが学校から帰ると、おかあさんが『神父さまが亡くなったよ』といいました。でもぼくは信じませんでした。すぐ司祭館に走って行き、玄関を叩きながら『神父さま、神父さま』と叫びましたが、返事がありませんでした。それでもぼくには、神父さまが亡くなったとは信じられませんでした。ぼくと同じように友達が集まり今度は一緒に泣きながら、玄関を叩きつづけました。でも神父さまはやっぱり亡くなっていたのです。しかしシスターは、泣いているぼくたちに『神父さまは天国であなたたちを待っているのだから、神父さまにまけないような立派な大人になって、神父さまから褒められるように頑張らないといけませんよ』、といいました。神父さま、天国でどうかぼくたちを待っていてください」。

わたしたちは、この小学生の簡単素朴な弔辞のなかに、「待つ」ことの意味を読み取ることができます。「待つ」とは無為無策の状態ではなく、会うべきその方に相応しくなるよう努力することを求めます。

わたしたちは現在、教会暦の新年ともいえる待降節を迎えています。待降節というのは、まさに、神でありながら人類を救うために、自ら人間となられるキリストのご降誕を待ち続けた旧約のイスラエルの民を想起しながら、わたしたちのうちにキリストを待つ季節です。かつて、救い主キリストのご降誕を待ちわびていたイスラエルの民は、長い間、砂漠をさまよい、ありとあらゆる苦しみと闘いながら、浄化の道を歩みました。長い苦難に満ちたイスラエルの歴史は、そのまま救い主キリストを迎えるに相応しい人間となるための、準備の歴史そのものだったのです。

したがってわたしたちは、今迎えている待降節をお祭りを待つ気分でではなく、神の子キリストをお迎えするのに相応しい心を準備するよう過ごさなければなりません。

また、待降節の典礼ではしばしば、終末的思想が読まれますが、それはわたしたちに、終末に再来臨されるキリストを迎えるのに相応しくなるよう諭すためです。だから待降節の典礼は、常に「警戒し、目覚めて祈る」ように「悔い改める」ように、また苦しみに耐えて「心の浄化」に努めるようにという、勧めと教えに満ちているのです。

わたしたちはこのように、毎年、主のご降誕を迎えるための心の清めを続けながら、最終的には、キリストの決定的な裁きのための再来臨を待ち、これを準備するのです。

だからわたしたちは、わたしたちを永遠の幸福に招き、待っておられるキリストの前に少しでも相応しく立てるように、より一層、努力しなければなりません。その意味でも待降節は、わたしたちを聖化してキリストに近づけ、わたしたちを霊的に成長させるための大切な季節だといえます。わたしたちは、今年の待降節を、少しでもわたしたちの霊的完成に役立てるようによく利用したいものです。

（サン・スルピス会司祭　大神学院教授）

新名称決定！

『カトリック　福岡教区報』

『教区報』と呼んでください。

'88年度 充実の教区報
連続執筆で問いかける

①わが母マリア
マリアの年にあたって、鵜野泰年神父様（大楠教会）が、信仰生活での聖母マリアとのかかわりを体験的に語ります。

②時の話題
稲垣良典氏（九州大学教授）が、現代社会や教会内に生起する身近な問題を解説します。

この他、「いぶき」「ワンポイント教会法」「かのときのことのは」などが、好評連載されます。

編集室から

教区の広報紙『カトリック』の紙名変更で名称を公募いたしましたところ、たくさんのご応募をいただき感激でした。

一つひとつに読者の温かい愛情を感じ、どれにするか迷いましたが①教区の新聞としての位置づけを明確にさせるため②カトリック以外の読者のことも考慮して、『カトリック福岡教区報』と決定いたしました。

新名称は、上田正行さん（北九州市黒崎教会所属）のものを採用させていただきましたが、ご応募いただきましたすべての方々にこころからあつく御礼申しあげます。

なお10月号で紹介いたしました以外のものをあげてみますと。『教区報の光』『福岡カトリックだより』『福音ふくおか』『おとずれ』『こひつじ』『新風ふくおか』『カトリック福岡教区新聞』『こころの広場』『福いん』『カトリック福岡』　編集長

一九八八年度結婚セミナー

福岡
会場　福岡市中央区大名2　カテドラルセンター
時間　午後7時～9時20分
申込　☎092—522—5139

熊本
会場　熊本市上通町3—33　カトリック手取教会
時間　午後7時～9時20分
申込　☎096—352—3030

	福岡会場	熊本会場
第一回	1月16日(土)　21日(木)　23日(土)　28日(木)　30日(土)　2月4日(木)　6日(土)	1月24日(日)　27日(水)　2月3日(水)　5日(金)　10日(水)　12日(金)　29日(金)
第二回	4月7日(木)　9日(土)　14日(木)　16日(土)　21日(木)　23日(土)　28日(木)	4月6日(水)　8日(金)　13日(水)　15日(金)　20日(水)　22日(金)　27日(水)
第三回	9月1日(木)　3日(土)　8日(木)　10日(土)　15日(木)　17日(土)　22日(木)	9月4日(日)　7日(水)　9日(金)　14日(水)　16日(金)　21日(水)　23日(金)

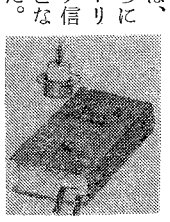
かのときのことのは

森山　敬三

過ぎし世を静かに思へ
百年もきのふのごとし

島崎藤村

『落梅集』の「千曲川旅情の歌」のなかの千曲川のほとりにて、の一節である。藤村の評価は、このごろ落ち気味であるが、誰が何といおうと、やはり近代詩の生みの親として、その地位は確固たるものがある。日本語で詩を書く人であれば、誰でも一度は通らなければならない関門であり、『若菜集』は日本人の永遠の青春詩集である。この一節をよむごとに、私はいつも詩篇の「あなたの目には、千年も過ぎ去ったきのうのように」というのを思い出す。藤村は賛美歌を歌い、聖書を読んでいたはずであるから、これから想をえたのではないかと推測するが、それは、あながち、こじつけとばかりいえないふしがある。藤村の静子夫人は、のちにカトリック信者となった。



Custom Tailor
糸永洋服店
福岡市中央区浄水通8—8
TEL　092—531—3831
夜間　092—521—0820

任意保険に加入してから車の運転を致しましょう、
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険・疾病保険
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
〒815　TEL 092—552—8195

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

未来へ——安心を創る
FUJKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

西島漢方薬店
病気でお悩みの方御利用下さい
福岡市東区香椎駅前1-7-33
☎092-662-1682

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角
TEL 092-521-0568